

環境情報学部

2021年度 シラバス (講義要綱)



四日市大学

目 次

卒業必要単位数

環境情報学科(2017年度以降入学生)

区 分		卒業必要単位数	
全学共通 教育科目	必修	基礎科目	6単位修得
	必修	語学科目	4単位修得
	選択		4単位以上修得
	必修	情報科目	6単位修得
	選択		
	選択	地域科目	4単位以上修得
	選択	社会系列	4単位以上
		人文科学系列	4単位以上
		自然科学系列	4単位以上
	必修	キャリア科目	4単位以上
	選択		
	選択	特別科目	
		公務員養成ユニット	いずれかのユニット で10単位以上修得
おもてなし経営ユニット			
英語力養成ユニット			
メディアデザインユニット			
数理・統計力養成ユニット			
専門 教育科目	必修	学部基礎科目	6単位修得
	必修	セミナー	12単位修得
	選択 必修	自然環境分野	いずれかの分野で
		メディア情報分野	6単位修得
	選択	自然環境分野	選択必修で選んだ
		メディア情報分野	同じ分野から18単 位以上修得
選択	分野共通科目		

留学生は日本語で修得
 留学生は日本語で
 4単位以上修得

50
 単位
 以上
 修得

自由
 に
 18
 単
 位
 以上
 修得

合
 わ
 せ
 て
 38
 単
 位
 以上
 修得

62
 単
 位
 以上
 修得

分
 野
 共
 通
 科
 目
 及
 び
 選
 択
 し
 た
 以
 外
 の
 分
 野
 から
 12
 単
 位
 以上
 修得

カリキュラム表の見方

区 分	基礎や専門、分野・コースなどの区分を記載します。
授 業 科 目 名	授業科目の名称を記載します。
単 位 数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
年 次	科目が開講されている学年・学期を記載します。 ○ …半期週1回開講 ◎ …半期週2回開講 集 …集中講義 ▲ …その他の開講 ■ …不開講科目
講 師 区 分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼 …他学部所属教員 非 …他大学、他組織所属教員 ※空白は本学部所属の教員を表します。
担 当 教 員	科目を担当する教員名を記載します。
ベ ー シ ッ ク	ファンタジスタ科目ー三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格科目
実 践	実践交流科目ー三重創生ファンタジスタ（アドヴァンス）資格科目
実 務	実務家教員授業科目（本編科目名末尾に[実務]と記載します。）

※シラバス本編の配当年次は、2017年度以降入学生のカリキュラムに基づき記載します。

環境情報学科 (2017年度以降入学生)

区分	科目名(テーマ)	単位数	配当年次				講師区分	担当教員	ページ	ベシツク	実践	実務	備考
			1年次 前	2年次 前	3年次 前	4年次 前							
全 学 共 通 教 育 科 目	「人間たれ」	②	○					岩崎恭典	1				
	入門演習 I	②	○					前川督雄 大八木麻希	1				代表教員
	入門演習 II	②	○					廣住豊一 武藤和成 吉山青翔	2				代表教員
	基礎英語 I	②	○					武藤和成	2				代表教員
	基礎英語 II	②	○					非柴田啓文	3				代表教員
	基礎日本語 I	②	○					兼加納光 非伊藤晴苗 非角田延之 非安田由紀子	3				代表教員 留学生対象科目
	基礎日本語 II	②	○					兼加納光 非伊藤晴苗 非角田延之 非安田由紀子	4				代表教員 留学生対象科目
	英語コミュニケーション I	2		○				兼ゴードン・リース エリック・プレイ	4 5				
	英語コミュニケーション II	2			○			兼ゴードン・リース エリック・プレイ	5 6				
	中国語 I	2			○			兼加納光 吉山青翔	6 7				
	中国語 II	2				○		兼加納光 吉山青翔	7 8				
	ポルトガル語 I	2				○		兼フェリペ・フェアリー	8				
	ポルトガル語 II	2					○	兼フェリペ・フェアリー	9				
	海外語学研修 a (英語)	2					○	武藤和成	9				
	海外語学研修 b (中国語)	2						加納光					
	日本語中級 I	2					○	兼加納光 非伊藤晴苗 非角田延之 非安田由紀子	10				代表教員 留学生対象科目
	日本語中級 II	2						兼加納光 非伊藤晴苗 非角田延之 非安田由紀子	10				代表教員 留学生対象科目
	日本語上級 I	2						兼加納光 非伊藤晴苗 非安田由紀子 非山崎智子	11				代表教員 留学生対象科目
	日本語上級 II	2						兼加納光 非伊藤晴苗 非安田由紀子 非山崎智子	11				代表教員 留学生対象科目

環境情報学科 (2017年度以降入学生)

区分	科目名(テーマ)	単位数	配当年次				講師区分	担当教員	ページ	ベシツク	実践	実務	備考
			1年次 前	2年次 前	3年次 前	4年次 前							
全 学 共 通	情報科 目	コンピュータリテラシー	④	○				池田幹男 片山清和	12				代表教員
		情報倫理	②	○				池田幹男 片山清和 田中伊知郎 千葉賢	12				代表教員
		情報科学	2	○				千葉賢	13				
		情報と職業	2	○				井岡幹博	13				
		アプリケーション演習Ⅰ	2	○				池田幹男 兼本部賢一	14				代表教員
		アプリケーション演習Ⅱ	2		○			池田幹男 兼本部賢一	14				代表教員
		地域科目	四日市学	2	○			兼鬼頭浩文 兼岡良浩 兼李修二 兼永井博	15	○			代表教員
			地域社会の歴史	2	○			兼岡佑哉	15	○			
			市民教育	2	○			兼松井真理子	16	○			
			人権論	2	○			兼松井真理子	16	○			
			地域社会と環境	2	○			兼野呂拓哉	17	○		○	
	一 般 科 目	社会系 科目	地域防災	2	○			兼鬼頭浩文	17	○			
地域連携特別講義 a			2	○			兼小林慶太郎	18	○	○	○		
地域連携特別講義 b			2	○			兼小林慶太郎	18	○	○	○		
経営学			2	○			非吉成亮	19					
経済学			2	○			兼鬼頭浩文	19					
政治学			2	○			兼小林慶太郎	20					
人文 科学 系 科目		社会学	2	○			兼三田泰雅	20					
		ジェンダー論	2	○			兼三田泰雅 兼高田晴美	21					代表教員
		メディアリテラシー	2	○			兼前川督雄 関根辰夫 山本伸	21					代表教員
		社会学概論	2	○			兼李修二	22					
		日本国憲法	2	○			兼中西紀夫	22					
		法学	2	○			兼中西紀夫	23					
自然 科学 系 科目	民法入門	2	○			非小林聖仁	23				○		
	倫理学	2	○			兼フェリペ・フェハリー	24						
	哲学	2	○			兼フェリペ・フェハリー	24						
	人文	2	○			兼永井博	25						
	文章表現論	2	○	○		兼杉谷克芳	25						
	文化論	2	○	○		兼永井博	26					留学生クラス	
	教育学	2	○			兼前川督雄	26						
	日本史概論	2	○			非岡佑哉	27						
	世界史概論	2	○			兼李修二	27						
	地理学概論	2	○			非磯野巧	28						
	地理誌	2	○			非磯野巧	28						
	自然科学 系 科目	科学的思考論	2	○			吉山青翔	29					
科学思想史		2	○			吉山青翔	29						
自然科学概論		2	○			田中伊知郎	30						
数学概論		2	○			非吉見勝治	30					○	
化学概論		2	○			牧田直子	31						
地学概論		2	○			非森康則	31						
生物学概論	2	○			田中伊知郎	32							

環境情報学科 (2017年度以降入学生)

区分	科目名(テーマ)	単位数	配当年次				講師区分	担当教員	ページ	ベシック	実践	実務	備考			
			1年次 前	2年次 前	3年次 前	4年次 前										
全 学 共 通 目 教 育	一般教養科目 自然科学系列 生物と進化	2	○					田中伊知郎	32							
	環境論	2	○					吉山青翔	33							
	心理	2	○					田中伊知郎	33							
	キ	キャリア基礎 I ②	2	○				関根辰夫 田中伊知郎 牧田直子 吉山青翔 兼岡良浩 兼永井博 兼本部賢一 兼李修二 兼高田晴美 兼中西紀夫	34				代表教員 公務員クラス 公務員クラス			
														35	○	代表教員 公務員クラス 公務員クラス
	キ	キャリア基礎 II ②	2	○				関根辰夫 田中伊知郎 牧田直子 吉山青翔 兼岡良浩 兼永井博 兼本部賢一 兼李修二 兼高田晴美 兼中西紀夫	35			代表教員 公務員クラス 公務員クラス				
													36	○	代表教員 公務員クラス 公務員クラス	
																37
	キ	キャリア基礎 III ②	2	○				関根辰夫 田中伊知郎 牧田直子 吉山青翔 兼岡良浩 兼永井博 兼本部賢一 兼李修二 兼高田晴美 兼中西紀夫	36			代表教員 公務員クラス 公務員クラス				
													37	○	代表教員 公務員クラス 公務員クラス	
																38
	科 目	特別科目	ボランティア活動 a・b	2	○				兼松井真理子	37	○	○				
			国際協力研修	2	○				兼岩崎祐子	38						
			インターンシップ	2		○				兼鬼頭浩文	38	○	○			
他大学開放科目 a			2		○											
他大学開放科目 b			2		○											
他大学開放科目 c			2		○											
他大学開放科目 d	2		○													
他大学開放科目 e	2		○													
ス キ ル 科 目	公務員養成ユニット	公務のための数的推理	2	○				兼高田晴美	40							
		公務のための判断推理	2	○				兼高田晴美	41							
		公務のための現代文	2	○				兼高田晴美	41							
		公務のための政治学	2		○			兼小林慶太郎	42							
		公務のための経済学	2		○			兼鬼頭浩文	42							
		公務のための法学	2		○			兼中西紀夫	43							
		公務のための人文科学	2		○			兼李修二	43							
		公務のための自然科学	2			○		兼高田晴美	44							
		公務のための英文理解	2				○	兼ゴードン・リース	44							
公務のための論文・面接	2				○	兼小林慶太郎	45									

環境情報学科 (2017年度以降入学生)

区分	科目名(テーマ)	単位数	配当年次				講師区分	担当教員	ページ	ベシツク	実践	実務	備考
			1年次	2年次	3年次	4年次							
			前	後	前	後							
全学共通科目	ビジネスマナー	2	○				兼岡 良浩	45				○	
	サービス経営論	2		○			兼岡 良浩	46					
	販売士講座	2			○		非山川 和美	46				○	
	ビジネスコミュニケーション	2			○		兼岡 良浩	47				○	
	グローバルコミュニケーション	2			○		兼富田 与	47					代表教員
	オペレーション演習	2			○		兼岡 良浩	48	○	○			
	ビジネスマネジメント	2				○	兼杉谷 克芳	48					代表教員
	マーケティング演習	2				○	兼岩崎 祐子	49	○		○		
	おもてなし特別講義 a	2			○		兼西浦 尚夫	49	○				代表教員
	おもてなし特別講義 b	2			○		兼岩崎 祐子	50	○				代表教員
英語力養成ユニット	観光英語 I	2	○				エリック・プレイ	50					
	観光英語 II	2		○			エリック・プレイ	51					
	コンピュータ英語 I	2	○				非柴田 啓文	51					
	コンピュータ英語 II	2		○			非柴田 啓文	52					
	英語表現 I	2			○		兼ゴードン・リース	52					
	英語表現 II	2			○		兼ゴードン・リース	53					
	ビジネス英語 I	2			○		兼デビッド・ダイクス	53					
	ビジネス英語 II	2			○		兼デビッド・ダイクス	54					
	検定英語 I	2				○	非武藤 和成	54					
	検定英語 II	2				○	非武藤 和成	55					
メディア科目	メディアツール a	2	○				池田 幹男	55					
	メディアツール b	2	○				非池上 貴文	56				○	
	メディアツール c	2	○				非都 映里	56				○	
	メディアツール d	2	○				池田 幹男	57				○	
	Webデザイン a	2			○		非池上 貴文	57				○	
	Webデザイン b	2			○		非都 映里	58				○	
	Webプログラミング a	2			○		非田中 麻衣	58				○	
	Webプログラミング b	2			○		閔根 辰夫	59				○	
	インターネット論	2			○		非堀内 敬弘	59				○	
	Webプログラミング c	2			○		非堀内 敬弘	60				○	
数理・統計力養成ユニット	基礎数学	2	○				片山 清和	60					代表教員
	統計リテラシー	2		○			池田 幹男	60					
	確率基礎	2			○		前川 督雄	61					
	微分積分	2			○		池田 幹男	61					
	線型代数	2			○		片山 清和	61					
	データ分析の基礎	2			○		吉見 勝治	62				○	
	統計的分	2			○		井岡 幹博	62					
	データ解析の技法	2			○		金岩 稔	63					
	データ統計処理	2			○		片山 清和	63					
	データ統計処理	2			○		金岩 稔	64					

環境情報学科 (2017年度以降入学生)

区分	科目名(テーマ)	単位数	配当年次				講師区分	担当教員	ページ	ペーシック	実践	実務	備考	
			1年次	2年次	3年次	4年次								
			前	期	前	期								
学部 基礎 科目	環境情報学概論Ⅰ	②	○				千葉 賢	65				代表教員		
	環境情報学概論Ⅱ	②	○				千葉 賢	65					自然環境分野 代表教員	
							牧田 直子						自然環境分野	
							大八木 麻希						自然環境分野	
							廣住 豊一						自然環境分野	
							井岡 幹博						メディア情報分野	
	エリック・ブレイ	メディア情報分野												
	四日市公害論	②	○					片山 清和	66					メディア情報分野
								木村 眞知子						メディア情報分野
								黒田 淳哉						メディア情報分野
関根 辰夫								メディア情報分野						
前川 督雄								メディア情報分野 代表教員						
兼非 加納 光	メディア情報分野													
専 門 教 育 科 目	基礎演習 a	②	○				千葉 賢	66	○		○	【地域志向科目】		
	基礎演習 b	②	○				片山 清和	67					代表教員	
							池田 幹男							
							前川 督雄							
							関根 辰夫						代表教員	
							木村 眞知子							
	基礎演習 c	②	○					黒田 淳哉	67					代表教員
								野呂 拓哉						
								廣住 豊一						代表教員
								牧田 直子						
片山 清和								代表教員						
専 門 演 習 科 目	基礎演習 d	②	○				片山 清和	68				代表教員		
	基礎演習 e	②	○				池田 幹男	68					代表教員	
							前川 督雄							
							関根 辰夫						代表教員	
							木村 眞知子							
							黒田 淳哉							
	基礎演習 f	②	○					大八木 麻希	69					代表教員
								野呂 拓哉						
								廣住 豊一						代表教員
								池田 幹男						
大八木 麻希														
専 門 演 習 科 目	基礎演習 g	②	○				池田 幹男	70						
	基礎演習 h	②	○				大八木 麻希	70						
							片山 清和							
							木村 眞知子							
							黒田 淳哉							
							関根 辰夫							
	基礎演習 i	②	○					千葉 賢	71					
								野呂 拓哉						
								廣住 豊一						
								前川 督雄						
牧田 直子														
専 門 演 習 科 目	基礎演習 j	②	○				千葉 賢	72						
	基礎演習 k	②	○				関根 辰夫	72						
							千葉 賢							
							野呂 拓哉							
							廣住 豊一							
							前川 督雄							
	基礎演習 l	②	○					牧田 直子	73					
								池田 幹男						
								大八木 麻希						
								片山 清和						
木村 眞知子														
専 門 演 習 科 目	基礎演習 m	②	○				黒田 淳哉	73						
	基礎演習 n	②	○				関根 辰夫	73						
							千葉 賢							
							野呂 拓哉							
							廣住 豊一							
							前川 督雄							
	基礎演習 o	②	○					牧田 直子	74					
								池田 幹男						
								大八木 麻希						
								片山 清和						
木村 眞知子														
専 門 演 習 科 目	基礎演習 p	②	○				黒田 淳哉	74						
	基礎演習 q	②	○				関根 辰夫	74						
							千葉 賢							
							野呂 拓哉							
							廣住 豊一							
							前川 督雄							
	基礎演習 r	②	○					牧田 直子	75					
								池田 幹男						
								大八木 麻希						
								片山 清和						
木村 眞知子														
専 門 演 習 科 目	基礎演習 s	②	○				黒田 淳哉	75						
	基礎演習 t	②	○				関根 辰夫	75						
							千葉 賢							
							野呂 拓哉							
							廣住 豊一							
							前川 督雄							
	基礎演習 u	②	○					牧田 直子	76					
								池田 幹男						
								大八木 麻希						
								片山 清和						
木村 眞知子														
専 門 演 習 科 目	基礎演習 v	②	○				黒田 淳哉	76						
	基礎演習 w	②	○				関根 辰夫	76						
							千葉 賢							
							野呂 拓哉							
							廣住 豊一							
							前川 督雄							
	基礎演習 x	②	○					牧田 直子	77					
								池田 幹男						
								大八木 麻希						
								片山 清和						
木村 眞知子														
専 門 演 習 科 目	基礎演習 y	②	○				黒田 淳哉	77						
	基礎演習 z	②	○				関根 辰夫	77						
							千葉 賢							
							野呂 拓哉							
							廣住 豊一							
							前川 督雄							
	基礎演習 aa	②	○					牧田 直子	78					
								池田 幹男						
								大八木 麻希						
								片山 清和						
木村 眞知子														
専 門 演 習 科 目	基礎演習 ab	②	○				黒田 淳哉	78						
	基礎演習 ac	②	○				関根 辰夫	78						
							千葉 賢							
							野呂 拓哉							
							廣住 豊一							
							前川 督雄							
	基礎演習 ad	②	○					牧田 直子	79					
								池田 幹男						
								大八木 麻希						
								片山 清和						
木村 眞知子														
専 門 演 習 科 目	基礎演習 ae	②	○				黒田 淳哉	79						
	基礎演習 af	②	○				関根 辰夫	79						
							千葉 賢							
							野呂 拓哉							
							廣住 豊一							
							前川 督雄							
	基礎演習 ag	②	○					牧田 直子	80					
								池田 幹男						
								大八木 麻希						
								片山 清和						
木村 眞知子														
専 門 演 習 科 目	基礎演習 ah	②	○				黒田 淳哉	80						
	基礎演習 ai	②	○				関根 辰夫	80						
							千葉 賢							
							野呂 拓哉							
							廣住 豊一							
							前川 督雄							
	基礎演習 aj	②	○					牧田 直子	80					
								池田 幹男						
								大八木 麻希						
								片山 清和						
木村 眞知子														

環境情報学科 (2017年度以降入学生)

区分	科目名(テーマ)	単位数	配当年次				講師区分	担当教員	ページ	ベシク	実践	実務	備考		
			1年次	2年次	3年次	4年次									
			前	前	前	前									
専門	演習科目	専門演習c ②				○		大八木麻希 81							
								片山清和 81							
								木村真知子 82							
								黒田淳哉 82							
								関根辰夫 83							
								千葉賢 83							
								野呂拓哉 84							
								廣住豊一 84							
								前川督雄 85							
								牧田直子 85							
	教	自然環境	分野必修	地球環境学総論	2	○				廣住豊一 91					
				生態学	2		○			大八木麻希 91					
				環境保全学	2			○		野呂拓哉 92				○	
				環境化学	2	○				牧田直子 92					
				環境化学実験	2	○	○			牧田直子 93					
				自然調査法	2		○			大八木麻希 93					
				地域環境論	2	○				千葉賢 94	○			○	
				環境エネルギー論	2			○		非吉見勝治 94					○
				資源循環論	2				○	非吉見勝治 95					○
				地理情報システム論	2				○	井岡幹博 95					
育	環境	自然環境	環境倫理学	2	○				吉山青翔 96						
			環境政策	2		○			兼岡良浩 96					代表教員	
			環境保全とツーリズム	2		○			兼鬼頭浩文 96					代表教員	
			環境社会学	2			○		非千葉賢 97					○	
			環境法	2				○	兼中西紀夫 97					○	
			都市環境論	2				○	兼本部賢一 98						
			海洋生物学	2		○			千葉賢 99						
			生物分類学	2			○		大八木麻希 99						
			海洋調査法	2				○	千葉賢 100	○			○		
			野	環境	生態学	環境実験・調査 a	2		○		大八木麻希 100				
陸水学	2						○		廣住豊一 100						
森林学	2							○	大八木麻希 101						
土壌学	2							○	田中伊知郎 101						
食糧生産学	2					○			廣住豊一 102	○					
食品微生物学	2						○		大八木麻希 103						
食品衛生学	2							○	廣住豊一 103						
環境実験・調査 b	2							○	大八木麻希 104					代表教員	
農産物流論	2							○	兼杉谷克芳 104						
農業経営論	2								兼鶴田利恵 104					代表教員	
						兼杉谷克芳 105									

環境情報学科 (2017年度以降入学生)

区分	科目名(テーマ)	単位数	配当年次				講師区分	担当教員	ページ	実 践	実 務	備 考		
			1年次	2年次	3年次	4年次								
			前 期	後 期	前 期	後 期								
専 門 教 育 科 目	分野必修	メディア情報と文化	2	○				山本 伸	105					
		脳・音・光の科学Ⅰ	2		○			前川 督雄 関根 辰夫	106			○	代表教員	
		ソフトウェア論	2			○		池田 幹男	106					
	メ デ ィ ア と 社 会 ア リ テ ィ ス ト	メディアの歴史	2	○				木村 眞知子	107				○	
		情報と感性	2	○									○	
		音楽とまちづくり	2		○			前川 督雄 関根 辰夫 兼 鬼頭 浩文	107	○	○		○	代表教員
		脳・音・光の科学Ⅱ	2			○		前川 督雄 関根 辰夫	108				○	代表教員
		グラフィックデザイン概論	2			○		非 池上 貴文	108				○	
		コミュニケーションデザイン論	2				○	木村 眞知子	109				○	
		次世代メディア社会	2				○	前川 督雄	109					
		コンピュータ音楽論	2				○	非 柳 澤 翔 士	110				○	
		コンピュータグラフィックス	2				○	井岡 幹博	110					
		ポップカルチャー論	2				○	山本 伸	111					
		情 報 分 野	感性と創造	2	○				非 池上 貴文	111				○
	表現と思想		2		○			木村 眞知子	112				○	
	映像概論		2		○			非 柳 瀬 元 志	112				○	
	照明概論		2		○			黒田 淳哉	113				○	
	音響概論		2			○		関根 辰夫	113				○	
	クリエイティブワークⅠ		2			○		非 柳 瀬 元 志	114				○	
	クリエイティブワークⅡ		2			○		非 柳 瀬 元 志	114				○	
	スタジオ技術論		2			○							○	
	報 告 文 書 作 成	イベント制作演習	2				○	非 黒田 淳哉 柳 瀬 元 志	115				○	代表教員
		ハードウェア論	2	○				千葉 賢	115					
		プログラミング	2			○		片山 清和	116					
		コンピュータ動作論	2		○			片山 清和	116					
		システム管理論	2			○		井岡 幹博	117					
		データベースプログラミング	2			○		井岡 幹博	117					
情報システム論		2				○	池田 幹男	118						
メディア情報産業論		2				○	前川 督雄	118						
分 野 共 通 科 目	特別講義	環境情報特別講義Ⅰ	2	○			武藤 和成						代表教員	
	環境情報特別講義Ⅱ	2		○										
	環境情報特別講義Ⅲ	2			○									
	音楽史	2	○				関根 辰夫	119				○		
	生命 - 情報 - 環境	2		○			前川 督雄	119						
	日本文化論	2		○			兼 永井 博	120				○		
	出版文化論	2		○			非 稲葉 年計	120						
アジア文化論	2			○		兼 加納 光	121							
欧米文化論	2			○		山本 伸	121							

実務経験教員授業科目（環境情報学科2017年度以降入学生）

科目名(テーマ)	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	実務
		1年次		2年次		3年次		4年次					
		前	後	前	後	前	後	前	後				
地域社会と環境	2	○								兼	野呂拓哉	17	○
地域連携特別講義 a	2	○								兼	小林慶太郎	18	○
地域連携特別講義 b	2	○								兼	小林慶太郎	18	○
民法入門	2	○								非	小林聖仁	23	○
数学概論	2	○								非	吉見勝治	30	○
キャリア基礎 I	2		○							兼	岩崎祐子	34	○
キャリア基礎 II	2			○						兼	岩崎祐子	35	○
キャリア基礎 III	2				○					兼	岩崎祐子	36	○
ボランティア活動 a・b	2	○								兼	松井真理子		
インターンシップ	2			○						兼	鬼頭浩文		
ビジネスマナー	2	○								兼	岡良浩	45	○
販売士講座	2			○						非	山川和美	46	○
ビジネスコミュニケーション	2			○						兼	岡良浩	47	○
マーケティング演習	2						○			非	西浦尚夫	49	○
おもてなし特別講義 a	2			○						兼	岩崎祐子	49	○
おもてなし特別講義 b	2				○						池田幹男	50	○
メディアツール a	2	○								非	池上貴文	56	○
	2	○								非	都映里	56	○
メディアツール b	2		○							非	池上貴文	57	○
	2		○							非	都映里	58	○
メディアツール c	2			○						非	田中麻衣	58	○
メディアツール d	2				○						関根辰夫	59	○
Webデザイン a	2			○						非	堀内敬弘	59	○
Webデザイン b	2					○				非	堀内敬弘	60	○
基礎数学	2	○								非	吉見勝治	62	○
データ解析の技法	2				○					非	吉見勝治	40	○
四日市公害論	2			○							千葉賢	66	○
環境保全学	2				○						野呂拓哉	92	○
地域環境論	2	○									千葉賢	94	○
環境エネルギー論	2					○				非	吉見勝治	94	○
資源循環論	2						○			非	吉見勝治	95	○
環境社会学	2				○					非	吉見勝治	97	○
脳・音・光の科学 I	2			○							前川督雄	106	○
											関根辰夫		
メディアの歴史	2	○									木村真知子	107	○
情報と感性	2		○										○
音楽とまちづくり	2		○								前川督雄	107	○
										兼	鬼頭浩文		
脳・音・光の科学 II	2				○						前川督雄	108	○
											関根辰夫		
グラフィックデザイン概論	2			○						非	池上貴文	108	○
コミュニケーションデザイン論	2						○				木村真知子	109	○
コンピュータ音楽論	2					○				非	柳澤翔士	110	○
感性と創造	2		○							非	池上貴文	111	○
表現と思想	2			○							木村真知子	112	○
映像概論	2			○						非	柳瀬元志	112	○
照明概論	2			○							黒田淳哉	113	○
音響概論	2				○						関根辰夫	113	○
クリエイティブワーク I	2			○						非	柳瀬元志	114	○
クリエイティブワーク II	2				○					非	柳瀬元志	114	○
スタジオ技術論	2				○								○
イベント制作演習	2						○				黒田淳哉	115	○
										非	柳瀬元志		

実務経験教員授業科目（環境情報学科2017年度以降入学生）

科目名（テーマ）	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	実務
		1年次		2年次		3年次		4年次					
		前	後	前	後	前	後	前	後				
音楽史	2	○									関根辰夫	119	○
出版文化論	2			○						非	稲葉年計	120	○

科目ナンバリングについて

- ・科目ナンバリングは、四日市大学で開講している科目（17カリキュラム）に付けられたナンバーのことです。
- ・科目ナンバリングは、その科目の分野略号、授業水準、履修順序等をあらわします。
- ・科目ナンバリングによって、教育課程の体系的な編成が理解できます。

科目ナンバリングの構造

科目ナンバーは分野略号と2種類のコードから構成されています。

ひとつの科目ナンバーの仕組みは以下のとおりです。

- ・分野略号：アルファベット3～4文字で、分野名をあらわします。
- ・水準コード：科目のレベルをあらわします。
- ・番号（ナンバー）：科目分野内での履修順序を示すこともあります。

例	X X X X	1	001
	分野略号	水準	番号

開講科目名「人間たれ」の科目ナンバリング「GEF1001」は以下の内容をあらわします。

分野略号：全学共通科目（GE）の基礎科目（Foundation Courses）⇒GEF

水準コード：全学共通科目（一般教養レベル）⇒1

番号（ナンバー）：001

水準コードは次の通り。

科目のレベル	水準コード
全学共通科目（一般教養レベル）	1
専門科目（基礎科目・実践科目）	2
専門科目（発展科目・応用科目）	3
専門科目（卒業研究、卒業論文等）	4
留学生科目	9
卒業用件外科目	0

分類略号は次の通りです

環境情報学部

科目区分	分類略号	分野名	領域名	
全学共通科目	G E F	基礎科目		
	G E L	語学科目		
	G E I	情報科目		
	G E C	地域科目		
	G L A S	一般教養科目	社会科学系列	
	G L A H		人文科学系列	
	G L A N		自然科学系列	
	G E C C	キャリア科目		
	G E S C	特別科目		
	G S S R	スキル科目	社会調査士養成ユニット	
	G S P O		公務員養成ユニット	
	G S H M		おもてなし経営ユニット	
	G S E T		英語力養成ユニット	
	G S M D		メディアデザインユニット	
G S M S		数理・統計力養成ユニット		
環境情報学部専門科目	E F C	学部基礎科目	必修	
	E S S	演習科目	必修	
	E N E	自然環境分野	分野必修	必修
			環境基礎	基礎
			環境保全	全
			環境生態学	学
	E M I	メディア情報分野	環境食糧と環境	境
			分野必修	必修
			メディアと社会	社会
	E C F	分野共通科目	スタジオと制作	制作
情報			情報	
		特別講義	義	
		文化	論	

<2017カリ全学共通教育科目>

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	地域志向	科目ナンバリング	
全学共通科目	GEF	Foundation Courses	基礎科目		必修	2	「人間たれ」	1	前		GEF1001	
						2	入門演習Ⅰ	1	前		GEF1002	
						2	入門演習Ⅱ	1	後		GEF1003	
	GEL	Language study	語学科目			必修	2	基礎英語Ⅰ	1	前		GEL1001
							2	基礎英語Ⅱ	1	後		GEL1002
							2	基礎日本語Ⅰ	1	前		GEL9001
							2	基礎日本語Ⅱ	1	後		GEL9002
						選択必修	2	英語コミュニケーションⅠ	2	前		GEL1003
							2	英語コミュニケーションⅡ	2	後		GEL1004
							2	中国語Ⅰ	2	前		GEL1005
							2	中国語Ⅱ	2	後		GEL1006
							2	ポルトガル語Ⅰ	2	前		GEL1007
							2	ポルトガル語Ⅱ	2	後		GEL1008
							2	海外語学研修a(英語)	2	前		GEL1009
							2	海外語学研修b(中国語)	2	前		GEL1010
							2	日本語中級Ⅰ	2	前		GEL9003
							2	日本語中級Ⅱ	2	後		GEL9004
							2	日本語上級Ⅰ	3	前		GEL9005
	2	日本語上級Ⅱ	3	後		GEL9006						
	GEI	Information subject	情報科目			必修	4	コンピュータリテラシー	1	前		GEI1001
							2	情報倫理	1	後		GEI1002
						選択	2	情報科学	1	前		GEI1003
							2	情報と職業	1	前		GEI1004
							2	アプリケーション演習Ⅰ	1	後		GEI1005
							2	アプリケーション演習Ⅱ	2	前		GEI1006
	GEC	Community-oriented courses	地域科目				2	四日市学	1	前	★	GEC1001
							2	地域社会の歴史	1	後	★	GEC1002
							2	市民教育	1	後	★	GEC1003
							2	人権論	1	後	★	GEC1004
							2	地域社会と環境	1	後	★	GEC1005
							2	地域防災	1	前	★	GEC1006
							2	地域連携特別講義a	1	前	★	GEC1007
							2	地域連携特別講義b	1	後	★	GEC1008
	GLAS				Society	社会科学系列	2	経営学	1	前		GLAS1001
							2	経済学	1	後		GLAS1002
							2	政治学	1	前		GLAS1003
							2	社会学	1	後		GLAS1004
							2	ジェンダー論	1	後		GLAS1005
							2	メディアリテラシー	1	前		GLAS1006
							2	社会福祉概論	1	後		GLAS1007
							2	日本国憲法	1	後		GLAS1008
							2	法学	1	前		GLAS1009
2							民法入門	1	前		GLAS1010	
GLAH	Liberal Arts	一般教養科目		Humanities	人文科学系列	2	倫理学	1	前		GLAH1001	
						2	哲学	1	後		GLAH1002	
						2	文章表現論	1	前		GLAH1003	
						2	文化論	1	前・後		GLAH1004	
						2	教育学	1	後		GLAH1005	
						2	日本史概論	1	前		GLAH1006	
						2	世界史概論	1	後		GLAH1007	
						2	地理学概論	1	後		GLAH1008	
						2	地誌	1	後		GLAH1009	
						2	地誌	1	後		GLAH1010	

<2017カリ全学共通教育科目>

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	地域志向	科目ナンバリング	
全学 共通 科目	GLAN	Liberal Arts	一般教養科目	Natural Science	自然科学系列	2	科学的思考論	1	前		GLAN1001	
						2	科学思想史	1	後		GLAN1002	
						2	自然科学概論	1	後		GLAN1003	
						2	数学概論	1	前		GLAN1004	
						2	化学概論	1	前		GLAN1005	
						2	地学概論	1	前		GLAN1006	
						2	生物学概論	1	前		GLAN1007	
						2	生物と進化	1	後		GLAN1008	
						2	環境論	1	後		GLAN1009	
						2	心理学	1	後		GLAN1010	
	GECC	Career courses	キャリア科目				2	キャリア基礎Ⅰ	1	後		GECC1001
							2	キャリア基礎Ⅱ	2	前		GECC1002
							2	キャリア基礎Ⅲ	2	後		GECC1003
	GESC	Special courses	特別科目				2	ボランティア活動 a	1	前	★	GESC1001
							2	ボランティア活動 b	1	前	★	GESC1002
							2	国際協力研修	1	後		GESC1003
							2	インターンシップ	2	前	★	GESC1004
							2	他大学開放科目 a	2	前		GESC1005
							2	他大学開放科目 b	2	前		GESC1006
							2	他大学開放科目 c	2	前		GESC1007
							2	他大学開放科目 d	2	前		GESC1008
							2	他大学開放科目 e	2	前		GESC1009
	GSSR				Social Researcher	社会調査士養成 ユニット	2	社会調査入門	1	前		GSSR1001
							2	社会調査の技法	1	後		GSSR1002
							2	データ分析の基礎	2	前		GSSR1003
							2	統計的分析	2	後		GSSR1004
							2	データ解析の技法	2	後		GSSR1006
							2	フィールドワーク論	2	前		GSSR1005
							2	社会調査実習 1	3	前	★	GSSR1007
							2	社会調査実習 2	3	後	★	GSSR1008
	GSPO	Skills courses	スキル科目		Public officials	公務員養成 ユニット	2	公務のための数的推理	1	前		GSPO1001
							2	公務のための判断推理	1	後		GSPO1002
							2	公務のための現代文	1	後		GSPO1003
							2	公務のための政治学	2	前		GSPO1004
							2	公務のための経済学	2	前		GSPO1005
							2	公務のための法学	2	後		GSPO1006
							2	公務のための人文科学	2	後		GSPO1007
							2	公務のための自然科学	3	前		GSPO1008
							2	公務のための英文理解	3	後		GSPO1009
							2	公務のための論文・面接	4	前		GSPO1010
	GSHM				Hospitality management	おもてなし経営 ユニット	2	ビジネスマナー	1	前		GSHM1001
							2	サービス経営論	1	後		GSHM1002
2							販売士講座	2	前		GSHM1003	
2							ビジネスコミュニケーション	2	前		GSHM1004	
2							グローバルコミュニケーション	2	後		GSHM1005	
2							オペレーション演習	2	前	★	GSHM1006	
2							ビジネスマネジメント	3	前		GSHM1007	
2							マーケティング演習	3	後	★	GSHM1008	
2							おもてなし特別講義 a	2	前	★	GSHM1009	
2							おもてなし特別講義 b	2	後	★	GSHM1010	

<2017カリ全学共通教育科目>

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	地域志向	科目ナンバリング
全学共通科目	GSET	Skills courses	スキル科目	English training	英語力養成 ユニット	2	観光英語 I	1	前		GSET1001
						2	観光英語 II	1	後		GSET1002
						2	コンピュータ英語 I	1	前		GSET1003
						2	コンピュータ英語 II	1	後		GSET1004
						2	英語表現 I	2	前		GSET1005
						2	英語表現 II	2	後		GSET1006
						2	ビジネス英語 I	2	前		GSET1007
						2	ビジネス英語 II	2	後		GSET1008
						2	検定英語 I	3	前		GSET1009
						2	検定英語 II	3	後		GSET1010
	GSMD			Media Design	メディアデザイン ユニット	2	メディアツール a	1	前	GSMD1001	
						2	メディアツール b	1	後	GSMD1002	
						2	メディアツール c	2	前	GSMD1003	
						2	メディアツール d	2	後	GSMD1004	
						2	Webデザイン a	2	後	GSMD1005	
						2	Webデザイン b	3	前	GSMD1006	
						2	Webプログラミング a	1	後	GSMD1007	
						2	Webプログラミング b	2	前	GSMD1008	
						2	インターネット論	2	前	GSMD1009	
	GSMS			Mathematical and statistical force	数理・統計力 養成ユニット	2	基礎数学	1	前	GSMS1001	
						2	統計リテラシー	1	後	GSMS1002	
						2	確率基礎	2	前	GSMS1003	
						2	微分積分	2	前	GSMS1004	
						2	線型代数	2	前	GSMS1005	
						2	データ分析の基礎	2	前	GSMS1006	
						2	統計的分析	2	後	GSMS1007	
						2	データ解析の技法	2	後	GSMS1008	
						2	データ統計処理	3	前	GSMS1009	

<2017カリ環境情報学部専門科目>

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	地域志向	科目ナンバリング			
環境情報学部専門科目	EFC	Foundation Courses	学部基礎科目		必修	2	環境情報学概論Ⅰ	1	前		EFC1001			
						2	環境情報学概論Ⅱ	1	後		EFC1002			
						2	四日市公害論	2	前	★	EFC2001			
	ESS	Seminar subjects	演習科目			必修	2	基礎演習 a	2	前		ESS2001		
							2	基礎演習 b	2	後		ESS2002		
							2	専門演習 a	3	前		ESS3001		
							2	専門演習 b	3	後		ESS3002		
							2	専門演習 c	4	前		ESS4001		
							2	専門演習 d	4	後		ESS4002		
							ENE	natural environment	自然環境分野	Environment basics	環境基礎	分野必修	2	地球環境学総論
	2	生態学	2	前		ENE2002								
	2	環境保全学	2	後		ENE2003								
	2	環境化学	1	後		EEB2001								
	2	環境化学実験	1	前・後		EEB2002								
	2	自然調査法	2	後		EEB2003								
	Environmental protection	環境保全	2	地域環境論	1	前							★	EEP2001
			2	環境エネルギー論	3	前								ENE3001
			2	資源循環論	3	後								ENE3002
			2	地理情報システム論	3	後					ENE3003			
			2	環境倫理学	1	後					EEP2002			
			2	環境政策	2	前					EEP2003			
			2	環境保全とツーリズム	2	前				★	EEP2004			
			2	環境社会学	2	後					EEP2005			
			2	環境法	3	前					EEP3004			
	2	都市環境論	3	後		EEP3005								
	Environmental ecology	環境生態学	2	海洋学	1	後					EEE2001			
			2	生物分類学	2	前					EEE2002			
			2	海洋調査法	2	前				★	EEE2003			
			2	環境実験・調査 a	2	前					EEE2004			
			2	陸水学	2	後					EEE3001			
			2	森林学	3	前					EEE3002			
			2	土壌学	3	後				★	EEE3003			
	Food and environment	食糧と環境	2	食糧生産学	1	後					EFE2001			
			2	食品微生物学	2	前					EFE2002			
			2	食品衛生学	2	後					EFE2003			
			2	環境実験・調査 b	2	後					EFE2004			
2			農産物流論	3	前					EFE3001				
2			農業経営論	3	後		EFE3002							

<2017カリ環境情報学部専門科目>

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	地域志向	科目ナンバリング
環境情報学部専門科目	EMI	Media information	メディア情報分野		分野必修	2	メディア情報と文化	1	後		EMI2001
						2	脳・音・光の科学Ⅰ	2	前		EMI2002
						2	ソフトウェア論	2	後		EMI2003
				Media and society	メディアと社会	2	メディアの歴史	1	前		EMS2001
						2	情報と感性	1	後		EMS2002
						2	音楽とまちづくり	1	後		EMS2003
						2	脳・音・光の科学Ⅱ	2	後		EMS2004
						2	グラフィックデザイン概論	2	後		EMS2005
						2	コミュニケーションデザイン論	3	前		EMS3001
						2	次世代メディア社会	3	前		EMS3002
						2	コンピュータ音楽論	3	後		EMS3003
						2	コンピュータグラフィックス	3	後		EMS3004
						2	ポップカルチャー論	3	後		EMS3005
				Studio and production	スタジオと制作	2	感性と創造	1	後		ESP2001
						2	表現と思想	2	前		ESP2002
			2			映像概論	2	前		ESP2003	
			2			照明概論	2	前		ESP2004	
			2			音響概論	2	後		ESP2005	
			2			クリエイティブワークⅠ	2	後		ESP3001	
			2			クリエイティブワークⅡ	3	前		ESP3002	
			2			スタジオ技術論	3	前		ESP3003	
			Information field	情報	2	ハードウェア論	1	後		EIF2001	
					2	プログラミング	2	後		EIF2002	
					2	コンピュータ動作論	2	前		EIF2003	
					2	システム管理論	2	後		EIF2004	
					2	データベースプログラミング	3	前		EIF3001	
					2	情報システム論	3	前		EIF3002	
	2	メディア情報産業論			3	後		EIF3003			
	Special lecture	特別講義	2	環境情報特別講義Ⅰ	1	後	★	ESL2001			
			2	環境情報特別講義Ⅱ	2	前	★	ESL2002			
			2	環境情報特別講義Ⅲ	2	後	★	ESL2003			
	Common field	分野共通科目	文化論	2	音楽史	1	前		ECF2001		
				2	生命－情報－環境	2	前		ECF2002		
2				日本文化論	2	前		ECF2003			
2				出版文化論	2	前		ECF2004			
2				アジア文化論	2	後		ECF2005			
2				欧米文化論	2	後		ECF2006			
ECF				Common field	分野共通科目	文化論	2	環境情報特別講義Ⅰ	1	後	★
	2	環境情報特別講義Ⅱ	2				前	★	ESL2002		
	2	環境情報特別講義Ⅲ	2				後	★	ESL2003		
	2	音楽史	1				前		ECF2001		
	2	生命－情報－環境	2				前		ECF2002		
	2	日本文化論	2				前		ECF2003		

シラバスの見方

<p>①「人間たれ」</p> <p>②岩崎 恭典</p>	<p>実務</p> <p>科目ナンバリング</p> <p>③G3301</p>	<p>④4</p> <p>⑤1</p> <p>⑥1</p> <p>⑦1</p>	<p>授業の位置づけ</p> <p>「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。</p>
<p>授業のねらい</p> <p>本学に入学生した環境情報・総合政策両学部の新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。</p>		<p>授業計画</p> <p>第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。</p> <p>第1講 ガイダンス 成長スケールの記入 第2講 大学生活を充実させるボランティア活動 第3講 地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること 第4講 本学の建学の精神について 第5講 暁学園・四日市大学の歴史 昭和時代の暁学園 第6講 暁学園・四日市大学の歴史 平成時代・令和の四日市大学 第7講 本学の建学の精神と君たちの将来 人口減少社会 第8講 本学の建学の精神と君たちの将来 シンギュラリティ、Society5.0 第9講 日本の財政状況と税金・金融知識(財務省津財務事務所) 第10講 人口減少社会を生きる方 第11講 SDGsとGAFAs 第12講 目指すべき職業人とは ジョブキャラバン 大学1年生で何をなすべきか 第13講 人生の先輩に聴く① 社会人学生OBが語る 第14講 人生の先輩に聴く② 就職活動を終えて 第15講 夏休みを前に 産婦人科医は語る</p> <p>定期試験</p>	
<p>到達目標</p> <p>1. 本学の建学の精神を理解する。 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、まもなく満75周年を迎える学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく上での備えについて理解を深める。 3. 地域志向科目等本学の特色、また、校友会主催事業等についての理解を深める。</p>		<p>テキスト・教材(参考文献含む)</p> <p>できるだけレジュメと資料を配布する。</p>	
<p>成績評価方法・課題・フィードバックの方法</p> <p>出席することを基本として、時折実施する小テスト(50%)、定期試験の成績(50%)により評価する。講義のフィードバックは、「大福帳」を通じて行う。</p> <p>コロナ禍が続いている場合は、オンライン方式となる。その場合は、モデルによる出席確認小レポートが課せられる。また、定期試験代替のレポート試験となるので注意が必要である。</p>		<p>担当者から一言</p> <p>私立大学には「建学の精神」といふものがあります。本学の「建学の精神」とその精神に由来する教育力、教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基盤としての講義を通じて、作っていただく。</p>	
<p>事前・事後学習</p> <p>大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください(1日30分以上)。</p>			

- ①本年度開講の授業科目名です。実務経験のある教員が担当する科目は科目名の後に「実務」と記載があります。
- ②授業科目担当者です。
- ③科目ナンバリングを表記しています。前掲の科目ナンバリングを参照のこと。
- ④学年(年次)は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています(配当年次)。
- ⑤単位数を表記しています。
- ⑥開講期は、授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
- ⑦「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。のカリキュラム表で確認してください。
- ⑧授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針(DP)と当該授業科目の関連が記載されています。
- ⑨授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
- ⑩到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能(スキル)を身につけることができるか、教育目標としているかについて記載されています。
- ⑪授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
- ⑫成績 評価方法・課題・フィードバック方法：定期試験 60%、小テスト 40%のように、評価(ポイント)基準を明記しています。また、課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
- ⑬テキスト・教材(参考文献含む)：テキストには、授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
- ⑭事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「○○○I」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
- ⑮担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載されています。

その他

- ・授業形態(面接授業、オンデマンド授業などのオンライン授業等)が変更になる場合があります。
- ・所属学科ごとに履修条件が異なるので、必ず「履修要綱」で確認をしてください。

「人間たれ」 岩崎恭典	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEF1001	前学期	必 修

授業のねらい
 本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。

- 到達目標**
1. 本学の建学の精神を理解する。
 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、まもなく満75周年を迎える学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。
 3. 地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 出席することを基本として、時折実施する小テスト(50%)、定期試験の成績(50%)により評価する。なお、講義のフィードバックは、「大福帳」を通じて行う。コロナ禍が続いている場合は、オンデマンド方式となる。その場合は、ムードルによる出席確認小レポートが課せられる。また、定期試験代替のレポート試験となるので注意が必要である。

事前・事後学習
 大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください(1日30分以上)。

入門演習 I 前川・大八木・廣住・武藤・吉山	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEF1002	前学期	必 修

授業のねらい
 学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル(四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など)を学びます。

1. 授業を受ける上で必要なスキル
2. 人間関係の基礎を作るスキル
3. 大学での学修を助けてくれる施設を知ること
4. 自分が所属する学部のことを知ること

到達目標
 大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践してみること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験を行いません。
 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。
 課題は必ず個別指導します。

事前・事後学習
 新聞の第一面を読む。(1日20分)
 授業内容の資料を事前に読んでくる。(10分)
 ノートと使用したプリントなどを読む。(30分)

授業の位置づけ
 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

- 授業計画**
- 第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。
- 第1講 ガイダンス 成長スケールの記入
 - 第2講 大学生活を充実させるボランティア活動
 - 第3講 地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること
 - 第4講 本学の建学の精神について
 - 第5講 暁学園・四日市大学の歴史 昭和時代の暁学園
 - 第6講 暁学園・四日市大学の歴史 平成時代・令和の四日市大学
 - 第7講 本学の建学の精神と君たちの将来 人口減少社会
 - 第8講 本学の建学の精神と君たちの将来 シングularity、Society5.0
 - 第9講 日本の財政状況と税金、家計、金融知識(財務省津財務事務所)
 - 第10講 人口減少社会を生きる力
 - 第11講 SDGsとGAFAs
 - 第12講 目指すべき職業人とは ジョブキャラバン 大学1年生で何をなすべきか
 - 第13講 人生の先輩に聴く① 社会人学生OBが語る
 - 第14講 人生の先輩に聴く② 就職活動を終えて
 - 第15講 夏休みに前に 産婦人科医は語る
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 できるだけレジメと資料を配布する。

担当者から一言
 私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作っていきましょう。

授業の位置づけ
 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス
 - 第2講 授業の受け方、ノートの取り方
 - 第3講 授業を受ける、ノートを取る
 - 第4講 シラバスを読み、自分の履修登録を点検する
 - 第5講 4年間の学修計画を考えてみる
 - 第6講 自分を知るためのプレゼンテーションの準備
 - 第7講 自分と他者を知るためのプレゼンテーションの実践
 - 第8講 学修を助けてくれる施設を知る
 - 第9講 学修を助けてくれる資料を知る
 - 第10講 皆さんに期待するマナーとルール
 - 第11講 学部企画①
 - 第12講 学部企画②
 - 第13講 学部企画③
 - 第14講 学部企画④
 - 第15講 学部企画⑤
- ※講義の順番については、入れ替わる場合があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
 担当者が適宜指示します。ノートを必ず用意してください。

担当者から一言
 大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないません。毎回必ず出席してください。

入門演習Ⅱ 前川・大八木・廣住・武藤・吉山	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEF1003	後学期	必修

授業のねらい
 大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。
 1. 目標・目的を決め、情報を収集し、調べるスキル
 2. 情報を整理し、資料を読みこなすスキル
 3. 資料を発表し、議論するスキル

到達目標
 大学生としての学修・研究活動へと進むために必要なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験を行いません。
 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。
 課題は必ず個別指導します。

事前・事後学習
 新聞の第一面を読む。(1日20分)
 授業内容の資料を事前に読んでくる。(10分)
 ノートと使用したプリントなどを読む。(30分)

基礎英語Ⅰ 武藤和成・柴田啓文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEL1001	前学期	選択必修

授業のねらい
 大学生としての英語の教養を身に付けます。英語で「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」を常に意識して学ぶことが大切です。語学学習は毎日が基本です。毎日、単語、熟語、リスニング、音読を積み重ね、授業でその成果を確認しましょう。半年後、1年後に英語力が向上できる取り組みを実行しましょう。
 クラスは複数ありますが、指定されています。

到達目標
 それぞれのクラスで活用するテキストをマスターすることによって、大学生としての英語の教養は確実に習得できます。各自の目標に応じて、貪欲に高みを目指して下さい。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業の担当者によく確認して下さい。
 一般論では授業態度、提出物、小テストといった平常点が 50%
 定期テストが 50%

事前・事後学習
 講義の予習(単語、熟語の意味調べ 英文の翻訳 音読など)
 講義の復習(単語、熟語が書けるようにし、意味が分かるようにする 英文の意味が分かるようにする 文法事項が理解できるようにする すらすら音読等ができるようにする)
 毎日、1時間前後の事前事後学習に取り組むことが必要です。

授業の位置づけ
 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 第2講 テーマを決める
 第3講 調べる①
 第4講 調べる②
 第5講 読む①
 第6講 読む②
 第7講 まとめる①
 第8講 まとめる②
 第9講 まとめる③
 第10講 発表する①
 第11講 発表する②
 第12講 話し合う①
 第13講 話し合う②
 第14講 話し合う③
 第15講 基礎演習について
 ※ 講義の順番については、入れ替わる場合があります。
 第12・13・14講でディスカッションを行います。

テキスト・教材（参考文献含む）
 担当者が適宜指示します。ノートを必ず用意してください。

担当者から一言
 「入門演習Ⅰ」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 クラスごとにガイダンス:講義の内容、方法、課題、テスト、評価等について
 第2講 各クラスによる内容
 第3講 各クラスによる内容
 第4講 各クラスによる内容
 第5講 各クラスによる内容
 第6講 各クラスによる内容
 第7講 各クラスによる内容
 第8講 各クラスによる内容
 第9講 各クラスによる内容
 第10講 各クラスによる内容
 第11講 各クラスによる内容
 第12講 各クラスによる内容
 第13講 各クラスによる内容
 第14講 各クラスによる内容
 第15講 各クラスによる内容
 定期テスト 各講の内容をまとめたテスト

テキスト・教材（参考文献含む）
 それぞれのクラスに応じて異なります。
 第1講のガイダンスで指示された教材を必ず購入し、辞書（電子辞書可）、参考書も自分で準備しておいてください。

担当者から一言
 国際社会の一員として、コミュニケーションツールとしての英語を、興味がわく話題(教材)から学ぶことによって自分が活用できる言語の一つにしましょう。毎日英語を学修することによって、あなたは英語を活用できるようになります。

基礎英語Ⅱ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEL1002	後学期	選択必修

授業のねらい
英語で「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」の4つの技能を高めることをねらいとしています。
この4つの技能が日に日に高まるように、授業の準備、授業そして授業後の学習が良き習慣として身につくようにしましょう。半年後、1年後にあなたの英語力はどのように高まっているのか、自分で確認し、次の到達点を定めましょう。
クラスは複数ありますが、指定されています。

到達目標
1 授業の内容をマスターすることがすべての始まりです。各クラスに応じたテキスト、授業内容、課題に集中して取り組み、4つの技能の習得に努め、総合的な英語の教養を身に付けましょう。
2 各自の目標に応じて学び、資格試験にも挑戦しましょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業担当者に確認して下さい。
一般論では授業態度、提出物、小テストといった平常点が 50%
定期テストが 50%

事前・事後学習
基礎英語Ⅰの内容と同じように、毎日、1時間前後の事前事後学習に取り組むことが必要です。

基礎日本語Ⅰ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEL9001	前学期	選択必修

授業のねらい
言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。

到達目標
この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。
(※日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業での積極性やレポート、小テスト(採点、添削後授業時に返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
N1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。(30分)
毎日、継続的に新聞を読むこと。(30分)
事前に授業内容を調べ学習しておくこと(90分)
授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと(90分)

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス・授業導入等
第2講 各クラスの内容
第3講 各クラスの内容
第4講 各クラスの内容
第5講 各クラスの内容
第6講 各クラスの内容
第7講 各クラスの内容
第8講 各クラスの内容
第9講 各クラスの内容
第10講 各クラスの内容
第11講 各クラスの内容
第12講 各クラスの内容
第13講 各クラスの内容
第14講 各クラスの内容
第15講 まとめ
定期テスト 各講をまとめた理解力テスト

テキスト・教材(参考文献含む)
テキスト 各クラスで指示されたテキスト(必ず購入すること)
参考文献 辞書・電子辞書、参考書を各自で授業には持参するとよい

担当者から一言
英語力のアップ、英語の4技能・スキル力の向上には毎日の努力の積み重ねが定番です。これ以外に道はないと言っても過言ではありません。大学での授業を土台として、単純な毎日の積み重ねが1つのものを、1つの事柄を成功に導くことをよく認識し、励んで下さい。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス レポート作成の基礎、読解、語彙①
第2講 レポート作成、読解、語彙②
第3講 レポート作成、読解、語彙③
第4講 レポート作成、読解、語彙④
第5講 能力試験対策模擬試験①、②
第6講 能力試験対策①(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
第7講 能力試験対策②(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
第8講 能力試験対策③(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
第9講 能力試験対策④(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
第10講 能力試験対策⑤(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
第11講 能力試験対策⑥(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
第12講 能力試験対策⑦(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
第13講 レポート作成、読解、語彙⑤
第14講 レポート作成、読解、語彙⑥
第15講 レポート作成、読解、語彙⑦
定期試験
※N2クラスは学期を通してレポート作成も学習します。また、授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
『読解厳選テーマ10[中、中上級]』凡人社 清水
『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池
『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』 有田 有田
『1回で合格 日本語能力試験N2文法』ナツメ社 渡辺

担当者から一言
日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から積極的に日本語を話し、読み、書くことに心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。

基礎日本語Ⅱ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEL9002	後学期	選択必修

授業のねらい
 言語の四技能－読む、書く、聞く、話す－を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業に必要な専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。

到達目標
 この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、積極的に授業に参加するために必要となる日本語力を身につけることを、到達目標とします。(※日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業での積極性やレポート、小テスト(採点、添削後授業時に返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
 N1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。(30分)
 毎日、継続的に新聞を読むこと。(30分)
 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと(90分)
 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと(90分)

英語コミュニケーションⅠ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1003	前学期	選 択

授業のねらい
 The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The text that will be utilized provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.
 この講座の狙いは学生の英語の基本的な技能であるリスニングとスピーキングを向上させることである。

到達目標
 1. 英語の聴解力と話す力を高める。
 2. 英語の語彙を増やす。
 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 学習態度 20%
 課題・小テスト 20%
 スピーキングテスト・スキット(4) 40%
 定期試験 20%
 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
 1. 講座が始まる前に『基礎英語Ⅰ and Ⅱ』のテキストを復習する。
 2. In addition to any homework assignments, after each class spend about 60 minutes reviewing the class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following class.

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス レポート作成、読解、語彙①
 第2講 レポート作成、読解、語彙②
 第3講 能力試験対策模擬試験①、②
 第4講 能力試験対策①(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
 第5講 能力試験対策②(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
 第6講 能力試験対策③(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
 第7講 能力試験対策④(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
 第8講 能力試験対策⑤(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
 第9講 能力試験対策⑥(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
 第10講 能力試験対策⑦(聴解、文字・語彙、文法、読解から)
 第11講 レポート作成、読解、語彙③
 第12講 レポート作成、読解、語彙④
 第13講 レポート作成、読解、語彙⑤
 第14講 レポート作成、読解、語彙⑥
 第15講 レポート作成、読解、語彙⑦
 定期試験
 ※なお、N2クラスは学期を通してレポート作成の応用も学習します。
 また、授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
 『読解厳選テーマ10[中、中上級]』凡人社 清水
 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池
 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』 有田
 『1回で合格 日本語能力試験N2文法』ナツメ社 渡辺

担当者から一言
 日本語学校やアルバイト先での日本語と大学に必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から積極的に日本語を話し、読み、書くことに心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 1. Guidance, Greetings and Introductions
 2. Greetings and Introductions
 3. Greetings and Introductions- Introduction English Speaking Test 1- Round 1
 4. Greetings and Introductions- Introduction English Speaking Test 1- Round 2
 5. Good morning World- A New Host
 6. Good Morning World- A New Host- スキット 1
 7. Self-introduction
 8. Self-introduction
 9. Self-introduction- Speaking Test 2
 10. Countries and Nationalities
 11. Countries and Nationalities
 12. Countries and Nationalities
 13. Activities and Interests- Meet Kim-
 14. Activities and Interests- Meet Kim- スキット 2
 15. Review and test preparation
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 World Link Combo Split Intro A w/Online Workbook- Stu. Book - 3rd Ed.-
 James R. Morgan- Cengage Learning - ¥2,650
 英語コミュニケーションⅠとⅡのテキストは同じ。

担当者から一言
 対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変わることがある。テキストにオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加が不可。5回以上欠席すると単位なし。履修者が22名を超えた場合は抽選あり。

英語コミュニケーション I エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1003	前学期	選 択

授業のねらい

このクラスの目標は、英語で日常生活についてコミュニケーションできる基礎能力を得る事にある。授業では主にlisteningとspeaking練習を行う。speaking練習は、1)発音練習と、2)クラスメートとの日常生活についての会話練習から成る。ここで大事なことは、不完全な英語(ブローケンイングリッシュ)で話すことを恥ずかしがらないで、ともかく英語で話そうとする積極的な姿勢である。ほぼ毎回宿題を課す。学期末にはクラスメートに手紙を書いてもらう予定である。

到達目標

このクラスで学んだことは、将来仕事で英語を使う時や、外国の人達と接する時に大いに役立つだろう。日常生活について英語でコミュニケーション出来るようになり、英語圏文化の理解も深まる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (40%) and a Final test (20%). Feedback will be given on a regular basis.

事前・事後学習

Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes).

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- 1 Class Introduction/Guidance
 - 2 Meeting People 1
 - 3 Meeting People 2
 - 4 Talking about Classes 1
 - 5 Talking about Classes 2
 - 6 Talking about Daily Life 1
 - 7 Talking about Daily Life 2
 - 8 Talking about Personality 1
 - 9 Talking about Personality 2
 - 10 Talking about Appearance 1
 - 11 Talking about Appearance 2
 - 12 Talking about Last Weekend 1
 - 13 Talking about Last Weekend 2
 - 14 Talking about Vacation Plans
 - 15 Review and Reflection
- 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)

Textbook: New Time to Communicate
Publisher: Nan'un-do Publishing

担当者から一言

この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

英語コミュニケーション II ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1004	後学期	選 択

授業のねらい

This course is a continuation of 英語コミュニケーション I. The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The textbook for this course utilizes DVD video.
この講座の狙いは学生の英語の基本的な技能であるリスニングとスピーキングを向上させること

到達目標

1. 英語の聴解力と話す力を高める。
2. 英語の語彙を増やす。
3. 人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度 20%
課題・小テスト 30%
スピーキング・テスト(2) 30%
定期試験 20%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

1. 講座が始まる前に『基礎英語 I and II』のテキストを復習する。
2. In addition to any homework assignments, after each class try and spend about 60 minutes reviewing the class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following class.

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

1. Guidance/ Talking about the past/ "How was your vacation?"
 2. Talking about the past/"How was your vacation?"
 3. "How was your vacation?" - Speaking Test #1
 4. Unit 3- Possessions- Lesson A- Gifts
 5. Unit 3- Possessions- Lesson B- Important items
 6. Unit 4- Activities- Lesson A- What are you doing?
 7. Unit 4- Activities- Lesson B- At school
 8. 小テスト
 9. Unit 5 - Food- Lesson A- What's on the menu?
 10. Unit 5- Food- Lesson B- Eating right?
 11. "My favorite restaurant speech"- Speaking Test #2
 12. "How the Grinch Stole Christmas"
 13. "How the Grinch Stole Christmas"
 14. Unit 6- Relationships- Lesson A- Family
 15. Unit 6- Relationships- Lesson B- Marriage
- 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)

World Link Combo Split Intro A with Online Workbook- Stu. Book - 3rd Edition
James R. Morgan- Cengage Learning-¥2,650
英語コミュニケーション I と II のテキストは同じ。

担当者から一言

対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。テキストにオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買いと授業に参加が不可。5回以上欠席すると単位なし。履修者が22名を超えた場合は抽選あり。

英語コミュニケーションⅡ エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1004	後学期	選 択

授業のねらい

このクラスの目標は、英語で日常生活についてコミュニケーションできる基礎能力を得る事にある。授業では主にlisteningとspeaking練習を行う。speaking練習は、1)発音練習と、2)クラスメートとの日常生活についての会話練習から成る。ここで大事なことは、不完全な英語(ブローケンイングリッシュ)で話すことを恥ずかしがらないで、ともかく英語で話そうとする積極的な姿勢である。ほぼ毎回宿題を課す。学期末にはクラスメートに手紙を書いてもらう予定である。

到達目標

このクラスで学んだことは、将来仕事で英語を使う時や、外国の人達と接する時に大いに役立つだろう。日常生活について英語でコミュニケーション出来るようになり、英語圏文化の理解も深まる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (40%) and a final test (20%). Feedback will be given on a regular basis.

事前・事後学習

Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes)

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- 1 - Class Introduction/Guidance
 - 2 - Talking about the vacation 1
 - 3 - Talking about the vacation 2
 - 4 - Talking about Weekend plans 1
 - 5 - Talking about Weekend plans 2
 - 6 - Talking about Food and Recipes 1
 - 7 - Talking about Food and Recipes 2
 - 8 - Talking about Travel 1
 - 9 - Talking about Travel 2
 - 10 - Talking about Hometowns 1
 - 11 - Talking about Hometowns 2
 - 12 - Talking about Opinions 1
 - 13 - Talking about Opinions 2
 - 14 - Talking about The Future
 - 15 - Review and Reflection
- 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)

Textbook: New Time to Communicate
Publisher: Nan'un-do Publishing

担当者から一言

この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

中国語Ⅰ 加納 光	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1005	前学期	選 択

授業のねらい

この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通して、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調(高低アクセント)と400余りの音節を正しく発音できるようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。

到達目標

この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やしなが、中国語の基礎をしっかり身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題(評価した後返却します)20%により総合的に評価します。

事前・事後学習

毎回与えられる復習(90分)、予習(90分)のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。

授業の位置づけ

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、授業の概要、中国語概要1
 - 第2講 中国語概要2、中国概況1
 - 第3講 声調(4)と単母音(7)の発音、概況2
 - 第4講 複合母音(13)の発音、概況3
 - 第5講 鼻母音(16)の発音、概況4
 - 第6講 子音(21)の発音、概況5
 - 第7講 発音、表記上の規則、概況6
 - 第8講 発音のまとめ、小テスト、概況7
 - 第9講 どうぞよろしく(point 1~4)、概況8
 - 第10講 お名前は(point 1~4)、概況9
 - 第11講 ご出身は(point 1~4)、概況10
 - 第12講 飲み物は(point 1~4)、概況11
 - 第13講 おいくつ(point 1~4)、概況12
 - 第14講 和食はいかが?(point 1~4)、概況13
 - 第15講 復習、概況14
- 定期試験

注 授業内容、進捗については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。

テキスト・教材 (参考文献含む)

- 1)教材:相原茂他『日中いぶこみ交差点(エッセンシャル版)』(朝日出版社)2,400円+税
- 2)参考書:『WHY?に答えるはじめての中国語の文法書』(相原茂)
- 3)辞書:『簡約現代中国語辞典』(光生館)

担当者から一言

初めて学ぶ外国語です。旺盛な知的好奇心を持って授業に臨んでください。予習。復習を欠かさないようにしてください。遅刻、授業中の私語、中座、居眠りなどは、原則禁止します。

中国語 I	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	吉山 青翔	GEL1005	前学期 選 択

授業のねらい
本講義は中国語をゼロから始める中国語初心者に向け、国連など国際会議で公用語と指定されている中国語の標準語 (= 普通話) の基本発音・基本文法・基本語彙・基本文型と、中国語日常会話の基本的なスキル、及び中国文化との一体化的な中国語学習を目指します。

到達目標
中国語の門に入り、より中国語を学ぶための基礎を据えることができるでしょうし、そして、国際感覚の養成にも役に立つでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常授業中に行われる書き取りテスト (40点) (採点后返却し、フィードバックします)・会話練習などの出来具合と期末定期試験 (60点) の出来具合により総合評価。

事前・事後学習
授業前に90分ほどをかけて予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。そうしなければ、授業についていけません。

中国語 II	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	加納 光	GEL1006	後学期 選 択

授業のねらい
この授業は中国語 I を継続するものです。中国語 I と同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。
コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。

到達目標
中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
学期末試験60%、小テスト20%、課題、宿題 (採点后返却します) 20%をもとにして、総合的に評価します。

事前・事後学習
授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください (予習90分+復習90分)。
加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください (毎日30分以上)。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、中国語と日本語の相違点
第2講 中国語発音1、あいさつの表現1
第3講 復習と小テスト、中国語発音2、あいさつの表現2
第4講 復習と小テスト、中国語発音復習、中国語による唐詩鑑賞
第5講 中国語人称代名詞、語順、「Yes/No式疑問文」、「是」の用法
第6講 復習と小テスト、会話「我是日本人」(私は日本人です)
第7講 中国語の「Wh式疑問文1」、「什么」、名前の名乗りかたと尋ねかた
第8講 復習と小テスト、会話「我姓小林」(小林と申します)
第9講 中国語の指示代名詞、動詞述語文、「的・都・也」の用法
第10講 復習と小テスト、会話「妈妈也是老师」(母親も教師です)
第11講 中国語の「Wh式疑問文2」「動詞否定表現」、「打算」「想」「喜欢」の用法
第12講 復習と小テスト、会話「你想不想吃蛋糕」(ケーキを食べたくありませんか)
第13講 中国語の数詞量詞表現、年齢の言い方、「有」の用法
第14講 復習と小テスト、会話「我今年十九岁、有一个弟弟」
第15講 総括

テキスト・教材 (参考文献含む)
テキスト: 相原茂他『日中いぶこみ交差点』(朝日出版社、2019年)
参考文献: 王青翔 (= 吉山青翔)・栄隈真人司共著『徹底復習式 きょう忘れてもあした覚える 実用中国語』(東洋書店、2013年)

担当者から一言
本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
「中国語 I」からの継続
第1講: ガイダンス、授業の概要、家庭訪問(1)
第2講: 家庭訪問(2)、買い物(1)
第3講: 買い物(2)、道案内(1)
第4講: 道案内(2)、中秋節(1)
第5講: 中秋節(2)、食事の前は(1)
第6講: 食事の前は(2)、第1~5講の復習(1)
第7講: 第1~5講の復習(2)
第8講: 手作り料理(1)
第9講: 手作り料理(2)、カニの季節(1)
第10講: カニの季節(2)、スキー場で(1)
第11講: スキー場で(2)、おみやげ(1)
第12講: おみやげ(2)、空港まで(1)
第13講: 空港まで(2)、第6~12講の復習(1)
第14講: 第6~12講の復習(2)
第15講: 総復習とまとめ
定期試験
注 授業内容、進度はクラスの状況に応じて、変更する場合があります。毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。

テキスト・教材 (参考文献含む)
1) 教材: 『日中いぶこみ交差点 エッセンス版』(朝日出版社)、相原茂 他
2) 副教材: 『中国語の文法書』(同学社)
3) 辞書: 『中国語辞典』(光生館)
4) 参考書: 『中国語はじめの一歩』(ちくま新書)

担当者から一言
予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。

中国語Ⅱ 吉山青翔	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1006	後学期	選 択

授業のねらい
本講義は中国語の入門編ではなく、すでに中国語の入門程度の知識を修得した学習者に向け、前学期で開講した「中国語Ⅰ」に続き、基礎中国語の学習を展開します。

到達目標
前学期の「中国語Ⅰ」と合わせて履修すれば、中国語をより学ぶための文法的な基礎と中国語会話の基本的なスキルを身につけることができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常授業中に行われる書き取りテスト(40)(採点後返却し、フィードバックします)・会話練習などの出来具合と期末定期試験(60点)の出来具合により総合評価。

事前・事後学習
授業前に90分ほどをかけて予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。そうしなければ、授業についていけません。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、中国語Ⅰの復習
第2講 中国語の選択疑問文、形容詞述語文、動詞過去経験表現、「还是」の用法
第3講 復習と小テスト、会話「你吃过日本料理吗」
第4講 中国語述術文、比較の表現、助動詞「要」の用法、前置詞「跟」の用法
第5講 復習と小テスト、会話「你比照片漂亮」
第6講 中国語助動詞「可以」、動詞の重ね型、方向補語、連動文、お金の言い方
第7講 復習と小テスト、会話「这个多少钱」
第8講 中国語の動作の完了実現表現「了」、前置詞「从」「得」「在」の用法
第9講 復習と小テスト、会話「去北京站怎么走」
第10講 中国語年月日曜日の言い方、状態変化と新事態発生の表現
第11講 復習と小テスト、会話「今天几月几号」
第12講 中国語辞書の使い方
第13講 中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」1 ユーモア:「助听器」「二十年后的我」
第14講 中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」2 漫画:「考试」「外面吃」
第15講 総復習

テキスト・教材(参考文献含む)
テキスト
相原茂他『日中いぶこみ交差点』(エッセンシャル版)(朝日出版社、2019年)
参考資料
王青翔(=吉山青翔)・栄隈真人司共著『徹底復習式 きょう忘れてもあした覚える 実用中国語』(東洋書店、2013年)

担当者から一言
本講義では平常授業中にはほぼ毎回書き取りテストを行い、会話など暗記課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。

ポルトガル語Ⅰ フェリペ・フェハリー	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1007	前学期	選 択

授業のねらい
日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係(日本-ブラジルの交流関係)の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地(約150万の日系ブラジル人がいます)です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。

到達目標
ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。
ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度:30%
小テスト:50%
定期試験:50%

事前・事後学習
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う(毎週約60分)。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 アルファベットと発音
第3講 挨拶と自己紹介
第4講 名詞の性と数
第5講 冠詞と数字
第6講 ser動詞(1)
第7講 ser動詞(2)
第8講 所有表現(1)
第9講 所有表現(2)
第10講 所有表現(3)
第11講 gostar動詞
第12講 規則動詞(1)
第13講 規則動詞(2)
第14講 規則動詞(3)
第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
Vamos falar português! Edição Revisada『ブラジルポルトガル語を話そう!改訂版』
重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari(朝日出版社)
(2,300円+税)ISBN 978-4-255-55505-8

担当者から一言
ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう!

ポルトガル語Ⅱ フェリペ・フェハリー	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1008	後学期	選 択

授業のねらい
本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係(日本-ブラジル間の交流関係)の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地(約150万の日系ブラジル人がいます)です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。

到達目標
ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。
ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度:30%
小テスト:20%
定期試験:50%

事前・事後学習
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う(毎週約60分)。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 前期の総合復習
第2講 前置詞
第3講 不規則動詞:ir
第4講 不規則動詞:terとfazer
第5講 不規則動詞:poder
第6講 不規則動詞:querer
第7講 estar動詞
第8講 ser動詞とestar動詞の違い
第9講 現在分詞と現在進行形
第10講 規則動詞の過去形(1)
第11講 規則動詞の過去形(2)
第12講 規則動詞の過去形(3)
第13講 様々な表現(1)
第14講 様々な表現(2)
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
Vamos falar português! Edição Revisada 『ブラジルポルトガル語を話そう!改訂版』
重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari(朝日出版社)
(2,300円+税)ISBN 978-4-255-55505-8

担当者から一言
ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう!

海外語学研修 a (英語) 武藤和成	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1009	後学期	選 択

授業のねらい
平時であれば、春季・夏季の休業期間を活用し、海外で語学の研修を実施します。
コロナ禍で海外研修が実施できない場合は、国内の英語施設での集中的な英語合宿を考慮します。
大学、語学学校、語学施設においての集中した研修によって、短期間で実感できる英語力と異文化理解力の向上をめざします。
1年生も参加はできますが、単位が認定されるのは2年生以上に限られます。

到達目標
1 異文化を体感することにより、異文化への興味・関心を深め、異文化理解力を高めます。
2 英語によるコミュニケーション能力を高めます。
3 総合的な英語力を高めます。
4 国際的な親交を深める機会とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
評価
1 事前指導、面接、現地での参加姿勢・内容、現地スタッフの評価、帰国後のレポート等により総合的に評価します。
課題
1 ガイダンス、事前指導(プリント教材を含む)、研修後のレポート、現地での学校によって課せられるものがすべて課題となります。
フィードバック
1 語学の習得度は経験によって飛躍的に向上します。事前、現地、そして事後の継続学習によって「英語」の活用能力を飛躍的に向上させましょう。

事前・事後学習
事前学習
1 渡航先の地理、政治、経済、歴史、文化、生活様式等について毎日研究、確認をしましょう。
2 英語のテキストを毎日学修しましょう。
3 英会話の番組、英語のDVDを利用し、楽しみを根拠にして毎日1時間前後英語で耳、脳、口、目を鍛えましょう。
事後学習
1 研修で感じたことを起点に、英語力を高めましょう。
2 より良き世界市民の一員になることを自覚し、成長しましょう。

授業の位置づけ
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
1 平時の場合の説明会実施予定 (夏季研修は4月 春季研修は9月)
2 希望者への面接 (研修参加目的等を深めます)
3 参加申し込みの確認 (参加申込書提出 手配開始)
4 ガイダンス (事前指導 日常会話の特別講座)
5 現地校での研修
6 帰国後のレポート提出 (帰国後に研修内容に関わったレポートを提出します)
7 単位認定 (研修中の参加態度とレポートによって単位を認定します)

テキスト・教材(参考文献含む)
渡航先の大学や語学学校で配布されるテキストを用います。

担当者から一言
「健康」、「人としてのマナー」、「学修・研究」、「危機管理」を自分に課せられたテーマとして捉え、熱い気持ちと期待感を持って海外語学研修に参加して下さい。

日本語中級Ⅰ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL9003	前学期	選 択

授業のねらい
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、与えられたテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、それをもとに議論をしたり、発表したりすることのできる日本語能力の養成をそのねらいとします。

到達目標
 この授業では、日本社会に対する理解を深めるとともに、与えられたさまざまなテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、その結果をもとにして議論をしたり、自分の考えを発表したりする日本語コミュニケーション能力の習得を到達目標とします。
 (*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
 授業で扱うテーマについて、事前に新聞やニュースなどで関連記事を読んだり、学内外の日本人や留学生と話し合うなどして、授業に臨む十分な準備をおこなっておくこと(90分)。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておくこと(90分)。

日本語中級Ⅱ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL9004	後学期	選 択

授業のねらい
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、与えられたテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、それをもとに議論をしたり、発表したりすることができる日本語能力の養成が、授業のねらいです。

到達目標
 この授業では、日本社会に対する理解を深めるとともに、与えられたさまざまなテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、その結果をもとに議論をしたり、自分の考えを発表したりすることのできる日本語のコミュニケーション能力の習得が到達目標です。
 (*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
 授業で扱うテーマについて、事前に新聞やニュースなどで関連記事を読んだり、学内外の日本人や留学生と話し合うなどして、授業に臨む十分な準備をおこなっておくこと(90分)。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておくこと(90分)。

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 合同ガイダンス(クラス分け日本語テストも含む)
 第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習①
 第3講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習②
 第4講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③
 第5講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④
 第6講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤
 第7講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥
 第8講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦
 第9講 日本を知る 議論、発表⑧ 語彙学習⑧
 第10講 日本を知る 議論、発表⑨ 語彙学習⑨
 第11講 日本を知る 議論、発表⑩ 語彙学習⑩
 第12講 日本を知る 議論、発表⑪ 語彙学習⑪
 第13講 日本を知る 議論、発表⑫ 語彙学習⑫
 第14講 日本を知る 議論、発表⑬ 語彙学習⑬
 第15講 日本を知る 議論、発表⑭ 語彙学習⑭ まとめ
 定期試験
 *授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材(参考文献含む)
 『日本語能力試験問題集 N1(N2)読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1(N2)語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言
 コミュニケーション能力の向上を目指して積極的に発言してください。また、他人の意見をしっかりと聞く姿勢も忘れないようにしてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 合同ガイダンス(クラス分け日本語テストも含む)
 第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習①
 第3講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習②
 第4講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③
 第5講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④
 第6講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤
 第7講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥
 第8講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦
 第9講 日本を知る 議論、発表⑧ 語彙学習⑧
 第10講 日本を知る 議論、発表⑨ 語彙学習⑨
 第11講 日本を知る 議論、発表⑩ 語彙学習⑩
 第12講 日本を知る 議論、発表⑪ 語彙学習⑪
 第13講 日本を知る 議論、発表⑫ 語彙学習⑫
 第14講 日本を知る 議論、発表⑬ 語彙学習⑬
 第15講 日本を知る 議論、発表⑭ 語彙学習⑭ まとめ
 定期試験
 *授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材(参考文献含む)
 『日本語能力試験問題集 N1(N2)読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1(N2)語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言
 コミュニケーション能力の向上を目指し、積極的に発言してください。また、他人の意見をしっかりと聞くことも忘れないようにしてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

日本語上級Ⅰ	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	GEL9005	前学期	選 択

授業のねらい
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。

到達目標
 この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読み、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。
 (*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
 授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと(90分)。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと(90分)。

日本語上級Ⅱ	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	GEL9006	後学期	選 択

授業のねらい
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。

到達目標
 この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読んで、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。
 (*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

事前・事後学習
 授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと(90分)。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと(90分)。

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 合同ガイダンス (クラス分けアンケートも含む)
 第2講 文章読解① 語彙学習①
 第3講 文章読解② 語彙学習②
 第4講 文章読解③ 語彙学習③
 第5講 文章読解④ 語彙学習④
 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤
 第7講 文章読解⑥ 語彙学習⑥
 第8講 文章読解⑦ 語彙学習⑦
 第9講 文章読解⑧ 語彙学習⑧
 第10講 文章読解⑨ 語彙学習⑨
 第11講 文章読解⑩ 語彙学習⑩
 第12講 文章読解⑪ 語彙学習⑪
 第13講 文章読解⑫ 語彙学習⑫
 第14講 文章読解⑬ 語彙学習⑬
 第15講 文章読解⑭ 語彙学習⑭ まとめ
 定期試験
 *授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材 (参考文献含む)
 『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言
 日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことが心げること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

授業の位置づけ
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 合同ガイダンス (クラス分けアンケートも含む)
 第2講 文章読解① 語彙学習①
 第3講 文章読解② 語彙学習②
 第4講 文章読解③ 語彙学習③
 第5講 文章読解④ 語彙学習④
 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤
 第7講 文章読解⑥ 語彙学習⑥
 第8講 文章読解⑦ 語彙学習⑦
 第9講 文章読解⑧ 語彙学習⑧
 第10講 文章読解⑨ 語彙学習⑨
 第11講 文章読解⑩ 語彙学習⑩
 第12講 文章読解⑪ 語彙学習⑪
 第13講 文章読解⑫ 語彙学習⑫
 第14講 文章読解⑬ 語彙学習⑬
 第15講 文章読解⑭ 語彙学習⑭ まとめ
 定期試験
 *授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

テキスト・教材 (参考文献含む)
 『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

担当者から一言
 日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことが心げること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

コンピュータリテラシー 池田幹男・片山清和	科目 ナンバリング	1年次	4単位
	GEI1001	前学期	必修

授業のねらい

コンピュータの実習を中心とした授業です。コンピュータの「読み書き能力」の習熟に重点を置きます。
具体的には、仕事をする上でよく使われているワープロと表計算ソフトを中心に実習します。授業は、キーボードのタイピング練習から入り、それから実際にデータを入力して加工する実習を主体に行います。教員が質問に答えて個別指導を行う形で実習は進みます。毎回実習の提出物がありますから、それで習熟度がチェックされます。

到達目標

ワープロソフトWord2016と表計算ソフトExcel2016の基本的な機能に習熟し、ビジネス文書の作成ができるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の演習の提出物4点とタイピングテスト(0.1×タイピングテストの点数)とExcelの小テスト(20点)の合計で評価します。適宜、提出物に対してコメントを付けてフィードバックします。

事前・事後学習

授業を履修するための予備知識は要求しません。習うより慣れるという内容なので授業に毎回出席して実習に励んでください。また、タイピングの練習方法を指導するので毎日続けて20分間ほど練習してください。さらに授業で行った実習を忘れないように毎日20分ほど復習して下さい。

情報倫理 片山・池田・千葉・田中伊	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEI1002	後学期	必修

授業のねらい

インターネットとネット上の各種サービスの発展により、世界中の人々が直接に繋がる新しい社会が形成されつつある。またデジタル技術の進展により、高品位の著作物を皆で共有し楽しめるようになった。ネット上に出来たこの新しい社会は人間社会を根本から変えようとしているが、人が集まれば多くの問題も生じる。この講義では、コンピュータやインターネットなどの利用に際して、他人の権利を侵害したり自分の権利を侵されたりすることがないように必要な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

- ①情報セキュリティについて説明できる。
- ②個人情報について説明できる。
- ③著作権について説明できる。
- ④暗号技術について説明できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

ノートやレポート(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)
ノート、レポート、小テストは採点后、以降の講義で返却します。

事前・事後学習

講義前には、講義内容をシラバスで確認し、教科書の該当部分を読んで来ること(30分)。
講義後には、講義内容を復習し、問題などをやり直すこと(60分)。

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|------------------------|
| 第1講 | ガイダンスとタイピングテストによるクラス分け |
| 第2講 | キーボード入力練習(タッチタイピング) |
| 第3講 | Word①:文字の入力 |
| 第4講 | Word②:文書の作成 |
| 第5講 | Word③:編集・表の作成・画像の挿入 |
| 第6講 | Word④:まとめの演習 |
| 第7講 | メール:携帯メールとの連携・エチケット |
| 第8講 | PowerPoint:簡単な利用法 |
| 第9講 | Excel①:データの入力、タイピングテスト |
| 第10講 | Excel②:ワークシートの編集 |
| 第11講 | Excel③:グラフの作成 |
| 第12講 | Excel④:グラフの編集と表計算 |
| 第13講 | Excel⑤:基本的な関数と条件関数 |
| 第14講 | Excel⑥:データベース機能 |
| 第15講 | Excelの小テスト |
- 他の授業との連携の都合により内容が前後することがあります。

テキスト・教材(参考文献含む)

テキスト(必須)「30時間でマスターWord&Excel 2016」実教出版 950円
教科書が無いと実習が出来ません。

担当者から一言

コンピュータ教室での実習を中心とした科目です。毎回の授業は前回までの授業の積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。また、提出物が多いので、時間内に全ては完成しない場合があります。残った課題も必ず完成させて提出してください。

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1講 | ガイダンス、情報倫理とは、最近の話題(掲示板、2ch、ブログ、SNS、ケータイ) |
| 第2講 | 情報セキュリティ(1) |
| 第3講 | 情報セキュリティ(2) |
| 第4講 | コンピュータウイルス(1) |
| 第5講 | 小テスト、コンピュータウイルス(2) |
| 第6講 | 個人情報とプライバシー(1) |
| 第7講 | 個人情報とプライバシー(2) |
| 第8講 | 知的財産保護(1) |
| 第9講 | 知的財産保護(2) |
| 第10講 | 小テスト、知的財産保護(3) |
| 第11講 | 知的財産保護(4) |
| 第12講 | 暗号技術(1) |
| 第13講 | 暗号技術(2) |
| 第14講 | 小テスト、暗号技術(3) |
| 第15講 | まとめ |
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

「四日市大学生のための情報倫理」四日市大学情報系教員グループ著 400円

担当者から一言

情報倫理は、情報化社会・ネット社会を生きていく上で必須の知識です。やや硬い内容ですが楽しみながら受講できるよう身近な話題を多く扱います。
ノートを定期的に確認し創意工夫と学ぶ姿勢の表れたものに高い点数を与えます。ノートの書き方は指導します。

情報科学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	千葉 賢	GEI1003	前学期 選 択

授業のねらい

コンピュータの歴史は浅く、電子計算機が開発されたのは約70年前、最初のパソコンが発売されたのは約45年前である。それ以降の情報技術の発展は驚異的で、現在はパソコンやスマホを通じて自分から世界に情報を発信できる世の中となった。さらに最近では、AI技術の普及も目覚ましく、情報技術が人間社会の在り方や運命を変えようとしている。本講義では、現代社会で必要とされるコンピュータに関する知識を概説する。予備知識は必要ない。本大学で行われる情報系授業の基礎となる内容を教えるので、できるだけ早期に受講することを薦める。

到達目標

①デジタルの特質を知る、②コンピュータの内部構造の概要を知る、③コンピュータの動作原理の概念を知る、④コンピュータの歴史を知る、⑤情報分野の用語や単位を知る、⑥情報分野の資格取得に備えた知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義毎のレポート(40%)と期末試験(60%)。毎週小レポートを課すので少し大変だが、その積み重ねで知識がつく。期末試験もレポートに出題した内容から出題する。レポートに予習復習で得た知識を書くと良い。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。レポートは採点して返却する。

事前・事後学習

全く新しい話題の準備学習は難しいので、連続する話題(例えば「情報と情報量」)の1回目を聴講したら、それを復習(90分)するとともに、ネット等で関連知識を得る(90分)ようにすると良い。そのような準備学習をすることで、理解度は格段に高まる。

情報と職業	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	井岡 幹博	GEI1004	前学期 選 択

授業のねらい

本講義では、事例を通して情報システムと社会とのかかわり方を学び、情報システム関連の職業に関する職業観を持つことを目的とします。そのために、コンピュータやネットワークが社会インフラやビジネスの場面で、どのように活用されているかを学びます。情報システムの発達により、社会の仕組みや仕事の仕方が変わる中で、人間社会とコンピュータ、ネットワークとの望ましい関係も考えていきたいと思えます。

到達目標

ITパスポート試験のストラテジ系およびマネジメント系の問題を解けるレベルを目指す。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

レポート50%、定期試験50% レポート課題に問題があればフィードバックします。

事前・事後学習

情報技術およびその利用に関する新聞記事の熟読(予習90分)。各回で課されるレポート課題を作成すること(復習90分)。

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1講 ガイダンス、情報と情報量
 第2講 情報と情報量
 第3講 デジタルとアナログ①
 第4講 デジタルとアナログ②
 第5講 コンピュータの歴史①
 第6講 コンピュータの歴史②
 第7講 コンピュータの内部装置①
 第8講 コンピュータの内部装置②
 第9講 コンピュータ内部の数値の表現方法①
 第10講 コンピュータ内部の数値の表現方法②
 第11講 コンピュータ内部の文字の表現方法③
 第12講 コンピュータ内部の文字の表現方法④
 第13講 コンピュータとCPUの動作原理①
 第14講 コンピュータとCPUの動作原理②
 第15講 論理回路
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

使用しない。資料を配布する。

担当者から一言

ケイタイもスマホもコンピュータです。情報社会の一員として生きてゆく皆さんにとって、コンピュータの使い方を覚えるだけで十分でしょうか。コンピュータという機械に「使われない」ためには、そのしくみを知り、使いこなすことが大切です。

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1講:ガイダンス、iPhoneのビジネスモデル
 第2講:情報のデジタル化
 第3講:インターネット
 第4講:インターネットビジネス アマゾン
 第5講:インターネットビジネス アマゾンと楽天のビジネスモデルの違い
 第6講:デジタル社会と製造 SCM①
 第7講:デジタル社会と製造 SCM②
 第8講:知的財産権とビジネス 産業財産権
 第9講:知的財産権とビジネス 著作権
 第10講:情報セキュリティ①
 第11講:情報セキュリティ②
 第12講:自動識別技術
 第13講:Googleのビジネスモデル
 第14講:GAFAと個人情報保護
 第15講:まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

プリント配布。

担当者から一言

急速に進む情報化は、ビジネス環境はもちろん、私たちの生活自体も大きく変え、大きな影響を与えています。ニュース番組などで具体的な例を見ながら、情報システム進化の方向やその影響を一緒に考えましょう。

アプリケーション演習 I 池田幹男・本部賢一	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEI1005	後学期	選 択

授業のねらい

Microsoft Excelは実社会では、表やグラフ作成だけでなく、簡単な文書作成にも使われていて、必須のアプリケーション・ソフトウェアとなっています。したがって、社会で活躍するためには、Excelを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Excelの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習を行います。

到達目標

MOS Excel 2016の資格試験の準備が整うようにします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の課題（40%）、模擬試験演習（60%）で評価します。定期テストは実施しません。適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。

事前・事後学習

テキストの練習問題と模擬練習問題の予習と復習を繰り返し実施してください。（週180分）可能ならば、個人のPCにテキスト付属の模擬テストプログラムをインストールして模擬テストを実施してください。

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、クラス分け
- 第2講 ワークシートやブックの作成と管理(1)
- 第3講 ワークシートやブックの作成と管理(2)
- 第4講 ワークシートやブックの作成と管理(3)
- 第5講 セルやセル範囲の作成(1)
- 第6講 セルやセル範囲の作成(2)
- 第7講 テーブルの作成
- 第8講 数式や関数の適用(1)
- 第9講 数式や関数の適用(2)
- 第10講 グラフやオブジェクトの作成
- 第11講 模擬試験演習(1)
- 第12講 模擬試験演習(2)
- 第13講 模擬試験演習(3)
- 第14講 模擬試験演習(4)
- 第15講 模擬試験演習(5)

テキスト・教材（参考文献含む）

佐藤 薫「MOS攻略問題集Excel 2016」日経BP社 ¥1,944
 テキストは必須です。特に実際にMOSを受験する人は、テキスト付属の模擬テストプログラムが必要になります。

担当者から一言

積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。

アプリケーション演習 II 本部賢一・池田幹男	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEI1006	前学期	選 択

授業のねらい

Wordは、卒業後の実社会（プレゼンや書類などのコミュニケーション中心）では必須の道具です。Wordは2016になり、実社会で必ず使う機能も増え、それらを理解し、使用できるようになることがねらいです。

到達目標

Word 2016の便利な新機能を実際に使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word 2016の資格取得試験の準備が整うようにします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義は演習形式で行います。授業への参加態度30%、演習の課題の提出30%と模擬試験問題の成績40%で評価します。

事前・事後学習

大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）

授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス・クラス分け
- 第2講 文書の作成
- 第3講 文書の管理
- 第4講 文字・段落の書式設定
- 第5講 セクションの書式設定
- 第6講 表やリストの作成と変更
- 第7講 引用文献
- 第8講 図表の管理
- 第9講 文書パーツ
- 第10講 SmartArt
- 第11講 画像の挿入
- 第12講 MOS word 2016模擬試験問題 1
- 第13講 MOS word 2016模擬試験問題 2
- 第14講 MOS word 2016模擬試験問題 3
- 第15講 MOS word 2016模擬試験問題 4

テキスト・教材（参考文献含む）

MOS攻略問題集 Microsoft Word 2016 佐藤薫（著）日経BP社 定価:1,980円(税込)

担当者から一言

人数制限があり、また、初回の授業でクラス分けを行いますので、初回は必ず出席してください。

四日市学 鬼頭・岡・永井・李	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEC1001	前学期	選 択

授業のねらい
この講義は、四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。四日市を深く知ることを通し、地域社会の抱える課題を見つけ、それを市民・企業・行政などがどのように解決するのか、学んでいきます。また、四日市の伝統・文化・芸術について触れ、多面的に四日市について考える機会とします。

到達目標
講義は8回にわたる様々なテーマの座学、2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、この地域の様子や現在の課題を積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになることです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績評価は、1～8週目に課す簡単なアクションペーパー各200字程度(40%)、2回のフィールドワークに関するレポート(30%)、学期末試験(30%)で総合評価します。提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、最終の振り返りでフィードバックします。

事前・事後学習
次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報を見る準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。

地域社会の歴史 岡 佑哉	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEC1002	後学期	選 択

授業のねらい
本講義は、地域における歴史の展開を知ること、歴史が政治の中心地のみでは語りきれないものであると理解することを目的とする。歴史は単なる「暗記科目」ではなく、事実に基づき思考する学問である。本講義を通して、地域社会の視点から日本全体の問題を考察するという姿勢を養う。題材として、2016年のサミット開催地三重県の「伊勢神宮」の近現代史をとり上げる。

到達目標
①地域社会の歴史に対する知識を身につける。②知識を活用し文章で説明する力を身につける。③地域社会から日本全体の問題を考える姿勢を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
①筆記試験(70%)、②平常点(30%)。出席が前提で、毎回講義の終わりに内容についての感想・質問を書いたペーパーを提出。その取り組みを評価する。次の回の講義で、質問への回答や事実関係の確認を行うことで、学生の理解の向上につなげる。

事前・事後学習
本講義は特に復習に力を入れてほしい。講義のプリントを熟読しつつ、板書内容を整理し次回の講義に備える。大学生として新聞を読むこと。また、伊勢神宮や天皇家に関わる記事がないかも注意するとよい。(90分)

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画
第1講(4/9) ガイダンス+フィールドワークの説明(鬼頭)
第2講(4/16) 「地域と宗教的文化・伝統」(李;ゲスト講師 北島義信)
第3講(4/23) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭;ゲスト講師 四日市公害と環境未来館職員)
第4講(5/7) 「四日市の産業」(岡)
第5講(5/14) 「ふるさと・四日市の文学者たち」(永井)
第6講(5/21) 「四日市の抱える今日の問題～人権問題～」(李)
第7講(5/28) 「四日市の歴史」(永井;ゲスト講師 四日市市博物館学芸員)
第8講(6/4) 「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」(鬼頭;ゲスト講師 四日市市観光・シティプロモーション課職員)
■第9～11講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」
■第12～14講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」
*感染拡大の状況によっては、オンデマンドでのバーチャル・フィールドワークになります。
15週目(7/23) 振り返りとフィールドワーク課題の提出(鬼頭)

テキスト・教材(参考文献含む)
とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。

担当者から一言
四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでほしい。

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画
第1回 ガイダンスー地域社会史の意義ー
第2回 前近代の伊勢神宮①ー古代～中世ー
第3回 前近代の伊勢神宮②ー近世ー
第4回 近代の伊勢神宮を知ることの意味
第5回 明治維新と伊勢神宮
第6回 明治期における宇治山田の変容
第7回 明治期における「神都」としての伊勢の形成
第8回 1929年の式年遷宮ー国家儀礼としてー
第9回 戦前のメディア・教育の中の伊勢神宮
第10回 戦前の伊勢神宮参拝の諸相
第11回 終戦の危機と1953年の式年遷宮
第12回 「脱法人化」と1973年の式年遷宮
第13回 1993年の式年遷宮ー聖地と俗地としての伊勢ー
第14回 伊勢神宮の現在
第15回 講義の総括
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストはなし。毎回プリントを配布する。
参考文献:ジョン・ブリー「神都物語 伊勢神宮の近現代史」(吉川弘文館、2015)

担当者から一言
・遅刻・私語・他ごと厳禁。遅刻者にプリント・出席カードは配布しない。
・バイトなどと称した無断早退、無断退出厳禁。
・コメントペーパー代筆厳禁。
・コロナ感染状況の悪化の場合オンデマンド型に変更。講義内容を文章化した資料を配布する。試験はレポートに(剽窃=他人の文章を盗むこと、は失格)。

市民教育	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	松井真理子	GEC1003	前学期 選 択

授業のねらい
 近年、「新しい公共」の理念のもと、市民が果たす役割がかつてなく期待されています。また、18歳選挙権の導入に伴い、選挙をはじめとする主権者としてのあり方について、若い世代が学習することはきわめて意義が大きくなっています。この授業では、主権者としての基礎知識、市民の権利と責任、市民の行動の3つの観点から、入門的な主権者教育を行います。三重県における市民としての権利と責任を自覚し、行動することができる人材の養成を目指します。

到達目標

- 1 政治・行政・司法への市民参加の仕組みを理解する。
- 2 地域において市民として生活する上での権利と責任を理解し、行動する力を養成する。
- 3 地域における市民としての活動のあり方について、具体的に理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎講義時の課題 30%
 定期試験 70%
 毎講義時の課題として提出された内容について、次回の授業でフィードバックする。

事前・事後学習

(授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと (毎日30分程度)
 授業内容について事前に予習しておくこと (60分)
 (授業後) 学んだ内容を復習し、インターネット等で関連する文献を読むこと (90分)

人権論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	松井真理子	GEC1004	後学期 選 択

授業のねらい
 私たちは生まれながらに、誰にも奪われることのない権利として人権を持っていますが、私たちが住んでいる地域は、人間らしい生活ができていますか。この授業では、人権を差別の問題だけに狭く捉えず、基本からしっかり学びます。また差別を受けやすい立場にいるマイノリティの人たちが抱えている課題についても、地域の当事者を招いて実践的に学びます。社会構造の根底に人権があることを理解し、誰もが安心して自分らしく暮らせる社会づくりの必要性を理解する、人権感覚に敏感な人づくりを目指します。

到達目標

- 1 人権の概念を正確に理解する。
- 2 人権を自分事にとらえ、社会構造と人権の関係に敏感になる。
- 3 マイノリティの人権について、個別の内容を理解する。
- 4 多様な人々が共生する地域社会づくりと人権との関係について正しく理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎講義時の課題 30%
 定期試験 70%
 毎講義時の課題として提出された内容について、次回の授業でフィードバックする。

事前・事後学習

(授業前) 日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと (毎日30分程度)
 授業内容について事前に予習しておくこと (60分)
 (授業後) 学んだ内容を復習し、インターネット等で関連する文献を読むこと (90分)

授業の位置づけ
 「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画

第1講 ガイダンス・市民教育とは何か
 第2講 日本国憲法の3原則
 第3講 政治・行政のしくみ
 第4講 税と財政
 第5講 労働
 第6講 社会保障
 第7講 SDGs
 第8講 選挙
 第9講 議会への参加
 第10講 身近な行政への参加
 第11講 司法と裁判員制度
 第12講 市民活動
 第13講 消費者
 第14講 情報社会
 第15講 まとめ

テキスト・教材 (参考文献含む)
 毎回講義時に資料を配布します。

担当者から一言
 社会をよくするのも悪くするのも究極は市民です。社会とつながっている自覚を持ち、行動するようになってもらいたいと思います。

授業の位置づけ
 「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画

第1講 ガイダンス・人権とは何か
 第2講 人権の体系
 第3講 人権の歴史
 第4講 表現の自由
 第5講 刑事手続と人権
 第6講 生存権
 第7講 マイノリティの人権(障害がある人)
 第8講 マイノリティの人権(子ども)
 第9講 マイノリティの人権(ジェンダー)
 第10講 マイノリティの人権(外国人①ニューカマー)
 第11講 マイノリティの人権(外国人②オールドカマー)
 第12講 マイノリティの人権(部落問題)
 第13講 暮らしの中の人権
 第14講 ダイバーシティ社会
 第15講 まとめ

テキスト・教材 (参考文献含む)
 毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。
 (参考文献)
 四日市市人権センターの人権教育・啓発推進プログラム各種パンフレット

担当者から一言
 わかりやすい資料や地域の当事者の話によって理解を深めます。あらゆる社会システムや学術研究の目的は「人権」だと考えています。ぜひ受講してください。

地域社会と環境	実務	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	野呂達哉	GEC1005	前学期	選 択

授業のねらい

現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」を取りあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。

到達目標

農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけではなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業に対する積極性(50%)、定期試験(50%)を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。

事前・事後学習

前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください(毎週30分)。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください(1日平均30分)。

地域防災	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	鬼頭浩文	GEC1006	前学期 選 択

授業のねらい

この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指す。この資格は、就職においても有利になる。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘する。
 * 6月の週末3日間(18時間)は、外部からの受講生も参加する「防災士養成講座」に参加することをもって6週分の講義とする。
 * テキスト・受験料などの実費12,500円が必要です。
 * 防災士試験に合格すると、別途5,000円の登録費用が必要です。

到達目標

この講義を通して、災害時には復旧活動をリードできる人材になるのが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義で学んだことをまとめる小レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正して返却をする。

事前・事後学習

事前にテキストの要点を30分ほどかけて予習する。また、講義を録音して公開するので(全部で10時間ほど)、必ず1回は復習として聴き、理解を深める。また、週末の演習で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験の1週間前に必ず復習をする。

授業の位置づけ

「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1講 | ガイダンス |
| 第2講 | 地域社会と環境問題 |
| 第3講 | 農村と里山 |
| 第4講 | 里山の自然と維持管理 |
| 第5講 | 里山の衰退と獣害問題 |
| 第6講 | 里山の再利用とエコツーリズム |
| 第7講 | 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 |
| 第8講 | 都市の自然と生物多様性 |
| 第9講 | 外来生物問題 |
| 第10講 | ベットの遺棄と地域ネコ |
| 第11講 | グローバル化と感染症問題 |
| 第12講 | 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 |
| 第13講 | 地域住民による外来生物対策 |
| 第14講 | 地域住民による生物調査と保全の取り組み |
| 第15講 | まとめ |
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献:「里山の環境学(武内和彦ほか)東京大学出版会, 2001」、「都市で進化する生物たち(メノ・スヒルトハウゼン)草思社, 2020」「野生動物問題への挑戦(羽山伸一)東京大学出版会, 2019」など。

担当者から一言

環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。

授業の位置づけ

「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画

- | | | |
|----|------------|--------------------------------|
| 1 | 4/12 | ガイダンス、テキスト1講:地震・津波 |
| 2 | 4/19 | 2・3・4講:風水害、火山災害 |
| 3 | 4/26 | 5講、補講1、6講:大規模火災、近年の災害、予報や警報 |
| 4 | 5/10 | 7・8・9講:ハザードマップ、災害情報、行政の危機管理 |
| 5 | 5/17 | 10・11・12講:救助と応急対策、復旧と復興・こころのケア |
| 6 | 5/24 | 13・14講:ライフライン、事業継続 |
| 7 | 5/31 | 15・16講、補講2:地震・津波・風水害への備え、耐震補強 |
| 8 | 6/7 | 補講3、17・18講:保険、地区の防災、避難所 |
| 9 | 6/14 | 19・20・21講、補講4:多様性配慮ボラ、防災士とは |
| 10 | 6/19(土)午前: | 近年の災害とその仕組み(講師:自衛官ほか) |
| 11 | 6/19(土)午後: | 避難所運営訓練 |
| 12 | 6/20(日)午前: | 地域防災(講師:四日市市危機管理室職員) |
| 13 | 6/20(日)午後: | 災害ボラセン運営(講師:四日市市社協職員) |
| 14 | 6/26(土)午前: | 自分たちで地域を守る(講師:消防団・自主防災組織など) |
| 15 | 6/26(土)午後: | 普通救命講習 |
- ★8月25日(日)午後:防災士試験を実施する。

テキスト・教材(参考文献含む)

『防災士教本』日本防災士機構
 テキスト代は、実費負担¥12,500に含まれる。

担当者から一言

講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。

地域連携特別講義 a	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
小林慶太郎		GEC1007		

授業のねらい
食と観光に関して、松阪市においてフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光地としての魅力発信や観光客向けのインフラ整備といった課題を理解するとともに、地域で培われてきた食文化をどのように継承し発展させていくのかの考え方を身につける。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、地域住民や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。

到達目標
地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
・グループワーク等への取組姿勢 60%
・成果発表レポート 40%
※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。
※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。

事前・事後学習
松阪市の観光業の現状・課題や、松阪市周辺の多様な食文化の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく(36時間)。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う(9時間)。

地域連携特別講義 b	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
小林慶太郎		GEC1008		

授業のねらい
この授業では、スポーツ基本法に定める重要行事の一つとして、都道府県対抗・各都道府県持ち回り方式で、日本スポーツ協会・文部科学省・開催地都道府県の三者共催で毎年開催されている国民体育大会(国体)について扱います。2021年には、三重県が開催県となって「三重とこわか国体」が開催されることから、国体について学ぶとともに、競技補助員をして実際の大会の運営にも貢献してもらいます。学生諸君が、スポーツと行政について、その実績に触れ、理解を深めてくれることを、ねらいとしています。

到達目標
この授業では、学生諸君が、競技補助員として国体の運営に関わることを通じて、スポーツと行政についての、自分なりの考え方を身につけることを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
実習を欠席したものは単位は与えません。成績は以下の配分により評価します。
・講義や実習への取組姿勢:50%
・事後課題(レポート):50%
なお、講義時などの質問に対しては、その場でフィードバックします。

事前・事後学習
日頃からオリンピック組織委員会やJOC、国体など、スポーツ行政に関するテレビや新聞などのニュースに目を通すこと(毎週3時間程度)。

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画
10月上旬 13:00-17:00 @三重大学
ガイダンス@三重大学
13:00-14:00 現状把握と課題解決の考え方(池山)
14:10-15:10 ご当地グルメを活用した町おこし(小林)
15:20-17:00 グループワーク
10月中旬 13:00-17:00 @MieMu
三重県の基礎情報を学ぶ
13:00-15:30 展示見学・講義(太田学芸員)
15:40-17:00 グループワーク
10月下旬 10:00-16:10 @松阪農業公園ベルファーム
10:00-12:00 施設見学・体験
12:00-13:00 昼食・移動
13:00-14:00 食を通じた観光開発(富本)
14:10-16:10 グループワーク
11月下旬 10:00-16:10 @松阪市内
10:00-12:00 フィールドワーク
12:00-13:00 昼食
13:00-16:10 フィールドワーク
12月上旬 13:00-17:00 @三重大学
13:00-17:00 グループワーク
12月中旬 13:00-17:00 @三重大学
13:00-16:00 成果発表会
16:00-17:00 講評・まとめ
※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や受け入れ先に都合などによっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。(必要に応じて資料等を配布する場合があります)

担当者から一言
県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずですので、他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。

地域連携特別講義 b	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
小林慶太郎		GEC1008		

授業の位置づけ
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

授業計画
講義(7~8月頃の週末もしくは夏休み中:日程未定)
そもそも国体とは何か
国体の歴史と課題・問題点
国体の準備と予算
競技補助員の担う役割
実習(9月中に計30時間程度)
三重とこわか国体の各競技会場(四日市市内)において競技補助員としての業務に従事
※ 四日市市役所国体競技課の職員の方にも講義いただく予定です。詳細は確定次第、提示等により告知します。また、5~6月頃に事前説明会を開催します。

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。(必要に応じて資料等を配布する場合があります)

担当者から一言
実習に参加できない学生には、単位は与えられません。履修者は必ず実習に参加するようにして下さい。なお、実習先までの交通費は、原則として個人負担となります。

経営学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	吉成 亮	GLAS1001	前学期 選 択

授業のねらい
本講義では、経営学の概要を学ぶために、毎回、時事的なテーマのもとに、われわれが身近に関わっている具体的な企業を取り上げ、「企業はいったい何をしているのか?」ということを授業の狙いとしています。

到達目標
本講義を終了した後は、受講者は、企業の具体的な活動に、積極的に興味・関心を抱くようになります。さらに、企業をはじめとする組織を経営する専門知識の基礎を備え、自分で起業するプランを考えることが出来るようになれば、本講義の内容を十分把握していると言えるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
各授業の小テスト90%、まとめテスト10%。以上の割合を基本にしながらか総合的に判断します。小テストは各授業で実施し、小テストの評価は次回の授業でフィードバックします。まとめテストとは授業前半のまとめと期末テストとします。

事前・事後学習
講義の前後に授業中で指示された単元の予習、復習(それぞれ1日30分程度)を行うことが望ましいです。また課題の提出を課すこともあります。

経済学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	鬼頭 浩文	GLAS1002	後学期 選 択

授業のねらい
企業や消費者の行動は、経済を理解する上で最も基本的なテーマになる。この講義では、企業や消費者がどのように行動し、それが経済に対してどのようなインパクトを持つのか考えていく。とくに「競争」については、日ごろ意識することが少ないため、ここで勉強することは社会に出てから大いに役立つと思う。理論的な考察も重要だが、ここでは参加・体験型のアクティブ・ラーニングを中心に展開し、直感的・感覚的に経済を学ぶ。
(受講生数が多い場合、オンデマンド型授業になることがある)

到達目標
経済学の基本的知識を参加型・双方向型講義を通して直感的に理解することが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
アクティブ・ラーニングにおけるパフォーマンス(20%)、テーマごとに実施する小テスト3回(30%)、学期末試験(50%)により、総合的に評価する。フィードバックは、テストの解説をして自己採点させ、要望のある学生には点数を伝える。

事前・事後学習
この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 企業の役割を考えよう
第3講 企業がイメージできる
第4講 行政、NPOとの関係をみる
第5講 企業を理解しよう
第6講 経営者の仕事を学ぶ
第7講 企業の仕組みを学ぶ
第8講 起業を学ぶ(1)
第9講 起業を学ぶ(2)
第10講 企業間関係を学ぶ
第11講 経営戦略を学ぶ(1)
第12講 経営戦略を学ぶ(2)
第13講 組織をどうつくるか
第14講 環境をどうとらえるか
第15講 経営資源を学ぶ
定期試験
本授業では、各回の授業においてディスカッション、ダイバート、グループワークを行います。

テキスト・教材(参考文献含む)
教科書は齊藤 毅憲(著、編集)『経営学を楽しく学ぶ Ver.4』、中央経済社、2,530円(税込)。

担当者から一言
国内だけでなく、海外に目を向けて幅広い視野でビジネスを考えることができるようになります。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
1 9/28 4/21放送「コロナショック 苦渋の解雇の裏で～密着・あるバス会社の3か月～」
2 10/5 4/16放送「新型コロナ フリーランスをどう守るのか」
3 10/12 4/22放送「イベント自粛」の波紋 文化を守るのか
4 10/19 消費者の行動①個別需要曲線の理論:スタート
5 10/26 消費者の行動②練習問題を解き、コラムを簡単に説明
6 11/2 消費者の行動③コラムの復習をして、最後の問題を解かせる
7 11/9 税を知る週刊(四日市市税務署)
8 11/16 6/29クロ現「あきらめない人々の物語」
9 11/30 9/10クロ現「逆境に挑むヒント」
10 12/7 市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給①
11 12/14 市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給②
12 12/21 市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給③
13 1/11 7/25BSスペ「コロナに揺れる多国籍タウン～東京新大久保～」
14 1/18 経済のいまを映像で知る⑦コロナ渦を振り返る
15 1/25 復習とレポート試験の説明

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。

担当者から一言
出席して、参加して、理解すること、これらの全てが重要である。小テストによって参加意欲と理解度を判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。

政治学	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	小林慶太郎 GLAS1003	前学期	選 択

授業のねらい
この授業では主に、政策の決定や政府の役割など、政治の仕組みについて、扱っていきます。
例えば選挙。いったいどのような仕組みで行われているのでしょうか。そして選挙というものは、本当に民主的な仕組みなのでしょうか。そもそも選挙はなぜ必要なのでしょうか。そして政府は、どのような役割を担っているのでしょうか。
できるだけ、その時々の政治ニュースの解説なども行っていくことで、学生諸君に、日本の政治や社会の仕組みに対する関心を高めてもらうことを、この講義のねらいとしています。

到達目標
この授業では、学生諸君が、日本の政治や社会に関する基本的な用語や知識を身につけ、テレビや新聞の政治ニュースをある程度理解できるようになることを、到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30%
・定期試験(自筆ノートのみ持込可):70%
なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

事前・事後学習
日頃からテレビや新聞の政治ニュースに目を通すこと(毎日20分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(40分)。

社会学	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	三田泰雅 GLAS1004	前学期	選 択

授業のねらい
この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。社会は人間が集まって作られますが、一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会をつくっているのか、そして、私たちはいかにして社会に縛られているのか。こうした疑問を考えてゆく授業です。

到達目標
社会学的なものの見方や考え方を身につける

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
<評価>小レポート30%, 中間試験15%, 期末試験55%
<課題>毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。
<フィードバック>小レポートは翌週の授業で適宜コメントします。

事前・事後学習
新聞やニュースに目を通す(毎日20分)

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス 政治と政治学
第2講 政治と政策
第3講 政策の決定と民主主義(グループワーク)
第4講 選挙とマニフェスト
第5講 压力団体と政治的景気循環
第6講 さまざまな選挙制度① 小選挙区制
第7講 さまざまな選挙制度② 大選挙区制
第8講 さまざまな選挙制度③ 比例代表制
第9講 選挙制度改革の動き
第10講 多数決と話し合い(ディベート)
第11講 もしも政府が無かったら(グループワーク)
第12講 市民革命と夜警国家
第13講 市場の失敗と福祉国家
第14講 政府の失敗と行政改革
第15講 政治的対立を超えて
定期試験
※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。(必要に応じてプリントを配布する場合があります)
【参考文献】
浅羽通明「新書で大学の教養科目をモノにする政治学」光文社新書(2011年)
北山俊哉、久米郁男、真淵勝「はじめて出会う政治学〔第3版〕」有斐閣アルマ(2009年)

担当者から一言
遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 規範と価値
第3講 私(わたし)とは何か
第4講 近代化とスポーツ
第5講 つながりとしての家族
第6講 社会の中のジェンダー
第7講 社会階層と格差
第8講 社会における学校と教育
第9講 国家とナショナリズム
第10講 都市の社会生活
第11講 村落の社会構造
第12講 少子高齢社会の背景
第13講 個人化のゆくえ
第14講 社会とリスク
第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
<参考文献>
倉沢進・秋元律郎・岩永雅也, 2001, 『新訂 社会学入門』放送大学出版協会。
石黒格編, 2018, 『変わりゆく日本人のネットワーク』勁草書房。

担当者から一言
学生諸君の積極的な参加を期待します。

ジェンダー論 高田晴美・三田泰雅	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1005	後学期	選 択

授業のねらい
ジェンダーの問題とは、性差別的な問題から、差別とまではいかなければいけません。理不尽に思う人が出てくるという問題まで、様々あります。それだけに、解決方法も、制度やルールを変えていけば解決するものから、意識変革をしていかないと無理なものまで様々。社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていることをまずは知り、意識してもらいたい。その上で、ではどうすればいいのかを考えていきましょう。授業は2名の教員(高田・三田)で実施します。

到達目標
①ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。
②社会の中にあるジェンダーに気づき、説明できる。
③現代社会でなぜ男女共同参画が重要なのか、説明することができる。
④性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の小レポート 50%
定期試験 50%
小レポートについては、次回の講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。

事前・事後学習
(授業前)日頃からニュースなどに目を通しておく。(毎日20分程度)
(授業後)学んだ内容を復習し、世の中の様々な場面、場所に授業で取り上げた問題にひっかかることがないか見つけ、考える。(40分)

メディアリテラシー 前川・関根・山本	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1006	前学期	選 択

授業のねらい
メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力です。この説明だけでは、諸君は理解出来ないかもしれません。何故ならメディアがあまりにも溢れすぎている環境で育ってきたからです。
そこで3名(関根、山本、前川)の教員で構成するこの授業では、まずは「メディアの楽しみ方」を伝授したいと思います。メディアに対する接し方をちょっと変えるだけで、新鮮な発見と感動を体験できるようになるでしょう。

到達目標
各自のメディア環境下で、無意識に当たり前と思っている事柄に対して、なんらかの観察意識や他のコンテンツやテーマと比較する意識を持てるようになってもらうことです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験を行いません。
講義時に何回か小レポートなどを教室で書いてもらいます。それらの評価の平均点で総合評価します。
小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

事前・事後学習
各自の1日の中で、スマホでネットを見たり新聞やテレビを視聴する時間がどれくらいあるかなど、メディアと接する行動を事前に把握しておいてください(90分)。毎回の講義の後での自分のメディア行動を振り返り、考えを深めてください(90分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、ジェンダーバイアス(高田)
第2講 ネーミング問題(高田)
第3講 〈女らしさ〉の罫一女はつらいよ(高田)
第4講 家制度(高田)
第5講 性別役割分業①-家庭編(高田)
第6講 不払い労働、見えない家事問題(高田)
第7講 性別役割分業②-社会編(高田)
第8講 メディアにおけるジェンダー表現①——フィクション編(高田)
第9講 メディアにおけるジェンダー表現③——CM・広告編(高田)
第10講 ワーク・ライフ・バランス(三田)
第11講 男性性とジェンダー-男もつらいよ(三田)
第12講 社会の中のジェンダー(三田)
第13講 恋愛にまつわる〈女性学〉〈男性学〉(高田)
第14講 身体にまつわる男女の非対称(高田)
第15講 まとめ(高田)
講義内容の順番が入れ替わる可能性があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。

担当者から一言
「女性学」「男性学」の視点を持った2人の教員が、それぞれの持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス/各講義内容の説明
第2講 メディアとは(前川)
第3講 デジタルネイティブ ~幼少時からバーチャル世界に慣れ親しむ世代~(前川)
第4講 メディアと音の関わり(関根)
第5講 日本における音楽メディアと音楽業界の変遷(関根)
第6講 ラジostarの悲劇 ~なぜラジオは衰退したのか~(山本)
第7講 ラジostarの歓び ~ラジオの魅力を考える~(山本)
第8講 特別講義(外部講師等)
第9講 メディアエコロジー ~情報環境が心身に及ぼす良い影響と悪い影響~(前川)
第10講 インターネットとマスメディア ~マスメディアの責務~(前川)
第11講 CDというメディアに潜んでいる常識と真実のギャップ(関根)
第12講 K-POPに見る韓国「人」と「文化」(関根)
第13講 ラジostarの憂い ~ラジオの現在~(山本)
第14講 ラジostarの未来 ~ラジオの未来はどうか?~(山本)
第15講 まとめ
(内容・順序を変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストはありません。
講義中に、適宜、各先生方が資料を配布するかもしれません。

担当者から一言
環境情報学部メディア情報分野を専攻する学生は、この科目を受講することが望ましい。

社会福祉概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	李 修二 GLAS1007	前学期	選 択

授業のねらい

社会福祉とは、現代社会を生きる人々にとって無くてはならない事柄の一つと言えます。そうした社会福祉の理念や考え方を学び、さらに社会福祉の歴史、対象、制度について基本的な理解を得ることをねらいとした授業となります。授業の後半では、より具体的に、社会福祉の主要な分野での現状と今後の課題についても掘り下げて学ぶことをねらいとします。

到達目標

社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉についての正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎授業ごとのミニッツペーパーで50%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で50%評価します。(ミニッツペーパー評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。)

事前・事後学習

毎回の授業後、ミニッツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。また、必ず前回の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。(復習・予習、計60分以上)
さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブなどでの社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。(30分以上)

日本国憲法	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	中西紀夫 GLAS1008	後学期	選 択

授業のねらい

憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC(国家安全保障会議)の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っています。

到達目標

大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。
受講態度 30%:授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。
定期試験 70%:試験は論述形式で、すべて持込可です。
なお、授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

事前・事後学習

毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

1. ガイダンス、社会福祉の理念
2. 社会福祉の歴史 イギリス(1)
3. 社会福祉の歴史 イギリス(2)
4. 社会福祉の歴史 イギリス(3)
5. 社会福祉の歴史 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本
6. 少子化・高齢化をめぐる日本と世界(1)
7. 少子化・高齢化をめぐる日本と世界(2)
8. 日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(1)
9. 日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(2)
10. 資本主義経済の歴史的变化と福祉国家
11. これからの社会保障(1)
12. これからの社会保障(2)
13. 医療への新たな視点(1)
14. 医療への新たな視点(2)
15. 持続可能な福祉社会に向けて

テキスト・教材(参考文献含む)

書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。

参考文献:
武川正吾『福祉社会(新版)』2011年、有斐閣
広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年、東洋経済

担当者から一言

社会福祉の考え方や知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。意味や意義を少しでも深く理解するように学んでください。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|-----------------|
| 第1講 | ガイダンス |
| 第2講 | 憲法の機能 |
| 第3講 | 天皇と国民の関係 |
| 第4講 | 国民の三大義務 |
| 第5講 | 基本的人権とその種類 |
| 第6講 | 環境権(判例的考察) |
| 第7講 | 憲法上の権利と義務 |
| 第8講 | 法の下での平等 |
| 第9講 | 絶対平和主義 |
| 第10講 | 国家機密と国民の知る権利 |
| 第11講 | 平等な投票にするための権利義務 |
| 第12講 | 行政救済 |
| 第13講 | 国際私法 |
| 第14講 | 憲法改正問題 |
| 第15講 | まとめ |
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

本年度は下記の著書を印刷して配布します。なお、修正や補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。
参考文献:中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年11月30日)

担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらにも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

法学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	中西紀夫 GLAS1009	前学期	選 択

授業のねらい
 法学の発達史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法(憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法)の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。

到達目標
 社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思っておりますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 成績は、次のような評点配分です。
 受講態度 30%:授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。
 定期試験 70%:試験は論述形式で、すべて持込可です。
 なお、授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

事前・事後学習
 毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくともよいでしょう。

民法入門	実務	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	小林聖仁	GLAS1010	前学期	選 択

授業のねらい
 法の分類には様々な分類方法があるが、民法とよばれる法分野に属する法は、その分量だけでも非常に多い。しかし、今後において他の法律を学んで行くにあたっては、契約・代理・不法行為・相続などの概念の理解が他の法分野の学習の理解に必須であるといえる。もっとも民法は昨年120年ぶりの大改正を迎えた。そこで、1年次に、民法の基礎をしっかりと学んでいただき、そこから法分野を学ぶ基礎とすることを目指したい。

到達目標
 民法条文の主要部分につき基本的な定義(用語の意味)を正確に理解するとともに、就職するのであれば上司に、経営を志すのであれば専門職に対して、法的問題点の状況を適切に報告できることを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 小テスト60%、定期試験40%
 講義の後には随時で小テストを予定している。解答及び解説は次の講義の冒頭にプリントで配布するので、誤答した問題についてはテキストの記述との関連を確認しておくこと。

事前・事後学習
 講義を受ける前に予定されているテーマにつき、テキストを読んでおくこと(60分)。

授業の位置づけ
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 第2講 六法の意味、社会規範
 第3講 実定法と自然法、法源
 第4講 制定法の体系、法の形式による分類
 第5講 法の種別(国内法)、国内法と国際法
 第6講 公法と私法、裁判による権利の実現
 第7講 法の適用、法解釈における問題点
 第8講 権利と義務、権利義務の主体と客体
 第9講 罪刑法定主義
 第10講 法と裁判(裁判の仕組み)
 第11講 民事裁判、刑事裁判、行政裁判
 第12講 司法権の独立と公開主義
 第13講 自由心証主義、今日までの裁判の課題
 第14講 裁判員制度とその課題
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 本年度は下記の著書を印刷して配布します。なお、修正や補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。
 参考文献:中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年11月30日)

担当者から一言
 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業の位置づけ
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス、講義の概要(はじめに)
 第2講 民法とは何か
 第3講 財産法の仕組み(物権と債権)①
 第4講 財産法の仕組み(物権と債権)②
 第5講 財産法の全体像、権利の主体、契約の成立要件
 第6講 契約の有効要件と代理総論
 第7講 無権代理と表見代理、契約の効力発生要件、物権総論①
 第8講 物権総論②
 第9講 用益物権と債権総論①
 第10講 債権総論②
 第11講 債権総論③
 第12講 債権の履行確保の手段①
 第13講 債権の履行確保の手段②
 第14講 家族法
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキスト 伊藤真「伊藤真の民法入門(第7版)」日本評論社(2020年)定価:1,870円(税込)
 教材 適宜プリントを配布する。

担当者から一言
 私語は厳禁。テキスト・教材・筆記具等を持参し、授業を受ける体制で参加すること。テレビ・新聞紙上で紹介される法的問題にも注意し、事前知識を得ておくともよい。

倫理学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	フェリペ・フェハーリ GLAH1001	後学期	選 択

授業のねらい

ギリシャ語では、「倫理学」は「エートスに関する諸々の事柄」という意味をもつが、「エートス」とは何であるのか。この語は「いつもの場所」、「慣れた行動の仕方」や「性格」などと様々な異なる意味も持っている。本講義の目的は、「エートス」とは何であるのかを考えながら、この言葉から派生した「倫理学(ethica)」の意味を探ることである。

到達目標

倫理学の立場から、現代社会の問題を議論すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度:30%
ミニレポート:20%
最終レポート:50%
学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで(毎週約60分)、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の12分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1講 ガイダンス・「倫理」とは何か
第2講 エートス
第3講 古代倫理
第4講 幸福論
第5講 中世倫理
第6講 近代倫理
第7講 現代倫理
第8講 「力」と「責任」
第9講 世界人権宣言
第10講 生命倫理
第11講 動物の権利
第12講 ジェンダー
第13講 マイノリティーの権利
第14講 人工知能とロボット工学三原則
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

毎回、教員が資料を配布する。

担当者から一言

真剣に倫理学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず倫理的に生活していると思いませんか？
善と悪、正と邪などは、時代、地域、宗教や文化などの要因によって変化しますが、「絶対的な倫理」と言うものはありますか？
上述のような問題を考えながら、一緒に「エートス」の意味、倫理学の意味を探しましょう。

哲学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	フェリペ・フェハーリ GLAH1002	前学期	選 択

授業のねらい

哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学(philosophia)の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。
また、本講義では哲学の立場から現代社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。

到達目標

現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度:30%
ミニレポート:20%
最終レポート:50%
学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。

事前・事後学習

毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで(毎週約60分)、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の13分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1講 ガイダンス・「哲学」とは何か
第2講 哲学の起源
第3講 哲学の三つの伝統
第4講 西洋と東洋
第5講 無知の知
第6講 洞窟の比喩
第7講 現実とは何か
第8講 ファルサファ
第9講 中世哲学
第10講 理性主義
第11講 近代哲学
第12講 超越とは何か
第13講 懐疑的解釈学
第14講 現代哲学
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

毎回、教員が資料を配布する。

担当者から一言

本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。

文学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	永井 博 GLAH1003	前学期	選 択

授業のねらい
この講義では、近代日本の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による集団的自衛権の行使容認についての閣議決定は2014年7月1日、そしていわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年9月19日のことであった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのである。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることは非常に大きな意義がある。

到達目標
近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想とともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習
普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。(90分)
また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテキストは、それぞれのテキストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。(90分)

文章表現論(留学生以外のクラス)

杉谷 克芳	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAH1004	前学期 後学期	選 択

授業のねらい
日本語の正しい文章表現力を身につけることは、大学生のみならず、社会人にとっても欠かすことのできない必須項目の一つです。そして、それは、自分自身の大きな財産になります。
日本語という言葉の特徴を客観的に捉え直し、日本語の文章表現力に更なる磨きをかけることを、この授業のねらいとします。
なお、この授業は留学生以外の者を対象とし、添削指導の都合上人数制限をすることがあります。

到達目標
この授業では、大学生に相応しいレベルで自分の考えを論理的に組み立て、それを正しく文章化することができるようになることを、到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
受講態度40%、提出物60%を目安に総合的に判断する(定期試験は行わない)。提出物は翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習
予習としてテキスト読み次回の学習内容を理解しておくこと(90分)。また、授業後には復習として学習した内容をしっかり確認しておくこと(90分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	日清戦争概説
第3回	与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」
第4回	日露戦争概説
第5回	陸羯南などの日露戦争主戦論
第6回	トルストイ「汝悔い改めよ」
第7回	幸徳秋水「戦争来」
第8回	内村鑑三の日露戦争非戦論
第9回	前半のまとめと復習(グループワーク)
第10回	ヴェトナム戦争概説
第11回	ボブ・ディラン「風に吹かれて」
第12回	武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」
第13回	日本国憲法第9条概説
第14回	加藤周一他「9条の会」
第15回	全体のまとめと復習(グループワーク)

定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言
この講義のテーマは反戦文学・反戦思想なので、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわるつもりはない。「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

第1講	ガイダンス
第2講	言葉と表現を知ろう、その1(同音異義語、同訓異義語)
第3講	〃 その2(同音異義語、同訓異義語)
第4講	〃 その3(四字熟語)
第5講	〃 その4(慣用表現、ことわざ、故事成語)
第6講	〃 その5(慣用表現、ことわざ、故事成語)
第7講	日本語の作文技術 その1
第8講	〃 その2
第9講	〃 その3
第10講	書いてみよう、その1
第11講	〃 その2
第12講	〃 その3
第13講	〃 その4
第14講	〃 その5
第15講	まとめ

*授業内容と進度は、場合によって変更することがあります。

テキスト・教材(参考文献含む)

- ①米田明美ほか『大学生のための日本語表現実践ノート(改訂版)』(風間書房、1,000円+税)
- ②本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)660円
そのほか適宜プリント教材も配付します。

担当者から一言
日本語の表現能力を向上させるための授業です。日本語の表現力を向上させるためには、普段から日本語文を読むこと、考えを文章化すること、さらに、様々な分野の語彙と多様な表現を増やす努力が不可欠です。私語、中座、携帯の使用は原則禁止とします。授業内での意欲的な取り組みを期待しています。

文章表現論(留学生クラス) 永井 博	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAH1004	前学期 後学期	選 択

授業のねらい
日本語に限らず、ことばについて学ぶということは、それによって生きる人間についての理解を深めるということである。それは単に文法や単語を覚えたりするだけのものではなく、ことばで生きている人間のものの考え方や感じ方を学ぶことである。私たちが日本語を学ぶ時も、日本語で考え、感じ、生きている人たちのものの考え方や感じ方を学ぶのである。このような理解に立って受講者全員で「文章」による「表現」の技術を磨きたい。なお、この永井のクラスは留学生を対象とし、添削指導の都合上、人数制限をすることがある。

到達目標
ことばについてさまざまな視点から理解を深めつつ、文章を書くことで自分の考えや感じ方をいかに人に伝えるか、そのトレーニングをし、文章を書く力をつけることを目標にしたい。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
漢字小テスト30%、定期試験50%、提出物20%を目安に総合的に判断する。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習
予習としては、漢字の小テストに備えてテスト範囲の漢字を練習しておくこと。(90分)
復習としては、教員の添削を経て返却された作文の課題について、訂正された箇所正しい書き方を自分で振り返っておくこと。(90分)
また、文章の書き方についての本はたくさん市販されているので、自分でいくつか読んでみる。

文化論 前川 督雄	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAH1005	後学期	選 択

授業のねらい
この講義の主題は、人間と文化です。
文化をもち言語を使う動物はたくさんいます。しかし、祝祭や葬礼を行う生き物は人類だけです。音楽は祝祭と密接に結びつき、古来、祝祭のなかで大切な役割を果たしてきました。世界各地の音楽には、民族の太古からの智慧がつまっています。また音楽は娯楽やコミュニケーションの重要な鍵となります。
「文化論(文化論b)」では、音楽と祭りを主な切り口にして文化人類学・民族芸術学の基礎を学びます。

到達目標
人類史の中で自分の立つ位置、現代の世界の中で自分の立つ位置について考えを深める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
次の配分で総合評価します。
受講態度、学習意欲、小レポート等(40%)
定期試験(60%)
小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

事前・事後学習
毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り(90分)、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい(90分)。
環境情報学部学生は、前後して「生命-情報-環境」(2年次前期開講)とあわせて履修することで、より重層的な理解が得られるでしょう。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1回 ガイダンス
第2回 原稿用紙の使い方①
第3回 原稿用紙の使い方②(実習)
第4回 推敲のしかた①
第5回 推敲のしかた②(実習)
第6回 テーマの決め方
第7回 資料の探し方①
第8回 資料の探し方②(実習)
第9回 論理的文章の書き方①
第10回 論理的文章の書き方②(実習)
第11回 文章作成の実際①(実習)
第12回 文章作成の実際②(実習)
第13回 文章作成の実際③(実習)
第14回 文章作成の実際④(実習)
第15回 文章作成の実際⑤(実習)

テキスト・教材(参考文献含む)
プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言
ドリルや小テスト、説明文の書き方を練習したものなど、ほぼ毎回提出物を出してもらうので、積極的に出席すること。教室に来て、自分なりに考え、文章を書く練習をすれば得るものはきっとある。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス/人間と動物の違い
第2講 人類はいつどこで生まれたのか
第3講 人類はどのように世界にひろがったのか
第4講 文化をつくる脳の働き
第5講 民族と文化(1) アフリカ
第6講 文化の発展・伝播
第7講 民族と文化(2) ペルシャ
第8講 民族と文化(3) シルクロード
第9講 民族と文化(4) 日本
第10講 文明の生態史観
第11講 文化の衝突
第12講 文化相対主義
第13講 多文化共生と世界遺産
第14講 神と祭り 宗教と音楽
第15講 まとめ
定期試験
(内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストはありません。
必要に応じて資料を配付します。また、講義中に参考とする音楽・映像の視聴を行います。

担当者から一言
人文系列の枠組みを超えた学際的・総合的な講義内容になります。
この講義では知識の獲得よりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。

日本史概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	岡 佑哉	GLAH1007	前学期 選 択

授業のねらい
現代の国際秩序・国家体制・社会状況・価値観などは、すべて歴史的な背景のもとに形成されているが、歴史という単なる「暗記科目」という印象を持つ人も多いと思われる。しかし、歴史学という学問は、常識にとらわれず通説を疑い、史料という根拠に基づき歴史上の人物・出来事・時代の捉え方を考察するものである。本講義は、日本史(特に近現代史)を中心に教養としての知識のみならず、歴史学という学問の意義を学習する。その際、教科書的な通説とあわせ近年の研究を紹介し、歴史には多様な捉え方が存在することを学ぶ。

到達目標
①教養としての歴史(本講義は日本史中心)の知識を身につける。②知識を活用し文章で説明する力を身につける。③物事を複眼的・客観的に捉える力を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
①筆記試験(70%)、②平常点(30%)。出席が前提で、毎回講義の終わりに内容についての感想・質問を書いたペーパーを提出。その取り組みを評価する。コメントペーパーは次の回の講義で、質問への回答や事実関係の確認を行うことで、学生の理解の向上につなげる。

事前・事後学習
①本講義は特に復習に力を入れてほしい。講義のプリントを熟読しつつ、板書内容を整理し次回の講義に備える。②歴史は現代の世界・日本の出来事と繋がっている。大学生として新聞・ニュースを読むこと。(90分)

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

世界史概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	李 修二	GLAH1008	後学期 選 択

授業のねらい
近代19世紀以降の世界史は、私たちの現代社会に直接連なる歴史です。今日の政治制度、社会制度、経済体制などの重要で基本的な物事は、ほとんどこの19世紀以降の歴史の中で形成されてきました。そこで、この講義のねらいは、19世紀における主要な幾つかの国々の歴史を、主として経済の動きを中心に比較検討しながら順次学んでいくことです。さらに20世紀に入って、第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる時期における世界史の動向を概観し、20世紀前半の世界史と世界経済の流れを大づかみに理解することです。

到達目標
講義での到達目標は、①欧米を中心とした世界の主要な国々の歴史を経済の動きを中心に比較しながら学ぶことによって、それらの国々の今日の社会・経済的な特質の歴史的由来を理解すること、②20世紀以降、ますます緊密に相互関連してきた世界各国の歴史の流れを十分に理解すること、以上の2つです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎授業ごとのミニッツペーパーで50%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で50%評価します。(ミニッツペーパー評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。)なお、筆記試験時の持ち込みは不可。試験終了後、希望者には解答を公表します。

事前・事後学習
毎回の授業の後、ミニッツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。また、必ず前回分の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。(復習・予習、計60分以上)さらに、参考文献など授業内容に関連した歴史書を図書館などで毎週読書するようにしてください。(30分以上)

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1回 ガイダンス
第2回 日本文化のはじまりー縄文・弥生・古墳時代ー
第3回 律令国家から王朝国家へー飛鳥・奈良・平安時代ー
第4回 武家政権の成立と展開ー鎌倉・室町・戦国時代ー
第5回 江戸幕府の支配体制ー江戸時代ー
第6回 討幕運動と明治新政府の成立ー幕末・維新期ー
第7回 国会開設運動と憲法制定ー明治時代中期ー
第8回 日清戦争と日露戦争ー明治時代後期ー
第9回 大正デモクラシーー大正時代ー
第10回 満洲事変と「国家改造」運動ー昭和戦前期ー
第11回 日中戦争から日米開戦へー昭和戦時期(1)ー
第12回 アジア・太平洋戦争ー昭和戦時期(2)ー
第13回 戦後日本と象徴天皇制ー昭和戦後期ー
第14回 平成日本の政治と社会ー現代ー
第15回 講義の総括
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。毎回プリントを配布する。

担当者から一言
・遅刻・私語・他ごと厳禁。遅刻者にプリント・出席カードは配布しない。
・バイトなどと称した無断早退、無断退出厳禁。
・コメントペーパー代筆厳禁。
・コロナ感染状況の悪化の場合オンデマンド型に変更。講義内容を文章化した資料を配布する。試験はレポートに(剽窃=他人の文章を盗むこと、は失格)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

世界史概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	李 修二	GLAH1008	後学期 選 択

授業計画
第1講 ガイダンス、世界史概論の視角と課題
第2講 19世紀の世界の中心 ～イギリス(その1)
第3講 19世紀の世界の中心 ～イギリス(その2)
第4講 19世紀ヨーロッパの主要国1 ～フランス
第5講 19世紀ヨーロッパの主要国2 ～ドイツ
第6講 19世紀北アメリカの主要国 ～アメリカ
第7講 19世紀ユーラシアの主要国 ～ロシア
第8講 19世紀東アジアの新興国 ～日本
第9講 19世紀東アジアの王朝 ～中国
第10講 19世紀世界の典型的な従属地域 ～アイルランドとインド
第11講 19世紀から20世紀にかけてのイギリスにおける社会福祉の発達
第12講 第一次世界大戦後1920年代の国際関係
第13講 1929年世界大恐慌
第14講 両大戦間期1930年代の混迷
第15講 第二次世界大戦期の戦後世界秩序の再建構想
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。

担当者から一言
暗記に偏りがちな高校までの歴史学習とは違い、歴史の因果関係を理解することに歴史を学ぶ醍醐味があります。理解すること、意味を探ることの面白さを味わってください。それと共に、身に付いた世界史の教養そのものが、ちょっとした、人生の自信にもなるはずです。

地理学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	磯野 巧 GLAH1009	後学期	選 択

授業のねらい
 地理学的な視点から、地球環境と人間活動との相互関係について解説する。その中で、地域を分析する方法(地図の読み方、図・表・写真の解釈など)を習得し、地域という観点から人間をとりまく多様な「環境」について考えることができるようになる。

到達目標
 地理学に関する基礎知識およびその運用能力を身につけ、地球環境と人間活動の相互関係を説明できる「地理学的なモノの見方」を習得すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 試験100% (論述形式)
 授業内容などで質問がありましたら、講義終了後にメールにてお知らせください。返信にてお答えいたします。
 (質問の際、学籍番号と氏名を記載してください)

事前・事後学習
 予習の必要はありません。授業内容の復習を重視して下さい(必要に応じて、毎授業の最後に発展的な学習に必要な参考文献やURLを提示します)

地誌	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	磯野 巧 GLAH1010	後学期	選 択

授業のねらい
 多様な地域の関係性や空間的スケールに着目しつつ、日本および世界の地域的特性および地域構造について説明する。その中で、地域概念について理解し、空間的スケールの相違に着目しながら日本および世界の地域的多様性とその諸相に関する知見を深めていく。

到達目標
 ある特定の地域の特性や構造を、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 試験100% (論述形式)
 授業内容などで質問がありましたら、講義終了後にメールにてお知らせください。返信にてお答えいたします。
 (質問の際、学籍番号と氏名を記載してください)

事前・事後学習
 予習の必要はありません。授業内容の復習を重視して下さい(必要に応じて、毎授業の最後に発展的な学習に必要な参考文献やURLを提示します)

授業の位置づけ
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

1. ガイダンス ー地理学とはー
2. 日本の国土・自然・生活①
3. 日本の国土・自然・生活②
4. 人口移動①(少子高齢化問題など)
5. 人口移動②(在留外国人, 移民問題など)
6. 産業と地域①
7. 産業と地域②
8. 農村地域の動態①(ツーリズム)
9. 農村地域の動態②(地域創生など)
10. 都市地域の動態①(都市とは/歴史的町並み)
11. 都市地域の動態②(コンテンツ, 聖地巡礼, 都市とツーリズム)
12. 観光地域の動態①(ツーリズムの基礎)
13. 観光地域の動態②(インバウンド, ナイトタイムエコノミー, 夜のツーリズム)
14. 観光地域の動態③(スポーツ・ツーリズム1)
15. 観光地域の動態④(スポーツ・ツーリズム2)

定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
 特になし。毎回プリント教材を配布します。地図帳を毎時持参して下さい。

担当者から一言
 地理学は我々の日常生活と密接にかかわり合う学問です。地理学の基礎を学び、身近な地域の性格や課題について考えてみましょう。

授業の位置づけ
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

1. ガイダンス ー地誌学とはー
2. 関東地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 郊外化など)
3. 関東地方の地誌②(観光, 開発, 在留外国人, 人口動態など)
4. 近畿地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 郊外化など)
5. 近畿地方の地誌②(伝統文化, 観光, 人口動態, 都市圏など)
6. 中部地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 歴史, 郊外化など)
7. 中部地方の地誌②(観光, 交通, スポーツ, 山村集落など)
8. 三重県の地誌①(地域区分, 人口動態, 歴史, 工業, 環境など)
9. 三重県の地誌②(観光, 都市圏, 5地域の性格など)
10. 徳島県の地誌①(四国の概観, 人口問題, 交通など)
11. 徳島県の地誌②(徳島県の構造, 観光, 地域創生, ICTなど)
12. オーストラリア地誌①(自然環境, 歴史, 都市構造, 歴史, 移民など)
13. オーストラリア地誌②(ウルル・カタジュタ国立公園の観光と文化)
14. オーストラリア地誌③(地方都市, 貿易, 資源開発など)
15. オーストラリア地誌④(マイノリティ, インナーシティ問題, 多文化共生など)

定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
 特になし。毎回プリント教材を配布します。地図帳を毎時持参して下さい。

担当者から一言
 地誌学は地域の性格を相対的に理解するおらかな学問です。日本だけでなく世界各地の性格や構造、そして地域間の関係性を解明し、世界観を広げていきましょう。

科学的思考論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	吉山青翔 GLAN1001	後学期	選 択

授業のねらい

今日、国際社会で、日本が果たす役割が大きくなりつつあり、そして、近年、数多くの日本人科学者がノーベル賞を受賞しているに伴い、日本の科学、技術、さらに日本人の科学的な独創力と科学的思考方式はますます注目されています。

本講義は、江戸時代における日本人の数学の思考様式と特徴、その形成と社会的創造風土の関係、さらに近代日本社会とのつながりを中心として日本人の科学的思考様式をさぐります。

到達目標

日本人の科学的思考様式および科学上の発見と発明の特徴を歴史的に把握し、日本の科学技術に関する諸社会的問題に関する理解に思想的な基礎を据えることができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

中間テスト(30点)と定期試験(70点)により総合評価。

事前・事後学習

授業前に90分ほどをかけて指定された資料とテキストを予習しておく、授業後にも90分ほどをかけて、配布された資料、自分が取ったノート、テキストを使って復習してください。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1講 | ガイダンス |
| 第2講 | 科学、技術、そして社会との基本的な関係 |
| 第3講 | 日本における伝統科学と近代科学の構図 |
| 第4講 | 日本の伝統天文学と医学、及びその基礎～中国の伝統天文学と医学 |
| 第5講 | 日本の伝統科学と朝鮮の伝統科学との関連性 |
| 第6講 | 日本数学の基礎1:中国の数学記号体系 |
| 第7講 | 日本数学の基礎2:中国の代数学思想 |
| 第8講 | 日本数学の基礎3:中国の方程式思想 |
| 第9講 | 日本数学の伝統:遺題継承と算額奉掲 |
| 第10講 | 日本の伝統的な数学記号体系:傍書法 |
| 第11講 | 日本の伝統的な導関数:窮商 |
| 第12講 | 日本の伝統的な極限法:増約術 |
| 第13講 | 日本の伝統的な積分法:円理 |
| 第14講 | 日本伝統科学の衰退と近代西洋科学の受容 |
| 第15講 | 総括 |
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

テキスト
王青翔(=吉山青翔)著『算木を超えた男～もう一つの近代数学と関孝和』(東洋書店、2004年第2刷発行)

参考文献
数内 清著『中国の数学』(岩波文庫)
小倉金之助著『日本の数学』(岩波文庫)

担当者から一言

- 1) 本講義は一般教養科目ですので、公務員試験など資格試験には直接役に立ちません。
- 2) 授業中、パワーポイントなど電子機器を使わず、板書がやや多いので、ノートを取らない者は本講義には不向きです。

科学思想史	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	吉山青翔 GLAN1002	前学期	選 択

授業のねらい

本講義は、近代西欧科学思想史を中心として、古代から近代までの科学史の通史の探求を通じて、自然科学の誕生過程と発展の特徴、科学的な宇宙観、および社会や宗教等との関係を探り、科学の本当の姿に迫ります。

到達目標

自然科学の全体的な姿を歴史的に把握すること、また、科学技術と人間社会との関係や、近代社会にもたらす諸問題に関する思考、解決に導くための思想的な理論基礎を築くことができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

中間テスト(30点)・定期試験(70点)により総合評価。

事前・事後学習

授業前に1時間半ほどをかけて指定された資料を読み、予習しておく、授業後にも1時間半ほどをかけて配布された資料と自分のとったノートを使って、授業の内容を復習してください。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1講 | ガイダンス |
| 第2講 | 古代オリエント科学の概観 |
| 第3講 | 古代ギリシア科学の概観 |
| 第4講 | アリストテレスの自然学 |
| 第5講 | 中世の科学と近代大学の誕生 |
| 第6講 | 近代科学の開始:コペルニクスの地動説の成立 |
| 第7講 | 地動説をめぐる科学と宗教の闘争:ガリレオ裁判 |
| 第8講 | 万有引力法則の発見と近代力学の成立 |
| 第9講 | 理髪師から近代解剖学へ |
| 第10講 | 血液循環説の確立と近代医学の成立 |
| 第11講 | 酸素の発見と近代化学の成立 |
| 第12講 | 進化論の確立と近代生物学の成立 |
| 第13講 | 蒸気エネルギーの発見と産業革命、そして、近代環境問題の発生 |
| 第14講 | 女性の自然科学領域への進出と環境科学の誕生 |
| 第15講 | 総括 |
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

テキスト とくになし。授業の内容に合わせて参考資料を指定・配布します。

担当者から一言

- 1) 本講義は一般教養科目ですので、公務員試験などの資格試験には直接役に立ちません。
- 2) 授業中、必要時に資料を配布しますが、パワーポイントなど電子機器を基本的に使わず、板書の量が多くて、ノートを取らない者は本講義に不向きであります。

自然科学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	田中伊知郎 GLAN1003	後学期	選 択

授業のねらい
個人を扱うのが文学で、ムラの人々のような集団を議論するのが社会学や文化人類学ですが、さらに大きな集会的な見方をするのが自然科学です。それは人間だけでなく、物質やその関係などの自然現象全体に広がります。そして、経済活動でも同じ動きが見られます。それらはどのように変化するかを説明します。

到達目標
文学のように個人を扱うだけでなく、集団としての見方を獲得します。さらに、たし算や掛け算などと違う自然の変化の仕方を見通す能力を身につけます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義内各回の終わりに練習問題(実習：実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題60% 定期試験 40%

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

数学概論	実務	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	吉見勝冶	GLAN1004	前学期	選 択

授業のねらい
金融、マーケット調査、遺伝学、薬学、人口統計、政治学など幅広い分野で確率論、特にマルコフ連鎖という考え方が応用されています。本講義では確率論とマルコフ連鎖の基本的な考え方を理解し、演習問題を解けるようにすることを目標とします。

到達目標
(1)確率が使われる場面を知ること
(2)行列の簡単な演算ができるようになること
(3)マルコフ連鎖について理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
出席率と積極性(40%)、定期試験の結果(60%)を元に評価します。都度宿題を出した場合にはその内容についても加味します。提出された宿題は、以降の講義で返却します。

事前・事後学習
講義内容について配布資料とノートを見直し、復習するようして下さい(60分)。インターネットや新聞で統計データや予測データを見かけた時に、その根拠と推計方法について考えるよう意識して下さい(60分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス:自然観察の有益性
第2講 自然現象と人間の思いの違い
第3講 事実
第4講 仲間(人間社会)から自然へ
第5講 個別でなく集団で考える:集合(分類からの実習)
第6講 自然数から連続量へ
第7講 指数の導入:細菌の増殖
第8講 桁数と指数(計算実習)
第9講 日常の指数:複利と物価(計算実習)
第10講 借金と情報の非対称性(ローン計算実習)
第11講 客観的な関係である関数:一次関数と予測可能性の実習
第12講 指数関数:立ち上がりの早さ(グラフ作成実習)
第13講 ゆらぎ
第14講 統計的比較と有意確率)
第15講 まとめ:自然科学の客観性
定期試験 持ち込み不可

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。

担当者から一言
できるだけ日常的な言葉で説明します。実践課題の結果、理解の浅いところは、講義を修正して再度行い、より深い理解に努力します。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス -世の中は確率に溢れている-
第2講 論理
第3講 集合
第4講 数え上げの原理
第5講 順列と組合せ
第6講 標本空間、事象、確率
第7講 和事象、共通事象、余事象
第8講 条件付き確率
第9講 ベイズの公式
第10講 確率変数、確率分布、期待値
第11講 マルコフ連鎖の性質
第12講 正則マルコフ連鎖
第13講 吸収マルコフ連鎖
第14講 演習
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
テキスト:配布資料、プレゼン資料
参考資料:R.A.Barnett他著、柳沼壽訳「初歩からの数学Ⅲ」丸善出版(2015年)

担当者から一言
世の中、様々な未来の「推計値」が出されています。単純に信用していませんか?本講義を通じて、確率やマルコフ連鎖の考え方を理解し、推計値がどのような計算で出されているか意識できるようにしてもらいたいと思います。

化学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	牧田直子	GLAN1005	前学期 選 択

授業のねらい

化学は物質を扱う学問であり、「化学の目=物質を見る目」を養うことがこの講義のねらいである。自然界は様々な物質によって成り立っており、それらの正体は何なのか、その物質に関する自然の法則を探求していくのが化学である。物質を作る原子や変化のしくみを学び、様々な角度から物質を眺めることによって、物質の本質に迫る手段を増やすことができる。これらは電子の配置や挙動を追うことで説明できるので、電子については詳しく解説する。

関連科目は「環境化学」、「環境化学実験」など。

到達目標

「元素の周期表からの確かな情報を引き出す」

物質の構成要素がわかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。周期表を使いこなせるようになろう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

宿題プリント(13回分):25%、定期試験:75%

宿題は翌週の講義開始10分以内に提出。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。宿題の評価は正解率ではなく、解答率(問題数に対する解答数)に準ずる。

宿題プリントと授業内に行った演習プリントは、採点して返却する。

事前・事後学習

- (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する(90分)。
- (2) 教科書を読む(60分)。各回の講義に該当する教科書のページ数を明記した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。
- (3) ノートの見直し、まとめ(30分)。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|--------------|
| 第1講 | ガイダンス、化学の学び方 |
| 第2講 | 物質とは何か |
| 第3講 | 身の回りの物質 |
| 第4講 | 物質の性質 |
| 第5講 | 物質の状態 |
| 第6講 | 原子と電子軌道 |
| 第7講 | 電子配置と周期表 |
| 第8講 | 化学結合1 |
| 第9講 | 化学結合2、物質量 |
| 第10講 | 気体と溶液の性質 |
| 第11講 | 化学反応 |
| 第12講 | 酸と塩基 |
| 第13講 | 酸化と還元 |
| 第14講 | 光 |
| 第15講 | まとめ
定期試験 |

テキスト・教材(参考文献含む)

教科書:

日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編『「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ』化学同人(2007)、2,160円(税込)

担当者から一言

ノートを用意して下さい(ルーズリーフは不可)。試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。

講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。

地学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	森 康 則	GLAN1006	前学期 選 択

授業のねらい

環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害など実際の地学的事象を通じて学びます。

到達目標

地球の成り立ちやその構造を理解するとともに、それらを構成する岩石の特徴や、地震や火山などの活動に伴う地層の成り立ちなど、あらゆる地学的自然現象を網羅的に理解します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

- (1) 各回の講義時に小テストを提出する
5点×15回=75点
遅刻・早退等は減点対象とする
- (2) 大レポート 25点
計 100点

事前・事後学習

講義は板書とスライドにより進めていきます。各講義の小テストや大レポートの内容は、板書内容あるいはそれに関連する内容から出題します。講義毎に出される次回講義内容に関連した課題に取り組む(90分)。講義内容を基に講義ノートとして整理する(90分)。

授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画

- | | |
|------|------------|
| 第1講 | ガイダンス・地学とは |
| 第2講 | 地球の構造と形状 |
| 第3講 | 岩石と鉱物1 |
| 第4講 | 岩石と鉱物2 |
| 第5講 | 堆積作用 |
| 第6講 | 化石と地質年代1 |
| 第7講 | 化石と地質年代2 |
| 第8講 | プレートテクトニクス |
| 第9講 | 火山 |
| 第10講 | 地震 |
| 第11講 | 自然災害 |
| 第12講 | 地下水 |
| 第13講 | 大気と海洋 |
| 第14講 | 宇宙と地球 |
| 第15講 | まとめ |

テキスト・教材(参考文献含む)

特になし。

担当者から一言

高等学校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、それを想定の上で講義を進めます。

生物学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	田中伊知郎 GLAN1007	前学期	選 択

授業のねらい
自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。

到達目標
人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養うこと、人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。実践課題60% 定期試験 40%

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

生物と進化	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	田中伊知郎 GLAN1008	後学期	選 択

授業のねらい
自然科学のうち生物学が扱う分野の視点をはっきりさせて行きます。まず、生物が、お互いに地球上でどのようなかわり合いを持って生きているのか明らかにしていきます(生態系)。次に、百万年単位の長い時間で見ると、生き物の生き方(姿かたちや行動パターン)は変わっていきます(進化)。特に、人類がどのように変化してきたのか明らかにしていきます。

到達目標
環境問題を考える上で、土台となる知識(生物のエネルギー生産・生態系)を養うこと、人間の生物としての特徴を進化の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題60% 定期試験 40%

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点や化石や遺跡などの画像を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク)
第2講 生物のエネルギー：代謝
第3講 光合成：エネルギーの生産
第4講 呼吸：エネルギーの活用
第5講 生体物質：反応できる窒素
第6講 タンパク質：安定した生体物質
第7講 RNA：即時処理のための核酸(形を理解する実習)
第8講 遺伝的情報：安定した核酸であるDNA
第9講 遺伝子：DNA内の情報システム
第10講 遺伝子発現の情報処理
第11講 生物の環境応答：刺激の受容
第12講 生理的情報：刺激伝達と神経システム
第13講 生理的情報の統合：興奮と抑制
第14講 環境への反応：効果器の代表としての筋肉
第15講 行動：統合された反応
定期試験 持ち込み不可

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。

担当者から一言
生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われているが誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス・自然環境と人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク)
第2講 生態系：動物と植物の関係
第3講 生態系：草食動物と肉食動物
第4講 生態系：肉食動物と食物連鎖(海中)
第5講 生態系：疎水性物質の生物濃縮
第6講 生態系：環境との相互作用・日本の植生の特徴
第7講 生態系：採集狩猟社会と環境変化
第8講 生態系：農業の特徴
第9講 進化の定義
第10講 進化：分岐年代
第11講 進化：化石から見た人類進化・骨の意味するもの(人類の特徴の作図実習)
第12講 進化：化石から見た人類進化・祖先の運動パターン(腕渡りの作図実習)
第13講 進化：直立二足歩行の起源(腕渡りとの関係の作図実習)
第14講 進化：人類進化のまとめ
第15講 進化：ダイナミックな進化の示唆
定期試験 持ち込み不可

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。

担当者から一言
生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われているが誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。

環境論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	吉山 青翔	後学期	選 択

授業のねらい
この講義では、環境に関する基本的な概念と含意を明らかにしたうえで、環境問題史・環境運動史・環境思想史の探求を通して、受講者に環境問題の全体像を把握させ、環境問題の解決に対する基本的な思想的基礎を据えさせることを目指します。

到達目標
環境問題の全体像を把握し、自分の環境観の形成を期待することができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
中間テスト(30点)・定期試験(70点)により総合評価。毎回授業が終わる前に、授業の内容と質問に関するミニレポートを提出してもらい、次回授業でそれに基づいて再確認とコメントする。

事前・事後学習
授業前に次回の授業内容を確認し、それに関する指定、あるいは配布された資料を使って1時間半ほどをかけて予習しておき、授業後に自分の取ったノートと配布された資料を使って1時間半ほどをかけて復習してください。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス：環境論の仕組み及び課題
第2講 「自然」の定義と仕組み
第3講 「環境」の定義と仕組み
第4講 「文化」の定義と仕組み
第5講 「人間」の定義及び「自然」「環境」「文化」との関連性
第6講 環境に関する人類の認識1：ヒボクラテスによる医学上の見解
第7講 環境に関する人類の認識2：C. ダーウィンによる生物学上の見解
第8講 中間テスト
第9講 環境に関する人類の認識3：C. ベルナルによる生理学上の見解
第10講 環境に関する人類の認識4：C. ラツェルによる地理学上の見解
第11講 科学と技術の結合、及び蒸気エネルギーの発見
第12講 蒸気エネルギーの実用化と産業革命、及び近代環境問題の発生
第13講 環境に関してレイチェル・カーソンと「ローマ・クラブ」の警告
第14講 国連「人間環境宣言」と環境保護運動のグローバル化
第15講 総括：環境問題の解決に対する思想的基礎：環境倫理学
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
参考資料
王青翔(吉山青翔)著「算木」を超えた男～もう一つの近代数学の誕生と関孝和(東洋書店、1999年)
小川 東『和算 江戸の数学文化』(中央公論新社、2021年)
他、随時に授業内容に関する予習などの資料を指定、配布します。

担当者から一言
この講義は板書がやや多いので、ノートを取るものが苦手な者には不向きです。

心理学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	田中 伊知郎	後学期	選 択

授業のねらい
情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえらる情報伝達(教えること)」とはどういうものかを明らかにすることを講義のねらいとします。

到達目標
生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは、ほとんどありません。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義中の実践課題40% レポート 40% 定期試験 20%
講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

授業計画
第1講 ガイダンス・視覚情報：色彩 色の対処理
第2講 視覚情報・色彩 赤と青を同時に使わない(実習)
第3講 視覚情報・色彩 表現(映像・絵画)における補色の利用
第4講 資格情報・色彩 色鉛筆で絵を描きます(実習)
第5講 視覚情報・形 両眼視
第6講 視覚情報・形 アフォーダンス
第7講 視覚情報・アフォーダンス 実習1 ポケの効果
第8講 視覚情報・アフォーダンス 実習2 空気遠近を用いた作画(実習)
第9講 実験心理学からみた学習
第10講 個体学習と社会学習の違い
第11講 社会学習における課題
第12講 人類における「教えること」の成立(レポート課題の配布)
第13講 理解できるコミュニケーションの基礎となる同情と共感
第14講 実験心理学の技法・統計・因子分析を例にして
第15講 レポート返却(コメント付き)・講評
定期試験 各自のコメントに関連した問題

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。

担当者から一言
教育は一方の情報発信でなく、双方向の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。

キャリア基礎Ⅰ	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	必修
岡・永井・本部・李・関根・田中伊・牧田・吉山		GECC1001		

授業のねらい

この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅰ」では、とりわけ就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方・経営者の考え方・労働者の権利・大学生の雇用・求人・情勢・キャリアサポートセンターなどを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

到達目標

以下の3つが目標です。

- ① 働く意義について考える。
- ② 就業環境について理解する。
- ③ 採用試験の基礎知識を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画

第1講	ガイダンス／キャリアをどう考えるか	9/27
第2講	課題と実習(社会人基礎力①)	10/4
第3講	課題と実習(社会人基礎力②)	10/11
第4講	知っておきたい採用試験の基礎①	10/18
第5講	知っておきたい採用試験の基礎②	10/25
第6講	働き方はどうなっているか	11/1
第7講	経営者によるキャリア講演会	11/8
第8講	課題と実習	11/15
第9講	知っておきたい採用試験の基礎③	11/22
第10講	働く者の権利	11/29
第11講	知っておきたい採用試験の基礎④	12/6
第12講	知っておきたい採用試験の基礎⑤	12/13
第13講	大学生の雇用と求人の情勢	12/20
第14講	キャリアサポートセンターについて	1/7
第15講	まとめ	1/24

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

就職は何より学生自身の問題です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。

キャリア基礎Ⅰ(公務員クラス)	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	必修
高田晴美・中西紀夫		GECC1001		

授業のねらい

この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅰ」では、公務員だけでなく一般企業も含めた就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人・情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

到達目標

以下の3つが目標です。

- ① 働く意義について考える。
- ② 就業環境について理解する。
- ③ 公務員試験、一般企業の採用試験の基礎知識を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画

第1講	ガイダンス／キャリアをどう考えるか	
第2講	課題と実習(社会人基礎力①)	
第3講	課題と実習(社会人基礎力②)	
第4講	知っておきたい採用試験の基礎①	
第5講	知っておきたい採用試験の基礎②	
第6講	働き方はどうなっているか	
第7講	知っておきたい採用試験の基礎③	
第8講	公務員の職種について	
第9講	知っておきたい採用試験の基礎④	
第10講	働く者の権利	
第11講	知っておきたい採用試験の基礎⑤	
第12講	知っておきたい採用試験の基礎⑥	
第13講	大学生の雇用と求人の情勢	
第14講	キャリアサポートセンターについて	
第15講	知っておきたい採用試験の基礎⑦	

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

公務員志望者のためのクラスです。1年生前学期中に「キャリア科目」の公務員クラスを希望するかを調査します。志望者はこの科目と並行して、スキル科目「公務員養成ユニット」科目も全科目、開講年次通りに履修してください。

キャリア基礎Ⅱ	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
		GECC1002	前学期	必修

授業のねらい
この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。
「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生に対してその手法を学びながら自己分析・自己PRを作成します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

到達目標
以下の4つの到達目標があります。
① 自己分析・自己PRの手法を修得し、実際に行ってみること。
② 業界研究の方法を修得すること。
③ 履歴書やエントリーシートを書けるようになること。
④ 採用試験の基礎を習得すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習
予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ
「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画
第1講 ガイダンス 4/12
第2講 自己分析のすすめ 4/19
第3講 自己分析実習①過去の自分をふりかえる 4/26
第4講 自己分析実習②他者の意見を聞く 5/10
第5講 知っておきたい採用試験の基礎⑥ 5/17
第6講 知っておきたい採用試験の基礎⑦ 5/24
第7講 自己分析実習③未来の自分を考える 5/31
第8講 自己分析実習④自己PRを考える 6/7
第9講 業界・企業研究のすすめ 6/14
第10講 企業研究実習 6/21
第11講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)① 6/28
第12講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)② 7/5
第13講 知っておきたい採用試験の基礎⑧ 7/12
第14講 知っておきたい採用試験の基礎⑨ 7/19
第15講 知っておきたい採用試験の基礎⑩ 7/26

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言
自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。

キャリア基礎Ⅱ(公務員クラス)	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
		GECC1002	前学期	必修

授業のねらい
この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社・自治体・組織に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生に対してその手法を学びながら自己分析・自己PRを作成します。あわせて公務員試験に備えた基礎学力の習得(「数的推理」の補足)をめざします。

到達目標
以下の4つの到達目標があります。
① 自己分析・自己PRの手法を習得し、実際に行ってみること。
② 業界研究の方法を習得すること。(公務員だけでなく一般企業も研究しよう)
③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。
④ 採用試験の基礎(数的推理の図形分野)を習得すること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習
予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ
「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 自己分析のすすめ
第3講 自己分析実習①過去の自分をふりかえる
第4講 自己分析実習②他者の意見を聞く
第5講 知っておきたい採用試験の基礎⑧
第6講 知っておきたい採用試験の基礎⑨
第7講 自己分析実習③未来の自分を考える
第8講 自己分析実習④自己PRを考える
第9講 業界・企業研究のすすめ
第10講 企業研究実習
第11講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)①
第12講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)②
第13講 知っておきたい作用試験の基礎⑩
第14講 知っておきたい作用試験の基礎⑪
第15講 知っておきたい作用試験の基礎⑫

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言
公務員志望者のためのクラスです。公務員として働く自分の姿を想像してみましょう。また、「公務のための数的推理」ではやらなかった数学の図形問題も、ここで学ぶことで、数的推理の土台部分が完成します。

キャリア基礎Ⅲ	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	後学期	選 択
岡・永井・本部・李・関根・田中伊・牧田・吉山		GECC1003		

授業のねらい

キャリア基礎Ⅲでは、具体的な就職活動を想定し、企業説明会・エントリー・面接など、ひとつおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。

到達目標

模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。

- ① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること
- ② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること
- ③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること
- ④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと
- ⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画

- | | | |
|------|---------------------------|-------|
| 第1講 | ガイダンス | 9/27 |
| 第2講 | 日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか | 10/4 |
| 第3講 | 新聞を読む(講義) | 10/11 |
| 第4講 | 新聞を読む(実習) | 10/18 |
| 第5講 | ビジネスマナー①(面接) | 10/25 |
| 第6講 | ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話対応)① | 11/1 |
| 第7講 | 模擬合同企業説明会 | 11/8 |
| 第8講 | エントリーシートの作成 | 11/15 |
| 第9講 | 模擬面接(実習)① | 11/22 |
| 第10講 | 模擬面接(実習)② | 11/29 |
| 第11講 | プレゼン面接(実習)① | 12/6 |
| 第12講 | プレゼン面接(実習)② | 12/13 |
| 第13講 | グループディスカッション② | 12/20 |
| 第14講 | グループディスカッション③ | 1/7 |
| 第15講 | まとめ | 1/24 |

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

3年生では就職ガイダンスがはじまります。最近では企業によるインターンシップも頻繁に行われるようになってつつあります。ここで勉強したことを生かして、失敗を恐れず行動することが何より重要です。果敢にチャレンジしてください。

キャリア基礎Ⅲ(公務員クラス)	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	後学期	選 択
高田晴美・中西紀夫		GECC1003		

授業のねらい

「キャリア基礎Ⅲ」では、具体的な就職活動を想定し、情報収集・エントリー・面接など、ひとつおりの公務員や一般企業の就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。

到達目標

模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。

- ① キャリアⅡで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること
- ② 就職活動を行うための経済・社会・自治体・職種の情報収集方法を身につけること
- ③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること
- ④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと
- ⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%
課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

授業の位置づけ

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

授業計画

- | | | |
|------|--------------------------|--|
| 第1講 | ガイダンス | |
| 第2講 | 日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか | |
| 第3講 | 新聞を読む(講義) | |
| 第4講 | 新聞を読む(実習) | |
| 第5講 | ビジネスマナー①(面接) | |
| 第6講 | ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話対応) | |
| 第7講 | 模擬自治体研究と情報収集 | |
| 第8講 | エントリーシートの作成 | |
| 第9講 | 模擬面接(実習)① | |
| 第10講 | 模擬面接(実習)② | |
| 第11講 | プレゼン面接(実習)① | |
| 第12講 | プレゼン面接(実習)② | |
| 第13講 | グループディスカッション① | |
| 第14講 | グループディスカッション② | |
| 第15講 | まとめ | |

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはクラス担当教員から配付します。
毎回の講義には必ず持参してください。

担当者から一言

3年生では就職ガイダンスがはじまります。公務員試験の対策も本格化します。綿密な準備がどれだけできたかが問われます。公務員となった自分の姿を思い描きながら、しっかり取り組んでいきましょう。

ボランティア活動 a 松井真理子	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GESC1001	前学期	選 択

授業のねらい

障害がある人、子どもなどを支援する活動、災害救援活動、環境保全活動など、地域にはさまざまな社会貢献活動が行われています。これらの活動にボランティアとして参加することは、机上の学習では把握できない生きた学びの機会となるとともに、ともに支えあう地域社会づくりに貢献するなど、大きな意義を持っています。四日市大学では、多くのが学生の参加促進のため、一定の時間参加した場合は、所定の手続きを経て単位認定します。

* ボランティア活動 a の単位修得後、b を取得します。

到達目標

- 1 現場体験を通じて、社会の様々な課題を深く理解すること。
- 2 主体的な行動力を身に着けること。
- 3 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身に着けること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定します。

評価は「認(認定)」となります。(履修制限単位に含まれない)

提出したレポートについて、希望により面談やコメントをします。

事前・事後学習

(事前)参加する活動や団体に関する情報を収集し、よく内容を理解しておくこと。(90分)

(事後)学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと(90分)

授業の位置づけ

「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業計画

- 1 対象となる活動
 - ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動
 - ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動
- 2 単位認定に必要な活動時間
実労働時間60時間以上
(複数の活動や、年度を超えた活動でもかまいません。)
- 3 活動時期
授業や大学行事に支障がないと判断される時期
- 4 事前申請
参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」(教務課にあります)を教学課に提出してください。
- 5 単位認定申請
実労働時間が60時間が予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出してください。(卒業年次の1月末日まで)
 - ① ボランティア活動 a 単位認定申請書
 - ② ボランティア活動団体発行の証明書
 - ③ 活動日誌・レポート(様式自由、1000字程度)
 注) 活動の経験を三重県内の地域でどう活かすか言及してください。

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。

担当者から一言

ボランティアセンターのボランティア情報を活用するほか、これ以外のボランティア活動の紹介もします。積極的に参加されることを期待しています。

ボランティア活動 b 松井真理子	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GESC1002	前学期	選 択

授業のねらい

障害がある人、子どもなどを支援する活動、災害救援活動、環境保全活動など、地域にはさまざまな社会貢献活動が行われています。これらの活動にボランティアとして参加することは、机上の学習では把握できない生きた学びの機会となるとともに、ともに支えあう地域社会づくりに貢献するなど、大きな意義を持っています。四日市大学では、多くのが学生の参加促進のため、一定の時間参加した場合は、所定の手続きを経て単位認定します。

* ボランティア活動 a の単位修得後、b を取得します。

到達目標

- 1 現場体験を通じて、社会の様々な課題を深く理解すること。
- 2 主体的な行動力を身に着けること。
- 3 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身に着けること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定します。

評価は「認(認定)」となります。(履修制限単位に含まれない)

提出したレポートについて、希望により面談やコメントをします。

事前・事後学習

(事前)参加する活動や団体に関する情報を収集し、よく内容を理解しておくこと。(90分)

(事後)学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと(90分)

授業の位置づけ

「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業計画

- 1 対象となる活動
 - ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動
 - ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動
- 2 単位認定に必要な活動時間
実労働時間60時間以上
(複数の活動や、年度を超えた活動でもかまいません。)
- 3 活動時期
授業や大学行事に支障がないと判断される時期
- 4 事前申請
参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」(教務課にあります)を教学課に提出してください。
- 5 単位認定申請
実労働時間が60時間が予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出してください。(卒業年次の1月末日まで)
 - ① ボランティア活動 a 単位認定申請書
 - ② ボランティア活動団体発行の証明書
 - ③ 活動日誌・レポート(様式自由、1000字程度)
 注) 活動の経験を三重県内の地域でどう活かすか言及してください。

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。

担当者から一言

ボランティアセンターのボランティア情報を活用するほか、これ以外のボランティア活動の紹介もします。積極的に参加されることを期待しています。

国際協力研修 岩崎 祐子	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GESC1003	後学期	選 択

授業のねらい
青年海外協力隊、NGO(非政府団体)、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。

到達目標
1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。
2 国際感覚を身に付けます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌(様式自由)・レポート(1200字以上)を提出すること。大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書(様式自由)および活動日誌(様式自由)・レポート(1200字以上)を提出すること。
レポートは、研修・活動の成果、全体の感想などが明記され、研修・活動の経験を今後どう活かすかについて言及すること。

事前・事後学習
事前：参加する活動や団体に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと(90分)
事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも問を通すこと(90分)

インターンシップ 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GESC1004	前学期	選 択

授業のねらい
大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。
■インターンシップを履修するための条件
・3か月以上のアルバイトの経験(週2日以上)の定期アルバイトがあること
・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと
・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること

到達目標
正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価・フィードバックする。

事前・事後学習
講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。

授業の位置づけ
「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業計画
第1講 ガイダンス(集中講義期間)
第2講 事前研修(集中講義期間)
第3講 事前研修(集中講義期間)
第4講 海外現地研修
第5講 海外現地研修
第6講 海外現地研修
第7講 海外現地研修
第8講 海外現地研修
第9講 海外現地研修
第10講 海外現地研修
第11講 海外現地研修
第12講 海外現地研修
第13講 海外現地研修
第14講 海外現地研修
第15講 海外研修の振り返り
※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。
・四日市大学では、タイ・スタディツアーを2022年2月に実施予定です。期間は1週間、海外研修に関わる説明会には参加してください。
・大学外の海外研修・海外協力活動への参加の場合には、事前申請を行ってください。
第2講～第15講 ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク

テキスト・教材(参考文献含む)
四日市大学の海外研修の場合、研修国、研修訪問先(団体、プロジェクト)に関する資料を配布します。

担当者から一言
四日市大学の研修参加希望者は学内で開催する説明会に必ず参加してください。研修終了後は、自分はいかに活動を継続的に関わることができるか考えてください。
大学の研修では、時期・研修国が決まっています。自分の希望に合わせて、関心のある研修先を探して(事前申請をして)海外研修とすることができます。

授業の位置づけ
「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

授業計画
★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること
★詳細は、履修要綱に記載
4月：説明会(CSC主催)・・・スケジュール詳細説明/申込用紙配布
4月末：申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表
5月中旬～下旬：面接 ⇒ 面接の合格者を発表
5月下旬：ガイダンス・・・受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡等
6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定
7月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等
7月下旬：直前ガイダンス・・・研修中の諸注意/事後研修についての連絡等
8～9月上旬：インターンシップ研修
11月：事後研修・・・レポート提出
12月頃：単位認定
*春休休業期間等にインターンシップ研修を行う場合のスケジュールなどは、担当教員が個別に対応する。

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。

担当者から一言
明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないでほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。

データ分析の基礎	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSSR1003	前学期	選 択

田中伊知郎

授業のねらい

公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。

到達目標

相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身につけて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。点数を提示し、次回までの課題も示します。

事前・事後学習

授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。

統計的分析	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSSR1004	後学期	選 択

田中伊知郎

授業のねらい

統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用(平均や比率の差の検定、独立性の検定)、サンプリングの理論、属性相関係数(クロス表の統計量)、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関するD科目に相当します。

到達目標

量的データにおける相関係数の利用・質的データにおけるクロス集計の利用をパソコン実習で身につけます。さらに、正規分布しているデータの平均値の検定などを使い、集団を分けるもの(要因)を見つける力を養います。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。点数を提示して、次回への課題も示します。

事前・事後学習

授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス：平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認
 - 第2講 度数分布表の作成：いろいろな値段のある回転寿司屋さん
 - 第3講 いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差)
 - 第4講 既存統計資料の読み方と使い方
 - 第5講 量的データと伴って変わる量
 - 第6講 比例と1次関数
 - 第7講 1次関数のグラフの拡張：散布図
 - 第8講 Excelを使っての散布図の作成
 - 第9講 1次関数と相関係数
 - 第10講 Excelを使っての相関係数の求め方
 - 第11講 相関係数の性質
 - 第12講 データの性質の拡張：質的データ
 - 第13講 データの入力と照合(統計的資料を使って)
 - 第14講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明
 - 第15講 相関関係・関連性と因果関係の違い：擬似相関と実験計画
- 定期試験 持ち込み不可
第2講から第14講までパソコンを使っての実習となります。

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。

担当者から一言

パソコン教室の実習形式で行います。パソコンを使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス：平均値・中央値と度数分布の確認
 - 第2講 サンプリング：標本と母集団の関係とヒストグラムの作成
 - 第3講 正規分布：確率論の基礎、ゆらぎ(分散)の概念の獲得
 - 第4講 正規分布かの検定(Kolmogorov-Smirnov検定)
 - 第5講 平均値の差の検定：二つの正規分布か、同じ分布か：実習
 - 第6講 分散分析(3要因への検定の拡張)と効果量
 - 第7講 分散分析の実習
 - 第8講 一次関数と相関係数：Excelを使っての求め方
 - 第9講 相関係数の性質と回帰分析
 - 第10講 データの性質の拡張：測定尺度としての順位変数など
 - 第11講 ノンパラメトリック検定(正規分布でない場合)
 - 第12講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明と実践
 - 第13講 クロス集計の実践：質的アンケートと円グラフ
 - 第14講 クロス集計の検定(正確確率検定など)
 - 第15講 クロス集計の検定：実習
- 定期試験 持ち込み不可
第2講から第15講までパソコンを用いた実習となります。

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。

担当者から一言

パソコン教室の実習形式で行います。パソコンを使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。

データ解析の技法	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	吉見勝治	GSSR1006	後学期	選 択

授業のねらい
 複雑な現代社会を読み解く方法の一つに、数量データを用いた多変量解析があります。本講義では多変量解析の基本的な考え方や代表的な技法を理解し、それらを活用するための基礎力を身に付けることを目的とします。具体的な事例も交え、各種のデータ解析手法が身近なものであることを理解してもらいます。

- 到達目標**
- (1) 代表的な確率分布を理解すること
 - (2) 統計的な推測を理解すること
 - (3) 仮説検定を理解すること
 - (4) 各種多変量解析(重回帰分析、分散分析、主成分分析等)を理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 出席率と積極性(40%)、定期試験(60%)を元に総合的に評価します。宿題を出した場合にはその内容についても加味します。提出された宿題は以降の講義で返却します。

事前・事後学習
 インターネットや新聞で「統計データ」を日々確認して下さい(60分)。その統計データの母集団や検定について、講義で学んだ内容を元に考える癖をつけて下さい(60分)。

公務のための数的推理	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	高田晴美	GSPO1001	後学期 選 択

授業のねらい
 皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員1次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、殆どが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理の殆どのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。

- 到達目標**
- 1 数的推理の出題パターンとその解法を知る。
 - 2 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 毎回の小テスト 30%
 定期試験(資料持ち込み不可) 70%
 授業時に行う小テストに関しては、後に解説を行います。

事前・事後学習
 次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。
 ・講義で扱った問題の解きなおし(90分)
 ・講義では飛ばした問題を解く(90分)
 自力で解けるようになるまで何度もやり直して下さい。

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス -多変量解析とは-
 - 第2講 数学の復習
 - 第3講 平均値、分散、共分散
 - 第4講 正規分布
 - 第5講 標準化
 - 第6講 回帰分析1 -回帰分析とは
 - 第7講 回帰分析2 -平面の当てはめ
 - 第8講 回帰分析3 -事例の演習
 - 第9講 主成分分析1 -主成分分析とは
 - 第10講 主成分分析2 -主成分分析の式
 - 第11講 主成分分析3 -事例の演習
 - 第12講 因子分析1 -因子分析とは
 - 第13講 因子分析2 -因子分析の式
 - 第14講 因子分析3 -事例の演習
 - 第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキスト:配布資料、プレゼン資料
 参考資料:久保川達也、国友直人「統計学」東京大学出版会(2016年)

担当者から一言
 どのような会社に就職しても、売上予測や市場動向など、様々なデータ解析が行われています。自分がその解析を行わなくてもその基礎を理解していることは社会人として大きな力になります。是非一緒に学びましょう。

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス、整数の性質
 - 第2講 比と割合
 - 第3講 方程式と不等式①
 - 第4講 方程式と不等式②
 - 第5講 濃度
 - 第6講 仕事算、ニュートン算
 - 第7講 年齢算、平均算など
 - 第8講 集合
 - 第9講 速さ①
 - 第10講 速さ②
 - 第11講 場合の数
 - 第12講 確率
 - 第13講 剰余系の問題
 - 第14講 n進法
 - 第15講 数列
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 数的推理/資料解釈 第2版』エクシア出版(2019年)1,650円

担当者から一言
 この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための判断推理 高田晴美	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSP01002	前学期	選 択

授業のねらい

公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。

到達目標

- 1 判断推理の解法を一通り身に付ける。
- 2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。
- 3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の小テスト 30%
定期試験(資料持ち込み不可) 70%
授業時に行う小テストに関しては、後に解説を行います。

事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元(授業でやったあたり)について、以下のことをしておくこと。
・講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

公務のための現代文 高田晴美	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSP01003	後学期	選 択

授業のねらい

公務員試験科目のうちの「文章理解(国語分野)」の「現代文」と「資料解釈」の2科目について、問題演習を行います。「文章理解(国語)」では出題パターンの紹介とともに、どういうところに着目すべきかを解説します。「資料解釈」は出題数は少ないですが、出題タイプに限られるので、対策を取れば確実に得点源にできます。採用試験だけでなく、その後の公務員の仕事にも必要な能力でもありますから、得意科目にしていきたいでしょう。

到達目標

- 1 「文章理解(国語分野)」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。
- 2 「資料解釈」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎授業ごとのミニッツペーパーで50%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で50%評価します。(ミニッツペーパー評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。)

事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元(授業でやったあたり)について、以下のことをしておくこと。
・(特に「資料解釈」では)講義で扱った問題の解きなおし(90分)
・講義では飛ばした問題を解く(90分)
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。上記に加えて、毎回の漢字テストの対策をすること。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、順序関係
 - 第2講 順序関係
 - 第3講 位置関係
 - 第4講 対応関係
 - 第5講 試合
 - 第6講 数量関係
 - 第7講 命題と論理
 - 第8講 真偽
 - 第9講 暗号と規則性
 - 第10講 操作・手順
 - 第11講 パズル問題
 - 第12講 移動と軌跡
 - 第13講 立体図形
 - 第14講 展開図
 - 第15講 サイコロと位相
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 判断推理 第2版』エクシア出版(2019年)1,650円

担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、現代文①——内容把握
 - 第2講 現代文②——内容把握
 - 第3講 現代文③——要旨把握
 - 第4講 現代文④——要旨把握
 - 第5講 現代文⑤——文章整序
 - 第6講 現代文⑥——文章整序
 - 第7講 現代文⑦——空欄補充
 - 第8講 資料解釈①——実数
 - 第9講 資料解釈②——実数
 - 第10講 資料解釈③——割合・構成比
 - 第11講 資料解釈④——割合・構成比
 - 第12講 資料解釈⑤——指数・増加率
 - 第13講 資料解釈⑥——指数・増加率
 - 第14講 資料解釈⑦——特殊な問題
 - 第15講 資料解釈⑧——特殊な問題
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

瀧口雅仁『公務員試験 文章理解 すぐ解ける〈直観ルール〉ブック [改訂版]』実務教育出版(2020年)
畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 数的推理/資料解釈第2版』エクシア出版(2019年) (「公務のための数的推理」と同テキスト)

担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象としています。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための政治学 小林慶太郎	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSP01004	後学期	選 択

授業のねらい
わたしたちが、役所の人(公務員)に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょうか。そしてその背景には、どのような国の仕組みや歴史があるのでしょうか。
この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。

到達目標
市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・講義時に指示する小テストの提出状況:30%
・定期試験(持込不可):70%
毎回実施する小テストは、回収・採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。

事前・事後学習
必ず予習・復習(各90分)をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス:この授業の進め方
第2講 三権分立と法の支配
第3講 議院内閣制
第4講 国会
第5講 内閣
第6講 官僚制と行政
第7講 裁判所
第8講 地方自治
第9講 直接請求権
第10講 選挙
第11講 政党政治
第12講 政治理論
第13講 各国の政治制度
第14講 国際政治
第15講 時事問題
定期試験

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]」実務教育出版(2018年)1,430円(税込)
※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。

担当者から一言
遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
9/28 1. ガイダンス(課題①)
10/5 2. 無差別曲線と消費者の行動①
10/12 3. 無差別曲線と消費者の行動②(課題②)
10/19 4. 企業の行動①
10/26 5. 企業の行動②(課題③)
11/2 6. 需要の価格弾力性①
11/9 7. 需要の価格弾力性②(課題④)
11/16 8. 市場メカニズムと安定性
11/30 9. 比較優位の理論①(課題⑤)
12/7 10. 比較優位の理論②
12/14 11. 財政政策・金融政策①(課題⑥)
12/21 12. 財政政策・金融政策②
1/11 13. 公共財の供給(課題⑦)
1/18 14. 外部不経済
1/25 15. その他の経済学の問題演習

到達目標
経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業を理解した上で課題(8回を予定)を提出することが、単位認定の最低条件。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。

事前・事後学習
指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備しておくこと。8回の課題には、各3時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学」単位取得後の受講が好ましい。

担当者から一言
公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。

テキスト・教材(参考文献含む)
資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]」実務教育出版(2018年)1,430円(税込)
※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。

公務のための法学 中西紀夫	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSP01006	前学期	選 択

授業のねらい
公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさん問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思っています。

到達目標
法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小テスト 30%：授業中に行う小テストは採点をして2週間以内に返却します。受講態度等も含みます。
定期試験 70%：択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。(毎回の予習90分と復習90分)

授業のねらい
非常に幅広い人文科学の知識を、問題演習を通じて効率良く学び、それによって、どこでも通用するような、この分野の基礎知識を身に付けることをねらいとした授業です。公務員試験を目指す学生のみならず、様々な業種の就職試験などで課せられる一般教養の知識をできるだけ身に付けておきたいような学生にも適した授業となるはずです。

到達目標
幅広い人文科学の知識を、それらの意味も十分に理解したうえで確実に身に付けることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎授業ごとのミニッツペーパーで50%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で50%評価します。(ミニッツペーパーの評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。)

事前・事後学習
毎回の授業後、ミニッツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。そのため、授業の復習に30分以上、予習に60分以上かける必要があるでしょう。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈
第3講 大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き
第4講 人権の発達、基本的人権の原理
第5講 日本国憲法における基本的人権の種類
第6講 人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権
第7講 参政権と請求権、新しい人権と国民の義務
第8講 要約(これまでの確認)
第9講 民法、刑法、その他の法律
第10講 主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質
第11講 労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題
第12講 社会保障、高齢社会、少子社会
第13講 地球環境問題
第14講 資源・エネルギー問題
第15講 要約(これまでの確認)
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]』実務教育出版(2018年)1,300円+税(価格) 必要に応じて、プリントでも補足します。
※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。

担当者から一言
授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらにも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

公務のための人文科学 李 修二	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GSP01007	前学期	選 択

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
1. ガイダンス
2. 日本史①
3. 日本史②
4. 日本史③
5. 世界史①
6. 世界史②
7. 世界史③
8. 世界史④
9. 地理①
10. 地理②
11. 地理③
12. 思想
13. 文学・芸術①
14. 文学・芸術②
15. 国語
16. 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学 改訂第2版』実務教育出版、2018年刊、1,300円+税

担当者から一言
あきらめずに最後までやり抜くことが大事です。やり終えた後、必ず何がしかの自信が湧いてくることでしょう。

公務のための自然科学 高田晴美	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSP01008	前学期	選 択

授業のねらい

公務員試験の「自然科学」の内容は、「物理」「化学」「生物」「地学」「数学」(高校数学)です。これらは特に文系の受験生にとっては元々知識があまりないため学習困難なのですが、丸々捨てるわけにもいきません。しかし、的を絞って学習すれば、それなりに得点をできるようにはなれます。この講義では、自然科学の頻出テーマについて、特に自力では学習しづらい単元を中心に、広く浅く知識のインプットをした上で、過去問の演習を行います。

到達目標

公務員試験の自然科学の問題のうち、簡単なものなら解ける程度の知識、学力を身に付ける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験(資料持込不可) 70%
課題 30%
課題に関しては、講義で解説も行います。

事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。

- ・講義で扱った問題の解きなおし(90分)
 - ・講義では飛ばした問題を解く(90分)
- 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

公務のための英文理解 ゴードン・リース	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSP01009	後学期	選 択

授業のねらい

現在、日本では、公務員試験のための決まった英語カリキュラムは存在しない。この講座では公務員試験によく出るテーマ、自然科学、経済、社会、についての英語の記事を毎回読んで、ディスカッションを行います。そのため、English Boosterというテキストを採用しました。

到達目標

1. 英語の読解力を向上させる。
2. 英語の語彙を増やす。
3. 英文法の基礎を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度 30%
課題・小テスト 30%
プレゼンテーション(1) 20%
定期試験 20%
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

1. 講座が始まる前に『資格英語』や『基礎英語 I and II』のテキストを復習する。
2. In addition to any homework assignments, after each class spend about 60 minutes reviewing the class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson.

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、物理①
 - 第2講 物理②
 - 第3講 物理③
 - 第4講 物理④
 - 第5講 化学①
 - 第6講 化学②
 - 第7講 化学③
 - 第8講 化学④
 - 第9講 地学①
 - 第10講 地学②
 - 第11講 地学③
 - 第12講 地学④
 - 第13講 生物①
 - 第14講 生物②
 - 第15講 生物③
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 自然科学 改訂第2版』実務教育出版(2018年)1,404円(税込)
その他、適宜プリントを配布。

担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

1. Guidance/Course Introduction/On My Way to Silicon Valley
2. Welcome to San Francisco
3. First Day of Internship
4. Fun Times, but...
5. They Look Good on You
6. Tech Talk
7. You're Sitting on it....
8. Going Green
小テスト
9. Time to Work
10. Know Your Business
11. The Job Interview
12. Is Your Company Right for You?
Demonstration speech
13. Email Matters
14. On the Move
15. Good News
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

English Booster!
Robert Hickling/ Yasuhiro Ichikawa
Kinseido-2,000 yen(税別)
指定テキストはCheckLinkというオンラインワークブックがついている。指定テキストを買って、CheckLinkに登録しないと授業に参加できない。注意して下さい。

担当者から一言

対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。
1. プリントを整理する為のファイルを授業に持参して下さい。
2. 5回以上欠席すると単位がもらえない。
履修者が20名を超えた場合は抽選となります。

公務のための論文・面接 小林慶太郎	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	GSP01010	前学期	選 択

授業のねらい
わたしたちが、役所の人(公務員)に何かをして貰おうとする時、それはどのように伝えられ、どのように進められるのでしょうか。どのように伝えれば、間違いが生じにくいのでしょうか。
この授業では、こうした地域で公務につく際に必要となってくるコミュニケーションスキルについて、学生諸君が、実際に小論文を書いたり面接の練習をしたりしながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。

到達目標
市役所・警察・消防等の公務員採用試験の論文や面接試験を、確実にクリアできる程度のスキルを身につけることが、この授業の到達目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。
・課題等への取り組み状況:45%
・講義時に指示する宿題の提出状況:30%
・受講態度:25%
提出された論文は、毎回添削して返却します。

事前・事後学習
毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください(60分)。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください(毎日20分以上)。

事前・事後学習
毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください(60分)。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください(毎日20分以上)。

ビジネスマナー 岡 良浩	実務	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		GSHM1001	後学期	選 択

授業のねらい
本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。
ビジネスマナーは一つのスキルではありませんが、その本質は人間関係です。そこでまずは、日常の良好な人間関係をどのようにつくっていくのかを学びます。
そのうえで、まずは一般的なマナーを学びます。表現には、言葉(言語)以外に、身ぶり・手ぶりといった非言語コミュニケーションも含まれます。
この応用としてビジネスマナーがあります。職場内やお客様との間で、さまざまなシーンを想定して、そのマナーの基礎を学びます。

到達目標
本講義の到達目標は以下の3点です。
1. 人間関係づくりを学ぶこと
2. 一般的なマナー(言語・非言語)を修得すること
3. シーンごとのビジネスマナーの基礎を修得すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業での参加態度および課題の提出状況 50%、定期試験 50%
課題は講義の振り返りとして課します。課題は採点して返却します。

事前・事後学習
予習：テキストで指定する範囲を読んでおくこと。(90分)
復習：授業中に配布する理解度テストを行うとともに復習すること。(90分)
留学生はN1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくことが望まれます。

事前・事後学習
予習：テキストで指定する範囲を読んでおくこと。(90分)
復習：授業中に配布する理解度テストを行うとともに復習すること。(90分)
留学生はN1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくことが望まれます。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス:この授業の進め方
第2講 文章の書き方(実習)
第3講 面接の心構え(実習)
第4講 論文のテーマ(実習)
第5講 面接の態度(実習)
第6講 論文の構成(実習)
第7講 面接での性格PR(実習)
第8講 論文の文体(実習)
第9講 面接での志望動機(実習)
第10講 論文の論旨(実習)
第11講 面接での経験PR(実習)
第12講 論文の論拠(実習)
第13講 集団面接での受け答え(実習)
第14講 論文のまとめ方(実習)
第15講 集団討論(実習)

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

担当者から一言
この講義は、公務員試験に間に合うよう、6月上旬までの期間に集中して週2回実施します。履修の際には注意してください。なお、履修する以上は、真剣な態度で受講して下さい。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
1 講 9/27 ガイダンス(岡)
人間関係づくり①チームワークと価値交流(長野)
2 講 10/4 同②コミュニケーションとは(石田)
3 講 10/11 同③パフォーマンス学(石田)
4 講 10/18 同④-1話し方・聞き方・考え方(木村)
5 講 10/25 同④-2話し方・聞き方・考え方(木村)
6 講 11/1 一般的なマナー①-1敬語(木村)
7 講 11/8 同②-1敬語(木村)
8 講 11/15 同②-1表情・声・身体表現(則武)
9 講 11/22 同②-2表情・声・身体表現(則武)
10 講 11/29 ビジネスマナー①職場のルール(報連相)(則武)
11 講 12/6 同②受付・案内・席次・訪問時のマナー(則武)
12 講 12/13 同③一般文書とビジネス文書(田上)
13 講 12/20 同④プレゼンテーション(田上)
14 講 1/17 同⑤クレーム応対(川村)
15 講 1/24 総合まとめ(長野)

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストとしては以下を使用するので購入しておくこと。
有限会社幸プランニング『コミュニケーション&ビジネスマナー』SEP
自己表現能力出版部 1,980円(税込)

担当者から一言
ビジネスマナーは社会で生きていくための必須の資質です。学生時代に、先んじてビジネスマナーを学びたいと思う学生は是非受講して下さい。

サービス経営論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	岡 良浩	GSHM1002	前学期 選 択

授業のねらい
この講義はサービス業を念頭においた経営の基礎を学びます。日本では、経済に占めるサービス業の割合が年々増加しておりGDPの3/4を占めると言われています。サービス業は、製造業と違って、形のない扱いにくい性質を価値として販売するため、仕組み自体が製造業とは異なります。本講義では、このようなサービスの経営学を総合的に学びます。また初年次の受講者が多いことから、社会人の考え方の基礎としての「7つの習慣」についても副読します。サービス業に関わらず社会人に求められる資質を理解し習慣づけることを目指します。

到達目標
以下の3つを目標とします。
1. サービス業の特徴や経営の特徴を理解すること。
2. サービス業を含めた社会人に求められる資質を理解し、習慣づけることを行うこと。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への参加態度(含む講義中の小レポート)40%
期末試験 60%
講義中の小レポートは以下のように毎回課します。
1. 講義の回: キーワードとコメントの提出⇒フィードバックはしません。
2. 7つの習慣の回: 習慣の意味と自分の振り返り⇒コメントして返却します。

事前・事後学習
予習: 資料を読んで理解しておくこと(90分)
復習: 小テストの実施(90分)

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1回 ガイダンス/7つの習慣(1)インサイド・アウト
第2回 サービス業の産業構造と経営的特徴
第3回 7つの習慣(2)主体的であること
第4回 サービス業の事例(1)リッターカールトン
第5回 7つの習慣(3)主体的であること
第6回 サービスの事例(2)クロネコヤマト
第7回 7つの習慣(4)最優先事項を優先する
第8回 サービスの事例(3)TESSEN(新幹線清掃チーム)
第9回 7つの習慣(5)最優先事項を優先する
第10回 ものづくりの3S、サービスのQSC
第11回 7つの習慣(6)まず理解に徹しそして理解される
第12回 サービス・マーケティング
第13回 7つの習慣(7)シナジーを創り出す
第14回 IT・ロボットとサービス
第15回 まとめ/7つの習慣(8)刃を研ぐ

テキスト・教材(参考文献含む)
副読書(7つの習慣)は、冊子としてお渡しします。その他は特にテキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

担当者から一言
特にありません。

販売士講座	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	山川 和美	GSHM1003	前学期	選 択

授業のねらい
消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということ、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代にあって注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング(販売士)」です。この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。

到達目標
就職の選択肢の多くを占める流通・小売業界に興味を持っていただくことを考えています。また就職活動を一歩リードできるようにスキルを身につけていきましょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
・平常点(授業態度、簡単な課題の提出状況等)60点
・定期試験(レポート)40点
なお、講義時に提出されたレポートは、3段階評価をつけて返却します。

事前・事後学習
事前(予習): 日頃からテレビや新聞など小売業界に関連したニュースに目を通す。(90分)
事後(復習): 学んだ内容を復習し、ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけた時に授業の検証に心がけること。(90分)

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、ストアオペレーションのポイント①
第2講 ストアオペレーションのポイント②
第3講 ストアオペレーションのポイント③
第4講 小売業の種類のポイント①
第5講 小売業の種類のポイント②
第6講 小売業の種類のポイント③
第7講 マーチャンダイジングのポイント①
第8講 マーチャンダイジングのポイント②
第9講 マーチャンダイジングのポイント③
第10講 リテールマーケティングのポイント①
第11講 リテールマーケティングのポイント②
第12講 リテールマーケティングのポイント③
第13講 販売・経営管理のポイント①
第14講 販売・経営管理のポイント②
第15講 販売・経営管理のポイント③
定期試験(レポート提出)

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。(必要に応じてプリントを配布します)
【参考文献】
日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士3級ハンドブック(2冊セット)」カリアック(2019年)5,400円

担当者から一言
店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。

ビジネスコミュニケーション 実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSHM1004	前学期	選 択

岡 良 浩

授業のねらい

本科目では、ビジネスマナーの上級者としてのさまざまな技術を学びます。
講義には実務経験者や企業向けに講師をつとめている学外の方から、多彩なお話を聞くことができます。企業人としてのコミュニケーションを実践的に学んでいただきたいと思います。

到達目標

企業人としてのコミュニケーションを実践的に学ぶこと

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験50% 参加態度および小テスト 50%
小テストは、講義のふりかえりとして課します。提出されたものはコメントをつけて返却します。

事前・事後学習

予習：毎回のプリントをあらかじめ読んでおくこと。(90分)
復習：毎回の授業で学んだ技術を訓練するとともに、ふりかえりの小テストを行うこと。(90分)

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- 1 4/13 ガイダンス(岡)
- 2 4/20 ワンランク上の接客マナー「おもてなし」(武井)
- 3 4/27 パフォーマンス・価値交流(長野)
- 4 5/11 おもてなしの技術①笑顔・会釈・発声(武井)
- 5 5/18 同②②電話・レター・メール
- 6 5/25 ES(従業員満足)とCS(顧客満足)／報告・連絡・相談(武井)
- 7 6/1 色彩①カラーコーディネート・インテリア(林)
- 8 6/8 色彩②色彩心理・お客様に与える色のイメージ(林)
- 9 6/15 ビジネススキル①営業力(川村)
- 10 6/22 同②交渉力(ネゴシエーション) (川村)
- 11 6/29 自分も相手も大切にしたい話し方(安田)
- 12 7/6 リスク管理とは①(安田)
- 13 7/13 リスク管理とは②ウイズコロナ時代の自己管理(安田)
- 14 7/20 交流分析～人の心と行動を理解する～(石田)
- 15 7/27 タイムマネジメント&総復習(長野)

テキスト・教材 (参考文献含む)

定期試験 50% 参加態度および小テスト 50%
小テストは、講義のふりかえりとして課します。提出されたものはコメントをつけて返却します。

担当者から一言

この授業は、外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生を期待します。
1. この授業は「オペレーション演習」を受講する前提となります。
2. 希望者が多数の場合は「オペレーション演習」受講者を優先し、40名程度に履修者数を制限します。

グローバルコミュニケーション	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSHM1005	後学期	選 択

富 田 与

授業のねらい

この講義では、多文化共存の状況とそこでの関係者の行動を見ながら、文化や行動の多様化と制約、そして、そうしたものに対応するにはどうしたらいいのかについて考えます。おもに、参加者とのディスカッションを中心に、「仕事の文化」という視点から、二つの文化が出会う場面でのホスト＝ゲスト関係を実践的な挑戦としてとらえていくことにしたいと思います。

到達目標

多文化共存の状況を理解し、日常生活や仕事の中でそれに対応できる能力を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学期末に、参加度(発言、発表等)40%、レポート60%の割合で総合評価を出します。
レポートは希望者に返却します。
講義中の課題は、毎時間発表してもらいます。

事前・事後学習

予習：指示された教材を読み、必要なデータに目を通しておいてください(90分)。
毎回、簡単な発表をしてもらいます。
復習：教材を読み直し、レポート等の課題を作成してもらいます(90分)。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 第1章 なぜアジアに移住するのか。その1
- 第3講 第1章 なぜアジアに移住するのか。その2
- 第4講 第1章 なぜアジアに移住するのか。その3
- 第5講 第2章 和食職人の伝統。その1
- 第6講 第2章 和食職人の伝統。その2
- 第7講 第3章 「おもてなし」という感情労働。その1
- 第8講 第3章 「おもてなし」という感情労働。その2
- 第9講 第4章 日本化したアメリカ文化。その1
- 第10講 第4章 日本化したアメリカ文化。その2
- 第11講 第5章 「国語」教育から「日本語」教育へ。その1
- 第12講 第5章 「国語」教育から「日本語」教育へ。その2
- 第13講 第6章 再発見された仕事の価値。その1
- 第14講 第6章 再発見された仕事の価値。その2
- 第15講 まとめ：グローバル化の中での仕事とコミュニケーション

テキスト・教材 (参考文献含む)

『世界に広がる日本の職人』 青山玲次郎著 ちくま新書 820円

担当者から一言

多文化が共存する社会では、その文化を理解していなくても、異なった文化背景を持つ人々とコミュニケーションを取っていかなくてはなりません。そんな時、どうしたらいいのか。一緒に考えてみましょう。

オペレーション演習 永井・岡・杉谷	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSHM1006	前学期	選 択

授業のねらい
サービス業の中心となる技術である接客技術を、現地研修を通して身に付けることが本講義のねらいである。ホテルや旅館などの宿泊施設、土産物店やレストランなどの物販・飲食店、その他の観光関連事業は接客が仕事の最前線である。客から言えば、接客に当たる店員の「おもてなし」の態度・印象、それを支える知識や技術がその店のすべてであると言っても過言ではない。その技術は座学だけではすべてを身に付けることはできない。実際にホテル・土産物店・レストランなどの現場の業務を体験しながらノウハウを身に付けてもらう。

到達目標
サービス業の中心である接客技術を身に付けることが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
研修の態度70%、課題レポート30%

事前・事後学習
2年生前期の「ビジネスコミュニケーション」を履修していないと受講できません。(同時履修は可能)
予習：上記「ビジネスコミュニケーション」で学習した接客技術の基礎事項を復習しておくこと。(90分相当)
復習：研修内容を整理すること。(90分相当)

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

ビジネスマネジメント 岩崎祐子・奥原貴士	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSHM1007	前学期	選 択

授業のねらい
本講義の前半(第2講～第7講)は、サービス業や観光業などのビジネス環境を学びます。ビジネスの競争環境などを理解します。そして、実際の企業活動におけるマネジメントをビジネスゲームを通して体験し、研究発表を行います。
次に、ビジネスをマネジメントするには企業の会計情報を利用する知識が必要になります。そこで本講義の後半(第9講～第15講)では、サービス業や観光業を営む企業の売上高・純利益などの会計情報を用いて、企業の収益性・安全性・生産性・不確実性などの経営分析を行う方法について学習します。

到達目標
・ビジネスの競争環境を理解する。
・ビジネスマネジメントの実際を把握する。
・経営分析の方法を理解する。
・企業の会計情報を使用して経営分析を行うことができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点(授業への積極的な参加、小レポートなど)30%
中間試験40%
レポート(第9講～第15講の間に行う)
定期試験30%
レポートなど課題は適宜コメントをして返却します。

事前・事後学習
事前：新聞や雑誌などを読んで、企業経営について学ぶ(90分)
事後：授業の復習と関連情報の収集(90分)
普段から新聞や雑誌などを読んで、この企業の経営はうまくいってそうだと、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、というように企業の経営状態に関心をもつようにしてください。

授業計画
受け入れ先企業において、夏季休暇中に15コマ相当の研修を行う。前期授業期間中に事前説明会を行い、受け入れ企業を決定する。受講を希望する学生は、事前説明会に必ず出席すること。受け入れ先企業が決まるまで、夏季休暇中の予定を空けておくこと。参考までに、2019年度の受け入れ先企業とそれぞれの実習期間は以下の通りである。
志摩スペイン村：9月3日(火)～9月7日(土)
伊勢かぐらばリゾート千の杜：8月19日(月)～8月23日(金)
鳥羽シーサイドホテル：8月23日(金)～8月27日(火)
伊勢安土桃山文化村：8月12日(月)～8月16日(金)
戸田家：8月12日(月)～8月16日(金)
ねむりリゾート：8月27日(火)～8月31日(土)
わんわんパラダイス：9月5日(木)～9月9日(月)

テキスト・教材(参考文献含む)
大学からは特になし。受け入れ先企業から資料が配布される場合がある。

担当者から一言
学生の現地研修と言っても、客から見れば企業の一員である。社会人としての自覚をもって研修に臨むこと。また、事前の説明会に無断欠席、遅刻した場合、頭髪や服装に問題がある場合、あるいは留學生で日本語能力が著しく不足する場合は実習に参加させないことがある。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

ビジネスマネジメント 岩崎祐子・奥原貴士	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSHM1007	前学期	選 択

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 グループ分け、グループワークの説明
第3講 ビジネスマネジメントの実際
第4講 ビジネスマネジメントの実際
第5講 ビジネスマネジメントの実際
第6講 ビジネスマネジメントの実際
第7講 プレゼンテーション
第8講 中間試験
第9講 経営分析の視点と方法
第10講 収益性の分析
第11講 収益性の分析
第12講 安全性の分析
第13講 安全性の分析
第14講 生産性の分析
第15講 不確実性の分析
定期試験
第2講～第6講 グループワーク、第7講 プレゼンテーション

テキスト・教材(参考文献含む)
講義資料は毎回プリントを配布する。
(参考文献)
桜井久勝「財務諸表分析」中央経済社。

担当者から一言
本講義で学習する経営分析の知識は社会に出てから自社やライバル企業の経営状態を分析する際に不可欠です。すなわち、ビジネスの世界で活躍するために必要な知識です。

マーケティング演習	実務	科目	3年次	2単位
		ナンバリング	後学期	選 択
岡・岩崎祐・西浦		GSHM1008		

授業のねらい
 この科目では、マーケティングに必要なスキルを実践的に学びます。マーケティングとは、「顧客のニーズに合ったものを、最適な形で提供される市場を作り出すための活動」のことを言います。その内容は様々ありますが、「顧客にニーズは何か」が起点となります。その意味で、マーケティング＝市場調査と思っても良いでしょう。
 ここではMicrosoft Formを用いて、アンケート調査と集計を体験します。単純集計・クロス集計や報告書作成を演習します。
 この体験を踏まえて、実際の企業を想定した市場調査を考えていただきます。

到達目標
 到達目標は以下の3点です。
 ① 市場調査の一連の技法を身につけること
 (調査票設計→配布→回収→集計・分析→提案)
 ② 市場調査の分析結果を発表する能力を身につけること
 ③ 実際の企業を想定した市場調査を企画できる能力をつけること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験(レポート試験) 50% 参加態度 50%
 全期間を通じて、その都度、理解度を確認しながらすすめます。

事前・事後学習
 予習：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。(90分)
 復習：学んだ技法を復習し、身につけておくこと。(90分)

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	マーケティングと市場調査の基礎理解
第3回	Microsoft Formの使い方
第4回	Microsoft Formによるアンケートの設計と回答
第5回	エクセルを使った単純集計
第6回	エクセルを使ったクロス集計
第7回	報告書の作成
第8回	仮設を設定した市場調査の設計
第9回	市場調査の実施
第10回	市場調査の集計
第11回	報告書の作成
第12回	報告書の確認
第13回	報告書の発表
第14回	市場調査の実際
第15回	まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)
 定期試験(レポート試験) 50% 参加態度 50%
 全期間を通じて、その都度、理解度を確認しながらすすめます。

担当者から一言
 Moodleを利用し、原則、コンピュータ室で演習を行います。

おもてなし特別講義 a	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	前学期	選 択
岩崎祐子・岡 良浩		GSHM1009		

授業のねらい
 本講義は、おもてなしを担う企業の成功事例を、総合的に理解することを目的とする。おもてなし経営が成功しているのは、個々の技術要素というより、総合力が勝っているからだと思われる。このような総合力を見ることがこの講義のねらいである。
 企業においては、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなど、三重県内の経営者層を招聘して伺う。

到達目標
 ・おもてなし経営の成功事例を理解する。
 ・成功事例から、成功の要因や他事業への応用(普遍化)を考察する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業中に作成するレポート(40%)、グループワーク・発表(30%)、定期試験(30%)により評価します。
 授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。

事前・事後学習
 日頃から、「おもてなし」をキーワードに企業経営、サービス、観光に関するニュースに目を通すようにして下さい(30分、週3日以上)。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください(90分)。

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	外部講師による講義
第3回	授業中レポート
第4回	外部講師による講義
第5回	授業中レポート
第6回	外部講師による講義
第7回	授業中レポート
第8回	外部講師による講義
第9回	授業中レポート
第10回	外部講師による講義
第11回	授業中レポート
第12回	記事担当の学生の振り分け・記事の執筆
第13回	記事の執筆
第14回	記事の仮提出と指導
第15回	記事の発表

定期試験
 第12回～第14回 グループワーク、第15回 プレゼンテーション
 ※日程は変更する可能性があります。
 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布します。
 ※履修登録者多数の場合、履修制限をする可能性があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。
 参照資料として三重県「三重のおもてなし経営企業選」のホームページを参照してください。

担当者から一言
 第12講以降PC教室を使用するため、履修登録者多数の場合、履修制限をする可能性があります。
 「外部講師による講義」の際にも積極的に質問してください。多くの企業や経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になりますし、就職活動にも役立ちます。

おもてなし特別講義b	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
		GSHM1010	後学期	選 択

授業のねらい
様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について理解します。また、最後に応用としてデジタルサイネージ向けの短い広告を作成します。

到達目標
情報技術を利用したサービス産業の効率化について理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業態度30%、教育支援システムを通じたノート提出やディスカッション 30%、最終レポート40%で採点します。教育支援システム(Moodle)を通じてフィードバックします。レポートの採点にはルーブリックを使用します。ルーブリックの基準については、教育支援システムで呈示します。

事前・事後学習
観光産業を中心としたサービス産業や、人工知能・クラウド・ロボットなどの情報通信技術に関するニュースや情報を定期的に調査してください。(毎日30分)

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 「おもてなし」と情報技術
第3講 おもてなしとロボット
第4講 おもてなしサービスの事例研究(へんなホテルを中心として)
第5講 観光資源としてのロボット
第6講 インターネットとクラウドシステム
第7講 キャッシュレス決済
第8講 ビッグデータ
第9講 AI(音声合成、音声認識)
第10講 AI(対話システム、翻訳、ディープラーニング)
第11講 デジタルサイネージ
第12講 サイネージ向けコンテンツ作成(1)
第13講 サイネージ向けコンテンツ作成(2)
第14講 サイネージ向けコンテンツ作成(3)
第15講 フリーディスカッション

テキスト・教材 (参考文献含む)
教材は、教育支援システム(Moodle)を通じて呈示します。

担当者から一言
この授業は、コンピュータでの入力が必要となるので、人数に制限があります。最初の授業には必ず出席してください。
この授業は単なる教員が行う講義ではなくて、皆さんが自ら参加する形式で進めていきます。授業中や教育支援システムを通じたフリーディスカッションへの積極的な参加や発言を期待しています。

観光英語 I	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSET1001	前学期	選 択

授業のねらい
In this class students will do listening activities and conversation activities to prepare for travel abroad. This will be a challenging class and recommended for serious Intermediate level students who want to improve their English skills.このTravel Englishは1年生から参加できますが、英語のレベルは中～上級者向けです。

到達目標
The goal of this class is to help students prepare for experiences as tourists or as workers abroad. As English is a commonly used language in many countries, the focus will be on helping students develop the English skills useful in a variety of situations and also help students understand the customs and values of people in English speaking countries.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (60%). Feedback will be given on a regular basis.

事前・事後学習
Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes).

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを修得していきます。

授業計画
Week 1 - Introduction/Guidance
Week 2 - Talking about likes and dislikes
Week 3 - Talking about genre
Week 4 - Giving a summary 1
Week 5 - Giving a summary 2
Week 6 - Giving your reaction 1
Week 7 - Giving your reaction 2
Week 8 - Making a Prediction 1
Week 9 - Making a Prediction 2
Week 10 - Talking about culture 1
Week 11 - Talking about culture 2
Week 12 - Talking about people - Appearance 1
Week 13 - Talking about people - Appearance 2
Week 14 - Talking about a movie you saw
Week 15 - Review and Reflect
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
Textbook: Movie Time!
Publisher: Nan'un-do Publishing

担当者から一言
この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

観光英語Ⅱ エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSET1002	後学期	選 択

授業のねらい
In this class students will do listening activities and conversation activities to prepare for travel abroad. This will be a challenging class and recommended for serious Intermediate level students who want to improve their English skills.このTravel Englishは1年生から参加できますが、英語のレベルは中～上級者用です。

到達目標
The goal of this class is to help students prepare for experiences as tourists or as workers abroad. As English is a commonly used language in many countries, the focus is on helping students develop the English skills useful in a variety of situations.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (60%). Feedback will be given on a regular basis.

事前・事後学習
Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes).

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを修得していきます。

授業計画
Week 1 - Introduction/Guidance
Week 2 - Talking about likes and dislikes 2
Week 3 - Talking about genre 2
Week 4 - Giving a summary 3
Week 5 - Giving your reaction 3
Week 6 - Making a Prediction 3
Week 7 - Talking about culture 3
Week 8 - Talking about people - Character 1
Week 9 - Talking about people - Character 2
Week 10 - Talking about Proverbs
Week 11 - Talking about World Languages
Week 12 - Talking about Countries
Week 13 - Talking about Music
Week 14 - Talking about a movie you saw 2
Week 15 - Review and Reflect
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
Textbook: Movie Time!
Publisher: Nan'und-do Publishing

担当者から一言
この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

コンピュータ英語Ⅰ 柴田啓文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSET1003	前学期	選 択

授業のねらい
インターネットを利用して、コンピュータやアプリケーション、ニュース・サイトやクラウドに関わる英語の基本を学びます。また、PythonやRのプログラミングも体験します。さらに、Excelの使用法に関わる英語を学び、毎回のノートはExcelで提出します。コンピュータとインターネットと英語を同時に学びたいという学生のみなさんのための授業です。

到達目標
1. コンピュータ、インターネットに関わる基本的な英語を理解できる。
2. Excelに関わる基本的な英語を理解できる。
3. プログラムに関わる基本的な英語を理解できる。
4. インターネットを利用して、基本的な英語情報を収集できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcelを利用）の提出や小テストなどによります。提出ノートの小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の「評定」に表示します。

事前・事後学習
英語に親しむことが英語学習のポイントです。タイトルや写真だけでもよいので、毎日30分はBBC NEWSをながめてください。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。
第2回 教育支援システムの利用法。
第3回 ニュースの英語(毎回)、英語辞書と翻訳サイトの使用法。
第4回 Excelの英語の基礎1：基本的な使用法。
第5回 Excelの英語の基礎2：高齢化グラフの作成。
第6回 イラスト作成の英語の基礎1：Inkscapeの描画。
第7回 イラスト作成の英語の基礎2：Inkscapeで名刺作成。
第8回 写真編集の英語の基礎：Gimpでクリーニング。
第9回 PythonとRの英語の基礎1：基本的な集計。
第10回 PythonとRの英語の基礎2：モンティホール問題。
第11回 PythonとRの英語の基礎3：サイコロの同じ目がでる確率。
第12回 会話ロボットのプログラムの基礎。
第13回 株や仮想通貨の英語の基礎。
第14回 経済の英語の基礎：自然エネルギーによるパワー・シフト。
第15回 まとめ。
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
使用しません。

担当者から一言
学習支援システム(Moodle)を利用。コンピュータやスマートフォン、AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用するための英語の基礎を身に付けたいと考える学生の受講を期待します。事前にExcelやプログラミングの知識は必要ありません。

コンピュータ英語Ⅱ 柴田啓文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSET1004	後学期	選 択

授業のねらい
インターネットを利用して、コンピュータやアプリケーション、ニュース・サイトやクラウドに関わる英語を学びます。また、PythonやRのプログラムも作成します。さらに、Excelの使用方法に関わる英語を学び、毎回のノートでExcelで提出します。

- 到達目標**
1. コンピュータ、インターネットに関わる英語を理解できる。
 2. Excelに関わる英語を理解できる。
 3. プログラムに関わる英語を理解できる。
 4. インターネットを利用して、英語情報を収集できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcelを利用）の提出や小テストなどによります。提出ノートのや小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の「評定」に表示します。

事前・事後学習
英語に親しむことが英語学習のポイントです。タイトルや写真だけでもよいので、毎日30分はBBC NEWSを眺めてください。

英語表現Ⅰ ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSET1005	前学期	選 択

授業のねらい
Presentation Skills and Performance
In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook. However, students will be expected to make short presentations and group performances based on the text.

- 到達目標**
1. 英語の聴解力と話す力を高める。
 2. 英語の語彙を増やす。
 3. 観光英語の知識を身に付けるとともに、日本文化をより深く理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度	20%
Presentations and performances	30%
課題・小テスト	30%
定期試験	20%

授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

1. 講座が始まる前に基礎英語のテキストを復習する。
2. In addition to any homework assignments, after each class try to spend about 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises that were covered in the lesson. In addition, try and spend about 30 minutes preparing for the class.

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
- 第1回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。
 - 第2回 教育支援システムの利用法。
 - 第3回 ニュースの英語(毎回)、英語辞書と翻訳サイトの使用法。
 - 第4回 Excelの英語の基礎1：基本的な使用法。
 - 第5回 Excelの英語の基礎2：グラフの作成。
 - 第6回 イラスト作成の英語の基礎1：InkscapeのText。
 - 第7回 イラスト作成の英語の基礎2：Inkscapeでアニメーション。
 - 第8回 写真編集の英語の基礎：Gimpのフィルター。
 - 第9回 PythonとRの英語の基礎1：基本的な集計。
 - 第10回 PythonとRの英語の基礎2：日本の高齢化。
 - 第11回 PythonとRの英語の基礎3：世界の高齢化。
 - 第12回 会話ロボットのプログラムの英語の基礎。
 - 第13回 株や仮想通貨の英語。
 - 第14回 経済の英語：自然エネルギーによる「パワー・シフト」。
 - 第15回 まとめ。

テキスト・教材（参考文献含む）
使用しません。

担当者から一言
学習支援システム(Moodle)を利用。コンピュータやスマートフォン、AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用するための英語を身に付けたいと考える学生の受講を期待します。事前にExcelやプログラミングの知識は必要ありません。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

- 授業計画**
1. Guidance/ Radio Thriller
 2. Radio Thriller- Group performance
 3. Unit 1- People- Lesson A- Getting to know you
 4. Unit 1- People- Lesson B- Appearance
 5. Unit 2- Behavior- Lesson B- Actions
 6. Unit 2- Behavior- Lesson B- Feelings and Gestures
 7. Unit 3- Shopping- Lesson A- At the Market
"Slow Food"- Group performance
 8. Unit 3- Shopping- Lesson B- Let's go shopping
 9. 小テスト
 10. Unit 4- Vacation- Lesson A- Weather
 11. Unit 4- Vacation- Lesson B- Travelers
 12. Unit 5 -Heroes Lesson A- Pioneers
 13. Unit 5- Heroes- Lesson B- Personal Heroes
 14. Unit 6- The Mind- Lesson A- Memory
"The person I admire most"- Speech
 15. Unit 6- The Mind- Lesson B- Sleep
- 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
World Link 1 - Stu. Book w/Online Workbook- 3rd Ed
James R. Morgan- Cengage -¥3,290
テキストはオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加ができない。英語表現ⅠとⅡのテキストは同じ。

担当者から一言
対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。
1. 英和辞典とプリントを整理するためのファイルが必要。
2. 5回以上欠席すると単位がもらえない。
履修者が20名を超えた場合は抽選となります。

英語表現Ⅱ ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSET1006	後学期	選 択

授業のねらい
Presentation Skills and Performance II

This course is a continuation of 英語表現 I. In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook. However, students will also be expected to make short presentations and group performances based on the reading in class.

到達目標

1. 英語の聴解力と話す力を高める。
2. 人の前で英語で話す自信を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度	20%
Speeches, performances and presentations	30%
課題・小テスト	30%
定期試験	20%

授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

1. 英和辞典は必携。
2. In addition to any homework assignments, spend 60 minutes reviewing the class handouts, textbook exercises and videos covered in the previous class. Also try and spend about 30 minutes reading ahead in the text book and preparing for the class.

ビジネス英語Ⅰ デイビッド・ダイクス	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSET1007	前学期	選 択

授業のねらい
ホテルや旅行代理店など、様々な観光業界に就職したプロの意見を交ぜながら、「おもてなし」の現場ならではの英語を身に付けるための授業です。The aim is to master the kind of English used in the "hospitality scene" of the tourism and travel-related working world.

到達目標
訪日観光客を相手に、交通、宿泊施設、観光地などについての案内や、日本食、伝統文化体験、お土産などの説明に必要なスキルをみがくことが大きな目標です。
The main target in this course is to polish up skills needed to offer guidance in areas like transportation, accommodation and sightseeing, as well as information about Japanese culture.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

50% for Short Tests or class assignments
50% for End-of-term exam
Feedback: I'm happy to respond to questions or comments
For online feedback, I will provide an email address in class

事前・事後学習
BEFORE (90 min.)
[1] Fill in "Vocabulary Check" & "Pre-Activity"(30)
[2] Pre-read "Reading for Information"(30)
[3] Follow travel-related media topics(30)
AFTER (90 minutes)
[1] Check you understood
[2] Memorize dialogue scene.

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

1. Guidance/Course Introduction/ Ice Breaker
2. Unit 7- City Life- Lesson A- My Neighborhood
3. Unit 7- City Life- Lesson B- Big Cities
4. Unit 8- All About You- Lesson A- Sports
"My hometown"- Speech
5. Unit 8- All About You- Lesson B- Personality
6. Unit 9- Change- Lesson A- Habits
7. Unit 9- Change- Lesson B- Goals
8. テスト
9. Unit 10- Health- Lesson A- The Body
10. Unit 10- Health- Lesson B- Stress
11. Unit 11- Achievement- Lesson A- Talented People
12. Unit 11 -Achievement Lesson B- Risk
Demonstration speech
13. Unit 12- At the Movies- Lesson A- Types of Movies
14. Unit 12- At the Movies- Lesson B- Movie Review
15. Movie Review-presentation

定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
World Link 1 - Stu. Book w/Online Workbook- 3rd E
James R. Morgan- Cengage -¥3,290
テキストはオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加ができない。英語表現ⅠとⅡのテキストは同じ。

担当者から一言
対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。
1. 英和辞典とプリントを整理するためのファイルが必要。
2. 5 回以上欠席すると単位がもらえない。
履修者が20名を超えた場合は抽選となります。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

1. Guidance. Example topic: "Transportation"
2. "At a hotel check-in counter"
3. "Hotel facilities and services"
4. "Giving directions"
5. "Recommending a trip"
6. "Dining in Japan" (1)
7. "Dining in Japan" (2)
8. "Arranging a tour"
9. "Staying at a ryokan inn"
10. "Cultural experience in Japan" (1)
11. "Cultural experience in Japan" (2)
12. "Japanese souvenirs"
13. "Health problems and emergencies"
14. "Complaints and accidents"
15. "Departure" and Final review

Week 16: End-of-term exam

テキスト・教材（参考文献含む）
上杉恵美、阿部佳、涓東史江、松島康彦、神末武彦、Jacob Schere 著、
"Hospitality on the Scene"
金星堂、2018年、定価:2,200円(税別)

担当者から一言
[1] 科目の履修を決めしだい、テキストを早めに買うこと
[2] この科目用のホルダー(また、ノート)を用意すること
[3] ふつうは、欠席・遅刻しない
[4] 有意義な授業になるように、おたがいに真面目に、活発な参加を目指す

ビジネス英語Ⅱ デイビッド・ダイクス	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSET1008	後学期	選 択

授業のねらい
In this class, we will practice the English used in office work, at meetings, on business trips, for presentation talks, etc. Most lessons will feature workplace problems and ways of dealing with them, for example, how to keep a plan on schedule, or prepare for a presentation.

到達目標
The main target is to polish up skills needed for cooperating in office duties, discussing projects, making plans, and sharing information. Language for teamwork, goal sharing, and positive human relations will be stressed throughout.

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
50% for Short Tests and class Assignments
50% for End-of-term exam

事前・事後学習
BEFORE (90 min.)
[1] Check "Vocabulary Preview" & "Grammar Point" (30)
[2] Fill in "Grammar" page (30)
[3] Follow business English media topics (30)
AFTER (90 min.)
[1] Check you understood
[2] Complete filling in
[3] Memorize dialogue scene.

検定英語Ⅰ 武藤和成	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSET1009	前学期	選 択

授業のねらい
ねらいは下記の5点です。
1 英文法の重要事項に関しては、例文を活用し理解できるようにします。
2 問題を解きながら文法事項を確認していきます。
3 英文を読む上で必要な語彙の理解力を高めていきます。
4 語彙力を活用できるように、文章を読みながら空所補充で活用力を鍛えていきます。
5 可能な範囲で英語脳・耳を作れるように配慮します。

到達目標
次の5点を目標とします。
1 総合的な英語力を高める（最初の段階としては英検準2級に準ずる水準をめざす）
2 英語に慣れる（英語脳を鍛える予備段階）
3 TOEICに慣れ、大枠で理解できる部分を増やしていく（英語脳を鍛える）
4 TOEICやその他の資格試験を意識して、自立した学修スタイルを確立する
5 英語脳を自立した学修スタイルによってより鍛え、英検準2級、2級の水準にまず到達する

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点 30点 （授業に出席し、授業に集中し、ノート作成に努めている姿勢であること）
テスト 70点 （40点は前期試験 30点はその他のテスト）

事前・事後学習
事前事後学習について 毎日1時間ほど学修しましょう。
1 テキストを音読し、英文を専用のノートに書写し、正しく日本語に翻訳し意味を理解すること。
2 英文中の単語、熟語をまとめ、意味を調べ、単語熟語帳を作成すること。
3 その他 英文ノート、単語帳とともに毎講座持参し、指示通りに提出できるようにしておくこと。（単位認定・成績評価の点となる）英文ノートと単語熟語帳が1冊になっていてもよい。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
1. Guidance. Then small talk. Example topic: "This is my first visit."
2. Questions: "How do you like Bangkok?"
3. Scheduling: "It's going well so far."
4. Reporting: "Have they decided on the design yet?"
5. Help: "Could you take a look at them?"
6. A problem: "My flight was canceled."
7. Explaining a task: "What do you want me to do?"
8. Poor human relations: "She knows marketing very well, but ..."
9. Recruiting: "Thank you for coming to our interview."
10. Marketing meeting: "The competition will be very strong."
11. Before a presentation: "This is where we hold meetings."
12. Presentation: "I'd like to talk about our latest model."
13. Good human relations: "You are much better than me."
14. Aiming for promotion: "If I were you, I wouldn't miss it."
15. Announcing: "I'd like to propose a toast." Then review.
Week 16: End-of-term exam

テキスト・教材（参考文献含む）
角山照彦、Simon Capper 著:"Let's Read Aloud More"
成美堂、2016年、定価:2,200円(税別)

担当者から一言
[1] 科目の履修を決めしだい、テキストを早めに買うこと
[2] この科目用のホルダー(また、ノート)を用意すること
[3] ふつうは、欠席・遅刻しない
[4] 有意義な授業になるように、おたがいに真面目に、活発な参加を目指す

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
TOEIC専用のテキストを用い英語力を高めます
第1講 ガイダンス その後、語彙力養成
第2講 語彙力養成と文法・読解力養成
第3講 同上
第4講 同上
第5講 テキスト(Building TOEIC L & R Test Skills) Unit 1 2
第6講 同上 Unit 3 4
第7講 同上 Unit 5 6
第8講 同上 Unit 7 8
第9講 これまでの振り返りまとめ
第10講 同上
第11講 Unit 9 10
第12講 Unit 11 12
第13講 Unit 13 14
第14講 Unit 13 14
第15講 Unit 15
定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）
Building TOEIC L & R Test Skills(南雲堂 2,200円)
その他 英和辞書・和英辞書(電子辞書 可)
英文法に関する各社の参考書は自分で用意すること。

担当者から一言
ベストの姿勢で受講しましょう。ベストの姿勢とは、どのような姿勢であるのかを毎回、自問し、出席しましょう。

検定英語Ⅱ 武藤和成	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSET1010	後学期	選 択

授業のねらい

国際コミュニケーションにおけるツールとして、大きな位置を占める英語。その英語において、英語力を表す指標の1つとして評価されているTOEICに対するの対策講座です。

到達目標

- 1 TOEICのテスト形式に慣れ、対応力を身に付けます。
- 2 語彙力を飛躍的に高めることができるように努めます。
- 3 英語での表現方法に慣れ、読解のスピードを効率化します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価

平常点：30点(授業に出席し、授業に集中し、ノート作成に努めている)
ノートは事前事後の学習をフィードバックさせたまとめとして活用してください。不定期に回収し、得点化します。
テスト：70点(50点は後期試験 20点はその他のテスト)

事前・事後学習

検定英語Ⅰと同じ
以下に追記します。
事前学習
各UnitのSound Check及びGrammar Checkを辞書、文法書などを活用しながら熟読し、基本文Key Wordsなどをノートにまとめてマスターしましょう。(1時間程度)
事後学習
授業で扱ったリスニングのスキriptも参考にし、リスニング、(頭の中で日本語に翻訳しながらの)音読を重ね、英語力を身に付け、リスニング、リーディング力を高めましょう。
事後学習として、既学習のノートづくりを徹底しましょう。(1時間程度)

メディアツールa 池田幹男	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1001	前学期	選 択

授業のねらい

ラスタ画像とベクトル画像の違いについて知り、Web用のベクトル画像として標準化されたSVG(Scalable Vector Graphic)について学びます。SVGファイルを編集するソフトウェアであるInkscapeを使用してベクトル画像編集の基礎を学びます。

到達目標

Inkscapeを使用してロゴやアイコンのデザインができるようになることを目標にします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への参加態度 30%、提出課題 70%で評価し、定期試験は実施しません。
フィードバックは教育支援システム(Moodle)を通じて実施します。

事前・事後学習

授業のみでは操作に習熟することは不可能です。授業時間以外にもInkscapeを使用して操作に慣れるようにしてください。(週180分)

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1講 | ガイダンス(授業の進め方)と語彙力育成 |
| 第2講 | Traffic |
| 第3講 | Weather & Events |
| 第4講 | Lunchtime |
| 第5講 | Hotels |
| 第6講 | Health |
| 第7講 | A New Life |
| 第8講 | これまでの振り返り確認テスト |
| 第9講 | Job Hunting |
| 第10講 | Workplaces & Products |
| 第11講 | Customer Service & Office Crime |
| 第12講 | Office Messages |
| 第13講 | Ordering & Shipping |
| 第14講 | Business Trips |
| 第15講 | Success in Business |
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

Terry O'brien 三原 京 他「TOEIC テスト チャレンジ400」
南雲堂 定価2,090円(税込)
辞書(電子辞書)や参考書(文法書)は各自で準備すること。

担当者から一言

ベストの姿勢で受講しましょう。事前のベストの準備、事後のベストの振り返り・復習が基本です。
毎日の積み重ねで、英語力は必ず身に付きます。

授業の位置づけ 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

- Windows PCを用いた演習を行います。
- | | |
|------|----------------------------------|
| 第1講 | ガイダンス ラスタ画像とベクトル画像 |
| 第2講 | SVG(Scalable Vector Graphic)について |
| 第3講 | ベジェ曲線を描く |
| 第4講 | ベジェ曲線の操作に慣れる |
| 第5講 | パスツールを使用して曲線を変更する |
| 第6講 | その他のInkscape組み込みの図形 |
| 第7講 | 文字の入力と配置 |
| 第8講 | グループ化 |
| 第9講 | 図形の切り取りと併合 |
| 第10講 | レイヤー |
| 第11講 | その他のInkscapeの機能 |
| 第12講 | 最終課題の制作(1) |
| 第13講 | 最終課題の制作(2) |
| 第14講 | 最終課題の制作(3) |
| 第15講 | 最終課題の提出と参加者による講評 |
- 授業はいずれもPCを用いた実習です。

テキスト・教材(参考文献含む)

全ての教材は四日市大学教育支援システム(Moodle)に提示します。
参考図書「できるクリエイター Inkscape 独習ナビ」インプレスジャパン発行

担当者から一言

InkscapeはGPLで配布されているソフトウェアで自由に使用することができます。可能ならば自分のPCにインストールしてInkscapeの様々な可能性に挑戦してください。

メディアツール a	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
池上 貴文		GSMD1001		

授業のねらい
DTPやWEBなど様々なメディアで、ビジュアル作成に利用されるドローソフトの定番、Adobe社の「イラストレーター」を使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。
授業はApple社のマッキントッシュを使い、毎回の課題をひとつひとつこなしながら、自分の思考をビジュアル表現する楽しさを体感し、基礎技術を身につけます。

到達目標
ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業内の課題(100%)。
課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習
世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。
必要に応じて資料の準備などを指示します。

メディアツール a	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
都 映里		GSMD1001		

授業のねらい
Apple社Macintosh (Mac) でAdobe社IllustratorとPhotoshopを使用。メディアツール a では主にIllustratorの実習を通して、色や文字、レイアウト、デザインの基本を習得し、視覚効果を学びます。
・メディアツール a で得た知識と技術がメディアツール b で生きてきますので、b を受ける前に a を受けておくことを強く薦めます。

到達目標
インプットした情報を整理し、目的を持って視覚的にアウトプットできる技術を身につけます。
どの分野の職業に進んでも、メディアツールで修得した知識や技能がいかせるような課題制作をします。
提出課題と取組み姿勢が成績評価の対象となります。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
出席状況・課題の提出率・理解度と出来栄え・小テスト・取組み姿勢すべての総合点。
課題提出がすべてであっても取組み姿勢に問題があると判断した場合は単位は与えません。
制作物について各人にフィードバックし、その都度改善、向上してもらいます。

事前・事後学習
宿題を前の週の講義で指示します。忘れてくると実習が遅れるため必須。
Macを持っていなくても、インターネットを活用し、予習復習を行ってください。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
1. ガイダンス
2. 基本操作
3. 描画の基本
4. 自由曲線による描画
5. 色の指定、配色
6. 文字の入力、変形
7. イラストレーション
8. その他のツール
9. 写真の操作
10. 文章の編集
11. データの編集
12. デザインの実践 1
13. デザインの実践 2
14. オリジナル作品制作
15. 合評会

テキスト・教材 (参考文献含む)
実習内容に応じて教員から参考資料、データなどを配布します。

担当者から一言
コンピュータやデザインに苦手意識がある方でも、好奇心があれば大丈夫です！

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
第1講 ガイダンス・ファイル管理から課題提出までの流れ・Mac・Illustratorの基本操作
第2講 色について・書体について
第3講 トレーニング(回転・整列・パスファインダー・ペン・上下関係)
第4講 四コマまんが(複製・移動・レイヤー)
第5講 ロゴタイプ・ロゴマーク
第6講 グッズデザイン
第7講 名刺・封筒(レイヤー・文字組み)
第8講 ポストカード(画像補正・変換・配置・マスク)
DM
第9講 本の表紙デザイン
第10講 GIFアニメーション
第11講 WEBバナー
第12講 小テスト(筆記・実技)
第13講 チラシ①
第14講 チラシ②

・欠席すると理解不十分となっていくので、やむを得ない場合以外は必ず出席すること。
・欠席した場合は、翌週までに欠席した分の講義内容を把握しておくこと。

テキスト・教材 (参考文献含む)
教員が用意するもの、及び、目に映るすべてのもの。
配布されたものは必ずファイリングして講義時に持参。

担当者から一言
技術的なことだけでなく、楽しみながら表現に対しての考える力を身につけ、想像力を創造力にしていきたいと思います。

メディアツールb	科目ナンバリング	1 年次	2 単位
	池田 幹男 GSMD1002	後学期	選 択

授業のねらい
 コンピュータにおける色表現と、さまざまなカラーのラスター画像ファイルフォーマットについて理解し、ラスター画像編集ソフトウェアGIMPの使用方法について学び、色の変更、画像の変形、合成、フィルターなどの様々な画像処理について学びます。

到達目標
 GIMPを使用してラスター画像の色補正、画像の変形、合成など処理ができ、複数レイヤーを活用した画像が作れるようになることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業の演習課題(50%)と最終課題(30%)、授業への参加態度(20%)で評価します。定期テストは実施しません。フィードバックは教育支援システム(Moodle)を通じて実施します。

事前・事後学習
 GIMPの操作は簡単には身につけません。授業以外の時間にも操作して慣れるようにしてください。(週180分)GIMPは自由にインストールできるので、可能ならば自分自身のコンピュータで動かして操作してください。

メディアツールb	実務	科目ナンバリング	1 年次	2 単位
	池上 貴文	GSMD1002	後学期	選 択

授業のねらい
 DTPやWEBなど様々なメディアで、ビジュアル作成に利用されるペイント系ソフトの定番、Adobe社の「フォトショッップ」を使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。
 授業はApple社のマッキントッシュを使い、毎回の課題をひとつひとつこなしながら、自分の思考をビジュアル表現する楽しさを体感し、基礎技術を身につけます。

到達目標
 ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業内の課題(100%)。課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習
 世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。必要に応じて資料の準備などを指示します。

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
 Windows PCを用いた演習を行います。
 第1講 ガイダンスとコンピュータでのラスター画像表現
 第2講 レイヤー
 第3講 フィルター
 第4講 色の補正
 第5講 パス
 第6講 パスの編集
 第7講 文字の入力と変形
 第8講 レイヤーマスクとアルファチャンネル
 第9講 スタンプを使用した画像の修正
 第10講 画像ファイルへのエクスポートと注意点
 第11講 GIMPのその他の機能
 第12講 最終課題の制作(1)
 第13講 最終課題の制作(2)
 第14講 最終課題の制作(3)
 第15講 最終課題の提出と講評
 授業はいずれもPCを用いた実習です

テキスト・教材 (参考文献含む)
 GIMPの操作は簡単には身につけません。授業以外の時間にも操作して慣れるようにしてください。(週180分)

担当者から一言
 GIMPはGPLで配布されているソフトウェアで無料で使用することができます。可能ならば自分自身のPCにインストールしてGIMPの様々な可能性に挑戦してください。描きたい絵を描くことが、上達することです。

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
 Macを用いた演習を行います。
 1. ガイダンス
 2. 基本操作
 3. 画像処理の基本
 4. 選択範囲作成
 5. 写真修正、画像合成コラージュ
 6. 変形、拡大縮小と解像度
 7. ペイント、色変換
 8. 文字入力、加工
 9. イラストレーション
 10. フィルター、その他のツール
 11. GIFアニメーション
 12. デザインの実践1
 13. デザインの実践2
 14. オリジナル作品制作
 15. 合評会

テキスト・教材 (参考文献含む)
 実習内容に応じて教員から参考資料、データなどを配布します。

担当者から一言
 コンピュータやデザインに苦手意識がある方でも、好奇心があれば大丈夫です!

メディアツールb 都 映里	実務	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		GSMD1002	後学期	選 択

授業のねらい
Apple社Macintosh (Mac)でAdobe社PhotoshopとIllustratorを使用。メディアツールbでは主にPhotoshopの実習を通して、画像補正・加工・編集の基本を習得し、視覚効果の表現を広げ、DTP、WEB、映像などのメディアに展開できる知識と技術を身につけます。
*メディアツールbではaで得た知識と技術が生きてきますので、bを受ける前にaを受けておくようになしてください。

到達目標
インプットした情報を整理し、目的を持って視覚的にアウトプットできる技術を身につけます。
どの分野の職業に進んでも、メディアツールで習得した知識や技能がいかせるような課題制作をします。
提出課題と取り組み姿勢が成績評価の対象となります。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
出席状況・課題の提出率・理解度と出来栄え・小テスト・取り組み姿勢すべての総合点。
課題提出がすべてであっても取り組み姿勢に問題があると判断した場合は単位は与えません。
制作物について各人にフィードバックし、その都度改善、向上してもらいます。

事前・事後学習
宿題を前の週の講義で指示します。忘れてくると実習が遅れるため必須。
Macを持っていなくても、インターネットを活用し、予習復習を行ってください。

メディアツールc 田中麻衣	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
		GSMD1003	前学期	選 択

授業のねらい
この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。
専門教育科目でメディアを学びたい学生に基礎を勉強し、スキルを積み上げていただきます。

到達目標
Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない初心者が「映像作品の完成」が目標です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
最終的に一人1作品を制作していただきます。
その作品の出来栄えと授業に対する意欲、授業での態度などを総合評価し成績を出します。

事前・事後学習
たくさんの映像作品にふれてもらいたいので、Youtubeにアップロードされているもの、TVドラマ、CM、ドキュメンタリー、映画など、最低でも1日に1本程度みることを準備学習とします。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
第1講 ガイダンス・ファイル管理から課題提出までの流れ・Mac、Photoshopの基本操作、色補正
第2講 移動・選択・テキスト・レイヤー・レイヤー効果
第3講 画像データの修正
第4講 切り抜きと合成(トレーニング)
第5講 デザインカード
第6講 ロゴデザイン
第7講 グッズデザイン
第8講 映画広告①
第9講 映画広告②
第10講 WEBサイトデザイン①(素材・部品作り)
第11講 WEBサイトデザイン②(レイアウト)
第12講 小テスト(筆記・実技)
第13講 スライドショー①(素材作り)
第14講 スライドショー②(素材作り)
第15講 スライドショー③(編集)

*欠席すると理解不十分となっていくので、やむを得ない場合以外は必ず出席すること。
*欠席した場合は、翌週までに欠席した分の講義内容を把握しておくこと。

テキスト・教材 (参考文献含む)
教員が用意するもの、及び、目に映るすべてのもの。
配布されたものは必ずファイリングして講義時に持参。

担当者から一言
技術的なことだけでなく、楽しみながら表現に対しての考える力を身につけ、想像力を創造力にしていきたいと思います。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
第1回:ガイダンス
第2回:色んな種類の映像を楽しむ
第3回:Premiere Pro「初期設定」
第4回:Premiere Pro「基本操作1」
第5回:Premiere Pro「基本操作2」
第6回:Premiere Pro「基本操作3」
第7回:Premiere Pro「応用編1」
第8回:Premiere Pro「応用編2」
第9回:実習1(企画&撮影)
第10回:実習1(編集)
第11回:実習2(企画&撮影)
第12回:実習2(編集)
第13回:最終課題制作(企画&撮影)
第14回:最終課題制作(編集)
第15回:最終課題制作(編集)

テキスト・教材 (参考文献含む)
必要に応じてプリントを配布します。

担当者から一言
大学卒業後映像業界へ進む方、編集に興味がある人に、少しでもこの授業で学んだ事をいかしてもらえそうな授業をしたいと思います。楽しみながら、一緒に学びましょう。

メディアツール d	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
関根辰夫		GSMD1004		

授業のねらい
Apple社の音楽制作ソフトであるGarageBandをツールとして使い、楽器を演奏できない人でも自己表現の一つとしての音楽を作り出すことができるようにする。また映像に合わせて音楽やSE(効果音)などを編集する基礎を学ぶ。

到達目標
音源制作の基礎を学びオリジナルの音源を作り上げる力を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の実習態度及び課題や作品づくりを通して評価します。定期試験は行いません。作品づくり1(15%)、作品づくり2(30%)
毎回の課題(55%)
その場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日フィードバックします。

事前・事後学習
毎回の授業で学んだ内容は、次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考にし、不明な点は参考文献などで調べておくこと - 60分)
またiPhoneやiPad版のGarageBandもあるので、持っている人はMacintosh版との共通点や異なる点を意識しつつ復習や予習のツールにする。(毎日30分程度)
メディアツールのa、bを先行して履修し、Macintoshの操作には慣れていることが望ましい。

Webデザイン a	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
堀内敬弘		GSMD1005		

授業のねらい
この授業ではWebデザインに必要なツール「Adobe Photoshop」、
「Adobe Illustrator」を用いたデザインワークの学習を行います。そして、Webプログラミングで学習したHTML・CSSを応用して自らデザインしたコンテンツをどのようにWEB上で表現していくのか、その一連のプロセスを学習し、業界のワークフローの根幹に触れることで業界への関心を高めてもらうことがこの授業の狙いです。

到達目標
この授業では、学生諸君がWebサイト製作、デザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトの制作ができるようになる事を到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
・授業時に指示する簡単な課題の提出状況及び受講態度：20%
・授業ごとに行う簡易的なプレゼンテーションへの積極的な参加態度：20%
・全授業終了後に提出する課題の提出状況及びクオリティ・理解度：60%
・定期試験：定期試験はありません

事前・事後学習
日頃からスマートフォンやパソコンなどでいろんなWebサイトを閲覧し、気に入ったものはブックマークしておくこと。(毎日10分程度)
上記でブックマークしたものは毎授業開始時に数名ずつ皆へサイトの紹介(プレゼンテーション)をしていただき、人前に立って発言する、説明する訓練を行います。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
第1講 ガイダンス(履修者選抜のくじ引き)/音楽の基礎
第2講 GarageBand体験
第3講 Apple Loops の検索、配置
第4講 Apple Loops 編集、オーディオ化など
第5講 作品づくり 構想、企画
第6講 作品づくり 打ち込み
第7講 作品づくり ミキシング～作品提出～発表
第8講 既成の曲の取り込み/編集
第9講 生音の録音/編集
第10講 エフェクトについて
第11講 ミキシングについて
第12講 作品づくり 2 構想、企画
第13講 作品づくり 2 打ち込み等
第14講 作品づくり 2 ミキシング～作品提出
第15講 発表～まとめ
授業はいつでもMacを用いた実習です。
履修希望者が20名を超えていた場合、第1講においてクジ引きで受講者を選びます。
第1講を欠席・遅刻した学生は、自動的に受講できなくなると考えてください。

テキスト・教材 (参考文献含む)
配布するプリント。

担当者から一言
音楽を作るには楽器ができないと無理だと考えるかもしれませんが、今ではコンピューターを使い楽器の演奏ができなくても、音楽作品を作ることが可能です。この講義では音楽の理論の基礎も少しずつ学びながら、簡単な楽曲を仕上げる力を養います。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
第1講 <ガイダンス> 先生の自己紹介/今後の講義内容、試験について/今、WEBデザインに求められていること/体験してみよう
第2講 Webデザインとは /Web サイトの構造
第3講 お気に入りのWEBサイトを探そう / 実践の準備をしよう
第4講 Adobe Photoshop 基本演習(1)
第5講 Adobe Photoshop 基本演習(2)
第6講 Adobe Illustrator 基本演習(1)
第7講 Adobe Photoshop 応用演習-課題制作(1)
第8講 Adobe Photoshop 応用演習-課題制作(2)
第9講 Adobe Photoshop 応用演習-課題制作(3) / コーディング環境準備
第10講 HTMLコーディング-課題制作(1)
第11講 HTMLコーディング-課題制作(2)
第12講 HTMLコーディング-課題制作(3)
第13講 CSSコーディング-課題制作(1)
第14講 CSSコーディング-課題制作(2)
第15講 CSSコーディング-課題制作(3)

テキスト・教材 (参考文献含む)
「Webプログラミング a」受講時に使用したノート、資料など持ち込み可。

担当者から一言
本講義はWebプログラミング a の事前受講が前提となっております。Webプログラミング a を受講し、よりWebデザインの業界へ興味のある学生は是非受講してみてください。
先生と一緒にモノづくりの難しさも達成感も全て楽しみながら授業しましょう。

Webデザインb	実務	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	堀内敬弘	GSMD1006	前学期	選 択

授業のねらい
この授業ではWebデザインaで学習したデザイン・コーディングのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザイン・構築・納品までのプロセスをチーム(※1)で学びます。
※1 コロナウイルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。

到達目標
チームで一丸となり一つのものを作り上げることでそのプロセスの楽しさ、大変さ、協調性、達成感などWebデザインにおける真の醍醐味を体験して頂くことを到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績は次のような配分により評価します。
・チームとのコミュニケーション能力や協調性及び、受講態度:30%
・第15講にプレゼンを行う課題の提出状況および制作のクオリティとプレゼン力:70%

事前・事後学習
日頃からスマートフォンやパソコンなどでいろんなWebサイトを閲覧し、気に入ったものはブックマークしておくこと。(毎日10分程度)
上記でブックマークしたものは毎授業開始時に数名ずつ皆へサイトの紹介(プレゼンテーション)をしていただき、人前に立って発言する、説明する訓練を行います。

Webプログラミングa	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1007	後学期	選 択

授業のねらい
ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。

到達目標
HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
「提出物」(55%)、「作品」(45%)
提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。

事前・事後学習
講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること(60分)
講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと(120分)。本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミングb」で学習します。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
Macを用いた演習を行います。
第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め
第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とヒヤリング
第3講 ワイヤフレーム制作(Adobe Illustrator)①
第4講 ワイヤフレーム制作(Adobe Illustrator)②
第5講 デザイン制作(Adobe Photoshop)①
第6講 デザイン制作(Adobe Photoshop)②
第7講 デザイン制作(Adobe Photoshop)③
第8講 HTMLコーディング①
第9講 HTMLコーディング②
第10講 HTMLコーディング③
第11講 CSSコーディング①
第12講 CSSコーディング②
第13講 CSSコーディング/CSS最終調整
第14講 プレゼンテーション準備
第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ
授業はいずれもPCを用いた実習です。

テキスト・教材 (参考文献含む)
「Webプログラミングa」受講時に使用したノートや資料の持ち込み可。

担当者から一言
Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。Webデザインの授業の集大成でもあります。Webプログラミング、Webデザインaで学習したデザインスキル、HTML・CSSスキルを活かしてチームで1つのWebページを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、WWWとWeb
第2講 HTML概要
第3講 画像とリンク
第4講 箇条書き
第5講 表組み
第6講 入力フォーム
第7講 CSS概要
第8講 見出しと段落
第9講 boxモデル
第10講 ヘッダー
第11講 表のスタイリング
第12講 問合せフォーム
第13講 Webサイト制作(1)
第14講 Webサイト制作(2)
第15講 Webサイト制作(3)

テキスト・教材 (参考文献含む)
赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書」 技術評論社 ¥2,600+税

担当者から一言
プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。

Webプログラミング b 池田 幹男	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMD1008	前学期	選 択

授業のねらい

この授業では主にJavaScriptを使用したプログラミングを学びます。特に、Webページの基本であるHTMLやCSSと連携してそれら进行操作するプログラミングや、CanvasAPIを使用したグラフィックを操作するプログラミング、イベントハンドラーを使用したプログラミングについて学びます。

到達目標

JavaScriptによる動的なWebページの制作、スタイルの操作、簡単なグラフィックプログラムが出来るようになることを目標にします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の授業の演習課題(70%)と、授業への参加態度(30%)で評価します。定期テストは実施しません。教育支援システム(Moodle)を通じてフィードバックします。

事前・事後学習

教育支援システムを通じて提示する例題や課題、Mozilla developerでの解説や例を予習(毎週90分)復習(毎週90分)することを推奨します。また、例題をもとに新しいプログラムを自分の力で作るとより理解が深まります。

インターネット論 片山 清和	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMD1009	前学期	選 択

授業のねらい

現在、スマホからパソコンに至るまでほとんど全てのコンピュータがインターネットでつながっている。そのインターネットを使って、電子メールを送受信したり、LINEなどのSNSを利用したりしています。この講義では、コンピュータネットワークの基礎知識と動作原理を最新の動向も含めて講義します。

到達目標

- ①インターネットの仕組みを説明できる。
- ②TCP/IPモデルを説明できる。
- ③ネットワーク機器の動作を説明できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「レポート・小テスト」(40%)、「定期試験」(60%)
レポート・小テストは採点し、コメントを付加して、以降の講義で返却します。

事前・事後学習

講義前にはテキストを読んでくること(60分)。
講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと(120分)。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

Windows PCを用いた演習を行います。
第1講 ガイダンス e-Learning の使用法
第2講 JavaScriptを使用した動的なウェブページの例
第3講 getElementById, getElementsByTagName, setInterval
第3講 JavaScript(式と変数)
第4講 JavaScript(関数)
第5講 JavaScript(繰り返し)
第6講 JavaScript(イベントとイベントハンドラ)
第7講 JavaScriptによるHTMLの操作
第8講 JavaScriptによるCSSの操作
第9講 Canvas API の解説
第10講 Canvas API プログラミング 1
第11講 Canvas API プログラミング 2
第12講 自由課題(1)
第13講 自由課題(2)
第14講 自由課題(3)
第15講 自由課題(4)
授業はいずれもPCを用いた実習です。

テキスト・教材(参考文献含む)

教育支援システム(Moodle)を通じて、資料やインターネット上の情報、プロトタイプを提供します。

担当者から一言

「Webプログラミング a」の単位を事前に修得することを勧めます。学ぶことが多いので、予習と復習をしっかりと行い、頭の中で知識を整理していかないと、訳が分からなくなります。

授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画

第1講 ガイダンス、インターネットの歴史
第2講 ネットワークの基礎知識(1)
第3講 ネットワークの基礎知識(2)
第4講 ネットワークの基礎知識(3)
第5講 信号の伝送と衝突(1)
第6講 信号の伝送と衝突(2)
第7講 信号の伝送と衝突(3)
第8講 IPアドレッシング(1)
第9講 IPアドレッシング(2)
第10講 ルーティング(1)
第11講 ルーティング(2)
第12講 コネクションとポート番号(1)
第13講 コネクションとポート番号(2)
第14講 コネクションとポート番号(3)
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

網野衛二 著 「[改訂新版]3分間ネットワーク基礎講座」 ¥1,922
【参考文献】
三上信男 著 「ネットワーク超入門講座 第3版」 SBクリエイティブ ¥2,138

担当者から一言

インターネットは現代社会を支える極めて重要な要素です。内容はやや専門的で難しく感じるかもしれませんが、皆さんが楽しく受講できるように、身近な事例を多く紹介します。

基礎数学	実務 ナンバリング	科目	1年次	2単位
		GSMS1001	前学期	選 択

吉見勝治

授業のねらい
 高度な数学を学ぶための最も基礎的な数学について講義します。この講義を受講すると、基礎的な計算方法をマスターするとともに、関数、微分、積分、集合、確率などについて考え方を理解することができます。

到達目標
 (1)関数(三角関数、指数関数、対数関数等)とグラフを理解すること
 (2)微分、積分の基礎を理解すること
 (3)ベクトルと空間図形について理解すること
 (4)順列、組合せと確率について理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 出席率、宿題の提出率(40%)と定期テストの結果(60%)から評価します。提出された宿題は以降の講義で返却します。

事前・事後学習
 日頃からインターネットや新聞のニュースについて「数字」が出てきた場合に、その根拠や計算方法を考えるよう意識して下さい(60分)。また、演習の宿題が出た場合には次の講義までに必ず解いて提出して下さい(60分)。

統計リテラシー	実務 ナンバリング	科目	1年次	2単位
		GSMS1002	後学期	選 択

井岡幹博

授業のねらい
 環境関連の実験を行うと計測結果としてのデータが得られます。フィールド調査やアンケート調査を行っても、様々なデータが得られます。得られたデータを整理・分析し、データの中に潜む対象物の本来の姿を引き出す技術が統計学と言えます。たとえば、限られた数のデータから全体の姿を推定すること、得られたデータから役に立つ情報を引き出すことができるのみならず、確率の問題まで、統計学は含みます。ここでは基本的な事柄から応用までを具体的な例、グラフ等を使って説明し、実習していきます。

到達目標
 確率変数の意味を理解する。
 2つの確率変数の相関係数が計算できる。
 正規分布の意味を理解する。
 回帰分析が実行できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 課題提出50% 定期試験50%
 提出した課題はその都度採点して返却します。

事前・事後学習
 配布されるプリントを熟読すること(予習)。毎回課される課題を自宅で演習すること(復習)。

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス ー数学は生活に必要なのか?ー
 第2講 数と式の計算
 第3講 関数とグラフ
 第4講 三角関数
 第5講 指数関数
 第6講 対数関数
 第7講 関数の極限
 第8講 微分基礎
 第9講 積分基礎
 第10講 パラメータ曲線と極方程式
 第11講 複素平面
 第12講 ベクトルと空間図形
 第13講 集合
 第14講 順列、組合せと確率
 第15講 まとめ、演習
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキスト:特にありません
 参考文献:石村園子著「大学新入生のための±入門 増補版」共立出版(2004年)

担当者から一言
 数学は公式の暗記教科だと思っていないですか?また、日常生活には四則演算以外は無関係と思っていないですか?私は高校時代の数学の教師に「数学は雰囲気」と教わりとても数学が楽しくなりました。是非その感覚を皆さんにも味わってもらいたいと思います。

授業の位置づけ
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 第2講 平均の性質
 第3講 分散と標準偏差
 第4講 回帰分析①
 第5講 回帰分析②
 第6講 相関係数
 第7講 順列と組み合わせ
 第8講 標本空間と事象
 第9講 確率
 第10講 条件付き確率
 第11講 ベイズの公式
 第12講 確率変数
 第13講 正規分布(1)
 第14講 正規分布(2)
 第15講 データが世の中でどのように使われているか
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキスト・教材
 長谷川勝也著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」技術評論社 1,706円
 参考文献
 宮川公男著「基礎統計学 第4版」有斐閣 ¥2,800+税

担当者から一言
 授業内容確認のための課題を出します。とくに予備知識は必要としません。加減乗除が計算できれば、課題は解けます。まずは、ちゃんとノートを準備することです。数学概論、基礎数学を履修していることが望ましい。

確率基礎	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	金岩 稔	GSMS1003	前学期 選 択

授業のねらい
 科学とはデータに基づき物事を客観的に表すことであり、その客観的評価のために必要なスキルの一つが統計学となります。
 統計学の理解には確率計算が必須となり、正しい確率計算なしでは、正しい統計学的手法の利用はできません。
 この講義では初学者にも分かりやすいように、確率計算の基礎を学んでいただき、統計学の理解への礎とすることを目的としています。

到達目標
 統計学の理解に必要な確率計算を行えるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験により評価します。講義中に小テストや課題を課した場合はその結果もプラスします。
 講義中に問題を解いてもらい、その場で解法を説明しフィードバックします。

事前・事後学習
 講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。
 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。

授業の位置づけ
 いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス、統計学とは
 第2講 順列・組み合わせ
 第3講 標本空間と事象
 第4講 確率
 第5講 条件付き確率
 第6講 ベイズの公式
 第7講 確率変数
 第8講 2項分布
 第9講 ポアソン分布
 第10講 正規分布(1)
 第11講 正規分布(2)
 第12講 確率分布の期待値(1)
 第13講 確率分布の期待値(2)
 第14講 確率分布の分散
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 長谷川勝也 著 「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社 ¥1,580+税

担当者から一言
 復習が大変重要で、事前の講義内容を理解していることを前提に講義を進めるため、欠席した場合には各自の責任の下講義内容の把握を行ってください。

微分積分	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	片山 清和	GSMS1004	前学期 選 択

授業のねらい
 この講義では微分と積分について学びます。微分は情報の変化を理解するための基本的な方法であり、近傍における変化量を求めることとなります。積分は面積を求める計算方法になりますが、この講義では特に統計学における確率分布を意識して講義を行います。

到達目標
 ①微分・積分の概念を理解している
 ②微分・積分の簡単な計算ができる

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)
 提出課題は100点満点で採点し、教育支援システム(Moodle)を介して返却します。

事前・事後学習
 講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。
 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。
 「基礎数学」を履修していることが望ましい。

授業の位置づけ
 いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
 第1講 ガイダンス、微分・積分とは
 第2講 微分の定義
 第3講 和の微分と差の微分
 第4講 積の微分と商の微分
 第5講 合成関数の微分
 第6講 指数関数の微分と対数関数の微分
 第7講 微分とグラフ(1)
 第8講 微分とグラフ(2)
 第9講 正規曲線のグラフ
 第10講 不定積分
 第11講 定積分
 第12講 定積分の基本公式
 第13講 部分積分と置換積分
 第14講 正規曲線と正規分布
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 なし(必要に応じて配布します)
 【参考文献】山本昌宏「文系のためのめっちゃやさしい 微分積分」ニュートンプレス ¥1,500+税

担当者から一言
 学習支援システム(Moodle)を利用します。
 履修者の理解度に応じて内容を変更することがあります。

線型代数	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	金岩 稔	GSMS1005	前学期 選 択

授業のねらい
この講義では線形代数の基礎を理解するために、一般的な集合と写像の理解からはじめ、ベクトルや行列の性質を理解します。これらを用いて連立一次方程式の解法の理論化を行います。

到達目標
集合・写像の理解と、線形代数における関数の理解、ベクトル行列の性質や解法を理解する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
期末試験により評価します。講義中に小テストや課題を課した場合はその結果もプラスします。講義中に問題を解いてもらい、その場で解法を説明しフィードバックします。

事前・事後学習
講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。

データ統計処理	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	片山 清和	GSMS1009	前学期 選 択

授業のねらい
現在、自然科学の分野だけでなく、人文/社会科学の分野でも数字データが用いられています。それらの数字データを分析する道具として、統計学が用いられています。特に近年では、ビッグデータと呼ばれる大規模データを統計処理して、社会生活に役立てる試みがさかに行われています。そのため、統計学はより身近になっており、統計学なくして社会生活が成り立たないと言っても言い過ぎではありません。この講義では、Excelの関数を用いて大規模なデータに対して統計処理を行う方法と、推定や検定を行う方法についても学びます。

到達目標
Excelを用いて大規模なデータに対して統計処理ができるようになります。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)
教育支援システム(Moodle)に提出した課題は、100点満点で採点し、コメントを付加してMoodleを介して返却します。

事前・事後学習
講義前には前回までの内容を復習しておくこと(60分)。講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと(120分)。

授業の位置づけ
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、線形代数とは
第2講 集合と写像
第3講 数ベクトルと行列
第4講 行列とその演算
第5講 行列とその演算(つづき)
第6講 色々な行列
第7講 逆行列の求め方
第8講 内積と直交行列
第9講 連立方程式の解き方
第10講 平面上の一次変換
第11講 固有値と固有ベクトル
第12講 行列式の展開公式
第13講 行列式の計算法
第15講 行列式の計算法(つづき)
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
特に設定しません。

担当者から一言
復習が大変重要で、事前の講義内容を理解していることを前提に講義を進めるため、欠席した場合には各自の責任の下講義内容の把握を行ってください。

授業の位置づけ
いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

授業計画
第1講 ガイダンス、
第2講 1次元データの整理(1)
第3講 1次元データの整理(2)
第4講 2次元データの整理(1)
第5講 2次元データの整理(2)
第6講 確率分布(1)
第7講 確率分布(2)
第8講 確率分布(3)
第9講 推定(1)
第10講 推定(2)
第11講 推定(3)
第12講 検定(1)
第13講 検定(2)
第14講 検定(3)
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
長谷川勝也 著 「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社 ¥1,706
【参考文献】
宮川公男 著 「基礎統計学 第4版」 有斐閣 ¥2,800+税
「基礎統計学 I 統計学入門」 東京大学出版会 ¥2,800+税

担当者から一言
学習支援システム(Moodle)を利用します。積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。「基礎数学」「統計リテラシー」「確率基礎」「微分積分」「線形代数」「データ分析の基礎」「統計的分析」を履修していることが望ましい。

環境情報学概論Ⅰ	科目ナンバリング	1年次	2単位
	千葉 賢 EFC1001	前学期	必修

授業のねらい

自然環境分野とメディア情報分野の多様な講義を交互に配置し、実習も交え、両分野の学問の特徴や面白さを教える。多数の教員がオムニバス形式で授業を担当するので、1年次を担当していない教員を知る機会にもなる。以降の環境情報学部内での進路選択に役立つ情報も提供する。環境情報学概論Ⅱに繋がる内容とする。

到達目標

自然環境分野とメディア情報分野の学問の特徴を知り、環境情報学部で学ぶ分野を選択できるようにする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

各回の担当の先生による採点による（100%）。3割を超えて欠席した場合は単位を認定しません。

事前・事後学習

レポート課題の提出準備、または講義でとったノートの見返しと不明な点を調べる（90分）。毎回、次回講義の予告をするので下調べをすること（90分）。

環境情報学概論Ⅱ	科目ナンバリング	1年次	2単位
	千葉 賢 EFC1002	後学期	必修

授業のねらい

自然環境分野の教員がまとめた教科書「北勢地域の自然環境と情報環境」に沿って授業を行う。2年次以降の演習科目（研究室での研究活動）に向けて、北勢地域の環境問題を幅広く学ぶことを目標とする。

到達目標

北勢地域の自然環境の特徴と問題点を知り、進路を選択（研究室選択を含む）できるようにする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業のノートを取り、また与えられた課題に取り組み、ノートに解答を書いて、ノートを撮影してMoodleに提出する（6点/回）。これを各回の担当教員が採点し、フィードバックを行う。出席状況、授業への姿勢などを考慮して加点（最大10点）する。6点×15回+10点=100点。

事前・事後学習

教科書を読み予習する（90分）。講義でとったノートの見返しと、与えられた課題に取り組むこと（90分）。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、環境調査とIT技術の連携(千葉)
- 第2講 里山と竹林保全(PPK四日市)
- 第3講 竹林保全実習(PPK四日市)
- 第4講 地域農業と環境(廣住)
- 第5講 スタジオ「夢宣言」(木村、関根、黒田)
- 第6講 海洋のプラスチック問題(千葉)、ニュースから知る光メディア(黒田)
- 第7講 メディアとクリエイティビティ(木村)
- 第8講 プラクトンの世界(牧田)、深層学習(片山)
- 第9講 北勢地域の野生動物(野呂)、スタジオでの録音シミュレーション(関根)
- 第10講 メディアと情報の融合(前川・黒田・関根)
- 第11講 自然と文化(田中)、アナログからデジタルへ(池田)
- 第12講 水環境(大八木)、文化とメディア情報(前川)
- 第13講 Webを使った情報処理(片山)
- 第14講 スタジオ開き「PV制作」(木村、関根、黒田)
- 第15講 分野選択(環境情報学部全教員)

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト:ありません。
教材:必要に応じて各先生から配布されます。
参考文献:各先生から紹介されることがあります。

担当者から一言

オムニバス形式の授業なので、教員によって、教え方は大きく異なり、伝えたい内容を1回の授業にまとめて話をするので、聞く側は結構大変です。自分の進路を決めるための情報が満載の授業なので、積極的な気持ちで参加してください。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、北勢地域の自然環境概論(千葉)
- 第2講 四日市周辺の河川環境(武本)
- 第3講 四日市周辺の河川環境(武本)
- 第4講 四日市周辺の河川環境とプラクトン(牧田)
- 第5講 四日市周辺の河川環境とプラクトン(牧田)
- 第6講 大学周辺の里山環境(千葉)
- 第7講 里山に暮らす野生動物と獣害対策(新任)
- 第8講 里山資源を地域農業に活かす取り組み(廣住)
- 第9講 里山資源を地域農業に活かす取り組み(廣住)
- 第10講 伊勢湾の水質環境(千葉)
- 第11講 伊勢湾の海洋ゴミ(千葉)
- 第12講 伊勢湾とマイクロプラスチック(大八木)
- 第13講 伊勢湾とマイクロプラスチック(大八木)
- 第14講 四日市近郊の音・光の環境(前川・黒田)
- 第15講 まとめ(千葉)

テキスト・教材（参考文献含む）

環境情報学部教員グループ、「北勢地域の自然環境と情報環境 令和3年度版」、教学課で販売予定、価格は500円前後

担当者から一言

自然環境分野の教員や学生たちが収集した北勢地域の具体的な環境情報を学ぶことができる授業です。研究室配属後には自分が環境情報を収集する側になり、それを後輩たちに伝えるという気持ちを持って参加してください。

環境情報学概論Ⅱ 前川 督雄	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EFC1002	後学期	必 修

授業のねらい
 配属されたメディア情報分野での学生生活を確立していくための導入を行います。
 分野の教員全員が分担して講義・演習を行って、分野の概要を伝え、体験してもらいます。また、2年次以降の学修の核となる演習科目(いくつかの研究室・セミナーに分かれての少人数指導になります)への導入を行います。

到達目標
 メディア情報分野の概要を把握してもらいます。また、自分自身が進む方向性・興味の対象を見定めて、大学生活の核となる演習科目(研究室・セミナー)の配属希望を提出してもらいます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験を行いません。
 各回の講義・演習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。
 基礎演習(2年次)配属にむけて、期間中の授業時間外に個別面談を行います。

事前・事後学習
 メディア情報分野の専門的な学修の出発点となる講義・演習です。興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください(180分)。

四日市公害論 千葉 賢	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
		EFC2001	前学期	必 修

授業のねらい
 四日市公害は日本の四大公害の一つに数えられ、日本の公害対策、環境政策、環境関連法の整備に大きな影響を与えた。コンビナート企業群が引き起こした公害であり、環境問題における共同不法行為が争われたという点で特色を持つ。その後、総量規制という有効な環境対策も生み出され、排水・排気ガス・振動・騒音などの問題が大きく軽減されてきた歴史を持つ。このような四日市公害を学び、公害当時に人々がどのように行動したのかを知り、自分の立場に置き換えながら、今後の環境問題への教訓と知識と心構えを受講者が得られるようにする。

到達目標
 ①環境情報学部で学ぶ学生として、四日市公害について語るができるようにする。
 ②四日市公害の歴史と背景についての知識を深める。
 ③現代の環境問題等の社会問題を多角的に捉える視点を身につける。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 毎回の講義後に、ミニレポートを作成して提出させる。1回3点満点×8回=24点(優秀レポートには加点する)。フィールドワークの振り返りテスト21点。レポートを採点してフィードバックする。グループディスカッションへの参加姿勢15点満点。期末試験40点満点。

事前・事後学習
 シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること(180分)。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。専門技術者に求められる倫理観を身につけている。地域の持続的発展のために貢献できる。

授業計画
 第1講 ガイダンス/メディア情報分野概論(前川、片山)
 第2講 Webコンピューティング/プログラミング(片山、池田)
 以下第3講～第6講、第7講～第10講は、2グループに分かれて並行・交代して実施する。
 第3講 パソコン分解組立て実習①(井岡、池田、片山)
 第4講 パソコン分解組立て実習②(井岡、池田、片山)
 第5講 パソコン分解組立て実習③(井岡、池田、片山)
 第6講 パソコン分解組立て実習④(井岡、池田、片山)
 第7講 音響メディア(関根)
 第8講 映像メディア(木村)
 第9講 光メディア(黒田)
 第10講 デジタルメディアと文化(前川)
 第11講 文化論(加納、ブレイ、山本)
 第12講 寺院見学(学外)(北島名誉教授)
 第13講 特別講義(豊島名誉教授)
 第14講 基礎演習にむけて
 第15講 4年生の卒業研究・卒業制作発表会見学(内容・順序を変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)
 テキストはありません。
 必要に応じて資料を配布します。

担当者から一言
 幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。
 とりまとめ教員は、前川(4号館4609)です。

授業の位置づけ
 DP環1と2に関連させて、四日市公害の歴史と背景に関する知識を身に付けて、その教訓を生かすことで「地域の持続的発展のために貢献できる」人材作りの育成を目指す。
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。地域の持続的発展のために貢献できる。

授業計画
 第1講 ガイダンス、授業の概要 千葉(4/12)
 第2講 四日市公害と4大公害の歴史 千葉(4/19)
 第3講 四日市公害と4大公害の歴史 千葉(4/26)
 第4講 行政から見た四日市公害 外部講師(5/10)
 第5講 技術的側面から見た四日市公害 千葉(5/17)
 第6講 ここまでのまとめとフィールドワークのガイダンス 千葉(5/24)
 *第7講以降の日程は第6講で説明します。なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、バーチャル・フィールドワークになる可能性もあります。
 第7～10講 四日市公害と環境未来館でのフィールドワーク 鬼頭・岡
 第11講 フィールドワークの振り返り学習 鬼頭・岡
 第12講 四日市公害から得られた教訓(資料調査とグループディスカッション)
 第13講 四日市公害から得られた教訓(資料調査とグループディスカッション)
 第14講 四日市公害から得られた教訓(グループディスカッションと発表)
 第15講 まとめと試験範囲の説明

テキスト・教材(参考文献含む)
 なし。毎回の講義で資料を配布する。

担当者から一言
 経済発展の過程で必ず発生する環境問題と、その改善への人々の様々な取り組みについて、四日市公害の事例から学んでください。悲惨な経験をされた患者さんたちの話も出てきます。真剣に授業に取り組むことを求めます。

基礎演習 a 片山・池田・前川	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2001	前学期	必修

授業のねらい

情報学やプログラミングの基礎である論理学、離散数学、アルゴリズムを学びます。論理学では命題論理を中心に学びます。離散数学では主に集合、ブール代数、グラフについて学びます。アルゴリズムでは計算オーダー、アルゴリズムについて学びます。

到達目標

- ①命題論理を説明でき、論理演算ができる。
- ②ブール代数を説明でき、ブール演算ができる。
- ③計算量を理解し、アルゴリズムを考えることができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)
講義後には、学習した内容を十分に復習すること(120分)

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

- | | |
|------|--------------|
| 第1講 | ガイダンス、ゼミの進め方 |
| 第2講 | アルゴリズム(1) |
| 第3講 | アルゴリズム(2) |
| 第4講 | アルゴリズム(3) |
| 第5講 | 論理学(1) |
| 第6講 | 論理学(2) |
| 第7講 | 論理学(3) |
| 第8講 | 離散数学(1) |
| 第9講 | 離散数学(2) |
| 第10講 | 離散数学(3) |
| 第11講 | アルゴリズム(4) |
| 第12講 | アルゴリズム(5) |
| 第13講 | アルゴリズム(6) |
| 第14講 | アルゴリズム(7) |
| 第15講 | まとめ |
- (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。(必要に応じて配布します)

【参考文献】

野矢茂樹 「論理学」 東京大学出版会 ¥2,600+税
石村園子 「やさしく学べる離散数学」 共立出版 ¥2,000+税
「はじめての情報理論」 森北出版 ¥2,400+税

担当者から一言

情報工学の基礎を学ぶので、少し難しく、やや退屈に感じるかもしれませんが、プログラミングを行う上で重要な内容です。なるべく丁寧にわかりやすい講義・演習を目指します。積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。

基礎演習 a 関根・木村・黒田	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2001	前学期	必修

授業のねらい

メディア系セミナーは、映像・音響・照明その他のメディアによる表現力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とします。そのスタートにあたり、基本として修得していなければならない機材の使い方や理論を学ぶとともに、様々なメディアによる表現の鑑賞、評価を通して自己表現力を高めます。また同時に、作品制作にも取り組み、30~60秒程度の映像作品をグループで作ります。

到達目標

映像・音・光などを使いこなすために必要な機材の基本的な使い方や理論の基礎を修得し、様々な形で表現することに挑戦します。特に第9講以降には、作品の企画、構成から撮影・録音や編集など、作品制作の基礎を実践的に身につけて作品を完成させることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験は実施しません。成績評価は次の通りとします。
授業、課題への取り組み姿勢:30%
作品制作への意欲、参加度:40%
レポート内容、作品内容、完成度:30%
レポートや課題についての評価は5段階評価をつけて後日返却。
作品は第15講で発表し、評価も伝えます。

事前・事後学習

授業の中で様々なレポートや課題を出します。それに取組むことが準備学習となります。そのためには毎日30分程度、授業で出てきた機材やソフトウェアの使い方をマニュアルなどで復習し、また様々なクリエイティブな表現や作品にふれること。また、授業で提示された表現のための新しいアイデアや方法論、また機材やソフトウェアの使い方などについては、授業後60分程度、様々な文献やインターネット等で研究し、知識を得ておくこと。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 第1講 | ガイダンス/自分を表現することと創造すること |
| 第2講 | 「クリエイティブ」について |
| 以下第3講~第8講は、 | 3グループに分かれて2週ずつ並行・交代して実施する |
| 第3講 | 映像の基礎1(柳瀬・木村)カメラ実習 |
| 第4講 | 映像の基礎2(柳瀬・木村)動画撮影の基本 |
| 第5講 | 音響の基礎1(関根)ライブ音響の基礎 |
| 第6講 | 音響の基礎2(関根)アナログ音響調整卓の使い方 |
| 第7講 | 照明の基礎1(黒田)照明機器の取り扱いについて/安全講習 |
| 第8講 | 照明の基礎2(黒田)光のコントロールについて |
| 第9講 | 作品制作・企画 |
| 第10講 | 作品制作・絵コンテ作成 |
| 第11講 | 作品制作・撮影 1 |
| 第12講 | 作品制作・撮影 2 |
| 第13講 | 作品制作・編集 |
| 第14講 | 作品制作・MA |
| 第15講 | 作品制作 完成作品発表 |

テキスト・教材(参考文献含む)

必要に応じてテキストおよび資料を配布します。

担当者から一言

課題だけでなく、個人個人の「何かを作りたい」「やってみたい」等の思いを大事にしています。クリエイティブな活動には出来る限りサポートします。

基礎演習 a	科目ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2001	前学期	必修

授業のねらい
 基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。この授業は3クラスに分かれ、3人の担当教員の授業を順に受講する。つまり、全員が同一の内容を少人数で学習できる。次の5項目は、基礎演習 a と b を通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文購読、④野外調査、⑤データ処理（表、グラフの作成）。

到達目標
 実験ノートへの記録を習慣化する。表・グラフ等のデータ整理の方法を身に付ける。調査地・実験方法などの作図ができる。レポートの形式を学び、作成できる。プレゼンテーションの方法を学び、習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 3人の担当教員で1人33.3%を配分する。実験ノートやミニレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。

事前・事後学習
 授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する(90分)。担当教員から指示された課題に取り組む(90分)。

基礎演習 b	科目ナンバリング	2 年次	2 単位
	ESS2002	後学期	必修

授業のねらい
 ホームページは今や企業だけでなく一般の人でも作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページはHTMLで構造を記述され、スタイルシートでレイアウトやデザインが記述されています。さらにインタラクティブ性を持たせるためにJavaScriptが使用されています。
 この演習では、電卓アプリやカレンダーアプリ制作を通し、機能実現のためのアルゴリズムを考え、HTML、スタイルシート、JavaScriptを用いてプログラミングすることでその機能を実現できるようにします。

到達目標
 ①アルゴリズムを考えることができる
 ②HTMLタグ、スタイルシート、JavaScriptを使って機能を実現できる

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業への取り組み姿勢や提出などによって総合的に評価する。

事前・事後学習
 講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)
 講義後には、学習した内容を十分に復習すること(120分)

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
 第1講 ガイダンス、野外での土壌調査(廣住)
 第2講 調査方法のまとめ方(廣住)
 第3講 調査データの整理(廣住)
 第4講 調査結果に基づく考察の書き方(廣住)
 第5講 調査報告書のまとめ方(廣住)
 第6講 ブランクトン採取(牧田)
 第7講 顕微鏡の使い方、実験ノートの書き方(牧田)
 第8講 ブランクトンの観察と分類、ミニレポートの書き方(牧田)
 第9講 ブランクトンの観察と分類結果のまとめ方(牧田)
 第10講 観察できたブランクトンの確認(牧田)
 第11講 野生動物の調査手法と野外調査の心得(野呂)
 第12講 身近な自然の生物調査(野呂)
 第13講 種の同定と標本の作製(野呂)
 第14講 生物リストの作成とその評価(野呂)
 第15講 調査結果のまとめとレポート作成(野呂)
 フィールドワーク・実験実習・グループワークを含むアクティブラーニング科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）
 各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。

担当者から一言
 基礎演習では受講生を3クラスにわけて授業行います。クラスによって授業の開講順序が異なります。詳しくは第1講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。

授業の位置づけ
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
 第1講 ガイダンス、HTML(1)
 第2講 HTML(2)
 第3講 HTML(3)
 第4講 スタイルシート(1)
 第5講 スタイルシート(2)
 第6講 スタイルシート(3)
 第7講 JavaScript(1)
 第8講 JavaScript(2)
 第9講 JavaScript(3)
 第10講 電卓アプリ作成(1)
 第11講 電卓アプリ作成(2)
 第12講 電卓アプリ作成(3)
 第13講 カレンダーアプリ作成(1)
 第14講 カレンダーアプリ作成(2)
 第15講 カレンダーアプリ作成(3)
 (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材（参考文献含む）
 なし。(必要に応じて配布します)
【参考文献】
 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書」 技術評論社 ¥2,600+税

担当者から一言
 アルゴリズムを考えることは、プログラミングでは最重要事項で、卒業研究においてアプリ作成やAI研究のために必要です。多くの経験を通してしか身につかないため、根気が要る地味な作業ですが、興味深いアプリ制作で楽しめる演習になるように目指します。

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	関根・木村・黒田	ESS2002	後学期 必修

授業のねらい

基礎演習 a で得た表現力や技術を基に、マルチメディア作品を一人 1 作品制作し発表します。この制作にあたっては、セミナー生が互いに協力して行います。作品制作に取り組むにあたって、次の点を実践的に学びます。

- ・企画、コンセプト・ワークについて
- ・作品の構成について
- ・制作準備について
- ・撮影・録音および編集の基礎他

また、通常の作品の制作だけでなく、イベントなど様々な場面の制作にも取り組みます。

到達目標

様々な制作を経験することで、企画力やプレゼンテーション能力を高めることを目指します。また様々なイベントに参加することによって、実行力、コミュニケーション能力を身につけ、さらに仲間と協力し何かを達成する難しさ、喜びを体験してもらいたい。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験はしません。成績評価は次の通りとします。
 授業、課題への取組み姿勢:30%
 作品制作への意欲、参加度:40%
 レポート内容、作品内容、完成度:30%
 レポートや課題についての評価は 5 段階評価をつけて後日返却。
 作品は第15講で発表し、評価も伝えます。

事前・事後学習

作品の制作への取組みを実行するための活動も準備学習となります。それを行うために、1 日20分程度、話題となっているイベントやパフォーマンス、映像作品等について、様々なメディアでチェックすることが求められます。取り組む課題に参考となる表現やその方法などについて、1 日20分程度、文献やインターネット等で調べることも必要となります。

基礎演習 b

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	廣住・大八木・野呂	ESS2002	後学期 必修

授業のねらい

基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。この授業は 3 クラスに分かれ、3 人の担当教員の授業を順に受講する。つまり、全員が同一の内容を少人数で学習できる。次の 5 項目は、基礎演習 a と b を通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文購読、④野外調査、⑤データ処理（表、グラフの作成）。

到達目標

実験ノートへの記録を習慣化する。表・グラフ等のデータ整理の方法を身に付ける。調査地・実験方法などの作図ができる。レポートの形式を学び、作成できる。プレゼンテーションの方法を学び、習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

3 人の担当教員で 1 人 33.3% を配分する。実験ノートやミニレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。

事前・事後学習

授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する (90 分)。担当教員から指示された課題に取り組む (90 分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第 1 講 ガイダンス
 以下第 2 講～第 7 講は、3 グループに分かれて 2 週ずつ並行・交代して実施する

第 2 講 映像の基礎 1 (柳瀬・木村) 作品制作の基本 1 企画・構成
 第 3 講 映像の基礎 2 (柳瀬・木村) 作品制作の基本 2 撮影・編集
 第 4 講 音響の基礎 1 (関根) DAW (Digital Audio Workstation) の基礎 1
 第 5 講 音響の基礎 2 (関根) DAW (Digital Audio Workstation) の基礎 2
 第 6 講 照明の基礎 1 (黒田) 照明プログラミングの基礎 1
 第 7 講 照明の基礎 2 (黒田) 照明プログラミングの基礎 2
 第 8 講 作品制作 - 企画 1
 第 9 講 作品制作 - 企画 2
 第 10 講 作品制作 - 撮影 1
 第 11 講 作品制作 - 撮影 2
 第 12 講 作品制作 - 編集 1
 第 13 講 作品制作 - 編集 2
 第 14 講 作品制作 - MA
 第 15 講 作品制作 完成発表

テキスト・教材 (参考文献含む)

必要に応じてテキストおよび資料を配布します。

担当者から一言

「やりたいこと」があれば、何でも挑戦しましょう。授業や課題だけでなく、個人個人のクリエイティブな意欲を応援、サポートします。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第 1 講 ガイダンス、農地や農作物の分析・測定(廣住)
 第 2 講 分析・測定方法のまとめ方(廣住)
 第 3 講 分析・測定データの整理と解析(廣住)
 第 4 講 発表資料のまとめ方(廣住)
 第 5 講 分析データをを用いた発表方法(廣住)
 第 6 講 水質分析(大八木)
 第 7 講 水質分析結果のまとめ(大八木)
 第 8 講 文献検索(大八木)
 第 9 講 プレゼンテーション作成(大八木)
 第 10 講 プレゼンテーション発表(大八木)
 第 11 講 標本収集の目的とその意義(野呂)
 第 12 講 哺乳類頭骨標本の観察と計測(野呂)
 第 13 講 計測結果の整理と図表の作成(野呂)
 第 14 講 発表資料の作成(野呂)
 第 15 講 発表と質疑応答(野呂)

フィールドワーク・実験実習・グループワークを含むアクティブラーニング科目である。

テキスト・教材 (参考文献含む)

各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。

担当者から一言

基礎演習では受講生を 3 クラスにわけて授業行います。クラスによって授業の開講順序が異なります。詳しくは第 1 講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	池田 幹男	ESS3001	前学期 必修

授業のねらい
 離散信号の処理の基礎を学び、簡単な信号処理をプログラムで実現できるようにする。

到達目標
 離散信号の信号処理の基礎を理解する。z変換とフーリエ変換について理解する。線形信号処理であるフィルタリングプログラムが作れるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業で出す課題(60%)
 授業での発言や貢献(40%)

事前・事後学習
 この授業では数学についてよく理解する必要があるので、数学に関して毎回90分の予習をすること。また、プログラミングもあるので、90分間はC言語プログラミングの練習をすること。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 信号処理の基本について学びます
 第1講 ガイダンスと履修指導
 第2講 複素数
 第3講 整式
 第4講 有理式
 第5講 正弦波
 第6講 差分方程式
 第7講 z変換
 第8講 離散信号線形フィルター
 第9講 極と零点
 第10講 フーリエ変換と周波数
 第11講 信号処理プログラミング(1)
 第12講 信号処理プログラミング(2)
 第13講 信号処理プログラミング(3)
 第14講 信号処理プログラミング(4)
 第15講 信号処理プログラミング(5)

テキスト・教材 (参考文献含む)
 テキストは特に指定しない。
 参考書は「デジタル信号処理(上下)」Oppenheim/Shafer 著、伊達 玄訳、コロナ社刊、ISBN40-339-00471-5、ISBN40-339-00472-3

担当者から一言
 数学が少し難しいので、完全には理解できない可能性があるが、その場合は、数学への適性が悪いということなので、以後のゼミや卒業研究では信号処理以外について取り組むことになる。自分の適性を見極めて欲しい。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	大八木 麻希	ESS3001	前学期 必修

授業のねらい
 野外調査の一つとして水質調査は学問的、実用的、教育的な側面を併せ持つため、自身で立案しそれにしながら研究を進めていくことで、総合的な力を養う。調査目的、内容(方法、期間、時期、日程など)、分析、結果の検討などの一連の流れを把握して、卒業研究に必要なスキルを身につけてもらいたい。

到達目標
 本セミナーでは実際に自身の研究フィールドを決めて、調査計画を立案し実践する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 受講態度50%、レポート50%。レポートは採点后、返却する。

事前・事後学習
 参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ
 地域の持続的発展のために貢献できる。
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
 第1回 ガイダンス、調査地紹介
 第2回 フィールドワーク:干潟
 第3回 専門書購読
 第4回 専門書内容発表
 第5回 研究・調査進捗第1回報告会
 第6回 文献検索
 第7回 文献購読
 第8回 フィールドワーク:河川
 第9回 堆積物分析①IL、含水率
 第10回 堆積物分析②全リン
 第11回 堆積物分析③粒度
 第12回 分析結果まとめ
 第13回 分析結果グラフ化
 第14回 分析結果考察
 第15回 研究・調査進捗第二回報告会

実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材 (参考文献含む)
 テキストなし。
 参考文献は各自に提示する。

担当者から一言
 積極的に取り組む姿勢の学生を歓迎します。

専門演習 a 片山 清和	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3001	前学期	必 修

授業のねらい

ホームページは今や企業だけでなく一般の人も作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページの中にはデータベースと連携することでウェブサービスを提供しているものがあります。この講義では、データベースの操作と、PHPを用いてHTML文書を生成することと、PHPを用いてデータベースを操作することを学びます。

到達目標

PHPとデータベースを連携したアプリを作成できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や卒業研究の進捗状況などによって総合的に評価する。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)
講義後には、学習した内容を十分に復習すること(120分)

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第1講	ガイダンス、復習(1)
第2講	復習(2)
第3講	PHP(1)
第4講	PHP(2)
第5講	PHP(3)
第6講	日記アプリ作成(1)
第7講	日記アプリ作成(2)
第8講	データベース(1)
第9講	データベース(2)
第10講	PHPでのデータベース操作(1)
第11講	PHPでのデータベース操作(2)
第12講	日記アプリ作成(3)
第13講	日記アプリ作成(4)
第14講	日記アプリ作成(5)
第15講	まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。(必要に応じて指示または配布します)

担当者から一言

積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。

専門演習 a 木村 眞知子	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3001	前学期	必 修

授業のねらい

基礎演習abで得た自己表現力を生かし、映像などのメディアを使って表現する能力をさらに発展させます。
セミナー共通のテーマを決め、個人、あるいはグループで5～10分程度の作品を制作します。その作品は、これまでのような映像作品だけでなく、デジタルアートなど新しい映像表現による作品やオーディオドラマなどでも構いません。制作にあたっては、メンバー全員で協力して制作することとします。
撮影、コンピュータによる編集など、映像加工の技術の基礎を習得しつつ、実践を通して企画・取材・構成・演出などを学びます。

到達目標

自分たちでテーマを探し、作品の形も自分たちで決定しそれを作品として企画立案し制作します。作品によっては専門家からのアドバイスも必要となる場合もあり、コミュニケーション能力はもちろん、企画力、構成力、総合的な判断力などの向上を目指します。また、実習では、カメラ操作、照明、録音など、映像制作の基礎をさらに身につけ、編集ではノンリニア編集の技術だけでなく編集することの意味を理解し作品を完成させます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験はしません。
成績評価は次の通りとします。
授業、課題への取り組み姿勢:30%
作品制作への意欲、参加度:40%
レポート内容、作品内容、完成度:30%
作品は第15講に発表し、評価も伝えます。

事前・事後学習

映像作品制作への取り組みも準備学習です。作品制作のために、毎日30分以上、様々なメディアを利用し、作品や研究のために注目されている表現や新たな表現方法などについてリサーチ・分析すること。また、毎日30分以上、様々な芸術作品を鑑賞、分析すること。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第1講	ガイダンス
第2講	作品企画1 テーマ検討～決定
第3講	作品企画2 リサーチ・企画検討・構成案作成
第4講	作品企画3 制作準備 取材・交渉他
第5講	作品制作1 パイロット用撮影
第6講	作品制作2 パイロット用編集 試写
第7講	作品制作3 撮影①
第8講	作品制作4 撮影②
第9講	作品制作5 撮影③
第10講	作品制作6 編集①
第11講	作品制作7 編集② アラ編試写
第12講	作品制作8 編集③ 手直し
第13講	作品制作9 編集④ MA
第14講	作品制作10 編集⑤ 完パケ
第15講	作品完成発表

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。必要に応じてテキストおよび資料を配付します。

担当者から一言

ドキュメンタリーやドラマなどの映像作品からデジタルアート、オーディオ番組等々、自分が作りたいと思う新たな作品作りに取り組んでください。クリエイティブへの様々な挑戦を応援・サポートします。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	黒田 淳哉	ESS3001	前学期 必修

授業のねらい
 照明プランニングするうえで最も重要な技術の習得を目指します。コンソールを使用した照明プログラミング技術を身につけ、後学期の専門演習 b へつなげることをねらいとしています。

到達目標
 ①照明プログラミング技術を習得する。
 ②照明プランニングができるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 ・講義時に提示する課題の提出状況及びレポート(50%)
 ・ループリック評価(50%)
 ループリック評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、提出物や課題等のフィードバックは次回の講義で行います。

事前・事後学習
 毎回、講義の最後にキーワードを提示します。そのキーワードをインターネットや書籍で調べてくること(90分)。講義で配布する資料や講義ノートを見返して理解を深めること(90分)。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	関根 辰夫	ESS3001	前学期 必修

授業のねらい
 スタジオ、ステージと音響機器を活用して、前年次より更に高度なスタジオワークの実際を訓練し会得する。パッケージとしての最終商品(例えばCD、DVD等)の完成までのプロセスを学び、その制作過程を体験する。常に進歩するデジタル音響処理技術の情報を得ると共に、それらを評価する力をつける。行事のPA運用を実践して全体の流れを把握する。

到達目標
 ・大学祭に向けてPA機器の操作や進行の流れを理解する。
 ・下級生に指導できるようなコミュニケーション能力を得る。
 ・4年次の卒業制作の論文の前段階として、学内コンペ向けの作品を制作・発表する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 課題への取り組みや提出等によって総合評価する。すぐに評価できる課題などはその場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日コメントを含めた形でフィードバックする。

事前・事後学習
 日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること(毎日30分程度)実習が中心になるので、毎回の授業で学んだ内容は、次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考にして、不明な点は参考文献やマニュアルなどで調べておくこと - 60分)

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 第1講 ガイダンス、セミナーの進め方
 第2講 舞台用語と照明用語
 第3講 光源① ハロゲンランプ
 第4講 光源② LED
 第5講 光源③ ムービングスポット
 第6講 照明システム① 回路
 第7講 照明システム② DMX512
 第8講 セッティング図面について
 第9講 セッティング図面の作成
 第10講 セッティング図面の完成
 第11講 照明プログラミング技術① Patch
 第12講 照明プログラミング技術② パレット
 第13講 照明プログラミング技術③ 記憶
 第14講 照明プログラミング技術④ エフェクト効果
 第15講 まとめ

テキスト・教材 (参考文献含む)
 なし。(必要に応じてプリントを配布します)

担当者から一言
 毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義は休まないようにして下さい。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 第1講 ガイダンス、ゼミの進め方
 第2講 PA(アナログ調整卓)の復習
 第3講 マイクロフォンの種類
 第4講 マイクロフォンの音の聞き比べ
 第5講 マイクロフォンのセッティング
 第6講 エフェクターEQ理論
 第7講 エフェクターEQ実習
 第8講 エフェクターリバーブ理論
 第9講 エフェクターリバーブ実習
 第10講 エフェクターコンプレッサー等理論
 第11講 エフェクターコンプレッサー等実習
 第12講 エフェクター小テスト
 第13講 外部機器をコンソールにつなぎPA実習
 第14講 PA仕込み図
 第15講 大学祭PA企画
 学内コンペを行います。

テキスト・教材 (参考文献含む)
 配布するプリント。

担当者から一言
 基礎演習より一歩進んだ形でレコーディングとPAのエンジニアリングを学びます。また自分のセミナーに新たに加わった後輩とも積極的にコミュニケーションをとり、後輩にとって人間的にも、技術的にも尊敬できる先輩になれるように学修してください。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	千葉 賢	ESS3001	前学期 必修

授業のねらい

積極的に地域に出て、自分で環境問題を見て感じる機会を多く設けます。また、環境問題に取り組む人々に出会う機会を多く設けます。休日に調査に出かけることもあります。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータを実験室やパソコンで分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返していきます。セミナーのメンバーで協力して調査し、議論もします。このような経験を通じて、自分の卒業研究のテーマを見つけてください。

到達目標

北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持つようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。また、環境測定に用いる情報機器の使用法、観測結果を整理するためのPCの使い方を習得します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

ゼミ活動への積極参加姿勢(50%)、発表(25%)、提出物(25%)。ゼミなので対話を通じて学習進度をフィードバックする。

事前・事後学習

その時のテーマに応じて、自分から積極的に図書館やネット等で調べて事前学習(90分)や復習(90分)を行うこと。受動的な態度ではゼミについて行くことはできない。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	野呂達哉	ESS3001	前学期 必修

授業のねらい

生物多様性を把握するための多様な調査手法や標本などの記録に残す方法を学び、調査研究を進める上での基礎となる技術を身につける。

到達目標

自身の研究対象やテーマを定め、調査手法の検討や調査地を選定し、事前準備などを通して実際に調査計画を立てる。目的に沿って調査と分析を実施し、結果をまとめる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

レポート提出を課します。演習における調査、分析、見学に対する姿勢と提出されたレポートの内容から総合的に評価します(100%)。

事前・事後学習

日頃から書籍や新聞、テレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックし、必要な情報は保存してください(1日平均20分)。演習の後は、内容についての振り返りを行ってください(毎週40分)。日常生活の中で生物を見つけた際は、日時や場所、写真などの記録をとることを心がけてください。

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、過去の専門演習abの調査内容の紹介
- 第2講 専門演習abの調査内容の検討
- 第3講 専門演習abの調査内容の検討
- 第4講 鈴鹿山系のブナ林に関する事前学習
- 第5講 鈴鹿山系のブナ林観察(別日程で実施)
- 第6講 鈴鹿山系のブナ林観察(別日程で実施)
- 第7講 論文・報告書の書き方、報告書の作成
- 第8講 報告書の作成
- 第9講 報告書の発表
- 第10講 学外での環境調査の実施
- 第11講 学外での環境調査の実施
- 第12講 学外での環境調査の結果の分析
- 第13講 伊勢湾の水質環境の学習
- 第14講 伊勢湾の海洋ゴミ問題の学習
- 第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)

必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言

自然環境分野のセミナーですが、パソコンや情報機器をかなり使うので、その意識を持って参加してください。調査中心になるので、基礎学問は他の授業でしっかり学んでください。このゼミでは利他主義を大切にします。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 研究目的の明確化、研究テーマを考える
- 第3講 調査対象と調査地の選定
- 第4講 フィールドワーク① 事前調査
- 第5講 調査計画の作成
- 第6講 調査機器や調査票の事前準備
- 第7講 フィールドワーク② ため池と周辺の生物調査
- 第8講 フィールドワーク③ ため池と周辺の生物調査
- 第9講 フィールドワーク④ 捕獲したカメ類のマーキングと記号放逐
- 第10講 採集生物の標本作製とラベル作成、データ入力
- 第11講 外来生物の胃内容分析
- 第12講 胃内容物の同定
- 第13講 分析結果の整理
- 第14講 なごや生物多様性センター見学*
- 第15講 調査結果のまとめ

フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。

*見学先と調整の上、別日に実施します。

テキスト・教材(参考文献含む)

プリントおよび関連資料を配布します。参考図書:「ミシシippアカミミガメ防除マニュアル(日本カメ自然誌研究会監修)なごや生物多様性保全活動協議会, 2014」、「ため池と水田の生き物図鑑 動物編(近藤繁生ら)トンボ出版, 2005」、「標本の作り方-自然を記録に残そう(大阪市立自然史博物館)東海大学出版会, 2007」など

担当者から一言

野生動物の調査では対象とする動物だけではなく、その動物が生活する生息環境を知ることも大切です。日頃から観察する目を養ってください。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。

専門演習 a 廣住豊一	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい

土壌の性質を把握するための土壌断面調査および基本的物理性の測定法を学ぶ。

到達目標

土壌調査を計画し、実施することができる。土壌の基本的物理性を測定することができる。調査結果をまとめ、正しく報告することができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

調査および各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する (100%)。提出されたレポートは添削し、返却する。

事前・事後学習

調査および各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する (90分)。分析結果をまとめたレポートを作成する (90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第1講 ガイダンス、土壌調査法の解説
 第2講 土壌調査の計画立案
 第3講 土壌調査の実施
 第4講 三相分布の測定① 乾熱法
 第5講 三相分布の測定② 結果のまとめ
 第6講 土粒子密度の測定① 土粒子の密度試験
 第7講 土粒子密度の測定② 結果のまとめ
 第8講 粒度分布の測定① 篩別法
 第9講 粒度分布の測定② 沈降法
 第10講 粒度分布の測定③ 結果のまとめ
 第11講 飽和透水係数の測定① 変水位透水試験
 第12講 飽和透水係数の測定② 結果のまとめ
 第13講 土壌有機物の測定① 強熱減量試験
 第14講 土壌有機物の測定② 結果のまとめ
 第15講 土壌調査結果のまとめ
 調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。
 全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材 (参考文献含む)

なし。必要に応じて資料を配布する。
 参考文献：日本ペドロロジー学会編「土壌調査ハンドブック改訂版」博友社 (1997年)、地盤工学会編「土質試験—基本と手引き—第二回改訂版」丸善 (2010年)、宮崎毅・西村拓編「土壌物理実験法」東京大学出版会 (2011年)

担当者から一言

野外での調査や実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。調査では長靴・作業服、実験では白衣を必ず着用してください。

専門演習 a 前川督雄	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3001	前学期	必修

授業のねらい

実環境そしてサイバースペースでメディア情報を制御するための専門的な活性の構築をめざします。
 基礎演習での成果をふまえ、対象を見る力、ものをつくる力、メッセージを伝える力、メディアを操る技術をより深め、広げていきます。
 また、より本格的な調査・研究を行える活性の構築をめざします。

到達目標

各個で目標を定めて、アプローチを探索するとともに自学自習を開始する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。
 定期試験を行いません。

事前・事後学習

試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう (180分)。
 毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらいます。
 夏休みに課題を出します。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画

第1講 ガイダンス／面談
 第2講 目標提案／面談
 第3講 目標設定／面談
 第4講 アプローチ探索／面談
 第5講 アプローチ探索／面談
 第6講 アプローチ探索／面談
 第7講 自学自習／面談
 第8講 自学自習／面談
 第9講 自学自習／面談
 第10講 見直し／面談
 第11講 自学自習／面談
 第12講 自学自習／面談
 第13講 自学自習／面談
 第14講 進捗発表
 第15講 面談
 (各自の方向性・進捗にあわせて異なります)
 制作・開発した作品、研究調査した論文で学内コンペに参加します。

テキスト・教材 (参考文献含む)

テキストはありません。

担当者から一言

広く深く探求してください。
 後輩の指導に関与してもらい方もあります。教えることを通じて自分の理解・技能を深めて下さい。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3001	前学期	必修

牧田直子

授業のねらい

専門演習 a では、基礎演習で習得した実験技術や知識などを基盤とし、野外調査や実験の計画を立てる練習をする。実践を繰り返すことにより、計画の立て方や記録の取り方を身につけることが目標である。その間に、各自で卒業研究に向けての調査対象を決める。卒業研究のサンプル収集や研究計画、データの蓄積を開始できればなお良い。

到達目標

「自信を持って実験計画が立てられる」
 自分自身でしっかり下調べをして、具体的に実験計画を立てよう。
 「自主的に実習に取り組める」
 自分で考え、積極的に実習を進めましょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

実験ノート:30%、レポート:70%
 レポートは完成までに最低3回は添削し、返却する。未完了のレポートは受け取らない。

事前・事後学習

(1)それぞれの調査に必要な資料や情報を調べ、予習しておく(60分)。
 (2)実験データの整理や分類結果をノートや表にまとめる(90分以上)。
 (3)レポートは実験と平行して、書ける部分から書き進めておく(30分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第1講 ガイダンスと課題の確認
 第2講 水質分析の練習1(DO)
 第3講 水質分析の練習2(COD)
 第4講 水質分析の練習3(EC、pH)
 第5講 野外調査と水質調査(水田1回目)
 第6講 プランクトンの観察と分類(第5講の試料)
 第7講 野外調査と水質調査(水田2回目)
 第8講 プランクトンの観察と分類(第7講の試料)
 第9講 野外調査と水質調査(水田3回目)
 第10講 プランクトンの観察と分類(第9講の試料)
 第11講 水田調査のまとめ
 第12講 野外調査と水質調査(溜池)
 第13講 プランクトンの観察と分類(第12講の試料)
 第14講 観察できたプランクトンの確認
 第15講 溜池調査のまとめと今後の研究計画

調査・研究には、実験実習やワールドワークを含む。

テキスト・教材(参考文献含む)

田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,450円(税込)
 適宜、プリントを配布する。

担当者から一言

必ず実験ノートを用意して下さい。どんなデータが必要か、期間内に実験を終えるにはどう計画したら良いか、考えながら実験しましょう。

専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

池田幹男

授業のねらい

プログラミング言語Pythonを理解して、プログラミングが出来るようになる。

到達目標

Pythonでプログラムを作ることできるようになり、かつ、他のプログラミング言語と連携できるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業時間中に課したプログラム(60%)
 授業時間中の発言や貢献(40%)

事前・事後学習

この授業では、他のプログラミング言語(特にC言語)を習得していることが前提になっている。授業時間外に他の言語のプログラミングに関して毎週90分間演習を行うこと。また、Pythonの他の応用例を考えてPythonプログラムを毎週90分間作成、実行、デバッグすること。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

Pythonプログラミングについて学びます
 第1講 ガイダンスと履修指導
 第2講 Pythonとは
 第3講 Pythonの簡単なプログラミング例
 第4講 式と変数
 第5講 関数
 第6講 変数の型(動的な変数の型)
 第7講 条件判断
 第8講 ループ
 第9講 Pythonと他のプログラミング言語との連携(1)
 第10講 Pythonと他のプログラミング言語との連携(2)
 第11講 Pythonプログラミング(1)
 第12講 Pythonプログラミング(2)
 第13講 Pythonプログラミング(3)
 第14講 Pythonプログラミング(4)
 第15講 Pythonプログラミング(5)

テキスト・教材(参考文献含む)

特になし。教材はMoodleで表示する。

担当者から一言

担当者自身もPythonプログラミングの経験は浅いので、学生諸君と一緒にプログラミングスキルを向上させていくつもりである。

専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	大八木麻希	ESS3002	後学期 必修

授業のねらい

調査結果を検討するにあたり、文献が大きなウェイトを占めるため、既往の文献にとらわれることなく、しかしじっくり吟味して考察することが重要である。専門性の高い作業であるが卒業研究で大切なポイントであるために、そのためのスキルを身につけてもらいたい。

到達目標

本セミナーでは調査地での分析結果からデータ整理を行うための専門知識を深める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度50%、レポート50%。レポートは採点后、返却する。

事前・事後学習

参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ

多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第1回 ガイダンス、
第2回 水圏関連文献(邦文)検索
第3回 水圏関連文献(邦文)購読
第4回 水圏関連文献(邦文)発表
第5回 研究・調査進捗中間報告会
第6回 卒論研究テーマに関する文献検索
第7回 卒業研究テーマに関する文献購読
第8回 卒業研究テーマに関する文献発表
第9回 フィールドワーク(施設見学)
第10回 施設見学のまとめ、プレゼン
第11回 フィールドワーク(調査地見学)
第12回 調査地見学のまとめ、プレゼン
第13回 卒業研究対象地の概要まとめ
第14回 卒業研究ポスター作製
第15回 研究・調査進捗報告会②
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストなし。
資料配布。

担当者から一言

分析には責任を持ち、真摯な姿勢で取り組んでください。

専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	片山清和	ESS3002	後学期 必修

授業のねらい

現在スマホを始めとして音声で操作ができるようになっていて、その認識精度は極めて高くなっている。この背景にはAI技術の発展が関係している。今後このAI技術はますます発展し、我々の生活に深く関わってくると予想される。この演習ではAIで最も使われているプログラミング言語であるPythonを使いAIの基本であるNN(ニューラルネットワーク)から発展したCNN(畳み込みニューラルネットワーク)やオートエンコーダやRNN(再帰型ニューラルネットワーク)について学び、それらをPythonを用いて実現できるようにする。

到達目標

- ①AIの概要が説明できる
- ②Pythonで簡単なプログラムが作成できる
- ③PythonでAIのプログラムが作成できる

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)
講義後には、学習した内容を十分に復習すること(120分)

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第1講 ガイダンス、AIの概要
第2講 Pythonプログラミング(1)
第3講 Pythonプログラミング(2)
第4講 Pythonプログラミング(3)
第5講 NN演習(1)
第6講 NN演習(2)
第7講 DNN演習(1)
第8講 DNN演習(2)
第9講 CNN演習(1)
第10講 CNN演習(2)
第11講 オートエンコーダ演習(1)
第12講 オートエンコーダ演習(2)
第13講 RNN演習(1)
第14講 RNN演習(2)
第15講 まとめ

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。(必要に応じて配布します)

担当者から一言

積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。

専門演習 b 木村眞知子	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい

これまでのセミナーで獲得した自己表現力をさらに生かし、個々にテーマを探し一人1作品、制作します。専門セミナーI同様、ドキュメンタリー、ドラマ、デジタルアートやオーディオ作品など様々な表現による作品とします。制作にあたっては同様に、メンバー全員で協力して制作することとします。

撮影、コンピュータによる編集など、映像加工の技術の基礎をさらに身につけ、実践を通して企画・取材・構成・演出などの力をさらに深めてもらいます。また、撮影や編集など映像加工の技術の基礎を後輩の指導ができるようにします。

到達目標

次年度の卒業制作に向け、自分のテーマを見据えた作品制作を目標とします。また、撮影、編集など映像制作に関わる様々な技術については自分のものにするだけでなく後輩への指導ができるような力をつけることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験はしません。
成績評価は次の通りとします。
授業、課題への取組み姿勢:30%
作品制作への意欲、参加度:40%
レポート内容、作品内容、完成度:30%
作品は第15講に発表し、評価も伝えます。

事前・事後学習

映像作品の制作への取組みも準備学習です。作品制作のために、1日30分程度、様々なメディアを利用し、自らの作品や研究のためのリサーチを行うこと。また、毎日30分以上、散文から絵画なども含め、様々な芸術作品を鑑賞、分析すること。

専門演習 b 黒田淳哉	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい

照明の本質を理解し、光をコントロールする技術だけでなく、適切なあかりや見え方の追求までを行います。さらに、卒業研究を見据え、研究や制作テーマの検討も行います。

到達目標

- ①シミュレーションソフトを使用した高度な照明プログラミング技術を習得する。
- ②クオリティーにこだわった照明プランニングができるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

・講義時に提示する課題の提出状況及びレポート(50%)
・ルーブリック評価(50%)
ルーブリック評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。
なお、提出物や課題等のフィードバックは次回の講義で行います。

事前・事後学習

毎回、講義の最後にキーワードを提示します。
そのキーワードをインターネットや書籍で調べてくること(90分)。
講義で配布する資料や講義内容のノートを見返して理解を深めること(90分)。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第1講	ガイダンス	作品制作に向けて――
第2講	作品制作	企画①個々に作品のテーマ検討
第3講	作品制作	企画②テーマ決定
第4講	作品制作	企画③リサーチ・取材他
第5講	作品制作	企画④撮影交渉・撮影準備他
第6講	作品制作	制作①撮影
第7講	作品制作	制作②撮影
第8講	作品制作	制作③撮影
第9講	作品制作	制作④撮影
第10講	作品制作	編集①
第11講	作品制作	編集②
第12講	作品制作	編集③ アラ編試写
第13講	作品制作	編集④ MA
第14講	作品制作	編集⑤ 完パケ
第15講	作品完成発表	

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。必要に応じてテキストおよび資料を配付します。

担当者から一言

誰のものでもない自分自身の作品を作りあげる喜び、達成感を味わってください。
個々のクリエイティブな意欲を応援、サポートします。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第1講	ガイダンス、セミナーの進め方
第2講	照明プランニング① 準備
第3講	照明プランニング② セットアップ図面の作成
第4講	照明プランニング③ セットアップ図面の完成
第5講	シミュレーションソフトを使用した照明プログラミング① 基礎設定
第6講	シミュレーションソフトを使用した照明プログラミング② Patch
第7講	シミュレーションソフトを使用した照明プログラミング③ パレット
第8講	シミュレーションソフトを使用した照明プログラミング④ 記憶
第9講	シミュレーションソフトを使用した照明プログラミング⑤ エフェクト効果
第10講	コンソールセッティング
第11講	照明プログラミング① 準備
第12講	照明プログラミング② 制作
第13講	照明プログラミング③ 修正
第14講	照明プログラミング④ 発表
第15講	まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。(必要に応じてプリントを配布します)

担当者から一言

毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義を休まないようにして下さい。

専門演習 b 関根辰夫	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
スタジオ、ステージと音響機器を活用して前年次より更に高度なスタジオワークの実際を訓練し会得する。パッケージとしての最終商品(例えばCD、DVD等)の完成までのプロセスを学びその制作過程を体験する。常に進歩するデジタル音響処理技術の情報を得ると共に、それらを評価する力をつける。行事のPA運用を実践して全体の流れを把握する。

到達目標
・大学祭に向けてPA機器の操作や進行の流れを理解する。
・下級生に指導できるようなコミュニケーション能力を得る。
・4年次の卒業制作・論文の前段階として、学内コンペ向けの作品を制作・発表する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
課題への取り組みや提出等によって総合評価する。
すぐに評価できる課題などはその場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日コメントを含めた形でフィードバックする。

事前・事後学習
日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること(毎日30分程度)実習が中心になるので、毎回の授業で学んだ内容は、次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考に、不明な点は参考文献やマニュアルなどで調べておくこと - 60分)

専門演習 b 千葉 賢	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい
積極的に地域に出て、自分で環境問題を見て感じる機会を多く設けます。また、環境問題に取り組む人々に出会う機会を多く設けます。休日に調査に出かけることもあります。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータを実験室やパソコンで分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返して行います。セミナーのメンバーで協力して調査し、議論もします。このような経験を通じて、自分の卒業研究のテーマを見つけてください。

到達目標
北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持つようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。また、環境測定に用いる情報機器の使用法、観測結果を整理するためのPCの使い方を習得します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
ゼミ活動への積極参加姿勢(50%)、発表(25%)、提出物(25%)。ゼミなので対話を通じて学習進度をフィードバックする。

事前・事後学習
その時のテーマに応じて、自分から積極的に図書館やネット等で調べて事前学習(90分)や復習(90分)を行うこと。受動的な態度ではゼミについて行くことはできない。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
第1講 ガイダンス、ゼミの進め方
第2講 DTMとDAW
第3講 様々なDAW
第4講 ProTools基本セッティング
第5講 ProTools打ち込み
第6講 ProToolsオーディオ録音
第7講 ProToolsエフェクターのセッティング
第8講 ProToolsミキシング
第9講 X32(デジタル音響調整卓)のセッティング
第10講 X32とアナログコンソールとの違い
第11講 エフェクターEQ 応用
第12講 エフェクター リバープ 応用
第13講 エフェクター コンプレッサー 応用
第14講 PA仕込み図などの資料作成法
第15講 PA企画
授業は全体的にはほぼ実習で行われます。
学内コンペを行います。

テキスト・教材(参考文献含む)
配布するプリント。

担当者から一言
基礎演習より一歩進んだ形でレコーディングとPAのエンジニアリングを学びます。
また自分のセミナーに新たに加わった後輩とも積極的にコミュニケーションをとり、後輩にとって人間的にも、技術的にも尊敬できる先輩になれるように学修してください。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス、後期授業の説明と調査の打合せ
第2講 学外での環境調査の実施
第3講 学外での環境調査の実施
第4講 学外での環境調査の実施
第5講 学外での環境調査結果の分析と整理
第6講 答志島奈佐の浜の海岸清掃(別日程で実施)
第7講 答志島奈佐の浜の海岸清掃(別日程で実施)
第8講 農業体験(学外)
第9講 QGIS(地理情報システム)の学習
第10講 QGIS(地理情報システム)の学習
第11講 QGIS(地理情報システム)の学習
第12講 論文・報告書の書き方
第13講 論文・報告書の書き方
第14講 論文・報告書の発表
第15講 卒業研究発表会への出席

テキスト・教材(参考文献含む)
必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言
自然環境分野のセミナーですが、パソコンや情報機器をかなり使うので、その意識を持って参加してください。調査中心になるので、基礎学問は他の授業でしっかり学んでください。このゼミでは利他主義を大切にします。

専門演習 b 野呂達哉	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい

調査方法の検討や野外調査の事前準備、捕獲調査や記録の残し方、データ分析等、卒業研究を進める上で必要な基礎を身に付ける。

到達目標

調査計画を立て、目的に沿った調査を実施する。演習を通して自身の研究対象やテーマを定め、進捗状況によっては卒業研究をはじめめる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業、調査に対する姿勢 (50%)。レポート提出を課します。レポートは採点して返却します (30%)。最終講の調査報告も評価の対象とします (20%)。

事前・事後学習

日頃から書籍や新聞、テレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックし、必要な情報は保存してください (1日平均20分)。また、演習の後は、内容についての振り返りを行ってください (毎週40分)。日常生活の中で生物を見つけた際は、日時や場所、写真などの記録をとることを心がけてください。

専門演習 b 廣住豊一	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必修

授業のねらい

土壌の性質を把握するための化学的性質の測定法を学ぶ。

到達目標

土壌の化学的性質を測定することができる。分析結果をまとめ、正しく報告することができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する (100%)。提出されたレポートは添削し、返却する。

事前・事後学習

調査および各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する (90分)。分析結果をまとめたレポートを作成する (90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第1講 ガイダンス
第2講 哺乳類の調査手法とトラップや調査機器の使い方
第3講 フィールドワーク① センサーカメラの設置
第4講 フィールドワーク② 音声によるコウモリ調査
第5講 捕獲調査計画の立て方と捕獲許可申請等の書き方
第6講 フィールドワーク③ 捕獲による哺乳類調査
第7講 フィールドワーク④ 捕獲による哺乳類調査
第8講 フィールドワーク⑤ 捕獲による哺乳類調査
第9講 外部形態の計測と仮剥製の作製
第10講 フィールドワーク⑥ センサーカメラのデータ回収
第11講 センサーカメラのデータ整理
第12講 コウモリ調査音声データの整理
第13講 確認した哺乳類のリスト作成
第14講 調査結果資料の準備
第15講 調査報告・意見交換
フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。

テキスト・教材 (参考文献含む)

自作プリント、および関連資料配布。参考文献:「アニマル・ウォッチングー日本の野生動物 (安間 繁樹) 晶文社、1985」、「野生動物管理のためのフィールド調査法: 哺乳類の痕跡判定からデータ解析まで」、「カメラトラップによる野生動物調査入門: 調査設計と統計解析」、「生物学を学ぶ人のための統計のはなし (粕谷 英一) 文一総合出版、1998」

担当者から一言

哺乳類の捕獲調査は法律に従った許可申請が必要です。罠の設置にも土地管理者の許可が必要です。事前準備の段階でこういった側面も理解しておきましょう。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第1講 ガイダンス、土壌分析法の解説
第2講 土壌試料の採取
第3講 一般化学性の測定① pHおよびEC
第4講 一般化学性の測定② 結果のまとめ
第5講 交換性塩基の測定① ショーレンベルガー法
第6講 交換性塩基の測定② 結果のまとめ
第7講 陽イオン交換容量の測定① ホルモル滴定法
第8講 陽イオン交換容量の測定② 結果のまとめ
第9講 リン酸の測定① トルオーグ法
第10講 リン酸の測定② 結果のまとめ
第11講 リン酸吸収係数の測定① リン酸吸収係数測定
第12講 リン酸吸収係数の測定② 結果のまとめ
第13講 アンモニア態窒素の測定① 水蒸気蒸留法
第14講 アンモニア態窒素の測定② 結果のまとめ
第15講 土壌分析結果のまとめ
調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材 (参考文献含む)

なし。必要に応じて資料を配布する。
参考文献: 日本土壤肥料学会「土壌標準分析・測定法」博友社 (2004年)、渡辺和彦ほか「環境・資源・健康を考えた土と施肥の新知識」農文協 (2012年)、JA全農「だれにもできる土壌診断の読み方と肥料計算」農文協 (2010年)

担当者から一言

実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。

専門演習 b 前川 督雄	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必 修

授業のねらい

前期「専門演習 a」に引き続き、実環境そしてサイバースペースでメディア情報を制御するための専門的な活性的構築、また本格的な調査・研究を行える活性的構築をめざします。

到達目標

各個で定めた目標を実現するために必要なツール、基礎的な知の体系を見定め、それらを獲得・達成するアプローチを組み立てる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。定期試験を行いません。

事前・事後学習

試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう(180分)。毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらいます。冬休みに課題を出します。

専門演習 b 牧田 直子	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	ESS3002	後学期	必 修

授業のねらい

専門演習 b では、卒業研究のための調査を本格的に開始する。自分で決めた調査対象について十分な余裕を持って調査を進める。これまでに学んだ知識や身につけた実験技術をもとに、各自で創意工夫し、卒業研究の中核となるデータをとる。研究の最も楽しい時期であり、自分の考えで実験を進めることで、考える力を伸ばし、自信へとつながりたい。

到達目標

「自信を持って調査・研究を進められる」
多少の失敗やうまく行かないことがあっても大丈夫。自由な発想で色々試し、自分の実力にしていこう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究への取り組み:30%、実験ノート:30%、レポート:40%
レポートは完成までに最低3回は添削し、返却する。未完了のレポートは受け取らない。

事前・事後学習

(1) 調査・研究に必要な資料や情報を調べ、準備しておく(60分)。
(2) 調査・研究を進めながら、データの整理する(90分以上)。
(3) レポートは調査・研究と平行して、書ける部分から書き進めておく(30分以上)。

授業の位置づけ メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画

第1講 ガイダンス/夏休み中の報告
 第2講 目標確認/面談
 第3講 自学自習/面談
 第4講 自学自習/面談
 第5講 自学自習/面談
 第6講 見直し/面談
 第7講 自学自習/面談
 第8講 自学自習/面談
 第9講 自学自習/面談
 第10講 進捗発表
 第11講 イベント制作(卒業展)
 第12講 イベント制作(卒業展)
 第13講 イベント制作(卒業展)
 第14講 イベント制作(卒業展)
 第15講 総括/面談
 (各自の方向性・進捗にあわせて異なります)
 制作・開発した作品、研究調査した論文で学内コンペに参加します。

テキスト・教材 (参考文献含む)

テキストはありません。

担当者から一言

広く深く探求してください。模索し、試行錯誤できるのはここまでです。後輩の指導に関与してもらう場合もあります。教えることを通じて自分の理解・技能を深めて下さい。

授業の位置づけ 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。
--

授業計画

第1講 ガイダンスと研究計画の確認、調査準備
 第2講 試料採集(1回目)
 第3講 予備調査(1回目)
 第4講 調査・研究方法の妥当性を検討
 第5講 試料採集(2回目)
 第6講 予備調査(2回目)
 第7講 調査・研究方法の確認
 第8講 試料採集(3回目)
 第9講 予備調査(3回目)
 第10講 調査・研究方法の決定
 第11講 本調査・研究開始
 第12講 本調査・研究(継続)
 第13講 本調査・研究(継続2回目)
 第14講 本調査・研究(継続3回目)
 第15講 調査・研究のまとめ

 調査・研究には、実験実習やフィールドワークを含む。

テキスト・教材 (参考文献含む)

田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,450円(税込)
適宜、プリントを配布する。

担当者から一言

積極的に取り組み、自分の考えで調査を進め、実現させていくことで得られる達成感、探求する楽しみを実感できるよう、技術面の支援、研究指導をするつもりです。のびのびと活動しましょう。

専門演習 c 大八木麻希	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。

到達目標
本セミナーでは調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業研究への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習
参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

専門演習 c 片山清和	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
卒業研究のテーマを自分で決定し、これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を生かして、主体的に卒業研究を進めてもらいます。
また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。

到達目標
①卒業研究の中間発表会の準備ができる。
②研究の進捗状況を報告・議論できる。
③研究内容をプレゼンテーションできる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への取り組み姿勢や卒業研究の進捗状況などによって総合的に評価する。

事前・事後学習
研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集すること（90分）
研究や全体検討で生じた問題・課題への対応策を検討すること（90分）

授業の位置づけ
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1回 ガイダンス
第2回 文献(英文)検索
第3回 文献(英文)講読
第4回 文献(英文)発表
第5回 卒業論文目次作成
第6回 中間発表要旨作成①タイトル及び目的
第7回 中間発表要旨作成②概要及び方法
第8回 中間発表要旨作成③結果及び考察
第9回 中間発表プレゼン作成①タイトル及び目的
第10回 中間発表プレゼン作成②概要及び方法
第11回 中間発表プレゼン作成③結果及び考察
第12回 中間発表プレゼン予備発表、添削
第13回 中間発表プレゼン修正、発表
第14回 卒業論文骨子を固める
第15回 卒業研究中間発表会
実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストなし。
資料配布。

担当者から一言
教員はサポート側に徹し、セミナー時間外の指導についても歓迎します。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
第1講 ガイダンス、卒業研究テーマの検討・決定
第2講 研究計画の立案
第3講 卒業研究の実施、全体検討(1)
第4講 卒業研究の実施、全体検討(2)
第5講 卒業研究の実施、全体検討(3)
第6講 卒業研究の実施、全体検討(4)
第7講 卒業研究の実施、全体検討(5)
第8講 ゼミ内中間発表会の準備
第9講 ゼミ内中間発表会
第10講 卒業研究の実施、全体検討(6)
第11講 卒業研究の実施、全体検討(7)
第12講 卒業研究の実施、全体検討(8)
第13講 卒業研究の実施、全体検討(9)
第14講 卒業研究の実施、全体検討(10)
第15講 卒業研究の中間発表会

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。（必要に応じて指示または配布します）

担当者から一言
卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。

専門演習 c	科目ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必修

木村眞知子

授業のねらい

これまでのセミナーで習得した知識や技術などのクリエイティブな力と、テーマにアプローチする方法論を活かして、個々のテーマについて方向性を定め、卒業制作および卒業研究を進めます。
作品は、映像によるものだけでなく活字、マルチメディア表現、またはそれらを組み合わせたものでも良いこととします。
また、作品によって必然性があれば、セミナー内、あるいは他のセミナー生との共同制作も認めるものとします。

到達目標

個々のテーマに沿った作品制作、研究の方向性を定めること。そして、よりよい作品制作、研究にむけての準備を進めることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験はしません。
成績評価は次の通りとします。
授業、課題への取組み姿勢:30%
作品制作への意欲、参加度:40%
レポート内容、作品内容、完成度:30%
作品は卒業展において発表します。後日、総評を伝えます。

事前・事後学習

卒業制作および研究への取組みを準備学習として認めます。そのためには、毎日30分程度、様々なメディアを利用し、自らの作品や研究のための調査を行うこと。また、様々な芸術作品に触れ、鑑賞、分析すること。

専門演習 c	科目ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必修

黒田淳哉

授業のねらい

専門演習cは、卒業制作や研究論文の準備です。テーマを明確にし、これまでに習得した照明技術や知識をもとに、卒業研究を進めていきます。

到達目標

- ①自主的に卒業研究の進め方を計画する。
- ②計画に沿って卒業研究を進めることができる。
- ③専門演習dに向けて、しっかりした研究の基盤をつくる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究、制作の成果及び、進捗状況をもとに評価する(100%)。なお、研究の進捗状況に応じて適切な助言をおこなう。

事前・事後学習

研究論文や制作に関して必要となる知識の収集を行うこと(90分以上)。毎回の講義時に課題を与えます。その課題に取り組むこと(90分以上)。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画

第1講	ガイダンス	卒業制作および研究に向けて――
第2講	卒業制作・研究	テーマの検討
第3講	卒業制作・研究	テーマのためのリサーチ
第4講	卒業制作・研究	テーマの決定
第5講	卒業制作・研究	実践的トライ
第6講	卒業制作・研究	テーマの再検討～最終決定
第7回	卒業制作・研究	リサーチ
第8講	卒業制作・研究	企画検討
第9講	卒業制作・研究	構成案作成
第10講	卒業制作・研究	準備 ケハン
第11講	卒業制作・研究	準備 構成案決定
第12講	卒業制作・研究	準備 取材交渉他
第13講	卒業制作・研究	準備 撮影・その他手配
第14講	卒業制作・研究	撮影1
第15講	卒業制作・研究	撮影2 ラッシュ確認他

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。必要に応じてテキストおよび資料を配付します。

担当者から一言

大学生活の集大成となる作品および研究となるよう、投げ出さず、自分らしい作品づくりや研究にこだわってください。そのためには、早め早めに動くことが大切です。楽しみにしています。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第1講	ガイダンス、研究テーマの確認
第2講	卒業研究、制作の計画書作成
第3講	卒業研究、制作の計画発表(ディスカッション)
第4講	文献の検索
第5講	卒業研究の実施
第6講	卒業研究の進行状況確認
第7講	卒業研究の実施
第8講	卒業研究の進行状況確認
第9講	卒業研究の実施
第10講	卒業研究の進行状況確認
第11講	卒業研究の実施
第12講	プレゼンテーション用資料の作成
第13講	プレゼンテーション用資料の完成
第14講	セミナー内研究報告会の準備
第15講	卒業研究の中間発表

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。(必要に応じてプリントを配布します)

担当者から一言

卒業研究は自分でテーマを見つけ、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう、計画的に研究を進めて下さい。

専門演習 c 関根辰夫	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
基礎及び専門セミナーで習得した知識、技術、技能を基に、受講生一人一人が自らの制作または研究の課題を設定し、年間を通して課題達成に向けて取り組む。音にかかわる課題を策定しその問題解決や実現に必要な知識、技術、意欲、工程管理能力などを身に付けるねらいとする。又自らの課題の達成に専念するのみではなく、他のメンバー(他のセミナーも含む)との交流を図り他のテーマの理解に努力し必要な場合はお互いに協力しあう事により他の側面からの意見や助言を得てテーマに対する理解の幅を広げる。

到達目標
・自身の研究の成果の集大成である卒業論文(卒業制作)を立案、制作する。
・下級生に対して模範となるコミュニケーション能力を確立する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業制作、卒業研究の取り組み方や進行状況によって、総合的に評価します。
制作・研究の取り組み方・進行状況などに関しては随時フィードバックします。

事前・事後学習
毎回の授業での助言や修正点などを自分自身でよく理解し、以降の卒業研究の進行に役立ててください。(45分程度)
また卒業発表会においてスムーズな発表ができるように、必要となるパワーポイントなどのツールの使い方をあらかじめ習得しておいてください。(45分程度)

専門演習 c 千葉 賢	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい
3年生までに経験したことを基礎に、地域の環境問題を中心に自分の研究テーマを見つけ、積極的に調査研究と卒業論文制作に取り組めます。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータをパソコン等で分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーと議論もします。このような経験を通じて、研究の方法、論理的な思考方法、図表の作成方法、論理的な文章の書き方などを身に付けてください。

到達目標
北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持つようになります。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。4年次は特に卒業論文の仕上げることを最大の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
大学ノートを全員に配布する。このノートに、卒業研究の作業内容と就職活動の様子を記入して、毎週の講義で提出させる。成績は毎週提出するノート点(優3点、良2点、可1点、不可0点)×15回(全部良で30点)、中間発表会・最終発表会(30点)、卒業研究の内容(30点)、努力点(10点)とする。

事前・事後学習
ゼミの時間外に毎週180分以上の研究時間を持ち、自分に誇れる論文を制作すること。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
第1講 ガイダンス・履修指導
第2講 ディスカッションによる、卒業制作のためのアイデア出し
第3講 アイディアをテーマにまとめる
第4講 テーマの内容の実現性検討
第5講 ディスカッションによるテーマの評価
第6講 卒業展での発表メディアの決定
第7講 制作時に必要となる機材、消耗品などの確認
第8講 卒業展のスケジュールから逆算してのスケジュールの作成
第9講 目的を明確にする
第10講 具体的な作業を列挙して計画を立てる
第11講 各自作業を行う
第12講 作業の結果を評価し計画を修正
第13講 修正結果をもとに作業を行う
第14講 作業を行い、結果を評価し計画を修正
第15講 セミナー内でのメディアチェック

テキスト・教材(参考文献含む)
特になし。

担当者から一言
卒業論文・卒業制作は論文調査からスタジオを使用しての録音や編集まで非常に幅の広い作業になります。各自進行状況を常に担当教員に報告、相談して指導を受けるように心がけると共に、計画通り進めるよう自己管理を学んで下さい。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス、卒業研究テーマの検討・決定
第2講 卒業研究計画書の作成・提出
第3講 卒業研究計画のゼミ内発表(パワーポイント)、グループディスカッション
第4講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第5講 学外活動(2・3年生との共同調査など)
第6講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第7講 就職に関するグループディスカッション
第8講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第9講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第10講 学外活動(2・3年生との共同調査など)
第11講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第12講 就職に関するグループディスカッション
第13講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第14講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第15講 卒業研究中間発表会

テキスト・教材(参考文献含む)
必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言
4年生になると就職で頭が一杯になりますが、卒業研究も進めなければなりません。今年も年度当初から温かく厳しく指導します。コピペ社会になりましたが、卒業研究では汗をかいて、手作りの論文を作成し、世の中に役立つ成果を残しましょう。

専門演習 c 野呂達哉	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい

3年次までに習得した知識や技術を参考として目的に沿った研究計画を定め、卒業研究を進める。中間発表会に向けた分かりやすい資料を作成する。

到達目標

自身の研究対象やテーマを定め、調査計画を立て、卒業研究を実施する。資料の作成や発表の練習を通して教員や他の学生と十分議論を尽くし、中間発表を行う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究や演習への取り組み、研究の進捗状況、中間発表会での発表内容をもとに総合的に評価します（100%）。演習の時間に関係なく質問、相談等に対応します。

事前・事後学習

演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題点や疑問を皆で議論する場と捉え、出席するよう心がけてください（90分）。演習後は議論した内容をふまえて研究を進めてください（90分）。

専門演習 c 廣住豊一	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必修

授業のねらい

これまでの講義・演習・実験・セミナーなどで得た知識・技術・経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。

到達目標

研究課題を設定できる。設定した研究課題を遂行する研究計画を立案できる。研究の進捗報告および議論ができる。研究の途中経過を適切に発表できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習

研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集（90分）。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討（90分）。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第1講 ガイダンス 研究の進め方
第2講 研究テーマの検討
第3講 研究計画の作成
第4講 卒業研究の実施
第5講 卒業研究の実施
第6講 卒業研究の進捗報告・議論
第7講 卒業研究の実施
第8講 卒業研究の進捗報告・議論
第9講 卒業研究の実施
第10講 卒業研究の進捗報告・議論
第11講 卒業研究論文作成 背景と目的
第12講 卒業研究論文作成 方法・途中経過
第13講 卒業研究論文 図表作成
第14講 卒業研究 中間発表会のパワーポイント作成
第15講 卒業研究 中間発表会の発表練習
卒業研究中間発表会

テキスト・教材（参考文献含む）

文献の紹介や必要に応じて論文や資料を配布します。

担当者から一言

卒論研究では自らがフィールドに赴いて活動する機会が多くなります。地域とのコミュニケーションも大切にしてください。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第1講 ガイダンス 研究の進め方
第2講 研究課題の検討
第3講 研究計画の策定
第4講 卒業研究の実施
第5講 卒業研究の進捗報告および議論
第6講 卒業研究の実施
第7講 卒業研究の進捗報告および議論
第8講 卒業研究の実施
第9講 卒業研究の進捗報告および議論
第10講 卒業研究の実施
第11講 卒業研究の進捗報告および議論
第12講 卒業研究の実施
第13講 卒業研究の進捗報告および議論
第14講 卒業研究中間発表会の準備
第15講 卒業研究中間発表会
作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。
全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材（参考文献含む）

研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査・検討する態度が求められる。

担当者から一言

自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や後輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。

専門演習 c 前川 督雄	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必 修

授業のねらい
 これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。

到達目標
 卒業制作・卒業研究の中間レポートを仕上げ、発表する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および進捗状況を総合的に評価します。
 定期試験を行いません。

事前・事後学習
 授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。

専門演習 c 牧田 直子	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4001	前学期	必 修

授業のねらい
 専門演習 c では、卒業研究のための調査を本格的に進める。自分で決めた調査対象について自信を持って調査を進める。これまでに学んだ知識や身につけた実験技術をもとに、各自で創意工夫し、卒業研究のデータをまとめ上げる。研究の最も楽しい時期であり、自分の考えで実験を進めることで、考える力を伸ばし、実力へとつなげたい。

到達目標
 「自信を持って発表できる」
 これまでに調査したデータをまとめ、他人に分かる形で発表できるようにする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習
 (1) 調査・研究に必要な資料や情報を調べ、準備しておく(30分)。
 (2) 調査・研究を進めながら、データの整理をしておく(120分)。
 (3) 調査・研究のまとめ方を考え、実験方法等、書けるところから論文用書き進める(30分)。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画
 第1講 ガイダンス／卒業制作・卒業研究の目標を設定
 第2講 卒業制作・卒業研究
 第3講 卒業制作・卒業研究／4 月期総括・見直し
 第4講 卒業制作・卒業研究
 第5講 卒業制作・卒業研究
 第6講 卒業制作・卒業研究／5 月期総括・見直し
 第7講 卒業制作・卒業研究
 第8講 卒業制作・卒業研究
 第9講 卒業制作・卒業研究
 第10講 卒業制作・卒業研究
 第11講 卒業制作・卒業研究／6 月期総括・見直し
 第12講 卒業制作・卒業研究
 第13講 卒業制作・卒業研究
 第14講 中間発表／中間レポート提出
 第15講 夏休み・後期に向けて面談
 (7 月末に卒業制作・卒業研究の中間レポートを提出)

テキスト・教材 (参考文献含む)
 テキストはありません。

担当者から一言
 前期でどこまで到達できるかが勝負です。頑張ってください。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
 第1講 ガイダンスと研究計画の確認、調査準備
 第2講 各自の調査・研究
 第3講 各自の調査・研究
 第4講 各自の調査・研究
 第5講 各自の調査・研究
 第6講 各自の調査・研究の中間報告(1 回目)
 第7講 各自の調査・研究
 第8講 各自の調査・研究
 第9講 各自の調査・研究
 第10講 各自の調査・研究
 第11講 各自の調査・研究の中間報告(2 回目)
 第12講 各自の調査・研究
 第13講 各自の調査・研究
 第14講 分野ごとの中間発表会の準備
 第15講 卒業研究中間発表会

 調査・研究には、実験実習やフォールドワークを含む。

テキスト・教材 (参考文献含む)
 田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,450円(税込)
 適宜、プリントを配布する。

担当者から一言
 積極的に取り組み、自分の考えで計画的に調査を進め、データをまとめましょう。各自に合わせて技術面の支援、研究指導をするつもりです。

専門演習 d 大八木麻希	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。

到達目標
本セミナーでは調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業研究への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習
参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

専門演習 d 片山清和	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を生かして、自分で決めた卒業研究を完成させます。
また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。

到達目標
①卒業研究を完成させる。
②研究の進捗状況を報告・議論できる。
③研究内容をプレゼンテーションできる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業への取り組み姿勢や卒業研究の内容などによって総合的に評価する。

事前・事後学習
研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集すること（90分）
研究や全体検討で生じた問題・課題への対応策を検討すること（90分）

授業の位置づけ
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1回 ガイダンス
第2回 卒業論文進捗中間報告会
第3回 卒業研究データまとめ
第4回 卒業研究グラフ作成
第5回 関連文献検索
第6回 関連文献購読
第7回 卒業論文進捗報告会
第8回 関連講演会への参加
第9回 卒業論文作成①目次及び方法
第10回 卒業論文作成②概要及び目的
第11回 卒業論文作成③結果及び考察
第12回 卒業研究発表プレゼン作成①目次及び方法
第13回 卒業研究発表プレゼン作成②概要及び目的
第14回 卒業研究発表プレゼン作成③結果及び考察
第15回 卒業研究発表会
実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキストなし。
資料配布。

担当者から一言
最後の最後まで粘り強く取り組むことが良い卒業論文となり、人生の糧となってくれます。全力でサポートさせていただきます。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
第1講 ガイダンス、卒業研究テーマと研究計画の再確認
第2講 卒業研究の実施、全体検討（1）
第3講 卒業研究の実施、全体検討（2）
第4講 卒業研究の実施、全体検討（3）
第5講 卒業研究の実施、全体検討（4）
第6講 卒業研究の実施、全体検討（5）
第7講 卒業研究の実施、全体検討（6）
第8講 卒業研究の実施、全体検討（7）
第9講 卒業研究の実施、全体検討（8）
第10講 卒業研究の実施、全体検討（9）
第11講 卒業研究の実施、全体検討（10）
第12講 卒業研究の実施、全体検討（11）
第13講 卒業研究の実施、全体検討（12）
第14講 ゼミ内発表会
第15講 卒業研究発表会

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。（必要に応じて指示または配布します）

担当者から一言
卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。

専門演習 d 木村眞知子	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい

「卒業制作」「卒業研究」を完成させます。
自らのテーマ、作品への思いを貫き、自分らしい作品を作ります。
ただし、自己満足で終わるのではなく、第三者の鑑賞に堪える作品を目指します。
「卒業研究」の場合も、誰かの受け売り等でなく、自らで考え研究する姿勢を大切にします。
卒業制作は、その作品のDVDおよび作品の企画書、構成案、台本などをまとめた論文形式のアウトプットとあわせて提出します。
また卒業制作および研究は提出するだけでなく、「卒業展」で作品の発表を行います。

到達目標

大学生生活の集大成となるような、自分で誇らしく思えるような作品、研究を目指します。最後まであきらめずに、よりクオリティの高い作品づくり、研究を完成させることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験はしません。
成績評価は次の通りとします。
授業、課題への取組み姿勢:30%
作品制作への意欲、参加度:40%
レポート内容、作品内容、完成度:30%
作品は卒業展において発表します。後日、総評を伝えます。

事前・事後学習

卒業制作および研究への取組みを準備学習として認めます。そのためには、毎日30分程度、様々なメディアを利用し、自らの作品や研究のための調査を行うこと。また、様々な芸術作品に触れ、鑑賞、分析すること。

専門演習 d 黒田淳哉	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい

これまででセミナーで得た技術や知識をもとに、卒業研究に取り組む。成果を収める為に必要なことを自ら考え行動できるようになること。

到達目標

- ①卒業研究および制作を完成させる。
- ②卒業展にて研究成果の発表を行う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究、制作の成果を評価する(100%)。
なお、研究の進捗状況に応じて適切な助言をおこなう。

事前・事後学習

研究論文や制作に関して必要となる知識の収集をおこなうこと(90分以上)。
毎回の講義時に課題を与えます。その課題に取り組むこと(90分以上)。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画

第1講	ガイダンス	卒業制作および卒業研究の完成に向けて——
第2講	卒業制作・研究	前期卒業研究セミナー I の振り返り
第3講	卒業制作・研究	テーマの再検討
第4講	卒業制作・研究	撮影1
第5講	卒業制作・研究	撮影2
第6講	卒業制作・研究	撮影3 ラッシュ確認
第7回	卒業制作・研究	編集1
第8講	卒業制作・研究	編集2
第9講	卒業制作・研究	編集3
第10講	卒業制作・研究	アラ編 試写
第11講	卒業制作・編集4	手直し
第12講	卒業制作・編集5	MA
第13講	卒業制作・研究	編集6 完パケ
第14講	卒業制作・研究	編集7 試写
第15講	卒業制作・研究	完成 卒業展にて発表

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。必要に応じてテキストおよび資料を配付します。

担当者から一言

作品づくりや研究に妥協は認めません。
自らの作品や研究にエンドマークを記すまでは、投げ出さず、より良い作品、自分らしい作品づくり、あるいは研究に全力で取り組んでください。
期待しています。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

第1講	ガイダンス、研究計画の再確認
第2講	卒業研究の進行状況確認
第3講	卒業研究の実施
第4講	卒業研究の進行状況確認
第5講	卒業研究の実施
第6講	卒業研究の進行状況確認
第7講	卒業研究の実施
第8講	卒業研究発表会の資料作成
第9講	卒業研究の提出
第11講	卒業研究発表会の発表準備
第12講	卒業研究のリハーサル(プレゼンテーション)
第13講	作品、論文の修正及び調整作業
第14講	卒業研究発表会(プレゼンテーション)
第15講	資料整理

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

担当者から一言

卒業研究は自分で考え、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう計画的に研究を進めて下さい。

専門演習 d 関根辰夫	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
基礎及び専門セミナーで習得した知識、技術、技能を基に、受講生一人一人が自らの制作または研究の課題を設定し、年間を通して課題達成に向けて取り組む。音にかかわる課題を策定しその問題解決や実現に必要な知識、技術、意欲、工程管理能力などを身に付けるねらいとする。又自らの課題の達成に専念するのみではなく、他のメンバー（他のセミナーも含む）との交流を図り他のテーマの理解に努力し必要な場合はお互いに協力しあう事により他の側面からの意見や助言を得てテーマに対する理解の幅を広げる。

到達目標
・自身の研究の成果の集大成である卒業論文（卒業制作）を立案、制作する。
・下級生に対して模範となるコミュニケーション能力を確立する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
卒業制作、卒業研究の取り組み方や進行状況によって、総合的に評価します。
制作・研究の取り組み方・進行状況などに関しては随時フィードバックします。

事前・事後学習
毎回の授業での助言や修正点などを自分自身でよく理解し、以降の卒業研究の進行に役立ててください。（45分程度）
また卒業発表会においてスムーズな発表ができるように、必要となるパワーポイントなどのツールの使い方をあらかじめ習得しておくと共に、セミナー内だけではなく自宅などでも発表のリハーサルをしてください。（45分程度）

専門演習 d 千葉 賢	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい
3年生までに経験したことを基礎に、地域の環境問題を中心に自分の研究テーマを見つけ、積極的に調査研究と卒業論文制作に取り組めます。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータをパソコン等で分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーと議論もします。このような経験を通じて、研究の方法、論理的な思考方法、図表の作成方法、論理的な文章の書き方などを身に付けてください。

到達目標
北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持つようになります。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。4年次は特に卒業論文の仕上げることを最大の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
大学ノートを全員に配布する。このノートに、卒業研究の作業内容と就職活動の様子を記入して、毎週の講義で提出させる。成績は毎週提出するノート点（優3点、良2点、可1点、不可0点）×15回（全部良で30点）、中間発表会・最終発表会（30点）、卒業研究の内容（30点）、努力点（10点）とする。

事前・事後学習
ゼミの時間外に毎週180分以上の研究時間を持ち、自分に誇れる論文や作品を制作すること。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 卒業研究テーマの再確認
第3講 卒業研究進行状況報告相談
第4講 卒業生の制作物視聴会
第5講 業生の制作物視聴会
第6講 卒業研究進行状況報告相談
第7講 卒業研究中間報告会、意見交換
第8講 卒業研究進行状況報告相談
第9講 卒業展の時に必要なセッティングなどの確認
第10講 卒業研究進行状況報告相談
第11講 卒業展用パワーポイントファイル作成
第12講 卒業論文・制作提出（12月末）
第13講 セミナー内発表会
第14講 最終チェック（セミナー内）
第15講 発表練習（12月末に提出）（1月に卒業展予定）

テキスト・教材（参考文献含む）
特になし。

担当者から一言
卒業論文（卒業制作）は論文調査からスタジオを使用しての録音や編集まで非常に幅の広い作業になります。各自進行状況を常に担当教員に報告、相談して指導を受けるように心がけると共に、計画通り進めるよう自己管理を学んで下さい。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス、卒業研究の進捗状況の発表
第2講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第3講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第4講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第5講 学外活動（農業体験など）
第6講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第7講 就職に関するグループディスカッション
第8講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第9講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第10講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第11講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第12講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第13講 卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導
第14講 卒業研究の合同発表会
第15講 卒業研究発表会

テキスト・教材（参考文献含む）
必要に応じてプリントを配布する。

担当者から一言
4年生になると就職で頭が一杯になりますが、卒業研究も進めなければなりません。今年も年度当初から温かく厳しく指導します。コピペ社会になりましたが、卒業研究では汗をかいて、手作りの論文を作成し、世の中に役立つ成果を残しましょう。

専門演習 d 野呂達哉	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい

中間発表の結果や議論を踏まえ、研究計画を補足しながら卒業研究を進める。卒業論文発表会に向けた分かりやすい資料を作成する。

到達目標

フィールドワーク等で得られたデータを分析し、論理的な結論を導く。研究内容に沿った分かりやすい図表を作成し、その上で卒業論文を執筆、発表を行う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業論文発表会での発表内容をもとに総合的に評価します (100%)。演習の時間に関係なく質問、相談等に対応します。

事前・事後学習

演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題点や疑問を皆で議論する場と考え、出席するよう心がけてください(90分)。演習後は議論した内容を踏まえた上で研究を進めてください(90分)。

専門演習 d 廣住豊一	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必修

授業のねらい

これまでの講義・演習・実験・セミナーなどで得た知識・技術・経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。

到達目標

中間発表会で得られた課題を整理し研究計画を改善できる。研究の進捗報告および議論ができる。得られた研究成果を論文にまとめ、わかりやすく発表できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習

研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集(90分)。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討(90分)。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス 研究の進め方
 - 第2講 研究計画の確認と補足
 - 第3講 卒業研究の実施
 - 第4講 卒業研究の進捗報告・議論
 - 第5講 卒業研究の実施
 - 第6講 卒業研究の進捗報告・議論
 - 第7講 卒業研究の実施
 - 第8講 卒業研究の進捗報告・議論
 - 第9講 卒業研究論文作成 背景と目的
 - 第10講 卒業研究論文作成 方法・結果
 - 第11講 卒業研究論文 図表作成
 - 第12講 卒業研究論文作成 考察・要旨
 - 第13講 卒業研究 発表用パワーポイント作成
 - 第14講 卒業研究 発表練習
 - 第15講 卒業研究 発表練習
- 卒業論文発表会

テキスト・教材 (参考文献含む)

文献の紹介や必要に応じて論文や資料を配布します。

担当者から一言

卒業研究は学生生活の集大成です。教員や他の学生とも議論を尽くし、納得のいくものを作りあげましょう。疑問や分からないことがあれば遠慮せずに聞きに来てください。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス 中間発表会時の議論整理
 - 第2講 研究計画の改定
 - 第3講 研究計画の確認と修正
 - 第4講 卒業研究の実施
 - 第5講 卒業研究の進捗報告および議論
 - 第6講 卒業研究の実施
 - 第7講 卒業研究の進捗報告および議論
 - 第8講 卒業研究の実施
 - 第9講 卒業研究の進捗報告および議論
 - 第10講 卒業研究の実施
 - 第11講 卒業研究の進捗報告および議論
 - 第12講 卒業研究の実施
 - 第13講 卒業研究の進捗報告および議論
 - 第14講 卒業研究発表会の準備
 - 第15講 卒業研究発表会
- 作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。
全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材 (参考文献含む)

研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査・検討する態度が求められる。

担当者から一言

自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や後輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。

専門演習 d 前川 督雄	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必 修

授業のねらい
 これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。

到達目標
 卒業制作(作品+制作レポート)あるいは卒業研究(卒業論文)の完成及び展示・発表を見事に成し遂げる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および成果を総合的に評価します。定期試験を行いません。

事前・事後学習
 授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。

専門演習 d 牧田 直子	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	ESS4002	後学期	必 修

授業のねらい
 専門演習 d では、卒業研究を論文にまとめ、発表する最終段階に入ります。研究データの追加や再検討を行い、納得のいく内容で、わかりやすくまとめ上げましょう。今までの経験をもとに、社会で応用できる実力へとつなげたい。

到達目標
 「わかりやすく発表し、議論(質疑応答)できる」
 自分の考えをわかりやすくまとめて伝え、議論できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。

事前・事後学習
 (1)データの整理、作図(90分以上)。
 (2)論文の執筆、発表資料等の作成(90分以上)。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画
 第1講 ガイダンス/面談
 第2講 卒業制作・卒業研究
 第3講 卒業制作・卒業研究
 第4講 卒業制作・卒業研究
 第5講 卒業制作・卒業研究/発表様式・概要メ切(10月末)
 第6講 卒業制作・卒業研究
 第7講 卒業制作・卒業研究
 第8講 卒業制作・卒業研究
 第9講 卒業制作・卒業研究完成(11月末)
 第10講 論文レポート作成
 第11講 論文レポート作成/メディアチェック
 第12講 論文・レポート提出(12月末)
 第13講 発表準備
 第14講 発表準備
 第15講 発表練習
 (12月末に提出)
 (1月に卒業展・卒業研究発表会での展示・発表)

テキスト・教材 (参考文献含む)
 テキストはありません。

担当者から一言
 大学生活の総決算です。頑張ってください。

授業の位置づけ
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
 第1講 ガイダンスと調査・研究の現状確認
 第2講 各自の調査・研究
 第3講 各自の調査・研究
 第4講 各自の調査・研究
 第5講 各自の調査・研究
 第6講 各自の調査・研究
 第7講 卒業研究論文の下書き完成
 第8講 卒業研究論文の下書きの修正、確認
 第9講 卒業研究論文の図表、体裁の修正
 第10講 卒業研究論文の要旨作成
 第11講 卒業研究論文の完成
 第12講 発表原稿の完成
 第13講 パワーポイント資料の完成
 第14講 卒業研究発表会の準備
 第15講 卒業研究発表会

 調査・研究には、実験実習やフィールドワークを含む。

テキスト・教材 (参考文献含む)
 田中 正明「日本淡水産動物植物プランクトン図鑑」名古屋大学出版会(2002年)定価:10,450円(税込)
 適宜、プリントを配布する。

担当者から一言
 誰が読んでもわかりやすい論文に仕上げ、発表しましょう。

地球環境学総論 廣住豊一	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	ENE2001	後学期	分野必修

授業のねらい
この講義では、現在地球で生じている人間活動に起因する様々な問題について広く学ぶ。環境問題に対する基本的な考え方を身につけ、自然環境分野で開講されるより専門的な各科目の内容に円滑に接続できるようにする。また、各回の授業でレポートを課し、得られた知識や自分の考えを限られた時間で適切にまとめる能力を身につける。

到達目標
現在この地球で問題になっている課題を理解し、その解決策について考えることができる。自分の考えをまとめ、正確に伝えることができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。ミニレポートは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を1段階下げる。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。

事前・事後学習
シラバスの授業計画をよく確認し、書籍・テレビ・新聞・インターネットなどの関連する記事・ニュースで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。

生態学 大八木麻希	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	ENE2002	前学期	分野必修

授業のねらい
人類誕生の遙か昔から途切れることなく続いてきた生物活動の営みを理解するとともに、人間とのかかわりで生物多様性や保全活動が重要視されている。そこで、環境分野を学ぶための基礎となる科学的視点を身につけてもらいたい。

到達目標
生物基礎と社会情勢の両面から生態系を考える多角的な視点を養う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小レポート30%、試験70%
小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。

事前・事後学習
授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
地域の持続的発展のために貢献できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス、いまわたしたちの地球で起きていること
第2講 地球と環境を知る① 環境問題の歴史
第3講 地球と環境を知る② 地球の構造と自然のはたらき
第4講 地球規模の環境問題① 地球温暖化
第5講 地球規模の環境問題② オゾン層の保護
第6講 地球規模の環境問題③ 大気汚染と酸性雨
第7講 地球規模の環境問題④ 人口増加と貧困・格差・食糧問題
第8講 自然と生態系を守る① 森林の破壊と保護
第9講 自然と生態系を守る② 土壌劣化と砂漠化
第10講 自然と生態系を守る③ 水資源問題と海洋環境汚染
第11講 自然と生態系を守る④ 生物多様性と生態系の保全
第12講 生活環境を考える① 暮らしにかかわる環境問題
第13講 生活環境を考える② 人間の活動とエネルギー問題
第14講 生活環境を考える③ 廃棄物の処理と資源のリサイクル
第15講 まとめ 持続可能な社会を目指して
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。授業内容の理解を助けるため、各回の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。自習用教材には、環境社会検定試験(eco検定)、環境学・環境科学・地球環境に関する書籍などを推奨する。

担当者から一言
ある一面からの視点では地球環境問題の全体像は把握できません。問題解決にはさまざまな立場から捉えることが重要です。各回の授業で課すミニレポートではその点に注意して書いてみてください。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス、生態学とは
第2講 生物圏と生態学
第3講 生物種の系統と進化
第4講 生物の生活資源と個体群
第5講 個体群の成長過程と密度効果
第6講 生物群集と生態系
第7講 種間競争と種の共存
第8講 生活史の進化と多様性
第9講 生態系における物質循環
第10講 バイオドーム森林の地理的植生
第11講 植生の遷移
第12講 生物多様性
第13講 人間活動とのかかわり
第14講 環境汚染と生態系
第15講 生態系保全
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
参考文献
原登志彦「大学生のための生態学入門」共立出版、2017年、2,640円

担当者から一言
日頃から関連するニュースや事象に興味関心を持ち、積極的な受講を望みます。

環境保全学	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	分野必修
野呂 拓哉		ENE2003		

授業のねらい
 生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。

到達目標
 環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業に対する積極性(50%)、定期試験(50%)を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。

事前・事後学習
 前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください(毎週30分)。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください(1日平均30分)。

環境化学	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期
牧田直子		EEB2001	選 択

授業のねらい
 物質の成り立ちや化学反応を理解し、環境に関する事柄を化学的に考える力を養うことを目標とする。具体的には、大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化等の化学について学ぶ。物質を構成している原子や化学反応における量の関係、エネルギーの出入りなどを学び、各種の反応へと発展させる。内容には物理化学および有機化学の基礎も含む。
 関連科目は「化学概論」、「環境化学実験」など。

到達目標
 (1)構造式や分子の形から、その物質の性質が考えられる。
 (2)燃焼反応などの化学反応式が書ける。
 (3)オゾンや酸素の役割、温室効果のメカニズムなどが化学的に説明できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 宿題プリント(13回分):25%、試験:75%
 宿題は翌週の講義開始10分以内に提出。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。宿題の評価は正解率ではなく、解答率(問題数に対する解答数)に準ずる。
 宿題プリントと授業内に行った演習プリントは、採点して返却する。

事前・事後学習
 (1)予習・復習のために宿題のプリントを配るので、解答する(90分)。
 (2)教科書を読む(60分)。各回の講義に該当する教科書のページ数を明記した講義計画を初回の授業で配布する。
 (3)ノートの見直し、まとめ(30分)。

授業の位置づけ
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 第2講 生物にとっての環境とは
 第3講 人による環境変化の歴史
 第4講 生物の絶滅、その歴史と現在
 第5講 生物多様性とは
 第6講 生物多様性を脅かす危機
 第7講 生物資源と遺伝資源
 第8講 生態系サービスの概念
 第9講 生物多様性条約とCOP10
 第10講 保全生物学の考え方
 第11講 生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組み
 第12講 気候変動による自然生態系の変化
 第13講 気候変動への適応と取り組み
 第14講 持続可能な社会に向けた取り組み- ESDとSDGs
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献:「生物多様性という名の革命(デヴィッド・タカーチ)日経BP社、2006」、「最新 日本の外来生物(自然環境研究センター)平凡社、2019」、「生物多様性分野における気候変動への適応(環境省)環境省自然環境局、2016」など。

担当者から一言
 環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。

授業の位置づけ
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
 第1講 ガイダンス、持続可能な未来のための化学
 第2講 地球の空気
 第3講 分子と化学変化
 第4講 大気汚染物質
 第5講 オゾン
 第6講 光(電磁波)
 第7講 成層圏オゾンの生成と破壊
 第8講 オゾン層の保護
 第9講 分子の形
 第10講 温室効果と分子の形
 第11講 分子の振動と温室効果ガス
 第12講 燃料の化学
 第13講 燃焼反応と熱エネルギー
 第14講 石油化学
 第15講 バイオ燃料
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 A Project of the American Chemical Society編、廣瀬千秋 訳「改訂 実感する化学 上巻 地球感動編」NTS社(2015)、3,850円(税込み)

担当者から一言
 ノートを用意して下さい(ルーズリーフは不可)。試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。
 授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。

環境化学実験 牧田直子	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EEB2002	前学期 後学期	選 択

授業のねらい

化学は実験によって発展した学問であり、化学教育に実験は欠かせない。この授業では、基本的な実験器具の使用法を習得し、様々な分析実験を通して化学実験に慣れ、「化学」を実感できることを目標とする。また、実験を通して環境に対する意識が向上することをねらいとする。

実験系科目の基礎になる科目なので、2年次の実験系科目を履修する前に、また、実験系の演習科目(セミナー)を希望する学生は是非、履修して欲しい。

関連科目は上記科目の他に「化学概論」、「環境化学」など。

到達目標

- (1) 実験器具を適切に取り扱える(使い方、洗い方)
- (2) 水溶液の成分(無機化合物)を定性反応によって判別できる
- (3) 水溶液の濃度を実験によって決定できる(濃度計算ができる)

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

実習:30%、実技:15%、予習:15%、試験:40%

「実習」は各回の実験結果を実験ノート(プリント)のデータ欄で確認し、評価する。「実技」は設定された項目を達成した場合に、「予習」は実習プリントへの書き込み課題等で評価する。「試験」は試験期間中に筆記試験を行う。

データ整理が完了した実験ノートは、添削して次回以降の授業内で返却する。

事前・事後学習

- (1) 予習として実験操作をよく読み、プリントに書き込む。マーカーで線を引く等の工夫をして、実験に必要な器具、試薬等や手順を把握しておく(90分)。
- (2) 実験データを実験ノート(プリント)にまとめ、計算しておく(90分)。完成した実験ノートは提出する。

自然調査法 大八木麻希	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EEB2003	前学期	選 択

授業のねらい

20世紀後半の高度経済成長期の負の遺産として浮上してきた環境問題。21世紀には環境問題を改善する手法の確立や環境負荷を減らす産業の試みが行われている。その中で、環境そのものの現状把握として、生物調査を含めた環境調査が行われている。さまざまな開発に伴う自然環境についての生物調査は注目される分野であり、これらへの理解は社会環境へも応用的理解も有している。現代の問題に、生物調査法を通じて、幅広く対応できる人材を育成していきたい。

到達目標

本講義では、自然調査法についての理論及び実際の方法について、生物学・生態学の知識をふまえて学ぶ。そこで、自然調査法について、自身で柔軟な視野で考え、科学的に理論を組み立てることが出来ることを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

小レポート30%、試験70%

小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。

事前・事後学習

授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1講 | ガイダンスと実験操作の基礎 - 質量と体積の量り方 |
| 第2講 | 溶液の希釈とピペットの使い方 |
| 第3講 | 溶液の作り方と濃度 |
| 第4講 | 定性分析-陰イオンの化学反応 |
| 第5講 | リン酸イオンの定量分析-分光光度計の使い方 |
| 第6講 | モル濃度-溶液の調整と観察 |
| 第7講 | 塩素イオンの定量(沈殿滴定) |
| 第8講 | 酸化還元反応(1)-鉄の反応 |
| 第9講 | 酸化還元反応(2)-酸化還元滴定 |
| 第10講 | 酸化還元反応(3)-COD測定 |
| 第11講 | 鉄の定量(o-フェナントロリン吸光光度法) |
| 第12講 | 廃油のリサイクル |
| 第13講 | 酸と塩基(1)-pHの測定 |
| 第14講 | 酸と塩基(2)-中和滴定 |
| 第15講 | 実験操作の復習、データ整理、まとめ |
- 定期試験

二人一組で協力して実験実習を進めるアクティブラーニング科目

テキスト・教材(参考文献含む)

自作の実習プリントを参考資料と一緒に配布する。毎回すべてのプリントを持って来ること。実習プリントは①実験操作、②実験ノート、③予習、④補助プリントの4種類を用意している。

担当者から一言

化学実験には化学の基本的な知識が必要になるので、高校で化学を学んでいることが望ましい。危険な化学薬品も使うので、緊張感を持って取り組み、安全を意識すること。白衣着用を勧めます。

授業の位置づけ

地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- | | |
|------|---------------------|
| 第1講 | ガイダンス、生物季節観測 |
| 第2講 | 森林① 植生調査 |
| 第3講 | 森林② 森林管理 |
| 第4講 | 森林③ 竹林問題 |
| 第5講 | 森林④ シカ害 |
| 第6講 | 森林⑤ 土壌生物調査 |
| 第7講 | 淡水圏① 湖沼の水生植物 |
| 第8講 | 淡水圏② 湖沼の動植物プランクトン |
| 第9講 | 淡水圏③ 水生昆虫分類 |
| 第10講 | 淡水圏④ 生物学的な水質判定法 |
| 第11講 | 海洋① 海洋モニタリング |
| 第12講 | 海洋② 物理的要因(水温、日射、水圧) |
| 第13講 | 海洋③ 魚類形態と観察 |
| 第14講 | 海洋④ 干潟調査 |
| 第15講 | 海洋⑤ 深海調査 |
- レポート試験
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。
参考文献
柴田英昭「生態学フィールド調査法シリーズ1 森林集水域の物質循環調査法」共立出版(2015)2,000円
小池伸介ほか「生態学フィールド調査法シリーズ9 大型陸上哺乳類の調査法」共立出版(2017)2,600円

担当者から一言

重要語句の暗記ではなく、多角的・柔軟的な科学的視点を持つという意識を持って取り組んでほしい。簡易な実習を実施予定。

地域環境論	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
千葉 賢		EEP2001		

授業のねらい
 現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。

到達目標
 毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性（自分の生活とどのように関わっているか）を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回=90点（優秀レポートには加点）して成績評価する。レポートを採点してフィードバックする。遅刻者は減点する。期末試験はない。

事前・事後学習
 シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること（180分）。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。

環境エネルギー論	実務	科目	3 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
吉見勝治		ENE3001		

授業のねらい
 現代の生活になくならないエネルギー。その歴史を紐解き、身の回りにおけるエネルギーの起源や価値に気付くとともに、環境に対する負の側面について理解を深めます。また、現在導入が進められている自然エネルギーについて基礎的な技術と課題を学びます。最終的には、どのようなエネルギーシステムが理想形として望まれるか、自分なりの意見を持てるよう学習を進めます。

到達目標

- ・エネルギーとは何かを理解する
- ・主な発電技術について理解を深める
- ・エネルギー開発がもたらした環境への影響について理解する
- ・自然エネルギーとは何かを理解する
- ・電力供給システムの基礎と需給バランスについて理解する
- ・今後求められるエネルギー供給システムについて自分なりの意見を構築する

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 <評価方法>
 ・毎回の講義レポート:40% + 定期試験:60%
 ・講義レポートについては、提出次週の講義にてコメントを記載し返却します
 <定期試験概要>
 ・定期試験:選択問題 30% + 筆記問題 70%
 ・持ち込み自由 - 自分なりの考え方を問う問題を出題しますので、持ち込んだ資料で回答を保障するものではありません。

事前・事後学習
 毎回小レポートを課題として出すので、次回講義までに提出して下さい(60分)。なお、本レポートは出席確認を兼ねます。常に環境に関するニュースにはアンテナを高く張るよう意識して下さい(60分)。

授業の位置づけ
 地域の持続的発展のために貢献できる。

授業計画

第1講 ガイダンス、北勢地域の環境問題、千葉
 第2講 三重県の廃棄物対策、県担当者
 第3講 四日市市のゴミ処理とリサイクル、前川篤、市環境部
 第4講 持続可能な消費でSDGs～地域資源循環を目指して、百瀬則子、ワタミ(株)
 第5講 SDGsとエネ研の取り組み、近藤実千代、(一社)四大エネ研
 第6講 SDGsが描いている社会、新海洋子、(一社)SDGsコミュニティ
 第7講 再生可能エネルギーの展望、吉見勝治、(一社)サステナブル経営推進機構
 第8講 LCAによる環境問題の定量化、吉見勝治
 第9講 北勢地域の野生動物と外来種問題、野呂准教授
 第10講 三重県の林業と今後、川端康樹、海山林友(株)
 第11講 農業における環境への影響・多面的機能と可能な地域コミュニティ、上麻理、(株)うつべ農園
 第12講 環境配慮型の農業資材と栽培技術、人見翔太、園田商事(株)
 第13講 伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉
 第14講 伊勢湾のノリ養殖と貧栄養問題、岩出将英、泉水産研
 第15講 豊稔の伊勢湾を取り戻すために、千葉
 (講師の都合による日程変更あり)

テキスト・教材 (参考文献含む)
 なし。毎回の講義で資料を配布する。

担当者から一言
 話題を提供していただく講師の皆様へ感謝する気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。

授業の位置づけ
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができるよう学習を進めます。

授業計画

第1講 ガイダンス -エネルギーとは何か?-
 第2講 人類の歴史とエネルギー
 第3講 産業革命がもたらしたもの
 第4講 発電技術① 火力発電
 第5講 発電技術② 原子力発電
 第6講 エネルギーがもたらした負の遺産 -大気汚染, 地球温暖化-
 第7講 エネルギーがもたらした負の遺産 -福島第一原子力発電所事故-
 第8講 自然エネルギー① 太陽光・地熱発電
 第9講 自然エネルギー② 風力・水力発電
 第10講 自然エネルギー③ バイオマス・燃料電池
 第11講 新しいエネルギー 熱電変換素子, 酵素電池等
 第12講 省エネルギー技術
 第13講 電力供給システム -なぜブラックアウトは発生したのか-
 第14講 環境影響評価 -ライフサイクルアセスメント-
 第15講 これからのエネルギー施策 -まとめに代えて-
 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)

- ・自作プレゼン資料
- ・適宜資料や動画を使用します
- ・参考となる文献・図書については都度紹介します

担当者から一言
 毎回小レポートを課題として出すので、次回講義までに提出して下さい。なお、本レポートは出席確認を兼ねます。常に環境に関するニュースにはアンテナを高く張るよう意識して下さい。

資源循環論	実務	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	吉見勝冶	ENE3002	後学期	選 択

授業のねらい
 限りある資源をどのように活用するのか。大きな地球規模の物質循環から地域での資源循環に関する取り組みまで学習することにより、物質収支とは何か、資源循環とは何かを理解します。また、身近な事例をグループディスカッションという形で討議し、より良いモデルを自分たちで考える機会にしたいと思います。

- 到達目標**
- ・物質収支、物質循環の基礎について理解する
 - ・3 R の現状と各種 3 R 関連技術について理解する
 - ・サーキュラーエコノミーについて理解する
 - ・地域における資源循環の事例を理解する
 - ・具体的な題材を基に自分たちなりに環境ビジネス案を考える

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

〈評価方法〉
 ・毎回の講義レポート:40% + 定期試験:60%
 ・講義レポートについては、提出次週の講義にてコメントを記載し返却します

〈定期試験概要〉
 ・定期試験:選択問題 30% + 筆記問題 70%
 ・持ち込み自由 - 自分なりの考え方を問う問題を出題しますので、持ち込んだ資料で回答を保證するものではありません。

事前・事後学習

毎回小レポートを課題として出すので、次回講義までに提出して下さい(60分)。なお、本レポートは出席確認を兼ねます。常に環境に関するニュースにはアンテナを高く張るよう意識して下さい(60分)。

地理情報システム論	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	井岡幹博	ENE3003	前学期 選 択

授業のねらい
 地理空間情報の基本的な概念を修得し、データの入手方法、生成方法、分析手法、結果の表示方法などを学びます。セミナー等で取得している環境情報が、地理情報システムで解析をすると、どのような事柄が見えてくるのかを修得します。

到達目標
 セミナー等で取得した環境情報を地理情報システムで解析できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

提出物100%。毎回、成果物を印刷物、もしくはファイルとして提出してもらいます。提出物は、コメントを付して返却します。

事前・事後学習

授業内で提示するプリント類の熟読(予習90分)。毎回課される課題作成(復習90分)。

授業の位置づけ
 地域の持続的発展のために貢献できる。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス -資源とは何か?-
 - 第2講 日本の物質収支・世界の物質収支
 - 第3講 日本のゴミ発生量の推移と質の変化
 - 第4講 3 R とは -Reduce, Reuse, Recycle-
 - 第5講 3 R に関連する技術①
 - 第6講 3 R に関連する技術②
 - 第7講 3 R に関連する技術③
 - 第8講 環境配慮型設計とは
 - 第9講 資源としての水 -ウォーターフットプリントを例に-
 - 第10講 資源循環を進めるための法規制について
 - 第11講 3 R からサーキュラーエコノミーへ
 - 第12講 地域資源循環ケーススタディー
 - 第13講 グループディスカッション:身近な資源循環モデルを考える①
 - 第14講 グループディスカッション:身近な資源循環モデルを考える②
 - 第15講 これからの資源循環施策 -まとめに代えて- 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)

- ・自作プレゼン資料
- ・適宜資料や動画を使用します
- ・参考となる文献・図書については都度紹介します

担当者から一言

リサイクルやリユースという単語は知っていても、具体的な事例を説明することは難しいと思います。この講義を通じて身の回りのリサイクルやリユース、資源循環に興味を持ってもらうことを期待します。

授業の位置づけ
 地域の持続的発展のために貢献できる。
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス、地理空間情報の概要
 - 第2講 測地系と座標系
 - 第3講 基盤地図情報
 - 第4講 国勢調査データ
 - 第5講 標準地域メッシュ統計
 - 第6講 ArcGISによる実例解析
 - 第7講 国土数値情報
 - 第8講 地図画像データ
 - 第9講 座標変換と空間データの結合
 - 第10講 地図データと属性データ
 - 第11講 属性検索
 - 第12講 空間データの抽出とオーバーレイ
 - 第13講 実例解析 農業の空間分析
 - 第14講 実例解析 衛星画像の分析
 - 第15講 実例解析 ハンディGPSを用いたデータ作成
- 授業はコンピュータによる演習と座学により進めます。

テキスト・教材 (参考文献含む)

プリント配布。

担当者から一言

地理空間情報の扱いは、いままでの点での環境情報収集とは違って、巨視的、空間的な見方を与えてくれます。データ解析を楽しんでください。

環境倫理学 吉山青翔	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EEP2002	前学期	選 択

授業のねらい
環境倫理学は応用倫理学の一分野であります。
本講義では、一般的な人文科学などの知識をベースにして「環境・文化・人間」を軸に、人間と環境、とくに自然環境とのあるべき関係をさぐります。

到達目標
近代的な環境思想の主な内容を把握し、環境問題の見方と環境問題の解決に関する思想的な基礎を据えることができるでしょう。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
中間テスト(30点) 定期試験(70点)により総合評価。

事前・事後学習
授業前に1時間半ほどをかけて指定された資料を必ず読み、予習しておき、授業後にも1時間半ほどをかけて配布された資料とノートを必ず確認し、復習してください。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 「自然」と「環境」概念の哲学的構造
第3講 「自然保護」に対する「保全」と「保存」の相違点
第4講 ソローの全体論的自然保護思想
第5講 ジョン・ミューアの自然保護思想と自然保護運動の開始
第6講 ギフォード・ピンチョーの自然保護思想及びジョン・ミューアとの論争
第7講 エルンスト・ヘッケルのエコロジー思想
第8講 エレン・リチャーズのエコロジー思想と環境科学の誕生
第9講 エレン・リチャーズ思想とエルンスト・ヘッケル思想の比較
第10講 アルド・レオポルドの「土地の倫理」の思想
第11講 クリストファー・ストーンの「自然の権利」の思想
第12講 ビンター・シンガーの「動物の解放」の思想
第13講 レイチェル・カーソンの環境思想
第14講 「人間環境」に関する「保全」の思想
第15講 総括
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
テキスト とくになし。
参考文献 ロデリック＝ナッシュ著、松野弘訳『自然の権利 環境倫理の文明史』(ちくま書房)

担当者から一言
授業中、必要時に資料を配布しますが、パワーポイントを使わず、板書の量が多いので、ノートを取らない者はこの講義に不向きです。

環境政策 鬼頭浩文・岡 良浩	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PRP2002	前学期	選 択

授業のねらい
環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。

到達目標
環境問題の持つ難しさや環境改善の手法を多面的に理解することを通して、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身につけることが到達目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小レポート5点×約10回として全体の50%、学期末試験50%の配分で、総合的に評価する。フィードバックとして、小レポートから課題の解説や学生の主な間違いを指摘し、要望のある学生には課題の点数を伝える。

事前・事後学習
シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集(毎回1時間程度)しておくことが望ましい。小レポートでは、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、書いてほしい。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。

授業計画
4/13第1講 ガイダンス・ゴミ問題から環境政策を考える(岡)
4/20第2講 循環型社会とリサイクル(岡)
4/27第3講 災害ゴミの処理(鬼頭)
5/11・18第4・5講 四日市公害と中国の大気汚染対策①②(鬼頭)
5/25第6講 四日市公害と夜景クルーズ(ゲスト講師=寺本)
6/1第7講 三重の産廃問題とモンゴル・インドネシアの環境問題(ゲスト講師=武本)
6/8第8講 ICETTの取り組み(ゲスト講師=ICETTより)
6/15・22第9・10講 伊勢湾の水質問題と環境政策①②(千葉)
6/29第11講 地球温暖化の仕組みと現状(鬼頭)
7/6第12講 三重の地球温暖化対策(ゲスト講師=三重県)
7/13第13講 映像で観る今日の環境政策の課題①(鬼頭)
7/20第14講 映像で観る今日の環境政策の課題②(鬼頭)
7/27第15講 まとめと講義の振り返り(鬼頭)

テキスト・教材 (参考文献含む)
講義でプリントを配布する。

担当者から一言
仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。

環境保全とツーリズム	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	PRP2003	前学期	選 択

授業のねらい
 新型コロナの影響で停滞しているが、日本はインバウンド観光を利用した地域の活性化に力を入れている。本授業ではインバウンド観光を含め、日本人も対象としたツーリズムによる経済活性化と地域おこしの方法と事例について学ぶ。また、自然環境と歴史文化資源などの地域の魅力を観光に生かす方法を学ぶ。授業の後半で、地域魅力発見体験合宿を行い、地域の方々と触れあい、田舎暮らしを体験し、地域の仕事を手伝う。この中で、地域の魅力を自分の目で発見する。これら経験をまとめてプレゼンする能力の育成も行う。

到達目標
 ツーリズムによる地域経済の活性化や地域おこしの手法を学ぶとともに、それに関連した自然環境と歴史文化資源の保全の重要性を理解できるようになる。地域魅力発見体験合宿を通じて、地域の隠れた観光資源を発掘する方法を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 講義と合宿の取組み姿勢(60%)、合宿成果発表会(20%)、合宿成果レポート(20%)により評価する。合宿に参加しない者、合宿成果発表会で発表しない者、合宿成果レポートを提出しない者には単位を与えない。実習時や成果発表会を通じて学生に学習進度をフィードバックする。

事前・事後学習
 マイクロツーリズム、グリーンツーリズムなどの資料、答志島の自然資源や歴史文化資源の資料を配布するので、予習(180分)して授業に臨むこと。

授業の位置づけ
 地域の持続的発展のために貢献できる。
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画
 第1講 ガイダンス、ツーリズムとは
 第2講 ツーリズム概論(講師:岡)
 第3講 ツーリズム概論(講師:岡)
 第4講 ツーリズム概論(外部講師)
 第5講 ツーリズムと環境問題(講師:千葉)
 第6講 ツーリズムと環境問題(講師:千葉)
 第7講 地域魅力発見合宿のガイダンス(講師:岡、千葉)
 第8-13講 地域魅力発見合宿(3泊4日前後)
 第14-15講 合宿成果発表会(合宿地にて)(講師:岡、千葉)
 レポート 合宿成果をレポートとして提出

定員:合宿を行う関係から、履修者上限を20名とする。
 合宿期間:8月下旬から9月上旬
 合宿予定地:鳥羽市答志島桃取町
 合宿費用、旅費:学生負担。ただし、大きな負担にならないように配慮する。
 食事:自炊

テキスト・教材(参考文献含む)
 なし。資料を配布する。

担当者から一言
 田舎暮らしを体験し、地域の方々と触れ合い、地域の魅力を発見し、それを発表するアクティブラーニング形式の授業です。観光産業に興味のある人、農業、漁業、田舎暮らしや神社仏閣や史跡に興味のある人、企画好きな人は是非参加してください。

環境社会学	実務	科目 ナンバリング	2年次	2単位
		PCD2006	後学期	選 択

授業のねらい
 環境社会学という学問の基本的な知識や考え方を習得することを目標とします。過去および現在の様々な環境問題について理解し、その解決方法について考察します。また、近年深刻化している野生生物の問題を題材としてディスカッションを行い、問題解決能力の向上を図ります。

到達目標
 人間社会と環境の間にある複雑かつ多岐にわたる様々な環境問題について歴史を学び、そのから得た教訓を踏まえ、一人一人が考え、行動できるよう、基礎知識や思考方法を身に付けることを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 出席率と積極性(40%)、定期試験(60%)を元に総合的に評価します。毎回出欠確認を兼ねて小レポートを提出してもらいます。レポートについてはコメントの上、次回の講義でフィードバックします。

事前・事後学習
 前回までの講義内容を復習した上で講義に臨んでください。また、日頃からインターネット、新聞等で環境社会学に関連する情報を収集し、分らない用語などがあれば調べて下さい(60分)。さらに、その問題の根源が何なのか自分なりに考えて下さい(60分)。

授業の位置づけ
 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 第2講 環境社会学とは
 第3講 自然保護を考える
 第4講 身近な自然を考える
 第5講 生活と水を考える
 第6講 農業と食を考える
 第7講 ごみ問題を考える
 第8講 市民活動を考える
 第9講 地域づくりと環境を考える
 第10講 歴史的環境と景観を考える
 第11講 公害・差別・リスクを考える
 第12講 資源・エネルギー問題を考える
 第13講 地球環境問題を考える
 第14講 ケーススタディー(グループワーク)
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 自作プリント・プレゼン資料
 参考文献:鳥越皓之・帯屋博明編著「よくわかる環境社会学」ミネルヴァ書房(2017年)

担当者から一言
 環境問題の解決に絶対的な正解はありません。それぞれの立場、立ち位置により味方が大きく異なります。その中で最善の解を見出すために何をすれば良いのか、誰を動かせば良いのか、考えるきっかけになればと思います。

環境法	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	中西紀夫 PPT3001	前学期	選 択

授業のねらい
 本講義のねらいは、都市計画の骨子と環境対策の基本を学ぶことで、つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる都市をつくり、改善もしていく仕組みです。これは憲法25条の「生存権」から導き出されるとも考えられます。都市計画の学び方としては、「都市計画を定める仕組み」という法律学の観点から学んでいきます。また、都市計画に必要となる環境対策においても現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。

到達目標
 本講義では、都市計画や環境対策の関連法を体系的に理解することを目標としています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、都市計画や環境対策に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 成績は、次のような評点配分です。
 受講態度 30%：授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果や出席状況も含む。
 定期試験 70%：すべて持込可
 なお、授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

事前・事後学習
 毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。

都市環境論	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	本部賢一 PRP3001	前学期	選 択

授業のねらい
 都市にかかわる様々な課題を把握し、よりよい将来を実現するために、都市そのもののや、そこで暮らす人々に対して働きかけを行う行為が「都市計画」です。
 本講義では、都市計画に関連する制度ならびに都市環境計画、都市防災計画について学びます。目まぐるしく変化していく社会や自然環境に対応するためには、都市計画に対する「考え方」そのものを変えていく必要があります。その手掛かりをどうつかむのか、ヒントを探るために、必ずしも成功例とはよべない事例も含め、具体的な事例を多く交えて学習していきます。

到達目標
 授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域や公務員として従事される自治体職場での地域づくりまたはまちづくりに参加した際、既存の都市計画制度を活用できるようになるだけでなく、変化する社会に対応できるよう、必要に応じて制度の改革にも取り組んでいくことができるような力を身につけることを到達目標としています。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 成績は次のような配分により総合的に評価します。
 ・授業時に出す課題の提出状況および受講態度:40%
 ・定期試験:60%
 なお、授業時に提出した課題については、添削の上、以降の授業で返却します。
 4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。

事前・事後学習
 配布されたプリントには必ず目を通し、疑問点を整理しておきましょう(90分程度)。
 ノート整理を行い、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。单元ごとに課題(小レポート)が出されますので、必ず提出してください(90分程度)。

授業の位置づけ
 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画
 第1講 ガイダンス
 ～都市計画編～
 第2講 都市計画の基本的枠組み
 第3講 第2次世界大戦前と後の都市計画の時代
 第4講 現行都市計画法の制定時の都市計画の時代、地区計画・規制緩和・コンパクトシティの時代
 第5講 これだけは知っておきたい都市計画用語、都市計画図書の読み方
 第6講 都市計画区域と都市計画の内容のポイント
 第7講 都市計画のための手続きと土地利用に関する都市計画の実現手法
 第8講 まとめ
 ～環境対策編～
 第9講 環境法と既存の法(憲法・行政法・民法・刑法)との関係
 第10講 環境対策と法規制、主な環境規制法
 第11講 環境アセスメントの考え方
 第12講 私法的な救済方法
 第13講 条例による規制とその問題点
 第14講 環境マネジメントシステム
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
 参考文献：佐々木晶二著『いちからわかる知識&雑学シリーズ 都市計画のキホン』ぎょうせい(2018年)2,000円+税(価格)
 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年)
 プリントを配布しますが、最新の内容は提供します。

担当者から一言
 授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらにも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

授業の位置づけ
 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

授業計画
 第01講 ガイダンス(講義内容の説明)
 第02講 都市形成のメカニズム(1)
 第03講 都市形成のメカニズム(2)
 第04講 現代都市の問題
 第05講 都市の進化とプランニング
 第06講 計画概念とプランナーの役割(1)
 第07講 計画概念とプランナーの役割(2)
 第08講 暮らしを支える都市
 第09講 豊かな都市空間を考える
 第10講 都市環境計画(1)
 第11講 都市環境計画(2)
 第12講 環境保全対策
 第13講 環境経済評価
 第14講 都市防災計画
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
 なし。(单元ごとにプリントを配布)

担当者から一言
 スライドを見ながら口頭で説明する内容が多いので、ノートテイクが重要です。
 講義中の遅刻、中座、飲食、携帯電話の使用などは禁止です。

海洋学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	千 葉 賢	後学期	選 択

授業のねらい
最初に、地球規模の大気と海洋の現象を物理的な観点から学ぶ。それに基づき、地球温暖化の仕組みや海流の発生原理などを学ぶ。続いて、沿岸海洋の物理として、潮汐や潮流の発生原理を学ぶ。次に水中光の物理に触れながら、それに左右される基礎生産と、基礎生産を底辺とした海洋生態系の仕組みと変動機構について学ぶ。海洋生物群については、分類学的な観点から理解を進め、その生態と生活史などを学ぶ。また、その応用として沿岸環境学についても学び、地域の持続的発展に繋がる伊勢湾の現状とその将来について考える。

到達目標
大気科学と海洋学の基礎知識を得て、地球温暖化、海洋プラスチック問題、魚類資源の減少などの地球規模の環境問題とともに、沿岸域の水質などの環境問題などが理解できるようになる。2年次配当の「海洋調査法」を履修するために必要な知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義毎のレポート(40%)と定期試験(60%)。毎週小レポートを課すので少し大変だが、その積み重ねで知識がつく。定期試験もレポートの問題の中から主に出題する。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。レポートは採点して返却する。

事前・事後学習
シラバスを読み、授業週の翌週の内容を把握し、教科書やネットで予備知識を得る(90分)。授業を聴いたら、内容を復習(90分)し、理解できなかった部分を教科書やネットで調べる。

生物分類学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	大 八 木 麻 希	後学期	選 択

授業のねらい
分類学は17世紀ごろに始まり、博物学が盛んになる18世紀にはリンネによって整理された。日本の動植物はシーボルトによって西洋に広められた。近年では分子生物学によって、分類学の新たな知見が得られてきた。これまでの分類学の歴史を理解するとともに、生物同定の技術を確立する。

到達目標
本講義では、生物分類について生物学・博物学の知識をふまえて学ぶ。そこで、生き物の分類の仕方や名づけについて、体系的に理解し、技術として獲得することを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小レポート30%、試験orレポート70%
小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。

事前・事後学習
授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス、海洋学とは
第2講 海洋の大きさと海水の物性
第3講 大気と海洋(大気の熱力学)
第4講 大気と海洋(大気中の水循環と温室効果)
第5講 大気と海洋(コリオリ力とエクマン輸送)
第6講 大気と海洋(風成循環と海流)
第7講 潮汐と潮流
第8講 水中の光環境と基礎生産
第9講 水中の光環境と基礎生産
第10講 海洋生態系と栄養段階
第11講 海洋生態系と栄養段階
第12講 海洋生物とその分類
第13講 海洋生物とその分類
第14講 伊勢湾の環境問題
第15講 海洋調査法の紹介
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
担当教員が作成した教材を配布する。
【参考文献】
横瀬久芳、「はじめて学ぶ海洋学」、朝倉書店、1,800円+税
日本生態学会編、「海洋生態学」、共立出版、3,400円+税

担当者から一言
地球温暖化や海洋プラスチック汚染などの地球規模の環境問題を理解する上で、海洋学の知識は必須です。2年次配当の「海洋調査法」で役立つ知識を教えるので、履修予定の人は、この科目を先に学んでください。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 分類学の研究史
第3講 博物学の研究史
第4講 生物世界の分類体系
第5講 生物世界の階層構造
第6講 生物学の種概念
第7講 分類学の位置づけ
第8講 国際命名規約
第9講 動物と植物の命名の違い
第10講 学名とタイプ標本
第11講 進化学との関連性
第12講 無セキツイ動物
第13講 分子生物学との関連性
第14講 新種の発見と記載
第15講 分類学の発展
定期試験
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材(参考文献含む)
テキストは無し。
参考文献
馬渡峻輔(2008)動物分類学30講、朝倉書店、3,400円+税

担当者から一言
普段の身の回りの何気ない生物にもそれぞれ名づけが行われてきた過去の歴史や研究者の情熱を感じ取って、皆さんが学ぶ意識の向上に役立てることができればと考えています。

海洋調査法	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	千 葉 賢	前学期	選 択

授業のねらい
三重大学の勢水丸を借りて、2泊3日で伊勢湾や周辺の海域に出て、水質・底質・生物調査などを行う。そのような実習と事前事後授業を通じて、伊勢湾の環境問題についての知識を増やし、伊勢湾の環境保全の大切さを理解できるようにする。海洋調査法の基本を体験し、その後のゼミ活動や他授業で役立てられるようにします。船内で規律ある団体生活(ラジオ体操、船内清掃、配膳皿洗い等)を体験し、班分けて活動することで、社会人基礎力も養成する。

到達目標
伊勢湾の環境問題を理解できるようになる。海洋調査とデータ整理の基本技術を知る。観測内容を報告書にまとめる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
実習への取組み姿勢(70%)と実習報告書(30%)により評価する。実習に参加しない者、実習報告書を提出しない者には単位を与えない。事前事後授業についても、特別の事情がある場合を除いて、出席を必須とする。実習なのでフィードバックは現場で行う。

事前・事後学習
事前授業資料を授業に先立ち配布するので予習すること(180分)。事前授業では反転授業の形式を採用して、学生に予習したことを発表させるので、予習しないと困ることになる。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス、伊勢湾調査実習の内容説明
第2講 伊勢湾の地形・流動・水質の特徴(学内教室・事前授業)
第3講 伊勢湾の地形・流動・水質の特徴(学内教室・事前授業)
第4講 実習オリエンテーション(実習開会式含む)(勢水丸船内・実習1日目)
第5講 海洋調査実習(勢水丸船内・実習1日目)
第6講 海洋調査実習(船内実習1日目)
第7講 海洋調査実習(船内実習1日目)
第8講 観測データ分析(船内実習1日目)
第9講 海洋調査実習(船内実習2日目)
第10講 海洋調査実習(船内実習2日目)
第11講 海洋調査実習(船内実習2日目)
第12講 観測データ分析(船内実習2日目)
第13講 海洋調査実習(実習終了式含む)(船内実習3日目)
第14講 実習報告書の書き方(学内教室・事後授業)
第15講 実習報告書の書き方(学内教室・事後授業)

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。資料を配布する。

担当者から一言
伊勢湾の水産資源が減少し、コウナゴは4年連続で禁漁になりました。伊勢湾の環境に異変が起きています。海の環境問題を知りたい人、海洋調査の手法を学びたい人は履修してください。1年次配当の「海洋学」を先に履修することを強く勧めます。

環境実験・調査 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	廣 住 豊 一 ・ 大 八 木 麻 希	前学期	選 択

授業のねらい
この授業では、大気・水質の調査・分析に関する理論と測定方法を学び、分析結果を通して環境問題について考える。

到達目標
調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な実験器具の取り扱いや試薬の調整方法について身につける。調査結果をまとめ、正しく報告することができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
それぞれの実験における実施態度・習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。提出されたレポートは添削し、返却する。

事前・事後学習
シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する(90分)。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」・「環境化学実験」を履修していることが望ましい。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス 安全指導・レポート書き方・実験器具の使い方(廣住)
第2講 水質① 物理指標 水温・pH(大八木)
第3講 水質② 物理指標 浮遊懸濁物質(大八木)
第4講 水質③ 生物指標 BOD(大八木)
第5講 水質④ 化学指標 窒素(大八木)
第6講 水質⑤ 化学指標 リン(大八木)
第7講 水質⑥ 化学指標 COD(大八木)
第8講 水質⑦ 分析演習 塩水と砂糖水の水質比較(大八木)
第9講 大気① 気象条件 気温と湿度(廣住)
第10講 大気② 気象条件 雨量と酸性雨(廣住)
第11講 大気③ 気象条件 風(廣住)
第12講 大気④ 生活環境 花粉・粉じん・PM2.5(廣住)
第13講 大気⑤ 生活環境 照度(廣住)
第14講 大気⑥ 生活環境 騒音(廣住)
第15講 大気⑦ 生活環境 不快指数と暑さ指数(廣住)
全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材(参考文献含む)
なし。各講の講義内容に関連した資料を配布することがある。

担当者から一言
実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。

陸水学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	大八木麻希 EEE3001	後学期	選 択

授業のねらい
陸水学は、内陸部に存在する陸水（湖沼、河川、ダム湖、河口域、地下水、湿地、雪氷など）に関する総合科学である。日本は古来から水資源が豊かな国であり、恵まれた水環境の中で歴史を刻んできた。しかし、高度経済成長期には公害問題、80年代には富栄養化問題、そして現在ではダム建設の必要性の有無が問われているなど水環境と人との関わりの中で、さまざまな現状と直面している。そこで、学問的な自然科学である陸水学を通じて、理解を深めていきたい。

到達目標
本講義では、湖沼や河川の物質循環を理解するとともに、水域環境の現状と問題点を整理し、環境保全・環境再生や復元のための基礎理論や技術を学ぶことを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
小レポート 30% レポート 70%
小レポートについては、毎回採点し返却する。

事前・事後学習
授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。

森林学	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	田中伊知郎 EEE3002	後学期	選 択

授業のねらい
日本の国土の7割を占める森林がどのような特徴を持ち、環境保全にどのように関連するかを明らかにしていきます。次に、経済的な問題を説明します。

到達目標
日本の環境保全を考える上で、土台となる森林に関する知識を養うこと、人間とのかかわり（森林からどのように財を生み出すかを含む）を生物学の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
講義の各回の終わりに練習問題（実践課題）をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。
実践課題60% 定期試験 40%

事前・事後学習
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

授業の位置づけ
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。地域の持続的発展のために貢献できる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス、水循環
第2講 陸水学・湖沼とは
第3講 湖沼の基本情報
第4講 湖沼成因
第5講 透明度と光
第6講 湖沼型
第7講 湖沼の一般性状
第8講 湖沼の理化学的性質
第9講 水圏生物(プランクトン)
第10講 古陸水学的手法 事例紹介
第11講 河川水質
第12講 河川管理
第13講 多自然河川の現状
第14講 地下水の現状と問題点
第15講 ダム湖の現状と問題点
レポート試験
簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。

テキスト・教材（参考文献含む）
テキスト
飯田貞夫「やさしい陸水学」文化書房博文社(1997)2,750円
参考文献
西條八東・三田村緒佐武「新編湖沼調査法」講談社(2016)3,400円

担当者から一言
各講義では計算や簡易な実習を行うので積極的な学生の履修を望む。

授業の位置づけ
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画
第1講 ガイダンス・四日市本来の自然林と人工林：大学周辺の森の見学(フィールドワーク)
第2講 森林生態系の基礎：植物の光合成
第3講 植物同士の競争と遷移
第4講 西日本の極相：照葉樹林(mast fruitingの確認のフィールドワーク)
第5講 東日本の極相：夏緑樹林(落葉広葉樹林)
第6講 二次林：どんぐり食糧から薪炭利用へ
第7講 貧栄養土壌と松林(二次林のなれの果て)
第8講 人工林：技術発展による木材利用の変化(イケアなどの集材)
第9講 スギ植林の問題点(挿し木杉植林について意見を述べる実習)
第10講 森林(ブナ極相林)における動物相
第11講 獣害(人を食い殺すツキノワグマやオオカミ)
第12講 コアエリア計画(積雪地のブナ林で)
第13講 ニホンジカ管理計画(非積雪地のブナ林で)
第14講 ニホンジカの利用：東京におけるジビエ料理の進展
第15講 持続可能な森林に向けて：天然更新
定期試験 持ち込み不可

テキスト・教材（参考文献含む）
なし。

担当者から一言
できるだけ日常的な言葉で説明します。「生態学」(前学期)の履修後だとわかりやすくなります。

土壌学	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	EEE3003	前学期	選 択

廣住豊一

授業のねらい

土壌は、農業・林業などによる生産機能だけでなく、環境変化に対する緩衝機能や環境汚染に対する浄化機能など、有益で重要なさまざまな機能を持っている。この講義では、土壌の基本的な性質や機能を学ぶだけでなく、土壌が地球環境や生態系のなかでどのような地位を占め、どのような役割を果たしているかを学ぶ。また、三重県の土壌についても紹介する。

到達目標

土壌の成り立ちや構造、土壌のもつ性質や機能を理解する。土壌を地球にある有限資源のひとつとして捉え、地球環境のなかで土壌が果たす役割について考えることができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。確認テストは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を1段階下げる。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。

事前・事後学習

シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。「化学概論」・「生物学概論」・「地学概論」・「環境化学」・「生態学」を履修していることが望ましい。

食糧生産学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EFE2001	後学期	選 択

廣住豊一

授業のねらい

世界人口の増加による食糧需要の増大、気候変動やバイオエネルギーとの競合などによる食糧供給の不安定化、生産にともなう環境の汚染や破壊など食糧への関心が高くなっている。この講義では、農業・水産業・畜産業などの食糧生産の基礎を学ぶ。

到達目標

世界の食糧事情と食糧生産システムについて理解する。農業・水産業・畜産業など食糧生産に関する産業の基礎を理解する。食糧生産に関する環境問題について考えることができる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。確認テストは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を1段階下げる。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。

事前・事後学習

シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。

授業の位置づけ

環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス 土壌とは何か？
(土壌の成り立ち)
 - 第2講 土壌の生成 ——月に土壌はあるか？
 - 第3講 土壌の分類 ——世界の土、日本の土、三重の土
(土壌のつくり)
 - 第4講 土壌の構造 ——土は何でできている？
 - 第5講 土壌生物と土壌有機物 ——土のなかの生き物たち
 - 第6講 土壌のpHと温度 ——住み心地はいかが？
(土壌のはたらき)
 - 第7講 土壌の保水性 ——水もちの良さはどう決まる？
 - 第8講 土壌の排水性 ——水はけのよい土わるい土
 - 第9講 土壌の保肥性 ——土はどうやって栄養を蓄える？
(土壌の種類と特徴)
 - 第10講 いろいろな土壌① 森林の土壌
 - 第11講 いろいろな土壌② 水田の土壌
 - 第12講 いろいろな土壌③ 畑地の土壌
 - 第13講 いろいろな土壌④ 施設・草地・樹園地の土壌
(環境と土壌)
 - 第14講 土壌の浄化機能と土壌汚染 ——土壌を守る
 - 第15講 土壌の劣化と保全 ——土壌を育む
- 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)

なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。
参考文献：松中照夫著「土壌学の基礎」農文協(2004年)、久馬一剛編著「最新土壌学」朝倉書店(1997年)、安西徹郎・犬伏和之編「土壌学概論」朝倉書店(2001年)などを推奨する。

担当者から一言

私たちの足もとにある土壌は地球の歴史とともに育まれてきました。長い時間の流れに想いを馳せながら、これから土壌とどう付き合っていくのか考えてみてください。なお、本科目は三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格の認定対象科目です。

授業の位置づけ

環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、現在の食糧事情と生産体系
 - 第2講 農業① 農耕の起源と作物
 - 第3講 農業② 日本の農業と作物生産の特徴
 - 第4講 農業③ 作物生育と栽培環境・栽培管理
 - 第5講 農業④ 稲作と水田農業
 - 第6講 農業⑤ 野菜・果樹・花の生産
 - 第7講 農業⑥ 農業分野の新しい技術
 - 第8講 農業⑦ 農業と環境問題
 - 第9講 水産業① 日本の漁業の歴史と特徴
 - 第10講 水産業② 漁業の仕事と制度
 - 第11講 水産業③ 養殖と栽培漁業
 - 第12講 水産業④ 海洋の資源と環境の保全
 - 第13講 畜産業① 畜産業と畜産物
 - 第14講 畜産業② 世界と日本の畜産業
 - 第15講 これからの食糧生産
- 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)

なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。
参考文献：八木宏典監修「知識ゼロからの現代農業入門」(2018年)、濱田武士監修「知識ゼロからの現代漁業入門」(2017年)、八木宏典監修「知識ゼロからの畜産入門」(2018年)などを推奨する。

担当者から一言

毎日の食卓に並ぶ料理の食材は、化学・物理学・生物学・地球科学の科学的知識と現場で培われた実践的経験を駆使して栽培・飼育・採取・捕獲されたものです。普段から、ひとつひとつの食材をよく観察し、どのようにして食卓に並んだのか考えながら、感謝しておいしくいただきます。

食品微生物学 大八木麻希	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EFE2002	前学期	選 択

授業のねらい

人の生活に欠かせない「食」。お酒やしょうゆのように食品を作り出す役割、感染症や食中毒を引き起こす健康を損なう存在、抗生物質など健康に役立つ存在など様功罪両面を持つ微生物を知るとともに、基礎事項について学ぶ。

到達目標

本講義では、食品微生物について、多角的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

小レポート30%、定期試験70%
毎回講義の終わりに小レポートを課し、添削後次回返却し講評を行う。

事前・事後学習

授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、微生物学の歴史
 - 第2回 微生物と病気
 - 第3回 微生物の取り扱い法
 - 第4回 微生物の種類と分類
 - 第5回 微生物の構造
 - 第6回 微生物の栄養と増殖
 - 第7回 微生物の代謝
 - 第8回 微生物の増殖制御と殺菌
 - 第9回 食品の腐敗と微生物
 - 第10回 醸造食品
 - 第11回 予測微生物学
 - 第12回 腸内微生物
 - 第13回 微生物の遺伝現象とその応用
 - 第14回 食品の素材生産と微生物
 - 第15回 微生物による食性病害
- 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

テキスト指定無し、毎回関連プリント配布
予習復習用
村田常容・渋井達郎「食品微生物学」東京化学同人(2015)2,700円

担当者から一言

ノートテイクのみでは試験通過は難しいため、理解を深めるため積極的な姿勢で取り組む学生を望む。

食品衛生学 廣住豊一	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EFE2003	後学期	選 択

授業のねらい

「食」は人間の健康的な生活を支えるもっとも重要な要素のひとつである。その一方で、食中毒や食品の汚染など食に関するさまざまな問題が生じている。この講義では食品の安全性を守るために必要な食品衛生の基礎を学ぶ。

到達目標

食品の変質や食中毒の発生メカニズムを理解できる。有害物質や食品添加物、残留農薬などによる食品への影響を理解できる。食品衛生管理を行うための法律やシステムを理解できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。確認テストは次の講義までに添削して返却する。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を1段階下げる。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。

事前・事後学習

シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。「化学概論」・「環境化学」・「食品微生物学」を履修していることが望ましい。「環境実験・調査b」の履修を推奨する。

授業の位置づけ

環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、食品の安全性と食品衛生
 - 第2講 食の安全を支える法規と行政
 - 第3講 食品と微生物
 - 第4講 食品の変質① 腐敗と化学的変質
 - 第5講 食品の変質② 変質の防止
 - 第6講 食中毒① 食中毒の概要と発生状況
 - 第7講 食中毒② 微生物による食中毒
 - 第8講 食中毒③ 自然毒・化学物質による食中毒
 - 第9講 有害物質による食品の汚染
 - 第10講 食品添加物① 食品添加物の概要と安全性評価
 - 第11講 食品添加物② いろいろな食品添加物
 - 第12講 残留農薬と動物用医薬品
 - 第13講 アレルギー物質と遺伝子組換え食品
 - 第14講 総合的な食品衛生管理システム
 - 第15講 食品表示制度
- 定期試験

テキスト・教材（参考文献含む）

なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。
参考文献：一戸正勝・西島基弘「図解 食品衛生学 第5版」講談社(2016年)、田崎達明「栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学」羊土社(2017年)などを推奨する。

担当者から一言

私たちが普段食べている食品の安全性は、さまざまな科学的知識や技術、法律に支えられています。何気なく店頭で目にする食品も違った視点で眺めてみると、いろいろと面白いかもしれませんよ。

環境実験・調査 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EFE2004	後学期	選 択

授業のねらい

食生活は多くの分野と関連し、食の安全を担保するうえで重要な分野の一つである。基礎実験を中心として、食品の栄養特性及び機能性を理解する。

到達目標

本実験では、知識のみでなく自身で正しい判断をできる応用力を身に付けることを求める。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

実験レポート100%
毎回の実験レポートを提出し、再提出の場合は合格するまで提出すること。

事前・事後学習

授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する(90分)。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること(90分)。

授業の位置づけ

専門技術者に求められる倫理観を身につけている。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、実験の心構え・準備
 - 第2回 洗浄実験① 合成洗剤の働き(大八木)
 - 第3回 食品の分析① 牛乳の鮮度(大八木)
 - 第4回 食品の分析② 清涼飲料水の糖度・酸度測定(大八木)
 - 第5回 食品の分析③ 溶液の密度測定(大八木)
 - 第6回 食品の分析④ 鶏卵の鮮度(大八木)
 - 第7回 食品の分析⑤ 変性(熱・塩)(大八木)
 - 第8回 食品の分析⑥ ミネラルウォーターの硬度測定(大八木)
 - 第9回 農地の調査① 野外での農地調査(廣住)
 - 第10回 農地の調査② 農地土壌の pH と EC(廣住)
 - 第11回 農地の調査③ 農地の養分分析(廣住)
 - 第12回 農作物の分析① 果実の糖度と酸度(廣住)
 - 第13回 農作物の分析② 野菜や果物の水分量と灰分(廣住)
 - 第14回 農作物の分析③ 果汁中のリン(廣住)
 - 第15回 農作物の分析④ 果汁中のミネラル分(廣住)
- 実験を行い、アクティブ・ラーニングの要素が含まれる。

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストなし。
参考文献
谷口重樹子ほか「基礎から学ぶ食品科学実験テキスト」建帛社(2016) 2,300円

担当者から一言

実験は危険を伴うため、慎重な行動と適切な判断が必要となります。責任を持ち取り組むこと。

農産物流論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PBM2007	前学期	選 択

杉谷克芳

授業のねらい

本講義では、現実の流通業の動向にホットな関心を抱きつつ、「流通の社会的役割」「農産物流通」「投機的流通から延期的流通へ」等の流通経済の理論的な話をしていきます。流通業は、もっとも身近な産業だと言えます。私たちは毎日どこかで買物をしており、流通業の変化は私たちの消費生活に直接的に影響を与えます。また、卒業後のあなたの方の就職先として流通業が近年ますます大きな比重を占めてもいます。流通業の動きに興味をもったり、何気なく買物をしていた店舗を見る眼が変わったりのきっかけになればと思っています。

到達目標

流通論の基本的用語や理論を理解した上で、現実の流通業の動きに関心を持ち、自分なりに分析する力を培うこと

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

基本的には定期試験の結果によって評価します(80%)。また、授業への積極的な参加度、小テスト、レポート(任意提出)等による加点を行います(20%程度)。定期試験だけで秀をとる人はきわめて稀です。受講態度や小テスト等による加点をねらいましょう。授業中・授業後の質問には、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習

新聞、雑誌などの流通業に関する記事に目を通すこと、テレビやインターネットでも構いません(毎日30分以上)。講義後は、その日のノートを見返して、不明な点を参考文献等で調べておくこと(60分以上)。

授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、講義の概要
- 第2講 必要としての買物と娯楽としての買物
- 第3講 小売業の定義、小売業と卸売業、小売業とサービス業
- 第4講 社会的分業と流通、生産と消費の間の懸隔の架橋
- 第5講 流通の4要素と流通フロー、流通の担い手とは
- 第6講 商業者の存立基盤、取引数最小化の原理
- 第7講 農産物流通—卸売市場流通と卸売市場外流通、食料品ニーズの変化
- 第8講 農産物流通—卸売市場の誕生とその目的
- 第9講 農産物流通—卸売市場の仕組み
- 第10講 農産物流通—青果物流通の現在、畜産・米・お茶の流通
- 第11講 在庫の役割、危険プールの原理
- 第12講 投機的流通の延期化、ファーストファッション
- 第13講 延期と投機、回転寿司
- 第14講 SPAと延期化、ユニクロ
- 第15講 セブンイレブン・ジャパン、コンビニを支えるもの

テキスト・教材(参考文献含む)

特になし。講義中に適宜プリントを配布します。

担当者から一言

あまり難しい話にならず、学生さんの興味を引く授業にしたいと思いますが、そのためには学生さんの協力が必要です。私語は苦手ですので、よろしく。また、講義中のスマホ使用も禁止します。

農業経営論 鶴田利恵・杉谷克芳	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PBM2009	後学期	選 択

授業のねらい
この講義では、前半（杉谷担当）において主に日本の農業問題に焦点を当て、後半（鶴田担当）では国際的な視点から農業問題を考えます。日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成長期やグローバル化が進む中で、日本の農業問題やビジネスがどのように進展していったのかを学びます。国際的な視点からはGATT（貿易と関税に関する一般協定）やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉えられてきたのかを理解します。皆さんの意見や疑問もぶつけ合いながら、活発なディスカッションを行いながら進めます。

到達目標
日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
前半のレポート(50%)と後半の試験(50%)により評価します。
フィードバック方法：講義中や終了後の質問や疑問には適宜コメントします。

事前・事後学習
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(30分以上)。

メディア情報と文化 山本 伸	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	EMI2001	後学期	分野必修

授業のねらい
そもそもメディア情報と文化とは何をどう学ぶための授業であるかを意識しながらすすめていく。アメリカメディアにおける日米関係を史実に基づいて探ることを軸に、現代世界におけるメディア情報が文化とどのように関連しているのかをリアルタイムで探っていく。

到達目標
メディアと文化の関連性の確認と理解をベースにして、異文化理解に際してのさまざまな側面を探るとともに、メディア情報を専門とする者としての的確な知識、あるべき姿勢、豊かな感性を伸ばす。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等）50%、レポート（期末試験）50%で総合的に判断します。なお、確認テストについては毎回授業の最後に行い、その場で解答し、相互に添削してもらいます。

事前・事後学習
前週に出された課題（テキストの熟読／わからない用語の検索等）に90分、学習した箇所の復習（前週の確認テストの誤答分析／テキストのおさらい／ノート整理等）に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 日本の農業の現状①：農地、農家、農業産出額
第3講 日本の農業の現状②：農業生産の縮小と食糧自給率の低下
第4講 日本の農政①：戦後改革と農業、食管理制度
第5講 日本の農政②：高度成長と農業、農業基本法、総合農政
第6講 日本の農政③：グローバル化と農業、食料・農業・農村基本法
第7講 農業のビジネス化、地域の農業：農業生産法人、企業の農業参入
第8講 前半のまとめ
第9講 世界の食糧事情と問題点
第10講 穀物貿易の特質
第11講 農業保護政策
第12講 輸出競争とGATT農業交渉
第13講 WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ
第14講 FTA(自由貿易協定)と農業問題
第15講 後半のまとめ
*対面での講義を予定していますが、受講者数によってはオンデマンドになる場合もあります。

テキスト・教材（参考文献含む）
プリントを配布します。

担当者から一言
質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画
第1講 ガイダンス、導入「メディア情報と文化の連関／異文化理解について」
第2講 メディアにおけるアメリカの人種問題①
第3講 メディアにおけるアメリカ黒人の文化②
第4講 メディアにおけるアメリカ黒人の歴史③
第5講 黒人メディアにおける日本人と人種①
第6講 黒人メディアにおける日本の社会②
第7講 黒人メディアにおける日本の文化③
第8講 黒人メディアにおける日本の歴史①「日露戦争」
第9講 黒人メディアにおける日本の歴史②「パリ講和会議と関東大震災」
第10講 黒人メディアにおける日本の歴史③「真珠湾攻撃」
第11講 黒人メディアにおける日本の歴史④「日本人収容キャンプ」
第12講 黒人メディアにおける日本の歴史⑤「原爆投下」
第13講 黒人メディアにおける現代日本①
第14講 黒人メディアにおける現代日本②
第15講 まとめ
定期試験
(毎時間授業終了後に行う確認テスト（学生相互に採点）をもってアクティブラーニングとする)

テキスト・教材（参考文献含む）
レジナルド・カーニー著 山本 伸訳 『20世紀の日本人—アメリカ黒人の日本人観1900-1945』五月書房 1995年 定価:1,300円(税込)

担当者から一言
現代社会にはどのようなメディアがあるかを知っておくとともに、メディアによって情報が微妙に異なっていたり、ときに真反対だったりすることもあります。メディア情報に踊らされるのではなく、メディア情報を取捨選択し、自らの力で真理へと近づけるよう心がけることが大切です。

脳・音・光の科学 I	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	前川督雄・関根辰夫	EMI2002	前学期	分野必修

授業のねらい

私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。

- (1) 感覚と脳の仕組みと機能の概要を学びます。
- (2) 音楽を含めた環境音が現代の人間にどのような影響をもたらすか、更にこれ等を理解するのに必要な音についての物理的側面を学びます。
- (3) 光の物理、視覚の生理・心理の基礎を学びます。

到達目標

- (1) 見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。
- (2) 音の基本的な性質を理解し、音楽の基礎的な知識を理解する。
- (3) 光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。

- 受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等(45%)
- 定期試験(55%)

授業中の演習問題等について、事後に解説を行います。

事前・事後学習

授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習する(90分)とともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(90分)。

後期の「脳・音・光の科学II」で継続した内容の授業を行います。

ソフトウェア論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	池田幹男	EMI2003	後学期 分野必修

授業のねらい

コンピュータがどのように動作しているのかについて学びます。ソフトウェアが中心となります。コンピュータのソフトウェアの種類と構成について学びます。また、コンピュータの中でデータがどのように処理されているかを学びます。

到達目標

コンピュータの基本的なソフトウェアの構成とマルチメディア処理の基礎を理解することを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業態度と小レポート(合計40%)と定期試験(60%)によって評価します。小レポートの疑問点は出来るだけ早く授業直後に説明します。

事前・事後学習

積み上げる内容なので疑問点は小レポートに書いて質問し、次の授業までに解決すること。(疑問点はすぐに教えます)

十分な復習(180分程度)を行ってから受講すること。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス／五感と脳
 - 第2講 脳 脳の構造と機能(1)
 - 第3講 脳 脳の構造と機能(2)
 - 第4講 音 物理(1) 音とは?
 - 第5講 音 物理(2) 音の三要素
 - 第6講 音 物理(3) 伝播
 - 第7講 音 物理(4) 反射
 - 第8講 音 物理(5) 屈折
 - 第9講 音 楽器と音(1) 弦楽器
 - 第10講 音 楽器と音(2) 管楽器
 - 第11講 光 物理 光とは?
 - 第12講 光 生理(1) 眼球構造
 - 第13講 光 生理(2) 視細胞／視神経
 - 第14講 光 心理(1) 視力
 - 第15講 光 心理(2) 色覚
- 定期試験
(内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはありません。
講義中にプリントを配付します。
(参考文献)
山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社(2001年)
池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社(2016年)
仁科エミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」(2013年)

担当者から一言

学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加してください。参考となる音楽・映像の視聴を行います。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

- 第1講 ガイダンスとコンピュータの歴史
 - 第2講 コンピュータが出来ること
 - 第3講 低水準プログラミング言語
 - 第4講 高水準プログラミング言語
 - 第5講 OS①:OSの役割、デバイスドライバ
 - 第6講 OS②:マルチタスク・マルチスレッド
 - 第7講 OS③:仮想記憶
 - 第8講 OS④:ファイルシステム
 - 第9講 各種アプリケーション・ソフトウェア
 - 第10講 文字符号化
 - 第11講 アナログとデジタル
 - 第12講 オーディオ処理
 - 第13講 画像処理
 - 第14講 動画処理
 - 第15講 最近のトピック
- 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはありませんが、教育支援システム(Moodle)に資料を呈示します。

担当者から一言

この授業には特に前提知識を必要としませんが、時間やデータ量などの物理的な単位に関して理解する必要があります。

コンピュータの原理は非常に単純なもので、表面的な使い方は著しく変化しても基礎は変わりません。

メディアの歴史	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
木村眞知子		EMS2001		

授業のねらい
古くから私たちの暮らしはメディアと深く結びついています。メディアの変化が我々人類の政治や経済、社会、文化の変容にどうかかわってきたかを学び、これからのメディアと私たちの未来を展望します。また、これまでメディアが、何を、どのように語り、描いてきたかを振り返り、メディアの役割を考察するものとします。授業内容をより理解するために、ミニレポートや課題レポートを課します。

到達目標
メディアと人類の歴史を概観することでメディアが歴史に及ぼしてきた影響を知り、変化し続けるメディア環境を生きる私たちと今の社会を理解していきます。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
成績評価は次の通りとします。
ミニレポート・課題レポート:50%
定期試験:50%
課題レポートについては、以降の講義で取り上げ応答していきます。

事前・事後学習
課題レポート等のためのリサーチ・分析も事前学習と認めます。その準備として「メディア」をより理解するために、毎日30分程度、ネットやテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などで、今、どのような情報が発信されているかを調べ、分析すること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次の講義で質問できるように準備をすること。

授業の位置づけ
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画
第1講 講義ガイダンス——メディアの歴史を読み解く意味
第2講 メディア事始め——人類が生き抜くために
第3講 文字の登場——歴史の始まり
第4講 メディアの変化と歴史1印刷革命 宗教改革へ
第5講 メディアの変化と歴史2動く映像の登場
第6講 メディアの変化と歴史3 電信・ラジオ ヒットラー&ルーズベルト
第7講 メディアの変化と歴史4 ラジオ 玉音放送
第8講 メディアの変化と歴史5 テレビ ケネディvsニクソン〜ベトナム戦争
第9講 メディアが描いたもの①高度経済成長と「豊かさ」
第10講 メディアの変化と歴史6 テレビ新時代 ベルリンの壁崩壊
第11講 メディアが描いたもの②広告と暮らし
第12講 メディアの変化と歴史6 SNS アラブの春
第13講 メディアが描いたもの③災害とメディア——同時性とアーカイブ
第14講 変わりゆくメディア、変わりゆく世界
第15講 まとめ——課題試験に向けて
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。

担当者から一言
歴史を学ぶことは単に史実を知ることでなく、歴史から今の私たちへのメッセージを受け取ることです。メディアの歴史からのメッセージを読み取り、今の私たちを、時代を深く理解したいと思っています。

音楽とまちづくり	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
鬼頭・前川・関根		PCO2006		

授業のねらい
四日市市では、「街は劇場、通りは舞台 主役はあなた」の合言葉のもと、2012年から、市民ボランティアが中心になって「四日市JAZZフェスティバル」が開催されています。
この授業では、「四日市JAZZフェスティバル」を通じて街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、実際に現場に出かけて行ってボランティアスタッフとしてこの活動のお手伝いをしたりする予定です。学生諸君が、音楽イベントを通じたまちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。

到達目標
音楽フェスの運営方法を実践的に学ぶとともに、音楽をまちづくりにつなげる仕組みや市民の活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
現地実習に取り組む姿勢・パフォーマンス30%、講義で課す課題40% (①~⑧)、定期試験(レポート)30%で総合評価する。小レポートに関しては、採点し、学生の疑問や理解の足りない部分について、授業の中でフィードバックする。

事前・事後学習
座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、課題に取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちにパンフレットを見ながらイベントを振り返ること。

授業の位置づけ
地域の持続的発展のために貢献できる。
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
第1講(9/30)ガイダンス①
第2講(10/7)JAZZフェスとまちづくり(実行委員長 柳川)②
第3講(10/14)イベント打ち合わせ(実行委員会 山川)③
第4~9講(10/16-17)現地実習
(10/21)休講
第10講(10/28)四日市JAZZフェスティバルの経費と協賛(実行委員会 阪)④
第11講(11/4)四日市JAZZフェスティバルの発信とメディア(実行委員会 山川)⑤
第12講(11/11)四日市JAZZフェスティバルの会場設営(実行委員会 堀木)⑥
第13講(11/18)音楽イベントと音響(関根)⑦
第14講(11/25)音楽イベントとしてのオペラの制作とミュージカルとの比較(関根)⑧
(12/2以降は予備日)
第15講(2022/1/27)まちづくりにおける音(前川)⑨
定期試験
※都合により講義計画が変更になる可能性があります。現地実習を遅刻・欠席した者には、クラブの試合等が理由であっても、原則として単位は与えません。忌引きや伝染病などの公欠にあたる理由が発生した場合は、課題などで代替することを検討します。

テキスト・教材 (参考文献含む)
JAZZフェスのパンフレットと配布資料。

担当者から一言
最も重要な現地実習に参加できない学生は、単位の修得が極めて困難になります。

脳・音・光の科学Ⅱ	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	前川督雄・関根辰夫	EMS2004	後学期	選 択

授業のねらい

「脳・音・光の科学I」に引き続き、私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。
感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。
(1) 感覚・認識に限界があることを学びます。また、脳の諸機能について学び、心の動き・文化の役割・コミュニケーションの本質について理解を深めます。
(2) 音の様々な心理的效果とその応用例について学びます。
(3) 目に映る光と影から世界を把握する仕組みを学び、ものが見えるとはどういうことなのかを考えます。

到達目標

(1) 見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。
(2) 音の基本的な性質を理解し、音楽の基礎的な知識を理解する。
(3) 光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。
受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等(45%)
定期試験(55%)
授業中の演習問題等について、事後に解説を行います。

事前・事後学習

前期の「脳・音・光の科学I」を先行して履修していることが望ましい。
授業中に示す次回のキーワードを事前に調べて予習して下さい(90分)。
授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(90分)。

グラフィックデザイン概論	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	池上貴文	EMS2005	前学期	選 択

授業のねらい

コミュニケーション手法のひとつであるグラフィックデザイン。その歴史を辿りながら社会的意義を探ります。そして、著名なデザイナーの作品や言葉から最新のグラフィックデザインまでを紐解き、思考方法や表現方法について解説します。
これまで何気なく見ていた様々なメディアに対し、問題意識や分析意識を持って接していくこととなります。

到達目標

デザイン思考および、ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業内の課題(100%)。
課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習

世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。
必要に応じて資料の準備などを指示します。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。

授業計画

第1講 ガイダンス／脳 生き物と環境(1)
第2講 脳 生き物と環境(2)
第3講 脳 言語と意識
第4講 脳 記憶
第5講 脳 文化と社会
第6講 脳 生命活動の制御(1)
第7講 脳 生命活動の制御(2)
第8講 音 なぜ人間の耳は左右についているのか？
第9講 音 心理的效果と応用
第10講 音 音とエンジニア
第11講 光 心理(3) 輪郭／錯視
第12講 光 心理(4) 図と地／不思議絵
第13講 光 心理(5) 三次元知覚と立体視
第14講 光 心理(6) その他関連分野
第15講 コミュニケーションとは？
定期試験
(内容・順序を変更することがあります)

テキスト・教材 (参考文献含む)

テキストはありません。
講義中にプリントを配付します。
(参考文献)
山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社(2001年)
池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社(2016年)
仁科エミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」(2013年)

担当者から一言

学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加してください。参考となる音楽・映像の視聴を行います。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 身の回りのデザインを見つけて分析する
3. デザインの種類
4. デザインの歴史
5. グラフィックデザインの役割、意義
6. 写真表現
7. 絵画表現
8. 図形表現
9. 文字、文章表現
10. レイアウト表現
11. グラフィックデザインをしてみる
12. デザイン思考1
13. デザイン思考2
14. デザイン思考3
15. ディスカッション

テキスト・教材 (参考文献含む)

実習内容に応じて教員から参考資料、作成用紙などを配布します。

担当者から一言

デザインや美術に苦手意識がある方でも、好奇心があれば大丈夫です！

コミュニケーションデザイン論 実務	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	EMS3001	後学期	選 択

木村眞知子

授業のねらい

近年、「広告」は単に何かを「広告」するだけでなく、コンサルタント業務から商品企画まで、その領域は拡大し「コミュニケーションデザイン」という捉え方が、今の「広告」に最も近いと言えます。

多くの企業が様々なメッセージを発信し続け、そのメッセージは時には私たちの暮らしや考え方にも影響を与えています。それを仕掛ける「コミュニケーションデザイン」の現場の様々な活動を実践的に学ぶことで、今という時代を、社会を見つめます。

到達目標

「広告」を本来の姿である「コミュニケーションデザイン」ととらえると、その企業について別の見方が出来るようになります。「コミュニケーションデザイン」という切り口で様々なモノを様々な角度から見つめる姿勢をもつことを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価は次の通りとします。
 授業への取組み姿勢:30%
 課題:30%
 試験に代わる課題レポート:40%
 レポートや課題や課題レポートについては、5段階評価をつけて後日返却。

事前・事後学習

様々な課題について考察し発表してもらうことが多々あり、それへの取組みを事前学習とします。そのため、毎日30分以上、看板やポスター、CM、ちらしなど、身の回りの様々なコミュニケーションデザイン(広告)の作品に注目し、その傾向などの分析をすること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。

次世代メディア社会	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	EMS3002	前学期	選 択

前川督雄

授業のねらい

メディアを造る人の心、作品を創る人の心を考える講義です。
 現代日本人は様々なメディアの存在が不可欠な日常生活を送っています。次々と新しいメディア製品・サービスが発売され、作品群が発表されます。次に何が来ようとしているのか、時代の変遷に関わらず大切なことは何なのでしょう。偉大な先人たちは何を求めて、何に努めていて、何を守っていたのでしょうか。次世代のメディア社会について、ユーザとして、観客・視聴者として、読者として、あるいはクリエイター・アーティストとして、よく考えましょう。

到達目標

一流のプロフェッショナルが持つクリエイティビティの有り様を知り、自分の次の一歩を考察する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。
 受講態度、学習意欲、小レポート等(40%)
 定期試験(60%)
 講義中に意見交換を行います。

事前・事後学習

毎回の講義で示す事例を振り返るとともに調べて(90分)、自分自身の課題にどう活かしていけるか考えて下さい(90分)。

前後して「メディア情報産業論」(3年次後期開講)とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。

授業の位置づけ

多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

- 第1講 講義ガイダンス
コミュニケーションデザインとは何か――
- 第2講 広告の始まり・広告の役割
- 第3講 広告とコミュニケーション
- 第4講 広告と消費者
- 第5講 広告とマーケティング
- 第6講 コミュニケーションデザインの実践1――製品企画&販促企画
- 第7講 コミュニケーションデザインの実践1――製品企画発表&販促企画発表
- 第8講 ブランディング
- 第9講 コミュニケーションデザインの実践2――ブランド研究発表
- 第10講 企業メッセージ
- 第11講 コミュニケーションデザインの実践3――コピーライティング
- 第12講 広告と政治
- 第13講 CMから今を考える――カンヌライオンズ&ACC賞
- 第14講 広告とジェンダー
- 第15講 コミュニケーションデザイン――今日から明日へ 課題に向けて

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。

担当者から一言

コミュニケーションデザイン(広告)について、単に知識を得るのではなく、事例をもとにした様々な課題に取り組んでもらいます。発信側、受信側の中間にある「コミュニケーションデザイン」、その立ち位置から自分の目で両者をしっかり見てください。今の日本、今の世界が見えてくるかもしれません。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。

授業計画

- 第1講 ガイダンス/講義の概要
 - 第2講 映画制作現場
 - 第3講 コンピュータグラフィックス
 - 第4講 音楽の楽しみ方
 - 第5講 ジョブズは世界を変えた
 - 第6講 制作プロデューサー
 - 第7講 アニメーション制作現場
 - 第8講 サラウンド音響
 - 第9講 炎と花火
 - 第10講 メディアの発達要因
 - 第11講 メディアアート
 - 第12講 バーチャルリアリティ(VR)
 - 第13講 庭づくり
 - 第14講 近未来予測
 - 第15講 まとめ
- 定期試験
 (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはありません。
 講義中に、参考にする映像・音楽を視聴します。

担当者から一言

「次世代メディア社会」では主に個人の視点から、「メディア情報産業論」(3年次後期開講)では主に社会的な見地からメディア情報を捉えます。

コンピュータ音楽論	実務	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	柳澤翔士	EMS3003	前学期	選 択

授業のねらい

コンピュータ技術の発展とパーソナルコンピュータの普及により、コンピュータは現代の音楽における作曲や録音・編集・演奏・配信のほとんどに関わっており、近年はコンピュータを使った個人レベルでのDTM(Desk Top Music)による音楽制作が盛んに行われています。

本講義では、コンピュータ音楽の歴史や技術面の理解、またコンピュータでの制作時において既に用意された音源だけでなく、自分の音を創作し、音作品や映像作品等に活かせる知識と技術について、座学と実習で学びます。

到達目標

コンピュータを利用した音楽制作の歴史、作品制作のための技術や技法を、作品鑑賞や座学と実習の中で理解し、自分の音楽作品や映像作品等に活かせるシンセサイザー音のエディットや、録音素材の加工技術の基礎を習得することを目指す。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度30% (座学を受講態度・実習に取り組む姿勢・授業後の小レポート提出状況)

作品提出30%
定期試験40%

小レポートのフィードバックは出来る限り翌週に行い、提出作品は当日または後日講評を行う予定。

事前・事後学習

実習ではMacを使用します。Macのある教室で授業時間内にできなかった課題制作や、操作予習をすることでMacの基本操作を理解しておくこと(90分)

日頃から電子音楽に触れておくことで実習の際のアイデアにつながるでしょう。(90分)

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

※講義ではMacを用いた実習を行います

1. ガイダンス・講義の概要
 2. コンピュータ音楽とMIDI
 3. 音楽を聴きこむ
 4. 作品を作るということ
 5. デジタル信号処理・メディアの変容
 6. シンセサイザーの仕組みと音作り 1 Mac実習
 7. シンセサイザーの仕組みと音作り 2 Mac実習
 8. Vocalの録音と処理 カラオケVo.録音 Mac実習
 9. Vocalの録音と処理 エフェクターとは Mac実習
 10. エフェクター実習 Mac実習
 11. 効果音をつくる Mac実習
 12. サンプリングとは 音を採る Mac実習
 13. サンプリングとは 音をつくる Mac実習
 14. 提出作品制作 Mac実習
 15. 提出作品制作 講評
- 定期試験

※授業計画は受講者の理解・技量の状況に合わせて内容・順序を大幅に変更する場合があります

テキスト・教材 (参考文献含む)

必ずデータ保存用にUSBメモリー (16GB以上推奨) を用意してください。
テキストは特になし。(適時プリントや資料を配布・提示します)

担当者から一言

オリジナルの音は、音楽作品、映像作品やゲーム作品の効果音等に利用することで、作品にさらなるオリジナル性ができます。
メディアツールD受講後の履修だとスムーズですが、音楽制作の基礎から学ぶので全くの初心者でも構いません。共に学びましょう。

コンピュータグラフィックス	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	井岡幹博	EMS3004	後学期 選 択

授業のねらい

世界中で最も使われている3次元コンピュータグラフィックス(以下CG) 作成ソフトウェアのひとつであるPOV-Rayを使って、いろいろな作品を創ることを目的とします。前提の知識はありません。簡単なコマンド(PCに対する命令)を並べるだけで、美しいCGが創れます。

CGの理論などを気にせず、どんどんCGを創っていきましょう。また、使用するソフトウェアはフリーソフトですので、PCがあれば家庭でも作品を創ることができます。

到達目標

コンピュータグラフィックスによるアニメーションが作成できること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

提出物100%。毎回課題を課し、Moodleを介して提出します。次回に全員で出来栄を評します。

事前・事後学習

授業内で提示するプリント類の熟読(予習90分)。毎回課される課題作成(復習90分)。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

- 第1講 ガイダンス、POV-Rayとは何か。グラフィックスとはどんなものか。
 - 第2講 物体を作る。カメラを設定する。光をあてる。座標系を知る①
 - 第3講 物体を作る。カメラを設定する。光をあてる。座標系を知る②
 - 第4講 物体を移動させる。回転させる。拡大・縮小させる①
 - 第5講 物体を移動させる。回転させる。拡大・縮小させる②
 - 第6講 物体を移動させる。回転させる。拡大・縮小させる③
 - 第7講 物体に色を付ける。いろんな模様をつける。
 - 第8講 物体を組み合わせて、複雑な物体を作る。
 - 第9講 光のこともっと詳しく知る。
 - 第10講 物体につける模様についてもっと詳しく知る。
 - 第11講 物体に画像を貼り付ける。
 - 第12講 物体の表面を凸凹にする。
 - 第13講 空や地面をつくる。
 - 第14講 アニメーションをつくる①
 - 第15講 アニメーションをつくる②
- 授業はコンピュータによる演習と座学により進めます。

テキスト・教材 (参考文献含む)

プリント配布、Moodleでの電子ファイル配布。

担当者から一言

毎回作品を提出してもらいます。作品の質は問いません。如何に一生涯懸命取り組んだかを判断します。出席と作品提出が重要な評価項目です。

ポップカルチャー論 山本 伸	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	EMS3005	前学期	選 択

授業のねらい
 まずは、ポップカルチャーが内包する社会的な本質について理解する。次に、沖縄のポップカルチャーを通して基本的で具体的な沖縄の文化や哲学、社会についての知識を学びます。

到達目標
 学習時に度々目や耳にする「うちなーぐち(沖縄方言)」のいくらかは意味がわかるようになること、沖縄の風習や考え方を通して現代社会全般を考える発想力を身に着けること、さらには逆に現代社会が抱える課題とは何かを思考できる能力を身に着ける、などを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 平常点(積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等)50%、定期試験50%で総合的に判断します。なお、確認テストについては毎回授業の最後に行い、添削して翌週返却します。

事前・事後学習
 前週に出された課題(テキストの熟読/わからない用語の検索等)に90分、学習した箇所の復習(前週の確認テストの誤答分析/テキストのおさらい/ノート整理等)に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 第1講 ガイダンス/沖縄に関する概略、ポップカルチャーの社会的側面等
 第2講 『琉神マブヤー』(1)
 第3講 『琉神マブヤー』(2)
 第4講 『琉神マブヤー』(3)
 第5講 『琉神マブヤー』(4)
 第6講 『琉神マブヤー』(5)
 第7講 『琉神マブヤー』(6)
 第8講 『琉神マブヤー』(7)
 第9講 『琉神マブヤー』(8)
 第10講 『琉神マブヤー』(9)
 第11講 『琉神マブヤー』(10)
 第12講 『琉神マブヤー』(11)
 第13講 『琉神マブヤー』(12)
 第14講 『琉神マブヤー』(13)
 第15講 『琉神マブヤー』(14) /まとめ/試験についての説明
 定期試験
 (毎時間授業終了後に行う確認テスト(学生相互に採点)をもってアクティブラーニングとする)

テキスト・教材(参考文献含む)
 山本 伸著 『琉神マブヤーでーじ読本:ヒーローソフィカル沖縄文化論』 三月社 2015年 定価:2,376円(税込)

担当者から一言
 一般的にはツーリズムの対象でしかない沖縄ですが、一歩踏み込んだ沖縄の社会、歴史、文化の理解の意義を知ると同時に、ポップカルチャーがその理解を促進する力を強く保持していることを講義を通して体感してくれることを期待します。

感性と創造 池上貴文	実務	科目 ナンバリング	1年次	2単位
		ESP2001	後学期	選 択

授業のねらい
 文化が生まれるところには、まず最初に「遊び」があり、その遊びが社会的に評価され、継続され、文化として定着していきます。1960年代に世界的に巻き起こったロックの文化、現在のSNS文化も、元を正せばちょっとした工夫や遊びの延長線上に花開いたものです。これまで何気なく見ていた様々なメディアに対し、問題意識や分析意識を持って接していくこととなります。

到達目標
 「創造力」とは誰にでも本来的に備わる力であり、絵、写真、文章、音楽など様々なアプローチで自分の中にある隠れた一面や才能を見つけ表現します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業内の課題(100%)。課題の講評によってフィードバックします。

事前・事後学習
 世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。必要に応じて資料の準備などを指示します。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 1. ガイダンス
 2. 写真を読む1
 3. 写真を撮る1
 4. 写真を読む2
 5. 写真を撮る2
 6. 言葉による表現
 7. 絵の描き方
 8. 物語の考え方
 9. 4コマ漫画を描いてみる
 10. ダメ出しを受け漫画を完成、ディスカッション
 11. 音による表現
 12. 絵コンテをバラバラアニメにする
 13. ダメ出しを受けバラバラアニメを完成
 14. バラバラアニメ撮影と提出
 15. ディスカッション

テキスト・教材(参考文献含む)
 実習内容に応じて教員から参考資料、作成用紙などを配布します。

担当者から一言
 デザインや美術に苦手意識がある方でも、好奇心があれば大丈夫です!

表現と思想	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
木村眞知子		ESP2002		

授業のねらい
 常に変化し、進化する今のメディア環境は、情報の送り手、受け手という構造も崩れてしまいました。だからこそ、コミュニケーションとは何かを問い直し、自分自身を表現することの意味を考えなければなりません。これは、自分自身を見つめること、知ることにもつながります。
 時代を読み解き人間を深く探ろうとしたこれまでの思想家たちの考えを学び、私たちの今を生きる力、表現する力を養います。授業に沿った課題とその発表に重きをおいています。特に詩作する課題は、最終週に作品発表として「詩のボクシング」を行います。

到達目標
 考えること、言葉を発すること、行動すること…すべて自分を表現することです。自分自身が発信者であることを自覚し、自己表現できる存在となることを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 成績評価は次の通りとします。
 授業への取組み姿勢:30%
 課題への取組み姿勢:30%
 試験に代わる課題レポート:40%
 レポートや課題や課題レポートについては、以降の講義で取り上げ応答していきます。

事前・事後学習
 業の中で様々なテーマの課題を出します。その課題に取り組むためには、1日最低30分程度、詩や小説、エッセイなどを読み、その感想をまとめること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。

映像概論	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
柳瀬元志		ESP2003		

授業のねらい
 人類が「映像」を発明し、手にしてからおよそ130年。いま私たちは、肉眼で見ているかのような、鮮やかで精緻な映像を手に入れました。
 ハード面は加速度的に進化しています。しかし、そのハードに命を吹き込むのは人間です。
 映像概論では、映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など映像の大枠を掴むことを軸に、様々な角度から映像を追求していきます。
 座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター(脚本・映像など)を講師に招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて、映像の世界の「リアル」を学んでもらいます。

到達目標
 ①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応するアンテナが張れるようになる。
 ②授業を通じて、一人で映像制作ができるようになる。
 以上2点を到達目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 授業への取組み姿勢 30%
 課題への取組みと内容 30%
 定期試験もしくは課題レポート 40%
 レポートや課題は、採点して返却

事前・事後学習
 毎日ジャンルを問わず映像に触れる時間を作ること。
 最低1時間はテレビやYouTubeなどを見ること。
 見ることが学習になります。
 映像を見ることは、スポーツでいえばランニングのようなもの。クリエイティブの基礎として映像を「見る目」を養ってください。
 また、新聞には必ず目を通すこと。
 新聞を読んで頭の中で映像化し、その記事が実際にどう映像化されたかをニュースなどで確認をすると、映像制作のトレーニングになります。

授業の位置づけ
 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる、メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 第1講 ガイダンス メディアコミュニケーションの今
 第2講 コミュニケーションの領域
 第3講 身体メディアである自分の確認
 第4講 ポスト構造主義——今という時代を見つめる
 第5講 言語とは何か①伝えるために 言語と非言語
 第6講 言語とは何か②表現するために 記号論
 第7講 詩をよむ・詩をかく
 第8講 詩とコピー
 第9講 考えるということ・意見を持つということ
 第10講 メッセージソング
 第11講 物語を組み立てる
 第12講 みんなで作るモノガタリ
 第13講 詩作を巡って——書くこと・推敲すること
 第14講 プロの表現者によるワークショップ
 第15講 「詩のボクシング」(作品発表)

テキスト・教材 (参考文献含む)
 なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。

担当者から一言
 本授業は、講義だけでなく、詩作など様々な形で自分を見つめ表現することに取り組み、それを人前で発表するなど体験的に学ぶことが少なくありません。苦手だからといって特別扱いはしません。チャレンジする気持ちで受けてください。

映像概論	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
柳瀬元志		ESP2003		

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 第1講：講義ガイダンス ～映像って何？～
 第2講：映像の歴史 ～人類はどのようにして映像を獲得したか～
 第3講：映像作品の作り方 ～企画から完成まで～
 第4講：映像技術～映像を実現するテクノロジー～
 第5講：みんなのGWを見てみよう (プレゼンテーション)
 第6講：主役交代～電波から配信へ
 第7講：映像の新しい可能性 ～アクションカムやドローン～(演習)
 第8講：脚本家から見た映像 ～名古屋在住の女性脚本家～(演習)
 第9講：ドキュメンタリーは何を伝えてきたか
 第10講：新聞はオワコンか
 第11講：映像ビブリオバトル①
 第12講：映像ビブリオバトル②
 第13講：映像を描いてみよう ～絵コンテ作成～(演習)
 第14講：描いた映像を撮ってみよう ～絵コンテを映像化～(演習)
 第15講：描いた映像を見てみよう ～映像化した作品を視聴～(プレゼンテーション)

テキスト・教材 (参考文献含む)
 必要に応じて、テキストや資料の配布を行います。

担当者から一言
 現役ディレクターとして、持てる知識や情報、人脈などあらゆる手段手法で映像の世界の面白さや奥深さを伝えていきます。
 また、テレビ局の見学ツアーを催します。
 生放送やスタジオ収録など、実際の現場に触れてその最前線を体験してください。

照明概論	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	黒田 淳哉	ESP2004	前学期	選 択

授業のねらい
 照明と我々の生活は、切り離すことのできない関係にあります。光は我々に視覚を与えるだけでなく、快適な空間の演出や、物を印象的に見せたり等、様々な力があります。この講義では光の性質を知ることから始まり、照明演出の基礎知識や技術までを広く学びます。

到達目標
 ①照明機材を扱ううえでの基礎を理解する。
 ②光の性質が理解できる。
 ③暮らしの照明だけでなく、撮影照明や舞台照明など、幅広い照明の知識を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 ・講義時に指示する課題の提出状況及び小テスト、受講態度:(40%)
 ・試験に代わる課題レポート:(60%)
 提出課題や小テストの解説に関しては次回の講義で行います。

事前・事後学習
 毎回、講義の最後に次回までに調べてくるキーワードを提示します。
 ・そのキーワードについてインターネットや書籍で調べてくること(90分)。
 ・講義で配布する資料や講義内容のノートを見返して理解を深めること(90分)。

音響概論	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	関根 辰夫	ESP2005	後学期	選 択

授業のねらい
 1) 音楽(音)と人の関わりを深く考える。
 2) 音を聞くメカニズムを理解する。
 3) 音楽(音)の記録再生について理解する。
 4) 電気回路の基礎を身に付ける。
 5) 音楽の再生空間及び最新のメディアを理解する。

到達目標
 ・マイクやスピーカーなどの原理を理解する。
 ・サラウンドや音楽配信などの基礎理論を習得する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 次のような配分で総合評価します。
 授業中の演習問題等(45%)、定期試験(55%)
 なお、授業中の演習問題等については、事後に解説を行います。

事前・事後学習
 授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(180分程度)。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 第1講 ガイダンス、ニュースから知る光メディア
 第2講 光源の歴史と文化
 第3講 光環境(ディスカッション)
 第4講 撮影照明の基礎
 第5講 撮影照明①セッティング(グループワーク)
 第6講 撮影照明②撮影(グループワーク)
 第7講 光と測光量
 第8講 視覚と照明
 第9講 色彩
 第10講 舞台照明の基礎
 第11講 舞台照明①セッティング(グループワーク)
 第12講 舞台照明②照明プログラミング(グループワーク)
 第13講 舞台照明②発表(プレゼンテーション)
 第14講 照明ネットワーク構築の基礎
 第15講 まとめ
 試験に代わる課題レポート

テキスト・教材 (参考文献含む)
 なし。(必要に応じてプリントを配布します)

担当者から一言
 遅刻や、飲食、携帯電話の鳴動などは原則禁止します。これらの事が守られない者には退室を命ずることがあります。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 第1講 ガイダンス、講義の概要
 第2講 電流の三大作用
 第3講 電圧・電流・抵抗の関係
 第4講 電力の効果、抵抗の直列接続
 第5講 抵抗の並列接続
 第6講 小テスト
 第7講 ダイナミックスピーカーの構造と原理
 第8講 コンデンサスピーカーの構造と原理
 第9講 スピーカーのエンクロージャー、ネットワーク
 第10講 超小型マイクロフォンとしての耳の構造
 第11講 ダイナミックマイクロフォンとコンデンサーマイクロフォン
 第12講 CDとPCM録音について
 第13講 音の圧縮について
 第14講 サラウンドとマルチチャンネル
 第15講 模擬テスト
 定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
 配布するプリント。

担当者から一言
 復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加してください。また理解を深めるため、参考になる音や音楽の聴取を行います。

クリエイティブワークⅠ 実務	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	ESP3001	後学期	選 択

柳瀬元志

授業のねらい

実際にカメラを使ったロケから、自分たちで企画・録音・編集を行うラジオCM、光を使った画像やセルフプロデュースによる写真構成。そして、アイデア勝負のオモシロ動画まで、様々な作品制作に取り組み「演習」を中心とした授業となります。
特に、作品を理解してもらうための発表の場「プレゼンテーション」に力を入れていきます。
また、クリエイティブ力を養成する絵本作りを継続的にを行います。「作品を作る」ということを通して、「モノを作る」とは、そして「人から評価を受ける」とはを体験しながら、自分を表現することを身につけていきます。

到達目標

プロの方法論による作品制作の演習を通して、モノづくりの楽しさ、むつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業・課題への取り組み姿勢 30%
課題制作への意欲・参加度 30%
作品内容・完成度 20%
試験に代わる課題、もしくはレポート 20%
レポートの場合は、5段階評価にて後日返却します。

事前・事後学習

作品作りだけでなく、15回の授業を通して取り組む課題があります。そのために1日1時間程度は様々なメディアを利用して、話題となっているイベントや展覧会、映画・CM、テレビ番組、小説など、参考となる作品を鑑賞し、自分なりの考察を行う習慣を身につけてください。

クリエイティブワークⅡ 実務	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	ESP3002	前学期	選 択

柳瀬元志

授業のねらい

演習を軸とする授業で、「映像」「音響」「照明」をベースに作品作りに取り組みます。
講義・演習を通じて、よりレベルアップしたクリエイティブな知識や技術を学びます。
実際に作品制作を体験することで、様々なモノづくりやクリエイティブワークの本質に触れ、何を表現しどのように個性を出すかなど、クリエイターとしての知識や感性を磨き上げていきます。

到達目標

クリエイティブワークにおける3大要素「映像」「音声」「照明」を、作品作りを経験することで、それぞれの特性を深く理解し、身につけることを目標とします。
またメディア情報分野で学ぶ以上、第三者が見ても、満足と納得のいく作品を仕上げる事が出来る人材を目指します。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への取り組み姿勢 40%
課題への取り組み姿勢 40%
試験に代わる課題レポート 20%
課題レポートの場合は、5段階評価をつけて後日返却

事前・事後学習

作品制作が成功するか失敗するかは、事前の準備や情報収集によるところがとても大きいものです。
したがって、映像を見る、本を読む、新聞に目を通す、様々な音楽を聴く、舞台を鑑賞するなど、日常生活をどのように送るかが基本となります。
漫然と日々を過ごすのではなく、すべてがクリエイティブな発想や制作につながっていることを意識してください。
これらを1日90分程度は実践してください。

授業の位置づけ 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
--

授業計画

- 第1講：ガイダンス ～クリエイティビティとは何か～
第2講：「私の発見」～ポートレート・ありのままの自分 企画 テーマ決定・撮影
第3講：「私の発見」～ポートレート・なりきりの自分 企画 テーマ決定・撮影
第4講：「私の発見」～ポートレート～ プレゼンテーション
第5講：「こんなことできません」1 企画
第6講：「こんなことできません」2 撮影
第7講：「こんなことできません」3 プレゼンテーション
第5講：音で魅力を発信「ラジオCM」企画・NA原稿作り・録音
第6講：音で魅力を発信「ラジオCM」録音
第7講：音で魅力を発信「ラジオCM」プレゼンテーション
第8講：空間に光で絵を描く①
第9講：空間に光で絵を描く②
第11講：「フォトエッセイ」作品制作
第12講：「フォトエッセイ」作品発表
第13講：1分間の深イイ動画 企画・制作
第14講：1分間の深イイ動画 制作・編集
第15講：1分間の深イイ動画 プレゼンテーション

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて、テキスト及び参考文献や資料を配布します。

担当者から一言

フォト作品やラジオCM・映像作品など、様々な制作をします。普段から多種多様な映像作品に触れたり、美術鑑賞・観劇など自分の「見る目」を養ってください。
グループで行う作業もあるので、遅刻や欠席などすることなく、責任を持って取り組んでください。

授業の位置づけ 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
--

授業計画

- 第1講：講義ガイダンス
実践的クリエイティブワーク
第2講：音響作品づくり① 企画
第3講：音響作品づくり② 制作
第4講：音響作品づくり③ 録音
第5講：音響作品づくり④ 発表
第6講：「光」で演出① 様々な光の演出にトライ
第7講：「光」で演出② 照明演出プラン作成 撮影準備 撮影
第8講：「光」で演出③ 光の演出 撮影 完成
第9講：「映像制作」① スマホで映像遊び 作品制作
第10講：「映像制作」② ショートムービー企画・構成・撮影準備
第11講：「映像制作」③ 撮影1
第12講：「映像制作」④ 撮影2
第13講：「映像制作」⑤ 編集1
第14講：「映像制作」⑥ 編集2 完成
第15講： 作品合評

テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて、テキスト及び資料等配布します。

担当者から一言

音響・照明・映像とクリエイティブの基礎と応用を学びます。その中で、作品を制作する喜び・むつかしさ・感動などを体験してほしいと思います。
共同作業が多くなりますので、遅刻、欠席は許しません。なお、「クリエイティブワークⅠ」を先に受講していることが望ましいと考えます。

イベント制作演習	実務	科目	3年次	2単位
		ナンバリング	後学期	選択
黒田 淳哉・柳瀬 元志		ESP3004		

授業のねらい
この講義のターゲットは、分野4年生が卒業研究・卒業制作を発表する卒業展の進行およびテクニカルなオペレーションを行うことです。演習の前半には、イベント制作について座学を行うとともにイベント企画の演習を行い、後半には全員で共同して卒業展を制作します。

到達目標
① イベント制作に必要な各ステップを把握し、経験する。
② プロジェクト進行や質が良くなるよう努めて、行動ができるようになる。
③ プロジェクトの全体像を十分に把握し、課題を発見及び発信できるようになる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
・定期試験は行わない。
・成績評価はルーブリック評価を用いる。
ルーブリック評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。
なお、提出物や課題等のフィードバックは次回の講義で行います。

事前・事後学習
年末年始の休暇期間を含め、プランニングや資料作成、連絡調整等が持ち帰り課題となる(180分)。

ハードウェア論	科目	1年次	2単位
		ナンバリング	後学期
千葉 賢		EIF2001	選択

授業のねらい
ハードウェアとはパソコンなどの電子装置のことである。この講義では、パソコンのハードウェアに関して、その構成、仕組みをビジュアルな資料や実物を用いて解説する。環境情報学部にはハードウェアを教える授業が他にないので、本講義の受講を薦める。また本講義は、経済産業省のITパスポートなどの資格取得を考慮して行う。情報系の資格取得を目指す人、情報系セミナー・専攻に進む人にも受講を薦める。「情報科学」(千葉担当)の内容を深めた授業なので、そちらを先に受講すると理解し易い。

到達目標
パソコンを構成する主要な装置の名称と役割、構造、動作原理、速度や容量などの特徴を理解できるようにする。パソコンを選定する際の仕様(スペック)を理解できるようにする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
授業毎のレポート(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)。レポートは採点して返却する。

事前・事後学習
シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、教科書の該当部分を予習すること(30分)。
インターネットを使用して、該当する機器の形状・動作原理・メーカー・価格帯などの情報を調べること(60分)。小テストに向けて講義後に復習すること(90分)。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。

授業計画
第1講 ガイダンス～イベント企画立案① 企画立案
第2講 イベント企画立案② 資料制作
第3講 イベント企画立案③(プレゼンテーション)
第4講 卒業展について① 企画立案
第5講 卒業展について② 資料制作
第6講 卒業展について③(プレゼンテーション～ディスカッション)
第7講 昨年度実績伝達
第8講 進行演出立案 ① 企画立案
第9講 進行演出立案 ②(プレゼンテーション)
第10講 部門ごとの準備 ①(グループワーク)
第11講 部門ごとの準備 ②(グループワーク)
第12講 メディアチェック
第13講 テクニカルリハーサル
第14講 最終リハーサル(実習)
第15講 卒業展(実習)

テキスト・教材(参考文献含む)
講義中に資料やワークシートを配布する。専用のクリアファイルを準備しておくこと。

担当者から一言
卒業展直前は講義時間外にも集合して課題を進めます。講義には積極的に参加して下さい。
また、卒業展当日は原則として全員参加です。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
第1講 ガイダンス、パソコンの種類、五大装置、パソコン内部の主要な装置と構成
第2講 パソコンの入出力装置、マウス、キーボード
第3講 光・色の原理、加法混色、パソコンの出力装置、ディスプレイの規格・サイズ、CRTディスプレイ
第4講 パソコンの出力装置、液晶ディスプレイ、その他のディスプレイ
第5講 減法混色、パソコンの出力装置、プリンタの種類、インクジェットプリンタ
第6講 第1回小テスト、CPUの構造、動作原理、命令サイクル
第7講 CPUの技術発展史、ムーアの法則、CPUの製造工程
第8講 キャッシュメモリ、バス
第9講 主メモリ
第10講 第2回小テスト、チップセット
第11講 磁気ディスク、ハードディスク、RAIDシステム
第12講 光ディスク、CD
第13講 光ディスク、DVD、ブルーレイ
第14講 第3回小テスト、パソコンのインタフェース
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
教員が作成した教材を配布する。
【参考図書】高作 義明、徹底図解 パソコンのしくみ 新版、1,620円

担当者から一言
ハードウェアというとなんとなく難しく感じるかもしれませんが、ビジュアルな教材を用いて、分かり易い授業を行います。予習を行い、授業中に積極的に質問してください。

プログラミング 片山清和	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EIF2002	後学期	選 択

授業のねらい

ほぼすべてのアプリケーション・プログラムは、プログラミング言語で記述されています。プログラミング言語の中でも、C言語はオペレーティングシステムから携帯電話など末端の応用プログラムまで、広い範囲で使用されています。このC言語を学ぶことで、アプリケーション・プログラムの動作をより理解することができます。

この講義では、C言語を用いてプログラミングの基礎を学び、アプリケーション・プログラムの動作の理解を深めると同時に、プログラム作成と通じて、論理的思考を身につけることを目指しています。

到達目標

C言語で基本的なプログラミングができるようになること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)
提出物は100点満点で採点后、教育支援システム(Moodle)を介して返却します。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習すること(60分)
講義後には、演習問題を行うこと(120分)

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる能力を身に付ける。

授業計画

第1講 ガイダンス、プログラミングとは
第2講 Cプログラムの入力・コンパイル・実行
第3講 変数・定数とデータ型と演算子
第4講 入力と出力
第5講 ifによる条件分岐
第6講 switchによる分岐
第7講 forによる繰り返し
第8講 whileによる繰り返し
第9講 関数(1)
第10講 関数(2)
第11講 配列
第12講 ポインタ
第13講 構造体
第14講 共用体
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

なし。(必要に応じて配布します)

【参考文献】

B.W.カーニハン、D.M.リッチー 著 石田晴久 訳 「プログラミング言語C 第2版 ANSI規格準拠」 共立出版 ¥3,024

担当者から一言

学習支援システム(Moodle)を利用します。
プログラミングでは積み重ねが重要ですので、欠席しないようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。
「ソフトウェア論」「ハードウェア論」「コンピュータ動作論」を履修していることが望ましい。

コンピュータ動作論 片山清和	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EIF2003	前学期	選 択

授業のねらい

現代社会では、ほぼあらゆるところにコンピュータが使われています。われわれは漠然とコンピュータを使っているのですが、コンピュータは一体どのようにして動作しているのでしょうか？

この講義では、コンピュータがどのように動いているのかを、数の表現方法、コンピュータの内部構成について学びます。また高速化技法としてスーパーパイプラインとスーパースカラとキャッシュメモリについて学びます。さらに最新のコンピュータについても学びます。

到達目標

- ①コンピュータの動作原理を説明できる。
- ②組み合わせ論理回路を説明できる。
- ③順序回路を説明できる。
- ④記憶素子の動作原理を説明できる。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「レポート・小テスト」(40%)、「定期試験」(60%)
レポート・小テストは採点し、コメントを付加して、以降の講義で返却します。

事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。
講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる能力を身に付ける。

授業計画

第1講 ガイダンス、数の表現とコンピュータの五大装置
第2講 ハーバード・アーキテクチャとノイマン型アーキテクチャ
第3講 命令サイクル
第4講 論理素子とCMOS
第5講 組み合わせ回路
第6講 順序回路
第7講 制御方式(ハードワイヤード方式、マイクロプログラム方式)
第8講 命令セットとRISC、CISC
第9講 記憶素子(SRAM、DRAM)
第10講 シングルサイクルコンピュータとCPI
第11講 マルチサイクルとパイプライン処理
第12講 割り込みとプロセスの切り替え
第13講 スーパーパイプラインとスーパースカラ、キャッシュメモリ
第14講 最新コンピュータの動向
第15講 まとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

「レポート・小テスト」(40%)、「定期試験」(60%)
レポート・小テストは採点し、コメントを付加して、以降の講義で返却します。

担当者から一言

積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。
また、出席状況が悪い場合には減点します。
「ハードウェア論」を履修していることが望ましい。

システム管理論 井岡幹博	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	EIF2004	後学期	選 択

授業のねらい
 本講義では、将来システム管理業務にあたる際に必要となる基礎知識と考え方を学ぶことを目標とします。また、ネットワークのセキュリティなど一般ユーザも理解しておくべき内容も学びます。

到達目標
 ・システムの信頼度向上のための知識
 ・システム開発とプロジェクトマネジメント
 ・システム運用管理
 ・情報セキュリティなどに関するスキルが身につくことを目標とします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 小テストおよび課題50%、定期試験50%。小テストを返却し、間違いを正します。

事前・事後学習
 情報技術とその利用に関する新聞記事の熟読（予習90分）。毎回課されるITパスポート過去問を解くこと（復習90分）。

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 第1講 ガイダンス（授業の進め方、成績評価法の説明）、関連科目履修度の確認、この後の講義が必要となる基礎理論の復習（2進数など情報に関する理論）
 第2講 システムの信頼度（稼働率、冗長化）
 第3講 企業活動（問題点の発見、業務分析）
 第4講 第1回小テスト
 第5講 第1回小テストの解説
 第6講 システム開発とプロジェクトマネジメント
 第7講 考え方を整理するための方法と知識
 第8講 テストの方法、エラーチェック
 第9講 第2回小テスト
 第10講 第2回小テストの解説
 第11講 パソコンとネットワーク（OSIの参照モデル、TCP/IP、インターネットで利用可能な主なサービス）
 第12講 システム運用管理と情報セキュリティ
 第13講 暗号化と認証
 第14講 第3回小テスト
 第15講 第3回小テストの解説
 定期試験
 小テストはITパスポート過去問による演習とその解説により進めます。

テキスト・教材（参考文献含む）
 プリント配布。

担当者から一言
 この講義ではコンピュータや情報ネットワークに関する項目が多く出てきますので、「インターネット論」、「情報ネットワーク論」、「ソフトウェア論」、「コンピュータ動作論」などの内容をよく理解しておくとういでしょう。

データベースプログラミング 井岡幹博	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	EIF3001	前学期	選 択

授業のねらい
 実際のデータベース管理システム（DBMS）に触れることによって、データベースの仕組みを理解する。DBMSはMicrosoft社のSQLServerを使う。

到達目標
 検索条件をSQL文で書けること
 データの正規化ができること
 データベースの設計ができること
 データの追加、更新、削除を理解すること

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 課題提出50%、定期試験50%

事前・事後学習
 配布資料の熟読（90分）。毎回課される課題提出（復習90分）

授業の位置づけ
 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
 第1回 ガイダンス&データベースの概念
 第2回 リレーショナルデータモデル
 第3回 リレーショナルデータモデル(主キーと外部キー)
 第4回 リレーショナル代数
 第5回 検索演習
 第6回 正規化①
 第7回 正規化②
 第8回 SQLServer演習
 第9回 表の結合①
 第10回 表の結合②
 第11回 集合関数
 第12回 表の作成①
 第13回 表の作成②
 第14回 ER図
 第15回 まとめ

テキスト・教材（参考文献含む）
 プリント配布。

担当者から一言
 実際のデータベース管理システムに触れて、データベースとはどんなものなのかを実感してください。

情報システム論 池田 幹男	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	EIF3002	後学期	選 択

授業のねらい
Microsoft Accessは、リレーショナル型のデータベース・ソフトウェアであり、実社会では大規模なデータベースを作成するために使われています。したがって、社会で活躍するためには、Accessを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Accessの資格試験(Microsoft Office Specialist)を受験するための演習・実習を行います。

到達目標
MOS Access 2016の資格試験の準備が整うようにします。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
毎回の課題(40%)、模擬試験(60%)
毎回の課題は採点し、教育支援システム (Moodle) を介してフィードバックします。

事前・事後学習
講義前には、教科書の該当部分を読んで、操作を理解しておくこと(90分) 講義後には、講義で学習した操作を復習して、教科書付属の模擬試験を行っておくこと(90分)

メディア情報産業論 前川 督雄	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	EIF3003	後学期	選 択

授業のねらい
Society5.0を視野に入れた、社会のありかたを産業の側面から考える講義です。
テレビやアプリ、ゲーム、インターネットなど、私たちはメディア情報産業の恩恵に浴して暮らしています。メディア情報産業は、情報通信技術の発達によってその枠組みを大きく変化させ、また社会インフラとしてその重要性を増してきています。その歴史・背景は、また将来展望はどのように変わっているのでしょうか。
この講義では、メディア情報産業の歴史・構造を概観するとともに、現代社会においてメディア情報産業が果たす役割について考えます。

到達目標
メディア情報産業の歴史・構造を知り、それぞれのメディアが果たしている(果たしてきた)社会的役割とこれからの展望・課題とを考察する。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験100%
講義中に意見交換を行います。

事前・事後学習
講義内容を復習する(90分)とともに、配布した資料およびURL提示した参考情報を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい(90分)。

前後して「次世代メディア社会」(3年次前期開講)とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
第1講 ガイダンス
第2講 データベースの作成と管理(1)
第3講 データベースの作成と管理(2)
第4講 データベースの作成と管理(3)
第5講 テーブルの作成(1)
第6講 テーブルの作成(2)
第7講 テーブルの作成(3)
第8講 クエリの作成(1)
第9講 クエリの作成(2)
第10講 フォームの作成(1)
第11講 フォームの作成(2)
第12講 レポートの作成(1)
第13講 レポートの作成(2)
第14講 模擬試験演習(1)
第15講 模擬試験演習(2)
すべて実習です。

テキスト・教材 (参考文献含む)
「Microsoft Office Specialist Microsoft Access 2016 対策テキスト & 問題集(よくわかるマスター)」FOM出版 ¥3,024

担当者から一言
積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。
「データベースプログラミング」を受講していることをおすすめします。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。
専門技術者に求められる倫理観を身につけている。

授業計画
第1講 ガイダンス／講義の概要
第2講 基礎論 メディア情報が産業になるとはどういうことか
第3講 基礎論 Society5.0に向けて
第4講 産業構造 通信産業／インターネット産業
第5講 産業構造 映画産業
第6講 産業構造 テレビ産業
第7講 産業構造 出版産業
第8講 産業構造 メディア融合
第9講 産業構造 IoT
第10講 社会 マスメディアの責務
第11講 社会 知的財産／知る権利／表現の自由
第12講 事例 メディア利用動向
第13講 事例 メディア情報産業の最新トピックス
第14講 事例 最新の国際展示会レポート／メディア情報技術開発について
第15講 まとめ
定期試験
(内容・順序を必要に応じて変更します)

テキスト・教材 (参考文献含む)
テキストはありません。
講義中に資料を配付します。 (参考情報サイト) , <http://edata.jp/you/im1/>
(参考文献)
電通総研編「情報メディア白書2021」ダイヤモンド社(2021)
日本経済新聞社編「日経業界地図2022年版」日本経済新聞出版社(2021)

担当者から一言
「メディア情報産業論」では主に社会的な見地から、「次世代メディア社会」(3年次前期開講)では主に個人の視点からメディア情報を捉えます。

音楽史	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
関根辰夫		ECF2001		

授業のねらい
クラシック音楽や様々な地域の音楽が互いに影響しあってどのように変遷してきたのかを学ぶ。また日本の大衆音楽を含む様々なジャンルの音楽の歴史を通し、現代の音楽の成り立ちを考察する。さらに音楽に関する著作権の歴史も学び、自らが音楽を発信するときに必要となる基礎知識を習得する。

到達目標
・現代の音楽が過去のどのような音楽に基づいて成立しているかを理解する
・様々なジャンルや国々の音楽について理解を深める

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
次のような配分で総合評価します。授業中の演習問題等 (45%)、定期試験 (55%) なお、授業中の演習問題等については、事後に解説を行います。

事前・事後学習
日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること。(毎日30分程度) 授業中に演習問題を直し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい。(60分程度)

生命－情報－環境	前川 督雄	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
		ECF2002		

授業のねらい
有限な地球環境と私たち人類との関係を、情報を軸に読み解いていきます。
地球生態系38億年の歴史のなかで、また700万年におよぶ人類史のなかで生命と環境とは相互作用を重ね、互いに適合するように進化してきました。私たちは有限環境に適合した遺伝子を有しているのです。しかし現代の物質文明は進歩や発展が無限に続くことを前提としており、その矛盾は深刻な破綻を呈しつつあります。
「生命－情報－環境」では、現代日本が直面している環境問題を「物質」「エネルギー」に「情報」を加えた3つの次元から考えていきます。

到達目標
地球生態系の一員として自分の立つ位置、そして現在の世界のなかで自分の立つ位置について考えを深める。
従来の環境観から欠落していた「情報環境」「本来性」の枠組みを得て、その観点から環境問題を捉え直す。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
定期試験100%
小レポートを課すことがあります。レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

事前・事後学習
毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り復習する(90分)とともに、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい(90分)。

前後して「文化論」(1年次後期開講)とあわせて履修することで、より重層的な理解が得られるでしょう。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画
第1講 ガイダンス、音楽の基礎知識(音楽の三要素などについて)
第2講 音楽の基礎知識(様々な音律について)
第3講 楽譜の歴史
第4講 大陸からの音楽の影響を含めた日本の音楽芸術の歴史
第5講 「こと」の歴史と世界の「こと」
第6講 西洋の音楽史(ギリシャ悲劇からアルス・ノヴァまで)
第7講 西洋の音楽史(ルネッサンスからバロックまで)
第8講 西洋の音楽史(バロックの続き)
第9講 小テスト
第10講 西洋の音楽史(古典派とロマン派)
第11講 西洋の音楽史(ロマン派の続きから、近代まで)
第12講 ラテン音楽
第13講 著作権の歴史(ベルヌ条約から最近の著作権法の改正まで)
第14講 著作権の歴史(JASRACについて)
第15講 模擬試験
定期試験

テキスト・教材 (参考文献含む)
配布するプリント。

担当者から一言
音楽の歴史を通して様々な音楽に触れ、またその制作や記録の方法の変遷を知る事で、これからの音楽との関わり方を学んでください。今まで何気なく聴いていた音楽の中に様々な時代や国の音楽の要素がちらばめられている事に気がつくでしょう。

授業の位置づけ
メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

授業計画
第1講 ガイダンス／講義の概要
第2講 基礎論 感覚で感じる環境の情動的側面(情報環境)
第3講 基礎論 情報中毒と情報失調
第4講 基礎論 熱帯の森が人類のふるさと
第5講 基礎論 生物－環境系の本来・適応・自己解体モデル
第6講 基礎論 棲み分けと非棲み分け
第7講 基礎論 文明化による情報環境の変容
第8講 基礎論 ハイパーソニック・エフェクト
第9講 有限環境 食糧と環境
第10講 有限環境 環境破壊・環境汚染の源
第11講 有限環境 山・森・里・川・海
第12講 事例 人類の本来の生きかたを続ける狩猟採集民
第13講 事例 豊かな情報環境をつくりだす文化
第14講 事例 情報環境の視点を現代社会に活かす試み
第15講 まとめ
定期試験
(内容・順序を必要に応じて変更します)

テキスト・教材 (参考文献含む)
テキストはありません。
(参考文献)
大橋 力「情報環境学」朝倉書店(1989年)
大橋 力「音と文明」岩波書店(2003年)
大橋 力「ハイパーソニック・エフェクト」岩波書店(2017年)

担当者から一言
学際的・総合的な講義内容になります。講義中に、参考とする映像・音楽の視聴を行います。この講義では単に知識を獲得することよりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。

日本文化論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	永井 博	PCF2002	前学期 選 択

授業のねらい

いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自の文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。

この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたかについて一緒に考えてみたい。

到達目標

「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標とする。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。

事前・事後学習

予習として、配布する日本文化論のテキストをよく読んでくること。(90分)

復習として、講義の内容を踏まえて上記のテキストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。(90分)

出版文化論	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	稲葉年計	PCF2001	前学期	選 択

授業のねらい

本授業では、出版文化の基本として、まずは現代日本の文学を見ていくこととなります。

時代時代の諸所の文学的な作品を通じて、人々と社会の関係の上で何が表現されているかを考えます。文学やサブカルを通じての現代社会の捉え方を学んでいきます。そうした現代の社会背景を把握した上で、現在の出版文化や出版メディアの位置づけを、小さな出版社をつくる実践例を見ることで理解します。文学と出版文化を通じて、現代の文化や社会の仕組みを考えます。

到達目標

全体性に留意しつつ、現代社会を考えることができること。
文学と経営を通じて、社会を深く把握すること。

できるだけ授業において、考える力や学ぶ力を養いたい。授業ではMoodleあるいは出席カード裏で講義ごとに感想や意見を書いてもらい、出席の確認をするとともに、コミュニケーションをとっていくこととなる。よって、考え、理解し、意見する力を身に付けること。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価は、授業への参加度40%、定期試験(レポート)60%による。レポート試験については、希望者は返却するなどの対応をします。Moodleあるいは出席カード裏での毎回の課題(感想や意見)については、次の回の授業の冒頭で、質問があれば回答し、また良いもの、面白いものがあればとり上げ、コミュニケーションしていきたいと思えます。

事前・事後学習

本や小説、映画等により時事的なニュースや社会に触れること。(80分)
授業後には配布資料に目を通し復習すること。(10分)

授業の位置づけ

幅広い人間力を身につける。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「文化」概念について
- 第3回 「日本文化論」の問題点について
- 第4回 ブルーノ・タウトの日本文化論 ① 「日本文化私観」
- 第5回 ブルーノ・タウトの日本文化論 ② 「ニッポン」
- 第6回 日本の食文化 お雑煮
- 第7回 加藤周一〈雑種文化論〉 ① その背景
- 第8回 加藤周一〈雑種文化論〉 ② その主張
- 第9回 加藤周一〈雑種文化論〉 ③ その特長と問題点
- 第10回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ① その概要
- 第11回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ② その問題点
- 第12回 三島由紀夫「文化防衛論」 ① その特長
- 第13回 三島由紀夫「文化防衛論」 ② 戦後の日本文化論
- 第14回 坂口安吾「日本文化私観」 ① その内容
- 第15回 坂口安吾「日本文化私観」 ② その思想的意味
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

プリントなどの資料を配布する。

担当者から一言

日本の文化論がこれまでにそのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるかについて一緒に考える時間にしたいと思っている。

授業の位置づけ

メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 1960年代の文学の展開(松本清張)
3. 1960年代の文学の展開(三島由紀夫) — 全体性の喪失 —
4. 東浩紀『動物化するポストモダン』
5. 東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』
6. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』①
7. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』②
8. 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』③
9. 村上春樹論
10. 宇野常寛『母性のディストピア』
11. 永江朗『小さな出版社の作り方』①
12. 永江朗『小さな出版社の作り方』②
13. 永江朗『小さな出版社の作り方』③
14. 著作権について
15. 全講義のまとめ
定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)

(テキスト)宇野常寛著「母性のディストピアⅡ 発動篇」早川書房(2019年)定価:924円
(参考文献)宇野常寛著「ゼロ年代の想像力」早川書房(2011年)定価:902円
毎講義において、PowerPoint資料あるいはプリントを提示します。

担当者から一言

授業内で、できる限りコミュニケーションがとれるよう考えます。また留学生にもできる限り配慮したいと思います。

アジア文化論	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	加納 光	PCF2003	後学期 選 択

授業のねらい
 アジア地域・諸国の歴史・文化・社会を概観しながらアジアに対する認識を深め、アジアの特性について考えていきます。また、日本を含むアジア地域・諸国の諸事情を学びながら、アジア地域・諸国から日本社会が学ぶべき点についても考えてみたいと思います。
 アジアに対する理解を深めるため、受講生自身がアジアに関する特定のテーマについて調べ、レポートにまとめて発表する機会も持ちたいと考えています。
 アジアに対する理解を深めながら、アジア地域の特性を明らかにすることを、この授業のねらいとします。

到達目標
 この授業では、社会・文化・宗教・言語など、さまざまな視点からアジア諸国に対する理解を深め、学生諸君が明確なアジア像をイメージできるようになることが、到達目的です。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 定期試験60%、課題レポート40%をもとに、総合的に評価します。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

事前・事後学習
 毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください(90分)。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください(90分)。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。

欧米文化論	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	山本 伸	PCF2004	後学期 選 択

授業のねらい
 本講義の狙いは、カリブ海地域の視点を軸にヨーロッパの世界の文化や哲学、宗教観などを批判的に紐解きながら、福沢諭吉の「脱亜入欧」論を基盤に構築された近代日本の歪みを浮き彫りにすることです。

到達目標
 近代世界がヨーロッパ中心主義的な価値観のもとで構築されてきていることをまずは理解することが第一、そして、そのことを日本の我々自身が半ば無意識のうちに影響を受けて日常を過ごしていることを意識すること、それが大きな目標となります。

成績評価方法・課題・フィードバックの方法
 平常点(積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等)50%、レポート(期末試験)50%で総合的に判断します。なお、確認テストについては毎回授業の最後に行い、添削して翌週返却(受講者多数の場合はその限りではない)します。

事前・事後学習
 前週に出された課題(テキストの熟読/わからない用語の検索等)に90分、学習した箇所の復習(前週の確認テストの誤答分析/テキストのおさらい/ノート整理等)に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。

授業の位置づけ
 幅広い人間力を身につける。

授業計画
 第1講:ガイダンス、講義の概要
 第2講:アジアとは何か
 第3講:アジアの地理学的な規定1
 第4講: 同上 2
 第5講:アジアの地域区分
 第6講:アジアの語源
 第7講:アジアの多様性
 第8講:民族の多様性
 第9講:言語の多様性 グループ発表①
 第10講:宗教の多様性1 グループ発表②
 第11講: 同上 2 グループ発表③
 第12講:中国近代史1
 第13講: 同上 2
 第14講: 同上 3
 第15講: 同上 4 まとめ
 定期試験
 注 進度および授業内容はクラスの状況に応じて変更する場合があります。

テキスト・教材(参考文献含む)
 プリント教材(適宜教材を配布します)。

担当者から一言
 日頃からアジア地域・諸国に関心をよせながら、その歴史・文化・社会に対する理解を深める取り組みをしていってください。なお、遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。

授業の位置づけ
 幅広い人間力を身につける。

授業計画
 第1講 ガイダンス、導入「本講義で学べること」
 第2講 カリブ海地域における異文化コミュニケーション
 第3講 歴史と教育①
 第4講 社会・人種・アイデンティティー①/アフリカ系とインド系
 第5講 社会・人種・アイデンティティー②/インド系内比較
 第6講 社会・人種・アイデンティティー③/中国系
 第7講 台湾映画『セデック・バレ』(前半)
 第8講 台湾映画『セデック・バレ』(後半)
 第9講 文化とコミュニティ/カーニバルと精神文化
 第10講 文化と宗教
 第11講 クレオリズムとグローカリズム①/ハイチのクレオリズム
 第12講 クレオリズムとグローカリズム②/ジャマイカのグローカリズム
 第13講 平和
 第14講 カリブ文学研究の現代的意義
 第15講 まとめ
 定期試験

テキスト・教材(参考文献含む)
 山本 伸著 『カリブ文学研究入門』(世界思想社)2005年 定価:1,500円(税込)

担当者から一言
 カリブ(およびアジア)の視点を通しての欧米文化について広く学ぶことになるので、これら三地域への関心を高め、さまざまなメディアツールを利用してバーチャルに異文化体験をしておくことが望まれます。

授業科目名	環境情報特別講義Ⅲ			授業コード	413510	科目ナンバリング	ESL2003
担当教員	前川督雄、片山清和、千葉 賢						
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会(ネット)とフィジカル社会(現実社会)とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いて AIが社会の重要な基盤として活躍します。これからの私たちは、データサイエンスと AI についてのリテラシーをもつことが求められるようになります。「データサイエンス序論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身につけてもらいます。						
到達目標	データサイエンスと AI について基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身につける。						
授業計画	第1講(9/29) ガイダンス 第2講(10/6) 社会で起きている変化① Society5.0(前川) 第3講(10/13) 社会で起きている変化② AI(前川) 第4講(10/20) 社会で起きている変化③ データ駆動型社会(前川) 第5講(10/27) 社会で活用されているデータ(片山) 第6講(11/3) データ・AI 利活用の最新動向(前川) 第7講(11/10) データ・AI の活用領域(片山) 第8講(11/17) データ・AI の利活用のための技術(片山) 第9講(11/24) データ・AI 利活用の現場(片山) 第10講(12/1) データを読む・説明する・扱う(導入)(片山) 第11講(12/8) データを読む・説明する・扱う(演習)(片山) 第12講(12/15) データ・AI 利活用における留意事項①(千葉) 第13講(12/22) データ・AI 利活用における留意事項②(千葉) 第14講(1/12) データを守るうえでの留意事項(千葉) 第15講(1/19) まとめ 定期試験 (必要に応じて内容・順序を変更することがあります)						
テキスト・教材(参考文献含む)	テキスト 岡嶋ほか「はじめての AI リテラシー」技術評論社 税別 1680 円 参考文献 江間「絵と図でわかる AI と社会」技術評論社 税別 2000 円						
事前・事後学習	授業前にテキストの該当する箇所を予習すること(60分)。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと(120分)。						
成績評価方法・課題・フィードバック方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題 60%、定期試験 40%で総合評価する。						
担当者から一言	なし。						

索引(担当教員) 50音順

	担当教員	17カリ 科目名	ページ
い	井岡幹博	情報と職業	13
		統計リテラシー	62
		環境情報学概論Ⅱ	66
		地理情報システム論	95
		コンピュータグラフィックス	110
		システム管理論	117
		データベースプログラミング	117
	池上貴文	メディアツール a	56
		メディアツール b	57
		グラフィックデザイン概論	108
		感性と創造	111
	池田幹男	コンピュータリテラシー	12
		情報倫理	12
		アプリケーション演習Ⅰ	14
		アプリケーション演習Ⅱ	14
		おもてなし特別講義 b	50
		メディアツール a	55
		メディアツール b	57
		Webプログラミング a	60
		Webプログラミング b	61
		環境情報学概論Ⅱ	66
		基礎演習 a	67
		基礎演習 b	68
		専門演習 a	70
		専門演習 b	75
		ソフトウェア論	106
		情報システム論	118
	磯野 巧	地誌	28
		地理学概論	28
	伊藤晴苗	基礎日本語Ⅰ	3
		基礎日本語Ⅱ	4
		日本語中級Ⅰ	10
		日本語中級Ⅱ	10
		日本語上級Ⅰ	11
		日本語上級Ⅱ	11
	稲葉年計	出版文化論	120
	岩崎恭典	「人間たれ」	1
	岩崎祐子	国際協力研修	38
		ビジネスマネジメント	48
		おもてなし特別講義 a	49
		マーケティング演習	49
		おもてなし特別講義 b	50
お	大八木麻希	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		環境情報学概論Ⅱ	65
		基礎演習 b	69
		専門演習 a	70
		専門演習 b	76

	担当教員	17カリ 科目名	ページ
		専門演習 c	81
		専門演習 d	86
		生態学	91
		自然調査法	93
		生物分類学	99
		環境実験・調査 a	100
		陸水学	101
		食品微生物学	103
		環境実験・調査 b	104
	岡 佑哉	地域社会の歴史	15
		日本史概論	27
	岡 良浩	キャリア基礎Ⅰ	34
		キャリア基礎Ⅱ	35
		キャリア基礎Ⅲ	36
		ビジネスマナー	45
		サービス経営論	46
		ビジネスコミュニケーション	47
		オペレーション演習	48
		おもてなし特別講義 a	49
		マーケティング演習	49
		おもてなし特別講義 b	50
		環境政策	96
		環境保全とツーリズム	97
	奥原貴士	ビジネスマネジメント	48
か	片山清和	コンピュータリテラシー	12
		情報倫理	12
		Webプログラミング a	60
		インターネット論	61
		微分積分	63
		データ統計処理	64
		環境情報学概論Ⅱ	66
		基礎演習 a	67
		基礎演習 b	68
		専門演習 a	71
		専門演習 b	76
		専門演習 c	81
		専門演習 d	86
		コンピュータ動作論	116
		プログラミング	116
	金岩 稔	確率基礎	63
		線型代数	64
	加納 光	基礎日本語Ⅰ	3
		基礎日本語Ⅱ	4
		中国語Ⅰ	6
		中国語Ⅱ	7
		日本語中級Ⅰ	10
		日本語中級Ⅱ	10
		日本語上級Ⅰ	11

	担当教員	17カリ 科目名	ページ
		日 本 語 上 級 II	11
		環 境 情 報 学 概 論 II	66
		ア ジ ア 文 化 論	121
き	鬼頭浩文	四 日 市 学	15
		地 域 防 災	17
		経 済 学	19
		イ ン タ ー ン シ ッ プ	38
		公 務 の た め の 経 済 学	42
		環 境 政 策	96
		音 楽 と ま ち づ く り	107
	木村真知子	環 境 情 報 学 概 論 II	66
		基 礎 演 習 a	67
		基 礎 演 習 b	69
		専 門 演 習 a	71
		専 門 演 習 b	77
		専 門 演 習 c	82
		専 門 演 習 d	87
		メ デ ィ ア の 歴 史	107
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン デ ザ イ ン 論	109
		表 現 と 思 想	112
く	黒田淳哉	環 境 情 報 学 概 論 II	66
		基 礎 演 習 a	67
		基 礎 演 習 b	69
		専 門 演 習 a	72
		専 門 演 習 b	77
		専 門 演 習 c	82
		専 門 演 習 d	87
		照 明 概 論	113
		イ ベ ン ト 制 作 演 習	115
こ	小林聖仁	民 法 入 門	23
	小林慶太郎	地 域 連 携 特 別 講 義 a	18
		地 域 連 携 特 別 講 義 b	18
		政 治 学	20
		公 務 の た め の 政 治 学	42
		公 務 の た め の 論 文 ・ 面 接	45
し	柴田啓文	基 礎 英 語 I	2
		基 礎 英 語 II	3
		コ ン ピ ュ ー タ 英 語 I	51
		コ ン ピ ュ ー タ 英 語 II	52
す	杉谷克芳	文 章 表 現 論 (留 学 生 以 外 の ク ラ ス)	25
		オ ペ レ ー シ ョ ン 演 習	48
		農 産 物 流 論	104
		農 業 経 営 論	105
せ	関根辰夫	メ デ ィ ア リ テ ラ シ ー	21
		キ ャ リ ア 基 礎 I	34
		キ ャ リ ア 基 礎 II	35
		キ ャ リ ア 基 礎 III	36
		メ デ ィ ア ツ ー ル d	59

	担当教員	17カリ 科目名	ページ
		環 境 情 報 学 概 論 II	66
		基 礎 演 習 a	67
		基 礎 演 習 b	69
		専 門 演 習 a	72
		専 門 演 習 b	78
		専 門 演 習 c	83
		専 門 演 習 d	88
		脳 ・ 音 ・ 光 の 科 学 I	106
		音 楽 と ま ち づ く り	107
		脳 ・ 音 ・ 光 の 科 学 II	108
		音 響 概 論	113
		音 楽 史	119
た	デビッド・ダイクス	ビ ジ ネ ス 英 語 I	53
		ビ ジ ネ ス 英 語 II	54
	高田晴美	ジ ェ ン ダ ー 論	21
		キ ャ リ ア 基 礎 I (公 務 員 ク ラ ス)	34
		キ ャ リ ア 基 礎 II (公 務 員 ク ラ ス)	35
		キ ャ リ ア 基 礎 III (公 務 員 ク ラ ス)	36
		公 務 の た め の 数 的 推 理	40
		公 務 の た め の 現 代 文	41
		公 務 の た め の 判 断 推 理	41
		公 務 の た め の 自 然 科 学	44
	田中伊知郎	情 報 倫 理	12
		自 然 科 学 概 論	30
		生 物 学 概 論	32
		生 物 と 進 化	32
		心 理 学	33
		キ ャ リ ア 基 礎 I	34
		キ ャ リ ア 基 礎 II	35
		キ ャ リ ア 基 礎 III	36
		デ ー タ 分 析 の 基 礎	39
		統 計 的 分 析	39
		森 林 学	101
	田中麻衣	メ デ ィ ア ツ ー ル c	58
ち	千葉賢	情 報 倫 理	12
		情 報 科 学	13
		環 境 情 報 学 概 論 I	65
		環 境 情 報 学 概 論 II	65
		四 日 市 公 害 論	66
		専 門 演 習 a	73
		専 門 演 習 b	78
		専 門 演 習 c	83
		専 門 演 習 d	88
		地 域 環 境 論	94
		環 境 保 全 と ツ ー リ ズ ム	97
		海 洋 学	99
		海 洋 調 査 法	100
		ハ ー ド ウ ェ ア 論	115

	担当教員	17カリ 科目名	ページ
つ	角田延之	基礎 日 本 語 I	3
		基礎 日 本 語 II	4
		日 本 語 中 級 I	10
		日 本 語 中 級 II	10
		日 本 語 上 級 I	11
		日 本 語 上 級 II	11
	鶴田利恵	農 業 経 営 論	105
と	富田 与	グローバルコミュニケーション	47
な	永井 博	四 日 市 学	15
		文 学	25
		文章表現論（留学生クラス）	26
		キ ャ リ ア 基 礎 I	34
		キ ャ リ ア 基 礎 II	35
		キ ャ リ ア 基 礎 III	36
		オ ペ レ ー シ ョ ン 演 習	48
		日 本 文 化 論	120
	中西紀夫	日 本 国 憲 法	22
		法 学	23
		キャリア基礎Ⅰ（公務員クラス）	34
		キャリア基礎Ⅱ（公務員クラス）	35
		キャリア基礎Ⅲ（公務員クラス）	36
		公 務 の た め の 法 学	43
		環 境 法	98
に	西浦尚夫	マ ー ケ テ ィ ン グ 演 習	49
の	野呂達哉	地 域 社 会 と 環 境	17
		基 礎 演 習 a	68
		基 礎 演 習 b	69
		専 門 演 習 a	73
		専 門 演 習 b	79
		専 門 演 習 c	84
		専 門 演 習 d	89
		環 境 保 全 学	92
ひ	廣住豊一	入 門 演 習 I	1
		入 門 演 習 II	2
		環 境 情 報 学 概 論 II	65
		基 礎 演 習 a	68
		基 礎 演 習 b	69
		専 門 演 習 a	74
		専 門 演 習 b	79
		専 門 演 習 c	84
		専 門 演 習 d	89
		地 球 環 境 学 総 論	91
		環 境 実 験 ・ 調 査 a	100
		食 糧 生 産 学	102
		土 壌 学	102
		食 品 衛 生 学	103
		環 境 実 験 ・ 調 査 b	104
ふ	フェリペ・フェハリ	ポ ル ト ガ ル 語 I	8

	担当教員	17カリ 科目名	ページ
		ポ ル ト ガ ル 語 II	9
		哲 学	24
		倫 理 学	24
	エリック・ブレイ	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	5
		英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II	6
		観 光 英 語 I	50
		観 光 英 語 II	51
		環 境 情 報 学 概 論 II	66
ほ	堀内敬弘	W e b デ ザ イ ン a	59
		W e b デ ザ イ ン b	60
	本部賢一	ア プ リ ケ ー シ ョ ン 演 習 I	14
		ア プ リ ケ ー シ ョ ン 演 習 II	14
		キ ャ リ ア 基 礎 I	34
		キ ャ リ ア 基 礎 II	35
		キ ャ リ ア 基 礎 II	36
		都 市 環 境 論	98
ま	前川督雄	入 門 演 習 I	1
		入 門 演 習 II	2
		メ デ ィ ア リ テ ラ シ ー	21
		文 化 論	26
		Web プ ロ グ ラ ミ ン グ a	60
		環 境 情 報 学 概 論 II	66
		基 礎 演 習 a	67
		基 礎 演 習 b	68
		専 門 演 習 a	74
		専 門 演 習 b	80
		専 門 演 習 c	85
		専 門 演 習 d	90
		脳 ・ 音 ・ 光 の 科 学 I	106
		音 楽 と ま ち づ く り	107
		脳 ・ 音 ・ 光 の 科 学 II	108
		次 世 代 メ デ ィ ア 社 会	109
		メ デ ィ ア 情 報 産 業 論	118
		生 命 - 情 報 - 環 境	119
	牧田直子	化 学 概 論	31
		キ ャ リ ア 基 礎 I	34
		キ ャ リ ア 基 礎 II	35
		キ ャ リ ア 基 礎 III	36
		環 境 情 報 学 概 論 II	65
		基 礎 演 習 a	68
		専 門 演 習 a	75
		専 門 演 習 b	80
		専 門 演 習 c	85
		専 門 演 習 d	90
		環 境 化 学 概 論	92
		環 境 化 学 実 験	93
	松井真理子	市 民 教 育	16
		人 権 論	16

	担当教員	17カリ 科目名	ページ
		ボランティア活動 a・b	37
み	三田泰雅	社会学	20
		ジェンダー論	21
	都映里	メディアツール a	56
		メディアツール b	58
む	武藤和成	入門演習 I	1
		基礎英語 I	2
		入門演習 II	2
		基礎英語 II	3
		海外語学研修 a(英語)	9
		検定英語 I	54
		検定英語 II	55
も	森康則	地学概論	31
や	安田由紀子	基礎日本語 I	3
		基礎日本語 II	4
		日本語中級 I	10
		日本語中級 II	10
		日本語上級 I	11
		日本語上級 II	11
	柳澤翔士	コンピュータ音楽論	110
	柳瀬元志	映像概論	112
		クリエイティブワーク I	114
		クリエイティブワーク II	114
		イベント制作演習	115
	山川和美	販売士講座	46
	山本伸	メディアリテラシー	21
		環境情報学概論 II	66
		メディア情報と文化	105
		ポップカルチャー論	111
		欧米文化論	121
よ	吉成亮	経営学	19
	吉見勝治	数学概論	30
		データ解析の技法	40
		基礎数学	62
		環境エネルギー論	94
		資源循環論	95
		環境社会学	97
	吉山青翔	入門演習 I	1
		入門演習 II	2
		中国語 I	7
		中国語 II	8
		科学思想史	29
		科学的思考論	29
		環境論	33
		キャリア基礎 I	34
		キャリア基礎 II	35
		キャリア基礎 III	36
		環境倫理学	96

	担当教員	17カリ 科目名	ページ
り	李修二	四日市学	15
		社会福祉概論	22
		世界史概論	27
		キャリア基礎 I	34
		キャリア基礎 II	35
		キャリア基礎 III	36
		公務のための人文科学	43
	ゴードン・リス	英語コミュニケーション I	4
		英語コミュニケーション II	5
		公務のための英文理解	44
		英語表現 I	52
		英語表現 II	53

索引(開講科目 50音順)

	科目名称	担当教員	ページ
あ	アジア文化論	加納 光	121
	アプリケーション演習Ⅰ	池田 幹 男	14
	アプリケーション演習Ⅰ	本部 賢 一	14
	アプリケーション演習Ⅱ	池田 幹 男	14
	アプリケーション演習Ⅱ	本部 賢 一	14
い	イベント制作演習	黒田 淳 哉	115
	イベント制作演習	柳 瀬 元 志	115
	インターネット論	片山 清 和	61
	インターンシップ	鬼頭 浩 文	38
う	Webデザイン a	堀内 敬 弘	59
	Webデザイン b	堀内 敬 弘	60
	Webプログラミング a	池田 幹 男	60
	Webプログラミング a	片山 清 和	60
	Webプログラミング a	前川 督 雄	60
	Webプログラミング b	池田 幹 男	61
え	英語コミュニケーションⅠ	ゴードン・リース	4
	英語コミュニケーションⅠ	エリック・ブレイ	5
	英語コミュニケーションⅡ	ゴードン・リース	5
	英語コミュニケーションⅡ	エリック・ブレイ	6
	英語表現Ⅰ	ゴードン・リース	52
	英語表現Ⅱ	ゴードン・リース	53
	映像概論	柳 瀬 元 志	112
お	欧米文化論	山本 伸	121
	オペレーション演習	岡 良 浩	48
	オペレーション演習	杉谷 克 芳	48
	オペレーション演習	永井 博	48
	おもてなし特別講義 a	岩崎 祐 子	49
	おもてなし特別講義 a	岡 良 浩	49
	おもてなし特別講義 b	池田 幹 男	50
	おもてなし特別講義 b	岩崎 祐 子	50
	おもてなし特別講義 b	岡 良 浩	50
	音楽史	関根 辰 夫	119
	音楽とまちづくり	鬼頭 浩 文	107
	音楽とまちづくり	関根 辰 夫	107
	音楽とまちづくり	前川 督 雄	107
	音響概論	関根 辰 夫	113
か	海外語学研修 a (英語)	武藤 和 成	9
	海洋学	千葉 賢	99
	海洋調査法	千葉 賢	100
	化学概論	牧田 直 子	31
	科学思想史	吉山 青 翔	29
	科学的思考論	吉山 青 翔	29
	確率基礎	金岩 稔	63
	環境エネルギー論	吉見 勝 治	94
	環境化学	牧田 直 子	92
	環境化学実験	牧田 直 子	93
	環境実験・調査 a	大八木 麻 希	100
	環境実験・調査 a	廣住 豊 一	100

	科目名称	担当教員	ページ
	環境実験・調査 b	大八木 麻 希	104
	環境実験・調査 b	廣住 豊 一	104
	環境社会学	吉見 勝 治	97
	環境情報学概論Ⅰ	千葉 賢	65
	環境情報学概論Ⅱ	井岡 幹 博	66
	環境情報学概論Ⅱ	池田 幹 男	66
	環境情報学概論Ⅱ	大八木 麻 希	65
	環境情報学概論Ⅱ	片山 清 和	66
	環境情報学概論Ⅱ	加納 光	66
	環境情報学概論Ⅱ	木村 眞 知 子	66
	環境情報学概論Ⅱ	黒田 淳 哉	66
	環境情報学概論Ⅱ	関根 辰 夫	66
	環境情報学概論Ⅱ	千葉 賢	65
	環境情報学概論Ⅱ	廣住 豊 一	65
	環境情報学概論Ⅱ	エリック・ブレイ	66
	環境情報学概論Ⅱ	前川 督 雄	66
	環境情報学概論Ⅱ	牧田 直 子	65
	環境情報学概論Ⅱ	山本 伸	66
	環境政策	岡 良 浩	96
	環境政策	鬼頭 浩 文	96
	環境法	中西 紀 夫	98
	環境保全学	野呂 達 哉	92
	環境保全とツーリズム	岡 良 浩	97
	環境保全とツーリズム	千葉 賢	97
	環境倫理学	吉山 青 翔	96
	環境論	吉山 青 翔	33
	観光英語Ⅰ	エリック・ブレイ	50
	観光英語Ⅱ	エリック・ブレイ	51
	感性と創造	池上 貴 文	111
き	基礎英語Ⅰ	柴田 啓 文	2
	基礎英語Ⅰ	武藤 和 成	2
	基礎英語Ⅱ	柴田 啓 文	3
	基礎英語Ⅱ	武藤 和 成	3
	基礎演習 a	池田 幹 男	67
	基礎演習 a	片山 清 和	67
	基礎演習 a	木村 眞 知 子	67
	基礎演習 a	黒田 淳 哉	67
	基礎演習 a	関根 辰 夫	67
	基礎演習 a	野呂 達 哉	68
	基礎演習 a	廣住 豊 一	68
	基礎演習 a	前川 督 雄	67
	基礎演習 a	牧田 直 子	68
	基礎演習 b	池田 幹 男	68
	基礎演習 b	大八木 麻 希	69
	基礎演習 b	片山 清 和	68
	基礎演習 b	木村 眞 知 子	69
	基礎演習 b	黒田 淳 哉	69
	基礎演習 b	関根 辰 夫	69

	科目名称	担当教員	ページ
	基礎演習 b	野呂達哉	69
	基礎演習 b	廣住豊一	69
	基礎演習 b	前川督雄	68
	基礎数学	吉見勝治	62
	基礎日本語 I	伊藤晴苗	3
	基礎日本語 I	加納光	3
	基礎日本語 I	角田延之	3
	基礎日本語 I	安田由紀子	3
	基礎日本語 II	伊藤晴苗	4
	基礎日本語 II	加納光	4
	基礎日本語 II	角田延之	4
	基礎日本語 II	安田由紀子	4
	キャリア基礎 I	岡良浩	34
	キャリア基礎 I	永井博	34
	キャリア基礎 I	本部賢一	34
	キャリア基礎 I	李修二	34
	キャリア基礎 I	関根辰夫	34
	キャリア基礎 I	田中伊知郎	34
	キャリア基礎 I	牧田直子	34
	キャリア基礎 I	吉山青翔	34
	キャリア基礎I (公務員クラス)	高田晴美	34
	キャリア基礎I (公務員クラス)	中西紀夫	34
	キャリア基礎 II	岡良浩	35
	キャリア基礎 II	永井博	35
	キャリア基礎 II	本部賢一	35
	キャリア基礎 II	李修二	35
	キャリア基礎 II	関根辰夫	35
	キャリア基礎 II	田中伊知郎	35
	キャリア基礎 II	牧田直子	35
	キャリア基礎 II	吉山青翔	35
	キャリア基礎II (公務員クラス)	高田晴美	35
	キャリア基礎II (公務員クラス)	中西紀夫	35
	キャリア基礎 III	岡良浩	36
	キャリア基礎 III	永井博	36
	キャリア基礎 III	本部賢一	36
	キャリア基礎 III	李修二	36
	キャリア基礎 III	関根辰夫	36
	キャリア基礎 III	田中伊知郎	36
	キャリア基礎 III	牧田直子	36
	キャリア基礎 III	吉山青翔	36
	キャリア基礎III (公務員クラス)	高田晴美	36
	キャリア基礎III (公務員クラス)	中西紀夫	36
く	グラフィックデザイン概論	池上貴文	108
	クリエイティブワーク I	柳瀬元志	114
	クリエイティブワーク II	柳瀬元志	114
	グローバルコミュニケーション	富田与	47
け	経営学	吉成亮	19
経	済学	鬼頭浩文	19

	科目名称	担当教員	ページ
	検定英語 I	武藤和成	54
	検定英語 II	武藤和成	55
こ	公務のための英文理解	ゴードン・リース	44
	公務のための経済学	鬼頭浩文	42
	公務のための現代文	高田晴美	41
	公務のための自然科学	高田晴美	44
	公務のための人文科学	李修二	43
	公務のための数的推理	高田晴美	40
	公務のための政治学	小林慶太郎	42
	公務のための判断推理	高田晴美	41
	公務のための法学	中西紀夫	43
	公務のための論文・面接	小林慶太郎	45
	国際協力研修	岩崎祐子	38
	コミュニケーションデザイン論	木村真知子	109
	コンピュータ英語 I	柴田啓文	51
	コンピュータ英語 II	柴田啓文	52
	コンピュータ音楽論	柳澤翔士	110
	コンピュータグラフィックス	井岡幹博	110
	コンピュータ動作論	片山清和	116
	コンピュータリテラシー	池田幹男	12
	コンピュータリテラシー	片山清和	12
さ	サービス経営論	岡良浩	46
し	ジェンダー論	高田晴美	21
	ジェンダー論	三田泰雅	21
	資源循環論	吉見勝治	95
	システム管理論	井岡幹博	117
	次世代メディア社会	前川督雄	109
	自然科学概論	田中伊知郎	30
	自然調査法	大八木麻希	93
	市民教育	松井真理子	16
	社会学	三田泰雅	20
	社会福祉概論	李修二	22
	出版文化論	稲葉年計	120
	情報科学	千葉賢	13
	情報システム論	池田幹男	118
	情報と職業	井岡幹博	13
	情報倫理	池田幹男	12
	情報倫理	片山清和	12
	情報倫理	田中伊知郎	12
	情報倫理	千葉賢	12
	照明概論	黒田淳哉	113
	食品衛生学	廣住豊一	103
	食品微生物学	大八木麻希	103
	食糧生産学	廣住豊一	102
	人権論	松井真理子	16
	心理学	田中伊知郎	33
	森林学	田中伊知郎	101
す	数学概論	吉見勝治	30

	科目名称	担当教員	ページ
セ	政治学	小林慶太郎	20
	生態学	大八木麻希	91
	生物学概論	田中伊知郎	32
	生物と進化	田中伊知郎	32
	生物分類学	大八木麻希	99
	生命 - 情報 - 環境	前川 督雄	119
	世界史概論	李 修 二	27
	線型代数	金 岩 稔	64
	専門演習 a	池田幹男	70
	専門演習 a	大八木麻希	70
	専門演習 a	片山清和	71
	専門演習 a	木村真知子	71
	専門演習 a	黒田淳哉	72
	専門演習 a	関根辰夫	72
	専門演習 a	千葉 賢	73
	専門演習 a	野呂達哉	73
	専門演習 a	廣住豊一	74
	専門演習 a	前川 督雄	74
	専門演習 a	牧田直子	75
	専門演習 b	池田幹男	75
	専門演習 b	大八木麻希	76
	専門演習 b	片山清和	76
	専門演習 b	木村真知子	77
	専門演習 b	黒田淳哉	77
	専門演習 b	関根辰夫	78
	専門演習 b	千葉 賢	78
	専門演習 b	野呂達哉	79
	専門演習 b	廣住豊一	79
	専門演習 b	前川 督雄	80
	専門演習 b	牧田直子	80
	専門演習 c	大八木麻希	81
	専門演習 c	片山清和	81
	専門演習 c	木村真知子	82
	専門演習 c	黒田淳哉	82
	専門演習 c	関根辰夫	83
	専門演習 c	千葉 賢	83
	専門演習 c	野呂達哉	84
	専門演習 c	廣住豊一	84
	専門演習 c	前川 督雄	85
	専門演習 c	牧田直子	85
	専門演習 d	大八木麻希	86
	専門演習 d	片山清和	86
	専門演習 d	木村真知子	87
	専門演習 d	黒田淳哉	87
	専門演習 d	関根辰夫	88
	専門演習 d	千葉 賢	88
	専門演習 d	野呂達哉	89
	専門演習 d	廣住豊一	89

	科目名称	担当教員	ページ
	専門演習 d	前川 督雄	90
	専門演習 d	牧田直子	90
そ	ソフトウェア論	池田幹男	106
ち	地域環境論	千葉 賢	94
	地域社会と環境	野呂達哉	17
	地域社会の歴史	岡 佑 哉	15
	地域防災	鬼頭浩文	17
	地域連携特別講義 a	小林慶太郎	18
	地域連携特別講義 b	小林慶太郎	18
	地学概論	森 康 則	31
	地球環境学総論	廣住豊一	91
	地誌	磯野 巧	28
	中国語 I	加納 光	6
	中国語 I	吉山青翔	7
	中国語 II	加納 光	7
	中国語 II	吉山青翔	8
	地理学概論	磯野 巧	28
	地理情報システム論	井岡幹博	95
て	データ統計処理	片山清和	64
	データ分析の基礎	田中伊知郎	39
	データ解析の技法	吉見勝治	40
	データベースプログラミング	井岡幹博	117
	哲学	フェリペ・フェハーリ	24
と	統計的解析	田中伊知郎	39
	統計リテラシー	井岡幹博	62
	都市環境論	本部賢一	98
	土壌学	廣住豊一	102
に	日本国憲法	中西紀夫	22
	日本語中級 I	加納 光	10
	日本語中級 I	伊藤晴苗	10
	日本語中級 I	角田延之	10
	日本語中級 I	安田由紀子	10
	日本語上級 I	加納 光	11
	日本語上級 I	伊藤晴苗	11
	日本語上級 I	角田延之	11
	日本語上級 I	安田由紀子	11
	日本語中級 II	加納 光	10
	日本語中級 II	伊藤晴苗	10
	日本語中級 II	角田延之	10
	日本語中級 II	安田由紀子	10
	日本語上級 II	加納 光	11
	日本語上級 II	伊藤晴苗	11
	日本語上級 II	角田延之	11
	日本語上級 II	安田由紀子	11
	日本史概論	岡 佑 哉	27
	日本文化論	永井 博	120
	入門演習 I	前川 督雄	1
	入門演習 I	大八木麻希	1

	科目名称	担当教員	ページ
	入門演習Ⅰ	廣住豊一	1
	入門演習Ⅰ	武藤和成	1
	入門演習Ⅰ	吉山青翔	1
	入門演習Ⅱ	前川督雄	2
	入門演習Ⅱ	大八木麻希	2
	入門演習Ⅱ	廣住豊一	2
	入門演習Ⅱ	武藤和成	2
	入門演習Ⅱ	吉山青翔	2
	「人間たれ」	岩崎恭典	1
の	脳・音・光の科学Ⅰ	前川督雄	106
	脳・音・光の科学Ⅰ	関根辰夫	106
	脳・音・光の科学Ⅱ	前川督雄	108
	脳・音・光の科学Ⅱ	関根辰夫	108
	農業経営論	鶴田利恵	105
	農業経営論	杉谷克芳	105
	農産物流論	杉谷克芳	104
は	ハードウェア論	千葉賢	115
	販売士講座	山川和美	46
ひ	ビジネス英語Ⅰ	デイビット・ダイクス	53
	ビジネス英語Ⅱ	デイビット・ダイクス	54
	ビジネスコミュニケーション	岡良浩	47
	ビジネスマナー	岡良浩	45
	ビジネスマネジメント	岩崎祐子	48
	ビジネスマネジメント	奥原貴士	48
	微分積分	片山清和	63
	表現と思想	木村真知子	112
ふ	プログラミング	片山清和	116
	文 学	永井博	25
	文 化 論	前川督雄	26
	文章表現論(留学生以外のクラス)	杉谷克芳	25
	文章表現論(留学生クラス)	永井博	26
ほ	法 学	中西紀夫	23
	ポップカルチャー論	山本伸	111
	ボランティア活動 a・b	松井真理子	37
	ポルトガル語Ⅰ	フェリペ・フェハーリ	8
	ポルトガル語Ⅱ	フェリペ・フェハーリ	9
ま	マーケティング演習	岡良浩	49
	マーケティング演習	岩崎祐子	49
	マーケティング演習	西浦尚夫	49
み	民法入門	小林聖仁	23
め	メディア情報産業論	前川督雄	118
	メディア情報と文化	山本伸	105
	メディアツール a	池田幹男	55
	メディアツール a	池上貴文	56
	メディアツール a	都映里	56
	メディアツール b	池田幹男	57
	メディアツール b	池上貴文	57
	メディアツール b	都映里	58

	科目名称	担当教員	ページ
	メディアツール c	田中麻衣	58
	メディアツール d	関根辰夫	59
	メディアの歴史	木村真知子	107
	メディアリテラシー	前川督雄	21
	メディアリテラシー	関根辰夫	21
	メディアリテラシー	山本伸	21
よ	四 日 市 学	鬼頭浩文	15
	四 日 市 学	岡良浩	15
	四 日 市 学	永井博	15
	四 日 市 学	李修二	15
	四 日 市 公 害 論	千葉賢	66
り	陸 水 学	大八木麻希	101
	倫 理 学	フェリペ・フェハーリ	24

学籍番号

氏名
